

東九州自動車道建設（志布志 I C～鹿屋串良 J C T間）に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

じ　　ご  
次　五　遺　跡

2018年3月

鹿児島県志布志市教育委員会

## 序 文

本書は、東九州自動車道（志布志 IC～鹿屋串良 JCT）建設に伴い、平成 26 年度と平成 27 年度に実施した、志布志市有明町に所在する次五遺跡の発掘調査報告書です。

次五遺跡では旧石器時代細石刃文化期の遺物と縄文時代の遺物や遺構が見つかりました。

旧石器時代の成果として、宮崎平野部を中心に認められる特徴的な細石刃核が見つかりました。約 13,000 年よりも前から、この地域が日向地域と関係があったことがうかがえます。

縄文時代の成果として、主に早期前半の土器や石器、そして集石遺構や連穴土坑が見つかりました。石蒸し調理施設と考えられている集石や燻製調理施設と考えられている連穴土坑が見つかったことから、当時の人々がこの地を生活の場として利用していたことがうかがえます。

また、落とし穴が見つかったことから、狩猟の場としても利用していたことも分かりました。さらに前期以降と考えられる落とし穴も見つかったことから、その後もこの地が狩猟の場として利用されていきました。

本書が市民の皆様をはじめとする多くの方々に活用され、地域の歴史や文化財に対する関心と御理解をいただくとともに、文化財の普及啓発の一助となれば幸いです。

最後に、調査にあたり御協力いただきました国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所や鹿児島県教育委員会等の関係各機関ならびに発掘調査や整理・報告書作成に従事・協力していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

平成 30 年 3 月

志布志市教育委員会  
教育長 和田幸一郎

## 例 言

- 1 本書は、東九州自動車道（志布志IC～鹿屋串良JCT）建設に伴う次五遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は、鹿児島県志布志市有明町野井倉字次五に所在する。
- 3 発掘調査は、国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所から志布志市教育委員会が受託し、平成26年度と平成27年度に実施した。
- 4 整理作業・報告書作成事業は、主に平成28年度と平成29年度に志布志市埋蔵文化財センターにおいて実施した。
- 5 本書で用いた方位は全て磁北であり、レベル値は国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所が提示した工事計画図面に基づく、海拔絶対高である。
- 6 掲載遺物番号は通し番号とし、本文・表・挿図・図版の番号は一致する。掲載遺構番号は、遺構の種類ごとに番号を付し、本文・表・挿図・図版の番号は一致する。
- 7 挿図の縮尺は各図面に示した。
- 8 遺跡位置図等の地図は国土地理院発行の1:25,000地形図『志布志』、1:50,000地形図『志布志』、大日本帝国陸地測量部発行の1:50,000地形図（明治35年測量）を利用した。
- 9 発掘調査における実測図作成及び写真撮影は坂元裕樹、相美伊久雄、上田義明が行った。また、空中写真撮影は株式会社ふじたに委託した。
- 10 遺物・遺構の実測・トレース作業は相美と臨時職員が行った。また、遺物分布図・遺構配置図作成にデジタル技術を用いた。
- 11 石器の実測・トレース作業の一部は、株式会社九州文化財研究所に委託し、相美が監修した。
- 12 遺物の写真撮影は鹿児島県立埋蔵文化財センターにおいて、吉岡康弘氏（公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター）が行った。
- 13 本報告に係る自然科学分析について、株式会社加速器分析研究所に遺構内出土炭化物の放射性炭素年代測定を委託した。
- 14 土器付着炭化物の放射性炭素年代測定については、愛媛県久万高原町教育委員会の遠部慎氏より玉稿を賜った。
- 15 本書の執筆・編集は、相美が行った。
- 16 出土遺物及び図面・写真の記録類は志布志市教育委員会で保管し、展示・活用する予定である。なお、遺物注記の略号は「JGO」である。

## 凡 例

- 1 本書で用いた遺構記号は、文化庁文化財部記念物課監修『発掘調査のてびき』（2010年刊行）に準拠し、以下のとおりである。なお、遺構番号は遺構の種類ごとに、それぞれ検出された順に通し番号を付し、報告書まで固定している。  
SK：落とし穴・連穴土坑・土坑  
SS：集石遺構  
SU：磨石集積遺構・配石遺構
- 2 本書の遺構配置図と遺物分布図は、1グリッド（1マス）が10m四方であり、各図に縮尺を提示している。
- 3 土層と土器の色調は『新版標準土色帳』に準拠した。
- 4 土器の表面に炭化物が付着しているものについては、断面図に矢印でその範囲を示した。
- 5 土器の胎土観察には、実体顕微鏡を用いた。
- 6 土器観察表で用いる鉱物・岩石の種類は、以下のとおりである。  
「石/長」：石英・長石類で、透明・白色不透明を呈するもの  
「角/輝」：角閃石・輝石類で、黒色を呈し、柱状のもの  
「雲母」：金色の雲母で、薄い層状のもの  
「火ガ」：火山ガラスで、黒色や透明・半透明を呈し、泡がはじけたようなもの  
「風化」：風化礫で、白色を呈した小礫状のもの  
「く礫」：くされ礫で、赤～赤褐色を呈する小礫状のもの

## 本文目次

|                |    |                 |     |
|----------------|----|-----------------|-----|
| 序文             |    | 第4章 調査の成果       |     |
| 例言・凡例          |    | 第1節 旧石器時代の調査    | 19  |
| 目次             |    | 第2節 縄文時代早期の調査   | 27  |
| 第1章 調査の経過      |    | 第3節 縄文時代前期以降の調査 | 154 |
| 第1節 調査に至るまでの経過 | 1  | 第4節 弥生時代以降の調査   | 157 |
| 第2節 試掘調査       | 1  | 第5章 自然科学分析      | 158 |
| 第3節 本調査        | 1  | 第6章 総括          |     |
| 第4節 整理・報告書作成作業 | 4  | 第1節 旧石器時代の調査    | 163 |
| 第2章 遺跡の位置と環境   |    | 第2節 縄文時代早期の調査   | 163 |
| 第1節 地理的環境      | 5  | 第3節 縄文時代前期以降の調査 | 166 |
| 第2節 歴史的環境      | 5  | 第4節 弥生時代以降の調査   | 166 |
| 第3章 調査の方法      |    | 写真図版            | 167 |
| 第1節 発掘調査の方法    | 9  | 報告書抄録           |     |
| 第2節 地形と層位      | 12 |                 |     |

## 挿図・表目次

|                      |    |                            |    |
|----------------------|----|----------------------------|----|
| 第1図 遺跡位置及び周辺遺跡       | 8  | 第24図 縄文早期連穴土坑位置図           | 33 |
| 第2図 周辺環境の変遷          | 8  | 第25図 縄文早期土坑位置図(第1・2エリア)    | 35 |
| 第3図 グリッド図及び試掘トレンチ位置図 | 11 | 第26図 第1エリア土坑(1)            | 37 |
| 第4図 10層上面地形測量図       | 12 | 第27図 第1エリア土坑(2)            | 38 |
| 第5図 土層柱状図            | 13 | 第28図 第1エリア土坑(3)            | 39 |
| 第6図 土層断面図(1)         | 14 | 第29図 第1エリア土坑(4)・第2エリア土坑(1) | 40 |
| 第7図 土層断面図(2)         | 15 | 第30図 第2エリア土坑(2)            | 42 |
| 第8図 土層断面図(3)         | 16 | 第31図 第2エリア土坑(3)            | 43 |
| 第9図 土層断面図(4)         | 17 | 第32図 第2エリア土坑(4)            | 44 |
| 第10図 土層断面図(5)        | 18 | 第33図 第2エリア土坑(5)・第3エリア土坑(1) | 45 |
| 第11図 旧石器時代遺物石材別分布図   | 20 | 第34図 縄文早期土坑位置図(第3・4エリア)    | 47 |
| 第12図 旧石器時代遺物器種別分布図   | 21 | 第35図 第3エリア土坑(2)            | 48 |
| 第13図 1ブロック出土遺物       | 22 | 第36図 第3エリア土坑(3)・第4エリア土坑    | 49 |
| 第14図 2ブロック出土遺物       | 23 | 第37図 縄文早期集石遺構位置図(第1・2エリア)  | 53 |
| 第15図 ブロック外出土遺物       | 24 | 第38図 第1エリア集石(1)            | 55 |
| 第16図 縄文早期遺構配置図       | 27 | 第39図 第1エリア集石(2)            | 56 |
| 第17図 縄文早期落とし穴(1)     | 28 | 第40図 第1エリア集石(3)            | 57 |
| 第18図 縄文早期落とし穴位置図     | 29 | 第41図 第1エリア集石(4)            | 58 |
| 第19図 縄文早期落とし穴(2)     | 29 | 第42図 第1エリア集石(5)            | 60 |
| 第20図 縄文早期落とし穴(3)     | 30 | 第43図 第1エリア集石(6)            | 61 |
| 第21図 縄文早期落とし穴(4)     | 31 | 第44図 第1エリア集石(7)            | 62 |
| 第22図 縄文早期連穴土坑(1)     | 32 | 第45図 第1エリア集石(8)・第2エリア集石(1) | 63 |
| 第23図 縄文早期連穴土坑(2)     | 33 | 第46図 第2エリア集石(2)            | 64 |

|      |                        |     |       |                 |     |
|------|------------------------|-----|-------|-----------------|-----|
| 第47図 | 第2エリア集石(3)             | 65  | 第93図  | 18類土器           | 116 |
| 第48図 | 第2エリア集石(4)             | 67  | 第94図  | 17類・18類土器分布図    | 117 |
| 第49図 | 第2エリア集石(5)             | 68  | 第95図  | 19類・20類土器分布図    | 117 |
| 第50図 | 第2エリア集石(6)             | 69  | 第96図  | 19類・20類土器       | 118 |
| 第51図 | 第2エリア集石(7)             | 70  | 第97図  | 21類土器           | 119 |
| 第52図 | 第2エリア集石(8)             | 71  | 第98図  | 22類土器           | 120 |
| 第53図 | 第2エリア集石(9)             | 72  | 第99図  | 掲載土器分布図(1)      | 121 |
| 第54図 | 第2エリア集石(10)            | 74  | 第100図 | 掲載土器分布図(2)      | 122 |
| 第55図 | 第2エリア集石(11)・第3エリア集石(1) | 75  | 第101図 | 掲載土器分布図(3)      | 123 |
| 第56図 | 縄文早期集石遺構位置図(第3・4エリア)   | 76  | 第102図 | 掲載土器分布図(4)      | 124 |
| 第57図 | 第3エリア集石(2)             | 77  | 第103図 | 掲載土器分布図(5)      | 125 |
| 第58図 | 第3エリア集石(3)             | 78  | 第104図 | 掲載土器分布図(6)      | 126 |
| 第59図 | 第3エリア集石(4)・第4エリア集石     | 80  | 第105図 | 縄文早期石器分布図       | 131 |
| 第60図 | 磨石集積遺構・配石遺構            | 85  | 第106図 | 縄文早期石器石材別分布図(1) | 132 |
| 第61図 | 磨石集積遺構及び配石遺構出土石器       | 85  | 第107図 | 縄文早期石器石材別分布図(2) | 133 |
| 第62図 | 縄文早期磨石集積遺構・配石遺構位置図     | 86  | 第108図 | 縄文早期石器種類別分布図(1) | 134 |
| 第63図 | 縄文早期土器分布図              | 87  | 第109図 | 縄文早期石器種類別分布図(2) | 135 |
| 第64図 | 1類・2類・3類・12類土器分布図      | 88  | 第110図 | 縄文早期石器(1)       | 138 |
| 第65図 | 4類・5類土器分布図             | 88  | 第111図 | 縄文早期石器(2)       | 139 |
| 第66図 | 1類・2類土器                | 89  | 第112図 | 縄文早期石器(3)       | 140 |
| 第67図 | 3類・4類土器                | 90  | 第113図 | 縄文早期石器(4)       | 141 |
| 第68図 | 4類・5類土器                | 91  | 第114図 | 縄文早期石器(5)       | 142 |
| 第69図 | 6類・7類・8類土器分布図          | 92  | 第115図 | 縄文早期石器(6)       | 143 |
| 第70図 | 6類土器                   | 93  | 第116図 | 縄文早期石器(7)       | 144 |
| 第71図 | 6類・7類・8類土器             | 94  | 第117図 | 縄文早期石器(8)       | 145 |
| 第72図 | 9類土器                   | 95  | 第118図 | 縄文早期石器(9)       | 146 |
| 第73図 | 9類・11類・13類土器分布図        | 97  | 第119図 | 縄文早期石器(10)      | 147 |
| 第74図 | 10類土器分布図               | 97  | 第120図 | 掲載土器分布図(1)      | 148 |
| 第75図 | 10類土器(1)               | 98  | 第121図 | 掲載土器分布図(2)      | 149 |
| 第76図 | 10類土器(2)               | 99  | 第122図 | 掲載土器分布図(3)      | 150 |
| 第77図 | 10類土器(3)               | 100 | 第123図 | 掲載土器分布図(4)      | 151 |
| 第78図 | 10類土器(4)               | 101 | 第124図 | 縄文前期以降落とし穴(1)   | 154 |
| 第79図 | 10類土器(5)               | 102 | 第125図 | 縄文前期以降落とし穴(2)   | 155 |
| 第80図 | 10類・11類・12類・13類土器      | 103 | 第126図 | 縄文前期以降落とし穴位置図   | 156 |
| 第81図 | 14類土器分布図               | 105 | 第127図 | 弥生時代以降遺物        | 157 |
| 第82図 | 15類・16類土器分布図           | 105 |       |                 |     |
| 第83図 | 14類土器(1)               | 106 |       |                 |     |
| 第84図 | 14類土器(2)               | 107 |       |                 |     |
| 第85図 | 14類土器(3)               | 108 | 第1表   | 周辺遺跡地名表         | 7   |
| 第86図 | 14類土器(4)               | 109 | 第2表   | ブロック別石器組成表      | 25  |
| 第87図 | 14類土器(5)               | 110 | 第3表   | 旧石器時代石器観察表(1)   | 25  |
| 第88図 | 14類土器(6)               | 111 | 第4表   | 旧石器時代石器観察表(2)   | 26  |
| 第89図 | 15類土器(1)               | 112 | 第5表   | 落とし穴観察表         | 28  |
| 第90図 | 15類土器(2)               | 113 | 第6表   | 連穴土坑観察表         | 34  |
| 第91図 | 15類・16類・17類土器          | 114 | 第7表   | 土坑観察表(1)        | 50  |
| 第92図 | 17類・18類土器              | 115 | 第8表   | 土坑観察表(2)        | 51  |

|      |                  |     |      |             |     |
|------|------------------|-----|------|-------------|-----|
| 第9表  | 集石観察表(1)         | 81  | 第17表 | 縄文土器観察表(4)  | 129 |
| 第10表 | 集石観察表(2)         | 82  | 第18表 | 縄文土器観察表(5)  | 130 |
| 第11表 | 集石観察表(3)         | 83  | 第19表 | 縄文石器観察表(1)  | 137 |
| 第12表 | 集石観察表(4)         | 84  | 第20表 | 縄文石器観察表(2)  | 152 |
| 第13表 | 磨石集積・配石遺構出土石器観察表 | 86  | 第21表 | 縄文石器観察表(3)  | 153 |
| 第14表 | 縄文土器観察表(1)       | 120 | 第22表 | 落とし穴観察表     | 156 |
| 第15表 | 縄文土器観察表(2)       | 127 | 第23表 | 弥生時代以降遺物観察表 | 157 |
| 第16表 | 縄文土器観察表(3)       | 128 | 第24表 | 縄文早期石器組成表   | 165 |

## 写真図版目次

|                  |            |     |                |  |     |
|------------------|------------|-----|----------------|--|-----|
| 図版1              | 遺跡遠景(北西から) | 167 | 図版6            |  | 172 |
| 図版2              |            | 168 | ①連穴土坑1号完掘      |  |     |
| ①B-12区北壁         |            |     | ②土坑11号完掘       |  |     |
| ②C-16区西壁         |            |     | ③土坑22号半裁       |  |     |
| ③D-3区作業風景        |            |     | ④土坑24号半裁       |  |     |
| ④D-1・2区南壁        |            |     | ⑤土坑29号半裁       |  |     |
| ⑤E-4~6区南壁        |            |     | ⑥土坑33号完掘       |  |     |
| ⑥C・D-22区西壁       |            |     | ⑦土坑9号半裁        |  |     |
| ⑦B・C-18・19区北壁    |            |     | ⑧土坑93号半裁       |  |     |
| 図版3              |            | 169 | 図版7            |  | 173 |
| ①・②B-2区11a層遺物出土  |            |     | ①土坑45号検出       |  |     |
| ③D-2区9層遺物・礎出土    |            |     | ②土坑45号完掘       |  |     |
| ④D・E-7・8区9層礎出土   |            |     | ③土坑100号半裁      |  |     |
| ⑤B・C-16・17区9層礎出土 |            |     | ④土坑50号半裁       |  |     |
| ⑥C・D-14・15区9層礎出土 |            |     | ⑤土坑50号完掘       |  |     |
| ⑦E・F-13・14区9層礎出土 |            |     | ⑥C~E-2・3区10層上面 |  |     |
| ⑧D~F-9・10区9層礎出土  |            |     | 図版8            |  | 174 |
| 図版4              |            | 170 | ①E・F-13区石器集中部  |  |     |
| ①落とし穴1号検出        |            |     | ②E-11区石器集中部    |  |     |
| ②落とし穴1号埋土        |            |     | ③集石4号検出        |  |     |
| ③落とし穴1号裁ち割り      |            |     | ④集石18号検出       |  |     |
| ④落とし穴2号半裁        |            |     | ⑤集石13号検出       |  |     |
| ⑤落とし穴2号裁ち割り      |            |     | ⑥集石7号検出        |  |     |
| ⑥落とし穴3号半裁        |            |     | ⑦集石23・24号検出    |  |     |
| ⑦落とし穴3号裁ち割り      |            |     | 図版9            |  | 175 |
| 図版5              |            | 171 | ①集石35号検出       |  |     |
| ①落とし穴4号半裁        |            |     | ②集石29・30号検出    |  |     |
| ②落とし穴4号完掘        |            |     | ③集石31号検出       |  |     |
| ③落とし穴4号裁ち割り      |            |     | ④集石44号検出       |  |     |
| ④連穴土坑2号検出        |            |     | ⑤集石45号検出       |  |     |
| ⑤連穴土坑2号完掘        |            |     | ⑥集石43号掘り込み検出   |  |     |
| ⑥連穴土坑3号半裁        |            |     | ⑦集石40号検出       |  |     |
|                  |            |     | ⑧集石59号検出       |  |     |

|                |     |      |               |     |
|----------------|-----|------|---------------|-----|
| 図版10           | 176 | 図版15 | 旧石器時代遺物(1)    | 181 |
| ①集石66号検出       |     | 図版16 | 旧石器時代遺物(2)    | 182 |
| ②集石65号検出       |     | 図版17 | 1類・2類・12類土器   | 183 |
| ③集石67号検出       |     | 図版18 | 4類・5類土器       | 184 |
| ④集石69・70号検出    |     | 図版19 | 6類・7類土器       | 185 |
| ⑤集石74号検出       |     | 図版20 | 9類土器          | 186 |
| ⑥集石75・76・77号検出 |     | 図版21 | 10類・13類土器     | 187 |
| ⑦集石70号掘り込み検出   |     | 図版22 | 10類土器         | 188 |
| ⑧集石80号検出       |     | 図版23 | 10類・14類土器     | 189 |
| 図版11           | 177 | 図版24 | 14類土器(2)      | 190 |
| ①集石78号検出       |     | 図版25 | 14類土器(3)      | 191 |
| ②集石81号検出       |     | 図版26 | 15類土器         | 192 |
| ③集石84号検出       |     | 図版27 | 16類・17類・18類土器 | 193 |
| ④集石87号検出       |     | 図版28 | 19類・20類・22類土器 | 194 |
| ⑤集石89・90号検出    |     | 図版29 | 縄文早期石器(1)     | 195 |
| ⑥集石97号検出       |     | 図版30 | 縄文早期石器(2)     | 196 |
| ⑦集石100・101号検出  |     | 図版31 | 縄文早期石器(3)     | 197 |
| 図版12           | 178 | 図版32 | 縄文早期石器(4)     | 198 |
| ①D・E-8・9区集石群検出 |     |      |               |     |
| ②集石112号検出      |     |      |               |     |
| ③集石116号検出      |     |      |               |     |
| ④集石117号検出      |     |      |               |     |
| ⑤集石129号掘り込み完掘  |     |      |               |     |
| ⑥集石119号検出      |     |      |               |     |
| ⑦集石33号半裁       |     |      |               |     |
| ⑧集石27号半裁       |     |      |               |     |
| 図版13           | 179 |      |               |     |
| ①集石122号検出      |     |      |               |     |
| ②集石122号半裁      |     |      |               |     |
| ③磨石集積1号検出      |     |      |               |     |
| ④磨石集積2号検出      |     |      |               |     |
| ⑤配石1号検出        |     |      |               |     |
| ⑥配石3号検出        |     |      |               |     |
| ⑦落とし穴5号検出      |     |      |               |     |
| ⑧落とし穴5号裁ち割り    |     |      |               |     |
| 図版14           | 180 |      |               |     |
| ①落とし穴6号半裁      |     |      |               |     |
| ②落とし穴6号埋土      |     |      |               |     |
| ③落とし穴6号裁ち割り    |     |      |               |     |
| ④落とし穴6号逆茂木痕検出  |     |      |               |     |
| ⑤落とし穴7号検出      |     |      |               |     |
| ⑥落とし穴7号半裁      |     |      |               |     |
| ⑦落とし穴7号裁ち割り    |     |      |               |     |
| ⑧落とし穴7号逆茂木痕検出  |     |      |               |     |

## 第1章 調査の経過

### 第1節 調査に至るまでの経過

志布志市教育委員会（以下、市教委）は、文化財の保護・活用を図るため、各開発関係機関との間で、事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて事前に協議し、諸開発との調整を図っている。

日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所は、東九州自動車道の建設を計画し、志布志IC～末吉財部IC区間の事業の実施について鹿児島県教育庁文化財課（以下、県文化財課）に照会した。

この照会に伴い県文化財課は、平成11年1月に鹿屋串良JCT～末吉財部IC間を、平成12年2月に志布志IC～鹿屋串良JCT間の埋蔵文化財の分布調査を実施し、50か所の遺跡が存在することが明らかとなった。その時点では、次五遺跡は周知されなかったものの、その後実施された平成11年度の農政分布調査において発見されている。

その後、日本道路公団民営化（現在の西日本高速道路株式会社）の閣議決定と新直轄方式に基づく道路建設の確定、平成15年11月に暫定2車線施工に伴う議事確認書締結、同年12月に大隅IC（平成21年4月28日、「曾於弥五郎IC」へ名称変更）から末吉財部IC間の発掘調査協定書締結、平成16年3月に国土交通省九州地方整備局長、日本道路公団九州支社長、鹿児島県知事の間で新直轄方式施工に伴う確認書締結が行われ、工事は日本道路公団が国土交通省から受託し、発掘調査は日本道路公団が鹿児島県に委託することとなり、これまでの確認書、協定書はそのまま継続するという事になった。ただし、日本道路公団からの委託は曾於弥五郎ICまでで終了し、曾於弥五郎ICからの先線部は国土交通省からの受託事業となった。

平成24年度、国土交通省は、平成25年度から東九州自動車道（志布志IC～鹿屋串良JCT間）の建設工事をさらに推進する意向を示し、発掘調査期間の短縮を県文化財課へ要請してきた。さらに、志布志市にも発掘調査の委託を要請してきた。

このような状況に対応するため、県文化財課、市教委、国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所（以下、大隅河川国道事務所）の三者で協議を行った。その結果、次五遺跡については、市教委が大隅河川国道事務所の委託を受けて本調査を実施することになった。

次五遺跡の調査について、試掘調査は平成24年度に、県文化財課と県立埋蔵文化財センターが市教委の協力や大隅河川国道事務所の立会のもと実施した。本調査は、平成26・27年度に市教委が実施した。

### 第2節 試掘調査

詳細な遺跡範囲及び遺物包含層の状況などを把握するために、平成24年10月24日に試掘調査を行った。

調査方法は、計画路線内に2×3mを主とするトレンチを5か所設定し、重機にて掘り下げを行った。その結果、縄文時代早期の遺物包含層が確認された。

試掘調査の調査体制は以下のとおりである。

#### 調査体制（平成24年度）

|       |   |
|-------|---|
| 事業主体  | 国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所   |
| 調査主体  | 鹿児島県教育委員会   |
| 企画・調整 | 鹿児島県教育庁文化財課   |
| 調査担当  | 鹿児島県教育庁文化財課<br>文化財主事 中村 和美<br>鹿児島県立埋蔵文化財センター<br>文化財主事 松下 建生<br>文化財研究員 今村 結記 |
| 立会者   | 国土交通省九州地方整備局<br>大隅河川国道事務所調査第三課<br>専門職 李田 正文                                 |
| 協力者   | 志布志市教育委員会生涯学習課<br>主任主査 相美伊久雄  |

### 第3節 本調査

本調査は平成26・27年度の2か年にわたり実施した。各年度の調査体制及び調査の具体的経過は以下のとおりである。調査の具体的経過は、日誌抄を毎月集約して記載する。

#### 調査の体制（平成26年度）

|       |   |
|-------|---|
| 事業主体  | 国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所   |
| 調査主体  | 志布志市教育委員会   |
| 調査責任者 | 志布志市教育委員会<br>教育長 和田幸一郎<br>生涯学習課長 榊山 弘昭                                  |
| 調査事務局 | 文化財管理室長 若松 利広<br>埋蔵文化財係長 上田 義明<br>主任主査 大窪 祥晃<br>主任主査 相美伊久雄<br>主事補 坂元 裕樹 |
| 調査担当  | 主任主査 相美伊久雄  |
| 調査指導  | 南九州縄文研究会会長 新東 晃一  |



## 調査の具体的経過

平成26年度の本調査は、平成26年5月7日から平成26年12月24日（実働120日）まで実施した。

調査対象面積は4,500㎡、延面積は6,500㎡である。当初、表面積（延面積）6,900㎡を対象に調査を行う予定であったが、遺物包含層が1枚増加し、さらに調査範囲が広がったために変更となった。

### 【5月】

営繕用地・駐車場整地作業、コンテナハウス設置、電気・水道引込工事などの環境整備。グリッド設定。

B～E-1～5区の重機による表土～7層（アカホヤ火灰層）掘り下げ。調査範囲の東端から剥ぎ取り開始。当初遺物包含層としていなかった8層から被熱破砕礫や土器が出土したため、7層下部を残した状態で重機による掘り下げを行う。B・C-3区7層下位において落とし穴を検出。

B～E-1～4区8・9層の調査（掘り下げ、遺物取上、写真撮影）、集石検出。

落とし穴・集石の調査（掘り下げ、写真撮影、実測）。

### 【6月】

B～E-1～4区9層の調査、集石検出。10層（薩摩火灰層）上面において遺構精査、土坑・集石検出。落とし穴・集石の調査。

当初調査範囲から外れていた谷地形のC・D-3～6区にも遺物出土が広がる可能性が出てきたため、大隅河川国道事務所と県文化財課を定めた三者で協議を行った結果、調査範囲が広がることになった。追加調査範囲の重機による表土～7層の掘り下げ開始。

### 【7月】

追加調査範囲の重機による表土～7層掘り下げ。D-3区7層下位において落とし穴を検出。

B～D-1～4区9層の調査、集石検出。10層上面遺構精査、土坑・集石検出。落とし穴・集石の調査。

追加調査区の斜面傾斜が大きくなってきたので、通路の確保など安全対策を入念に行った。

C～E-7～9区の重機による表土～7層掘り下げ。

### 【8月】

C・D-2・3区9層の調査、集石検出。10層上面遺構精査、土坑・集石検出。集石・土坑の調査。

D・E-7～9区9層の調査。

B～D-1～5区下層確認トレンチ調査、11a層から細石刃核など出土。旧石器時代細石刃文化期の遺物包含層が確認された。

### 【9月】

B-3・4区9層の調査、集石検出。10層上面遺構精査、土坑・集石検出。B-D-1～4区10層上面コンター図作成。E-2～6区南壁土層断面図作成。土坑・集石の調査。

D・E-7・8区9層の調査。10層上面遺構精査。C～E-5～7区10層上面コンター図作成。

C～E-5～7区の斜面部分は傾斜が大きいため、安全上の理由から人力掘削を断念し、重機による掘り下げを行うことにした。

B～D-14～17区重機による表土～7層掘り下げ。その際、7層上面において遺構精査を行う。B～D-15・17区8・9層の調査、集石検出。

空中写真撮影（26日）。主にB～E-1～7区の撮影を行う。

新東晃一氏による調査指導（30日）、谷部に隣接した遺跡の調査事例や集石の認定方法、出土遺物などについて指導を受けた。

7～9月は蒸し暑く、さらに9層土がかなり硬質のため掘り下げ作業が相当な重労働となった。そのため、寒紗紗の利用やこまめに休息をとる等、健康管理に注意を払った。

### 【10月】

B～E-13～17区9層の調査、集石・配石遺構検出。10層上面遺構精査、土坑・集石検出。土坑・集石の調査。

C-16区・E-8区下層確認トレンチ調査、遺物出土せず。

### 【11月】

B～D-13～15区9層の調査、集石検出。10層上面遺構精査、土坑・集石検出。B～D-14～17区10層上面コンター図作成。土坑・集石の調査。

E・F-13～15区の重機による表土～7層掘り下げ、8・9層の調査、集石検出。集石の調査。

B～D-6・7区8・9層の調査、集石検出。

B-15区下層確認トレンチ調査、11a層から遺物出土。そのため、B-15区周辺の11a層の調査を行ったが、遺物は出土せず。

D-14区下層確認トレンチ調査、遺物出土せず。

### 【12月】

E・F-12～15区9層の調査、集石の検出・調査。10層上面遺構精査、土坑・集石の検出・調査。10層上面コンター図作成。E・F-15区西壁地層断面図作成。

B・C-6・7区の10層上面遺構精査、コンター図作成。B・C-6・7区北壁土層断面図作成。

F-15区下層確認トレンチ調査、遺物出土せず。

調査範囲の埋め戻し、コンテナハウス撤収。  
B～E-1～5区で検出した集石や土坑及び旧石器時代細石刃文化期の包含層は来年度調査を行うこととし、平成26年度の調査を終了した。その際、埋め戻しは行わず、遺構検出面全体をブルーシートで覆い、さらに立ち入り禁止看板やロープを使って安全対策を施した。

本調査終了後、文化財保護法第108条及び遺失物法第4条第1項に基づいて、「埋蔵物発見届」（平成27年1

月7日付)を志布志警察署長へ、「発掘調査実施報告書」・「埋蔵文化財保管証」(平成27年1月7日付)を県教育委員会に提出するなど、発掘調査に係る諸手続きを実施した。

#### 調査の体制(平成27年度)

|       |                           |                 |  |
|-------|---------------------------|-----------------|--|
| 事業主体  | 国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所     |                 |  |
| 調査主体  | 志布志市教育委員会                 |                 |  |
| 調査責任者 | 志布志市教育委員会                 |                 |  |
|       | 教育長                       | 和田幸一郎           |  |
| 調査事務局 | 生涯学習課長                    | 榊山 弘昭           |  |
|       | 文化財管理室長                   | 若松 利広           |  |
|       | 埋蔵文化財係長                   | 上田 義明           |  |
|       | 主任主査                      | 大窪 祥晃           |  |
| 調査担当  | 埋蔵文化財係長                   | 上田 義明           |  |
|       | 主任主査                      | 相美伊久雄<br>(8月まで) |  |
|       | 主事                        | 坂元 裕樹           |  |
| 調査指導  | 愛媛県久万高原町教育委員会生涯学習班<br>学芸員 | 遠部 慎            |  |

#### 調査の具体的経過

平成27年度の本調査は、平成27年5月7日から平成28年2月10日(実働138日)まで実施した。調査表面積は5,900㎡、延面積は6,900㎡である。

##### 【5月】

管轄用地・駐車場整地作業、コンテナハウス設置、電気・水道引込工事などの環境整備。グリッド設定。

B～D-8～13区の重機による表土～7層掘り下げ。

B～D-12・13区9層の調査、集石検出。10層上面遺構精査、土坑・集石検出・調査。

なお、昨年度の経験から大量の遺物や被熱破砕磚の取上を迅速に行うため、トータルステーションを導入し、また遺構実測を円滑に進めるために、集石の遺構実測の一部を外委託し(7月から)、調査の効率化を図った。

##### 【6月】

B～D-12・13区9層の調査、集石検出。10層上面遺構精査、土坑・集石検出・調査。

B～D-10・11区9層の調査。

梅雨入りした6月は雨天がとても多く、調査日数の確保に苦労した。

##### 【7月】

A～D-8～11区9層の調査、集石検出。A～C-10～12区10層上面遺構精査、土坑・集石検出。A-11・12区北壁土層断面図作成。土坑・集石の調査。

##### 【8月】

B～D-8・9区9層の調査、集石検出。10層上面遺構精査、土坑・集石検出・調査。コンター図作成。

E・F-10～12区9層の調査、集石検出・調査。

B-9区・D-10区下層確認トレンチ調査、遺物出土せず。

##### 【9月】

E・F-9・10区の重機による表土～7層掘り下げ。

D～F-8～12区9層の調査、集石検出・調査。

B～D-2～4区10層上面遺構精査、土坑検出・調査、コンター図作成。

##### 【10月】

D～F-8～10区9層の調査、集石検出。D～F-8～11区10層上面遺構精査、土坑・集石検出、コンター図作成。土坑・集石の調査。

B・C-1・2区11a層の調査。B～D-2区東壁土層断面図作成。

B・C-18～23区の重機による表土～7層掘り下げ、9層の調査。

##### 【11月】

B・C-20～23区9層の調査、集石検出。B・C-18～21区10層上面遺構精査、落とし穴検出、コンター図作成。B-20～23区北壁土層断面図作成。集石・落とし穴の調査。

##### 【12月】

C・D-17～22区9層の調査、集石検出・調査。

E・F-21・22区9層の調査、10層上面遺構精査、落とし穴検出・調査。

##### 【1月】

D～F-16～21区9層の調査、10層上面遺構精査、コンター図作成。集石の調査。

D・E-22・23区西壁土層断面図作成。

C-8区9層の調査、10層上面遺構精査、コンター図作成。

空中写真撮影(8日)。遠部慎氏調査指導(21・22日)、主に縄文時代早期の押型文土器について指導を受けた。

人力による掘削終了(26日)。調査範囲の埋め戻し、コンテナハウス撤収。

##### 【2月】

B～D-1～5区で検出した集石や土坑の調査が未了であったため、職員のみで対応した。

調査終了後、安全対策や排水対策を行い、国土交通省へ現場を引き渡した。

本調査終了後、文化財保護法第108条及び遺失物法第4条第1項に基づいて、「埋蔵物発見届」(平成28年2月16日付)を志布志警察署長へ、「発掘調査実施報告書」・「埋蔵文化財保管証」(平成28年2月16日付)を県教育委員会に提出するなど、発掘調査に係る諸手続きを実施した。

#### 第4節 整理・報告書作成作業

整理・報告書作成作業は、一部の遺物洗浄と注記及び石器実測委託を発掘作業と並行して行った。

本格的な整理・報告書作成作業は、平成28・29年度に市埋蔵文化財センターにおいて実施した。

平成28・29年度の調査体制及び作業の内容・経過は以下のとおりである。作業の具体的経過は日誌抄を月毎に集約して記載する。

##### 調査の体制（平成28年度）

|       |                                |         |       |
|-------|--------------------------------|---------|-------|
| 事業主体  | 国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所          |         |       |
| 調査主体  | 志布志市教育委員会                      |         |       |
| 調査責任者 | 志布志市教育委員会                      |         |       |
|       | 教 育 長                          | 和田幸一郎   |       |
| 調査事務局 | 〃                              | 生涯学習課長  | 榊山 弘昭 |
|       | 〃                              | 文化財管理室長 | 若松 利広 |
|       | 〃                              | 埋蔵文化財係長 | 上田 義明 |
|       | 〃                              | 主任主査    | 大窪 祥晃 |
| 調査担当  | 〃                              | 主任主査    | 相美伊久雄 |
|       | 〃                              | 主 事     | 坂元 裕樹 |
| 調査指導  | 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター<br>特任助教 寒川 朋枝 |         |       |

##### 作業の具体的経過

- 【4・5月】 遺物洗浄、注記、確観察（人為的加工の有無）、写真整理。
- 【6月】 遺物洗浄、注記、確観察、石器分類・台帳作成、石器実測委託準備。
- 【7月】 遺物洗浄、注記、確観察、石器分類・台帳作成。
- 【8～10月】 遺物洗浄、注記、確観察、石器接合。
- 【11月】 遺物洗浄、注記、確観察、石器接合、自然科学分析準備。
- 【12月】 石器接合、遺構図面整理。
- 【1月】 石器接合、コンター図作成。  
寒川朋枝氏調査指導（20日）、旧石器時代細石刃文化期の遺物について指導を受けた。
- 【2・3月】 石器分類・台帳作成、遺構図調整・修正。

##### 調査の体制（平成29年度）

|       |                       |         |       |
|-------|-----------------------|---------|-------|
| 事業主体  | 国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所 |         |       |
| 調査主体  | 志布志市教育委員会             |         |       |
| 調査責任者 | 志布志市教育委員会             |         |       |
|       | 教 育 長                 | 和田幸一郎   |       |
| 調査事務局 | 〃                     | 生涯学習課長  | 若松 利広 |
|       | 〃                     | 文化財管理室長 | 岩下 祥二 |

|      |   |         |       |
|------|---|---------|-------|
|      | 〃   | 埋蔵文化財係長 | 上田 義明 |
|      | 〃   | 主任主査    | 大窪 祥晃 |
| 調査担当 | 〃   | 主任主査    | 相美伊久雄 |
| 調査指導 | 宮崎県都城市教育委員会文化財課<br>副課長 柴畑 光博<br>鹿児島県歴史資料センター黎明館学芸課<br>主 査 黒川 忠広 |         |       |

##### 作業の具体的経過

- 【4月】 石器分類・台帳作成、石器再分類・選別。
- 【5月】 石器選別・実測、石器選別、遺構トレース。
- 【6月】 石器実測、石器実測、遺構トレース。
- 【7月】 石器拓本、石器実測、石器実測委託準備、遺構トレース
- 【8月】 石器拓本、石器実測、遺構トレース、遺構配置図作成。柴畑光博氏・黒川忠広氏調査指導（29日）、縄文時代早期の遺物全般について指導を受けた。
- 【9月】 石器拓本・トレース、遺構トレース。
- 【10月】 石器トレース・復元、石器実測・トレース、原稿執筆。
- 【11月】 石器復元、遺物分布図作成、観察表作成、原稿執筆。
- 【12月】 石器復元、原稿執筆、遺物分布図作成、報告書掲載遺物写真撮影。
- 【1月】 入稿、校正。
- 【2月】 校正、遺物収納。
- 【3月】 印刷・製本。

本遺跡の出土文化財は、文化財保護法第107条に基づいて、「出土文化財譲与申請書」（平成28年9月6日付）を県教育委員会に提出したことにより、県から譲与されている。

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

志布志市は鹿児島県の最東部に位置し、宮崎県都城市及び串間市と県境をなす。北は曾於市、南西は大崎町と接し、南は太平洋に向け湾口を開く志布志湾に面する。平成18年1月1日に志布志町・有明町・松山町の三町が合併して誕生した市である。

本市の地形は東から志布志湾に向かって緩やかに傾斜し、海岸近くで急崖となり、わずかな沖積平野を経て海岸線となる。この海岸線は、西側に旧期砂丘・新期砂丘に二分される砂丘海岸が続くのに対し、東側は日南層群で構成される岩礁海岸となる。市の北東部には御在所岳(530.4m)・笠砥岳(444.2m)・陣岳(349.3m)など、日南層群が構成する急峻な山岳地帯がある。

その西側には入戸火砕流が広く分布し、いわゆるシラス台地を形成し、志布志市の主体をなす。「原(ばる)」と呼ばれる比較的平坦な台地であるシラス台地は、南流する前川・安楽川・菱田川など大小の河川の浸食作用による深い浸食谷(「迫(さこ)」)により細かく刻まれ、大小の狭長な台地となっている。

また、このシラス台地からは、北部の霧岳(408.3m)や中央部の岳野山(274.3m)、西部の宇都丘(179.1m)・草野丘(268.4m)など、市北東部同様の日南層群が構成する山岳・丘陵が突き出ている。

前述の三河川の流域には高位・中位・低位の三段の段丘が認められる。段丘崖下からの自然湧水によって低・中位段丘では集落が形成されてきた。一方、高位段丘では地下水位が深いため集落形成が困難であり、「蓬原開田」や「野井倉開田」などのように近～現代に関われるまでは、畑地として利用されるにとどまっていた。

この地域の地質は古いほうから、日南層群-阿多島浜火砕流-夏井層-阿多(夏井)火砕流-旧期ローム層-入戸火砕流-新期火山灰層となる。日南層群は主に頁岩・砂岩の細互層から成り、年代は漸新世～前期中新世とされている。阿多島浜火砕流は夏井海岸の一部に認められるもので、23～25万年前とされる。夏井層は下部の貝や植物の化石を含むシルト層と上部の礫層からなる。阿多(夏井)火砕流は黒色を呈する溶結度の低い均質な凝灰岩で、年代は8.5～10.5万年前とされる。入戸火砕流は海岸に沿った地域では海拔40m程のシラス台地を形成する。下部には大隅降下軽石層が存在する。

次五遺跡は安楽川河口から約1.5km上流西岸の「野井倉原」と呼ばれるシラス台地縁辺部から舌状に突き出した箇所に位置する。標高約45mを測り、西から東へ緩やかに傾斜している。眼下には安楽川に合流する小河川が流れている。

### 第2節 歴史的環境

次五遺跡は平成11年度に実施された農政分布調査で発見された遺跡で、古代の土師器が採集されている。

本遺跡が所在する志布志市には現在約500ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が認められている。戦前には大正5(1916)年に六月板横穴墓群について報告を行った瀬戸口伝九郎氏や昭和19(1944)年に出口A遺跡採集の独鈷石を紹介した梅原末治氏の調査研究がある。戦後は、河口貞徳氏・諏訪昭千代氏・小田富士雄氏・上村俊雄氏・酒匂義明氏の学術調査・研究に加え、海老原行秀氏・瀬戸口望氏という志布志町在住の研究者による熱心な調査・研究が行われており、学史上重要な遺跡も多い。

1980年代になると、主に志布志町において圃場整備に伴う発掘調査が行われ、縄文時代の調査事例が増加した。

2000年代には、主に有明町において農道整備に伴う発掘調査が行われ、弥生・古墳時代の様相が明らかとなった。最近では、地域高規格道路(都岐志布志道路)や東九州自動車道に伴う大規模な発掘調査が増え、質量ともに充実した資料が追加されている。

本市は現在の行政区分では鹿児島県に属するが、過去は日向国に属しており、明治4(1871)年の廃藩置県後も一時期、都城県や宮崎県に属した歴史もある。したがって、この地域の歴史・文化を考える上で薩摩・大隅だけでなく、日向地方の影響も考慮する必要がある。

#### 旧石器時代

剥片尖頭器・角錐状石器等が出土した中須B遺跡・蕨野B遺跡、細石器が出土した道重遺跡・和田上遺跡などがあるものの、調査事例は少ない。

本遺跡を含め、中原遺跡や和田上遺跡では畦原型細石刃核が出土しており、これらは硬質砂岩や珪質頁岩を利用している。石材の原産地や畦原型細石刃核が濃密に分布する宮崎平野地域との関係を考える上で注目される。

#### 縄文時代

志布志町では瀬戸口氏等の調査によって、「縄文銀座」と呼ばれるほど多数の遺跡が見つかっている。

**草創期** 学史上重要な東黒土田遺跡がある。隆帯土器や舟形配土器、貯蔵穴が見つかっている。特に貯蔵穴から出土した堅果類は日本最古である。鎌石橋遺跡でも隆帯土器が出土している。

**早期** 前半期の堅穴建物や集石、連穴土坑が多数検出した倉園B遺跡、塞ノ神A式壺形土器等の良好な資料が出土した夏井土光B遺跡、連穴土坑のトンネル部分に石版式系土器の完形土器が出土した高吉B遺跡、耳栓が出土した稲荷上遺跡・横堀遺跡など、遺跡数が多い。

本遺跡のように連穴土坑と多数の集石が検出された

遺跡としては、稲荷迫遺跡や高吉B遺跡、下堀遺跡、横堀遺跡がある。これらの遺跡はシラス台地縁辺部に位置し、被熱破砕礫が多数出土している。立地条件を含め、遺跡利用を考える上で注目される。

**前期** 曾畑式が出土した別府石踊遺跡、野久尾遺跡、本村遺跡などがあるが、調査事例は少ない。

**中期** この時期も調査事例は少ないものの、春日式期の竪穴建物が見つかった前谷遺跡、野久尾式や深浦式・船元式が出土した野久尾遺跡のように重要な遺跡がある。このほか、宇都遺跡や山ノ口遺跡では大平式の良好な資料が出土している。

**後期** 代表する遺跡として中原遺跡と片野洞穴がある。中原遺跡では在地系の宮之迫式・指宿式と瀬戸内系の中津式・福田KⅡ式・宿毛式の良好な資料が多数出土している。片野洞穴では西平式～御領式期の動物骨や貝殻、釣針やかんざし等の骨角器が出土している。

このほか、中岳Ⅱ式の埋設土器が検出された稲荷迫遺跡、後期のほぼ全ての型式が出土した家野遺跡、独結石が見つかった出口A遺跡がある。

**晩期** 井手上A遺跡や上苑遺跡では入佐式深鉢の埋設土器が見つかった。特に、井手上A遺跡資料は横位状態のもので類例が少なく、注目できる。

小迫遺跡では黒川式期の良好な資料が認められており、クズの葉と推定される木葉痕をもつ組織織土器が出土している。

#### 弥生時代

縄文時代に比べると調査事例は少ないものの、学史上重要な遺跡が存在する。一つは京ノ峯遺跡で、中期後半の円形・方形周溝墓が多数検出されている。南九州では稀有な墓形であり、近畿・瀬戸内地方の影響が考えられている。

もう一つは土橋遺跡で、明治40(1907)年、中広形銅鉾が見つかった。県内唯一の、さらに本土最南端の発見例である。中期後半に位置づけられるもので、中広形銅鉾は高知県中央～西部、豊前～豊後地域に分布が集中することから、豊後水道地域における地域間交流の過程でもたらされた可能性が指摘されている。

稲荷迫遺跡では中期前～中葉のI・Ⅱ式期の土坑墓が検出された。また、この遺跡では刻目突帯文土器の良好な資料が認められている。刻目突帯文土器が主体を占める遺跡は大隅半島では稀であり、注目される。小迫遺跡で出土した刻目突帯文土器期の可能性がある精製浅鉢からは、イネやエゴマの圧痕が見つかった。

井手上A遺跡では中期中葉のI入束Ⅱ式期の竪穴建物が見つかった。中期後半の山ノ口Ⅱ式期になると竪穴建物の検出例は増加し高吉B遺跡、柳遺跡、長田遺跡、本村遺跡、井手上遺跡、前谷B遺跡がある。

京ノ峯遺跡や高吉B遺跡、稲荷迫遺跡では瀬戸内地域

から搬入された土器が出土している。夏井土光遺跡では柱状片刃石斧が出土している。

#### 古墳時代

集落遺跡は有明町において調査事例が多い。仕明遺跡では中津野～東原式期の、屋部当遺跡では辻堂原～倭貫式期の、長田遺跡では倭貫式期の竪穴建物が見つかった。志布志町でも稲荷迫遺跡で倭貫式期の竪穴建物が見つかった。

市内は倭貫式新段階期の調査事例が多く、宮脇遺跡、安良遺跡、仕明遺跡、上苑A遺跡、中牟田遺跡がある。県内では出土例が少ない6世紀末～8世紀前半頃の須恵器も多数認められており、「謎の7世紀」と呼ばれている南九州の様相を解明する上で、重要な地域である。

古墳は前方後円墳の飯盛山古墳と小牧1号墳、円墳の原田古墳がある。飯盛山古墳は出土した埴輪から中期初め(4世紀後半)、原田古墳は出土した須恵器から中期中頃(5世紀中頃)、そして小牧1号墳は採集された須恵器から後後半(6世紀後半)に築造された可能性ある。

高塚古墳以外には原田地下式横穴墓や馬場地下式横穴墓群がある。また、県内において2例しか認められていない横穴墓が市内には存在していた。それは六月坂横穴墓群であり、明治42(1909)年に旧制志布志中学校敷地整地の際発見されたもので、後期末～奈良時代初め(6世紀後半～8世紀前半)の須恵器などが見つかった。

六月坂横穴墓群や志布志湾岸では希少な6世紀代の前方後円墳である小牧1号墳の存在は、後に日向国諸県郡に属することになるこの地域を考える上で注目される。

#### 古代

水ヶ迫横穴墓で須恵器の蔵骨器が見つかった。墨書土器が小迫遺跡、安良遺跡、長田遺跡、井手上A遺跡で出土している。製塩土器が野久尾遺跡、宮脇遺跡、稲荷迫遺跡、仕明遺跡など出土している。この時期は調査事例が乏しく、遺跡自体が少ない可能性がある。

#### 中世

この地域は中世において日向国諸県郡救仁院・救仁郷とされた。また志布志の名が史料で確かめられるのは、正和5(1316)年のことで、「日向方島津御志布志津大沢水宝満寺敷地…」(『沙弥蓮正打渡状案』)とあり、万寿3(1026)年平季基が開いた島津津・日向諸県郡一帯の港であったと考えられている。

室町時代以降も国内外航路の要衝として栄えていたようであり、永祿5(1562)年に著された明の海防・倭寇対策書である『籌海図編』巻二(倭国事略)には、薩摩・大隅の港の一つとして記された「審字署」は志布志とされる。

このような交通の要衝であった志布志を巡って、中世の約400年間に武士興亡の歴史が繰り返された場所が国指定史跡の志布志城跡である。

志布志城とは、内城・松尾城・高城・新城の四城の総称である。志布志城は文治5(1189)年頃の教仁院氏の居城に始まって以来、楡井氏・畠山氏・肝付氏・島津氏など数々の領主に変遷した。

平成18(2006)年以降、保存整備目的で継続的に発掘調査が行われており、華南三彩のような中世後期の中国産陶磁器や東南アジア産陶器も出土している。

市内にはこの他、建久(1190～1198)年間に地頭弁佐使安楽平九郎為成の居城とされる安楽城跡、文治4(1188)年に平重頼によって築かれたとされる松山城跡、南北朝期(1359年)に教仁郷氏の居城とされる蓬原城跡などが存在する。

中世山城以外の調査事例では、安良遺跡が注目できる。この遺跡では中世前期の備前焼・常滑焼等の国産陶器や白磁・龍泉窯系青磁等の輸入陶磁器が見つまっている。安良遺跡から約1km北に位置する安楽城跡や明治26(1893)年に境内から青白磁四耳壺の蔵骨器や鏡・太刀・青白磁合子などが見つまっている安楽山宮神社を含めて、その歴史的背景が注目されている。このほか、長田遺跡や辻田遺跡で中世墓が見つまっている。

#### 近世

日向国諸県郡志布志郷とされ、東を秋月藩と接することから陸海ともにきわめて重要な郷であった。現在の志布志小学校に地頭仮屋がおかれ、その周辺には武家屋敷が建ち並ぶ「麓」を形成していた。藩米等の集積・積出港であった前川河口には津口番所が置かれていた。藩政末期には琉球を通しての密貿易が行われ、その商人であった中山宗五郎の屋敷は密貿易屋敷と呼ばれていた。

これら地頭仮屋跡・津口番所跡・密貿易屋敷跡は発掘調査が行われ、陶磁器類が出土している。

船泊遺跡では、県内遺跡からは初の出土例となった二分金が見つまっている。

#### 近代

明治4(1871)年の廃藩置県によって、鹿児島県諸県郡志布志郷となり、同年11月には新設の都城県に属した。明治6年には宮崎県の所管に移されたが、明治9年に宮崎県が鹿児島県に編入されることに伴い再び鹿児島県に属することになった。そして、明治16年宮崎県再設置の際は鹿児島県に残り、鹿児島県諸県郡に属した。

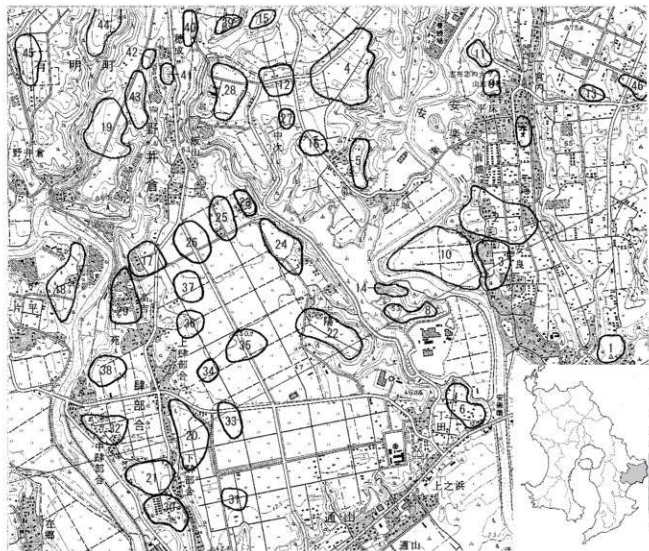
この時期の遺跡では戦争遺跡が注目できる。太平洋戦争末期、連合軍の南九州上陸作戦(オリンピック作戦)を予想した日本軍は志布志湾沿岸に洞窟式の地下陣地を造った。その現存している一つが、権現島水際陣地跡である。また、野井倉台地には昭和20(1945)年に海軍航空隊志布志基地(野井倉飛行場)が建設された。

(参考文献) 奈良屋調査報告書は対愛した。

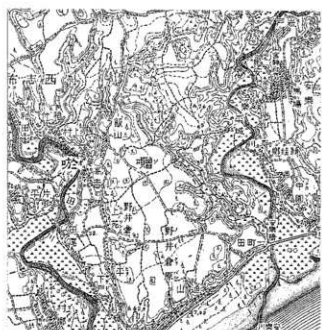
- 有明町誌編さん委員会 1980『有明町誌』  
 梅原末治 1944「大隅発見の異形石器」『人類学雑誌』59-7  
 大木公彦・内村公夫 2012『夏井海岸の地形・地質調査報告書』志布志市教育委員会  
 大西智和・鎌々江賢二・松崎大嗣 2012『志布志市有明町原田古墳の測量調査』『鹿児島考古』42 鹿児島県考古学会  
 志布志町誌編集委員会 1972『志布志町誌』上巻  
 志布志町教育委員会 1982『志布志の郷土史資料』第2集  
 志布志町教育委員会 1985『志布志の埋蔵文化財』  
 山根敏寛 2009『志布志の「みなと文化」』『港別みなと文化アーカイブ』

第1表 周辺遺跡地名表

| 遺跡番号 | 遺跡名     | 所在地   | 旧石器           | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 古代 | 中世 | 遺跡番号 | 遺跡名     | 所在地 | 旧石器           | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 古代 | 中世 |
|------|---------|-------|---------------|----|----|----|----|----|------|---------|-----|---------------|----|----|----|----|----|
| 1    | 221-111 | 地頭    | 志布志町安楽字宮前     | ○  | ○  |    |    |    | 21   | 221-389 | 権現  | 有明町野井倉字権現・下段  | ○  | ○  | ○  |    |    |
| 2    | 221-181 | 倉庫    | 志布志町安楽字倉庫・跡下  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 22   | 221-390 | 下段C | 有明町野井倉字下段・東   | ○  | ○  | ○  |    |    |
| 3    | 221-192 | 惣兵    | 志布志町安楽字編組     | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 23   | 221-391 | 下段B | 有明町野井倉字下段・東   | ○  | ○  | ○  |    |    |
| 4    | 221-210 | 蔵校    | 志布志町安楽字蔵校     | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 27   | 221-401 | 中穴A | 有明町野井倉字中穴     | ○  | ○  | ○  |    |    |
| 5    | 221-211 | 二重堀A  | 志布志町安楽字二重堀    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 28   | 221-402 | 中穴B | 有明町野井倉字中穴     | ○  | ○  | ○  |    |    |
| 6    | 221-212 | 権現堀   | 志布志町安楽字権現堀    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 29   | 221-405 | 上堀  | 有明町野井倉字上堀・高吉  | ○  | ○  | ○  | ○  |    |
| 7    | 221-221 | 宮内    | 志布志町安楽字宮内     | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 30   | 221-327 | 平A  | 有明町野井倉字平・下戸   | ○  | ○  | ○  | ○  |    |
| 8    | 221-225 | 小穴古墳群 | 志布志町安楽字小穴     | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 31   | 221-457 | 阪上  | 有明町野井倉字阪上・大代  | ○  | ○  | ○  | ○  |    |
| 9    | 221-238 | 山宮古墳  | 志布志町安楽字山宮     | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 32   | 221-458 | 木森  | 有明町野井倉字木森・田尻  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  |
| 10   | 221-242 | 水神社   | 志布志町安楽字水神社    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 33   | 221-459 | 鎌田  | 有明町野井倉字鎌田・上堀上 | ○  | ○  | ○  | ○  |    |
| 11   | 221-250 | 安楽城跡  | 志布志町安楽字城跡     | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 34   | 221-500 | 上堀上 | 有明町野井倉字上堀上    | ○  | ○  | ○  | ○  |    |
| 12   | 221-254 | 倉ヶ迫A  | 志布志町安楽字倉ヶ迫    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 35   | 221-361 | 高堀  | 有明町野井倉字高堀・上堀上 | ○  | ○  | ○  | ○  |    |
| 13   | 221-281 | 沢之上   | 志布志町安楽字沢之上    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 36   | 221-362 | 上堀目 | 有明町野井倉字上堀目    | ○  | ○  | ○  | ○  |    |
| 14   | 221-284 | 安楽小牧  | 志布志町安楽字小牧     | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 37   | 221-363 | 下段A | 有明町野井倉字下段     | ○  | ○  | ○  | ○  |    |
| 15   | 221-298 | 倉ヶ迫B  | 志布志町安楽字倉ヶ迫    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 38   | 221-366 | 上堀A | 有明町野井倉字上堀ほか   | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  |
| 16   | 221-301 | 二重堀B  | 志布志町安楽字二重堀    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 39   | 221-483 | 堀   | 有明町野井倉字堀ほか    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  |
| 17   | 221-313 | 高吉    | 有明町野井倉字高吉ほか   | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 40   | 221-541 | 中堀  | 有明町野井倉字中堀・前堀  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  |
| 18   | 221-354 | 下水流   | 有明町志布志下水流・宮ノ前 | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 41   | 221-485 | 東堀  | 有明町野井倉字東堀     | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  |
| 19   | 221-365 | 上堀A   | 有明町野井倉字上堀・西堀  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 42   | 221-546 | 西堀A | 有明町野井倉字西堀・東堀  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  |
| 20   | 221-383 | 大代    | 有明町野井倉字大代ほか   | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 43   | 221-558 | 上堀  | 有明町野井倉字上堀ほか   | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  |
| 21   | 221-384 | 中尾    | 有明町野井倉字中尾     | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 44   | 221-489 | 中尾  | 有明町野井倉字中尾・西堀跡 | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  |
| 22   | 221-385 | 穴玉    | 有明町野井倉字穴玉・横堀  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 45   | 221-498 | 堀   | 有明町野井倉字堀・下段   | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  |
| 23   | 221-388 | 堀     | 有明町野井倉字堀・下堀   | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | 46   | 221-519 | 堀   | 志布志町安楽字堀      | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  |



第1図 遺跡位置及び周辺遺跡 (1 : 25000)



(明治35年)



(平成12年)

第2図 周辺環境の変遷

## 第3章 調査の方法

### 第1節 発掘調査の方法

#### 1 発掘作業の方法

調査範囲は東九州自動車道建設によって埋蔵文化財に影響が及ぶ範囲である。ただし、隣接する田畑との境は約2m控えている。調査対象面積は10,400㎡、調査対象延面積は13,400㎡である(第3図)。

調査区の基準軸は、建設予定地の工事用基準杭「STA27+60」と「STA28」を結ぶ線を基軸として、南北方向にA～F、東西方向に1～23とする10×10mのグリッドを設定した。グリッドの設定は光波トランシットを用いて、調査担当者が行った。

このグリッドを基にして遺構・遺物の測量作業を行った。また、トータルステーションで測量作業を行う場合、測量座標はF-24区の左下を原点(0,0)とし、縦軸をX、横軸をYとした。

レベルは大隅河川国道事務所から提示された基準点「S3-11」(海拔46.841m)から引用した。基準点から調査区までは、調査担当者がレベル移動を行った。

発掘作業は表土～7層(アカホヤ火山灰層)を重機により除去し、8層から人力(鋤簾・山鉾)により掘り下げを行った。なお、最初に重機による掘り下げを行ったB・C-3区において、縄文時代前期以降の落とし穴を検出したことから、その後は7層上面において遺構精査を行いつつ、表土～7層の除去を行った。

人力掘り下げの際、出土遺物が少ない箇所では鋤簾を中心に用い、遺物が集中している箇所はねじり鎌を用いた。

その後、随時下層確認トレンチを設定し、旧石器時代包含層の有無を確認した。確認できた旧石器時代細石刃文化期包含層の調査は、2×2mのメッシュを張り、千鳥格子状に掘り下げ、遺物の出土が認められた箇所を中心に調査範囲を拡張するという方法を用いた。

包含層から出土した遺物や被熱破砕礫は、平成26年度では平板測量(1/50スケール)、平成27年度ではトータルステーションを用いて、番号を付して取上げた。番号を付したものは、包含層出土・遺構内出土合わせて約42,000点である。

小片の土器は先にグリッド毎に一括して取り上げた。被熱破砕礫は、調査の効率化のため、職員が人為的加工品の有無を先に確認した後、5cm未満のものは現場で破壊した。

遺物出土状況の写真撮影は時期比定可能なものなど、特徴的なものを主な対象とした。なお、遺構調査状況を含め、撮影時に使用したフィルムは35mm判のカラー・白黒・カラーリバーサル(3種類)である。

8・9層掘り下げ後、10層(薩摩火山灰層)上面において地形測量を、平板測量及びトータルステーションを用いて行った。

土層断面図は調査区の地形が表現できる箇所を選んで実測した(1/20スケール)。

#### 2 遺構の調査方法

検出した遺構には、落とし穴、連穴土坑、土坑、集石遺構、磨石集積遺構、配石遺構がある。落とし穴、連穴土坑、土坑、そして集石遺構の掘り込みは主に7層上面と10層上面で検出した。当時の掘り込み面に限りなく近いレベルでの検出ができるように調査を行ったが、結果的に判別しやすい地層面での検出が主になった。なお、各遺構の認定方法は第4章において述べる。

落とし穴・連穴土坑・土坑は検出した順に「SK」の略記号を、集石遺構は検出した順に「SS」の略記号を、磨石集積遺構・配石遺構は検出した順に「SU」の略記号を用いた。

これらの遺構は検出状況の写真撮影後、各遺構の長軸にあわせて基準を設定し、掘り下げ、出土遺物の写真撮影・取上げ、土層断面実測・撮影、完掘、完掘状況実測・撮影を行った。

集石の掘り込みや土坑などの掘り下げは半裁法を用い、埋土の違いを比較しながら移植ゴテで行った。落とし穴は底面及び側面の逆茂木痕確認のために断面スライス調査も行っている。

実測は個別に行い(1/10スケール)、出土遺物も遺構毎に番号を付して図面に記録している。集石遺構の礫も番号を付して取り上げた。平成27年度調査では、集石遺構の一部実測を業務委託している。

調査中及び終了後、遺構の検出層や埋土状況、遺構内出土遺物、土層断面等の情報から、遺構の形成時期や性格等の検討を行った。

#### 3 整理作業の方法

図面整理は遺物出土分布図、土層断面図、地形測量図、遺構実測図に区分し、さらに遺構実測図は種類別に仕分けを行い、台帳と遺物との照合及び再確認を行った。

洗浄について、土器・礫石器・礫はブラシを用い、剥片石器は超音波洗浄器を用いて土の除去を行った。

注記は遺跡名を表す「JGO」を頭に、包含層出土遺物は続けて「グリッド区」「層」「取上番号」の順で記入した。遺構出土遺物は「JGO」に続けて「グリッド区」「遺構記号」「取上番号」の順で記入した。なお、旧石器時代遺物や石鏃、剥片等の小型のものについては注記を行っていない。包含層及び遺構内出土の礫については注記を行わず、観察後破壊した。



土器の接合は、既存の土器型式に照らして大きく分類した後、胎土や文様でさらに細分して行った。包含層と遺構間の接合も試みた。接合後、報告書掲載遺物の選別を行い、実測・拓本・トレースを行った。

石器は剥片石器と礫石器に分類後、器種ごとに細分した。石器の接合と集石遺構内出土礫の接合は時間的制約等から断念した。分類後、報告書掲載遺物の選別を行い、実測・トレースを行った。剥片石器の実測・トレースについては、作業の効率化を図るために業務委託を行った。

実測遺物には実測番号を付して作業管理を行った。土器については実測作業と並行して実体顕微鏡を用いた胎土観察を行っている。土器や石器のトレースはロットリングペンを用いた。

遺物出土分布図について、平板測量で取り上げたものはデジタイザーを用いてデータ化し、トータルステーションで取り上げてデータと統合し、図化ソフトを使用した作成した。遺構配置図と地形図は鉛筆トレースで下図面を作成後、デジタルトレースを行った。遺構図は報告書掲載スケール決定後に、ペントレースを行った。

集石遺構内から炭化物が採取されていたため、放射性年代測定を業務委託した。土器付着炭化物については、平成27年度の調査指導者である遠部慎氏に放射性年代測定を依頼した。

#### 4 出土遺物の分類・選別の方法

##### (1) 土器

土器はアカホヤ火山灰層下位の8・9層から出土しているため、全て縄文時代早期に比定される。分類は主に既存の型式にあてはめて行った。特徴がない、または小片のために判断できないものは「無文土器」または「条痕文土器」として扱っている。分類の詳細は第4章において述べる。

実測及び報告書掲載遺物の選別について、各層の中で数量が多いものは口縁部や底部など特徴的なものを優先した。小片であっても各層の中で少数のものや時期比定可能なものは選別した。

##### (2) 石器

石器も土器と同じく8・9層から出土したものは縄文時代早期に比定される。また、B～D-1～4区では薩摩火山灰層下位の11a層から旧石器時代細石刃文化期の石器も認められている。なお、8・9層でも旧石器時代細石刃文化期の石器が出土しており、それらは旧石器時代のものとして報告している。

出土石器は器種ごとに分類し、さらにその器種内で石材分類を行った。詳細は第4章において述べる。

報告書掲載遺物の抽出は器種の中で数量が少ないものはそのほとんどを、数量が多いものは特徴的なものを優先した。

##### (3) 石材分類

石材分類について、肉眼観察によってある程度石材産地が推定できる黒曜石は細分を行った。チャートも主に色調により細分を行った。

このほか、ギョクズイ、鉄石英、珪質頁岩、水晶、頁岩、砂岩、凝灰岩、花崗岩などが認められる。主な石材の詳細は以下のとおりである。

###### 黒曜石1類

透明感があり、不純物を多く含むもの。アメ色～青味がかった灰色を呈する。鹿児島県三船で採取される黒曜石に類似する。

###### 黒曜石2類

不純物を多く含む、漆黒で光を通さないもの。鹿児島県上牛鼻などで採取される黒曜石に類似する。

###### 黒曜石3類

不純物を含まないもので、アメ色～黒色を呈し、透明感があるもの。鹿児島県桑ノ木津留・上青木などで採取される黒曜石に類似する。

###### 黒曜石4類

アメ色～黒色を呈し、不純物を含まない良質なもの。佐賀県腰岳で採取される黒曜石に類似する。

###### 黒曜石5類

青灰色を呈し、不純物を少し含むもの。長崎県東浜で採取される黒曜石に類似する。

###### 黒曜石6類

灰白色で少し光を通し、黒色の粒状不純物を含むもの。大分県姫島の黒曜石に類似する。

###### チャート1類

基調が白色系の色調を呈するもの。

###### チャート2類

基調が青灰色～緑色系の色調を呈するもの。

###### チャート3類

基調が黒色～黒褐色系の色調を呈するもの。

###### 玻璃質安山岩

元来は黒色を呈するが、風化すると灰白色を呈するもの。不純物をほとんど含まない。

###### ギョクズイ

珪質分に富み、白色系の色調を呈するもの。

###### 鉄石英

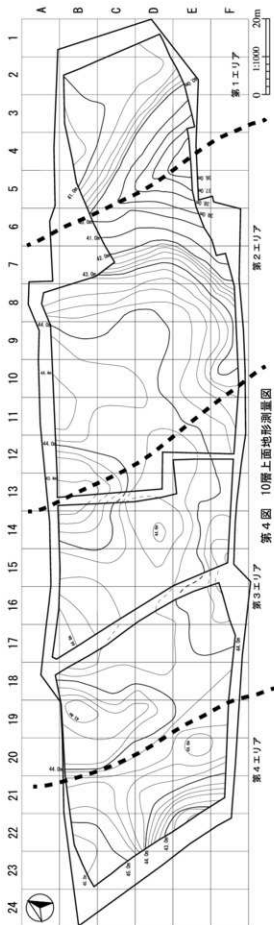
珪質分に富んで透明感がなく、赤色を呈するもの。

###### 珪質頁岩

表面にぬめりをもち、油脂光沢があるもの。黒色及び白色を呈する。



第3図 グリッド図及び試掘トレンチ位置図



第4図 10層上面地形測量図

## 第2節 地形と層位

### 1 地形

本遺跡の発掘調査前の状況は、C～E-3～6区の谷地形に雑木林が認められる以外はほぼ平坦な田畑であった。しかし、10層（薩摩火山灰層）上面での地形測量図（第4図）に示したとおり、本来は起伏の大きい地形であったことがわかる。ここでは調査範囲の地形状況を東から順に説明する。

1～5区は4～6区の北西-南東地方に走る谷の東側に位置する地区で、少し傾斜はあるものの全体的には平坦な箇所である。

7～17区はB-13区の間地を囲むように馬蹄形状の緩やかな平地が広がる。この平地にはB-11区とB-17区、そしてD-14区に小高い箇所がある。東～東南部は4～6区の谷に向かうきつい傾斜地があり、南部も緩やかに傾斜していく。

17～20区にはB-19区とF-16区、E-22区の3ヶ所の凹地または谷にはさまれた狭い平地地があり、北西に向かって緩やかに高くなり、B-22・23区付近で最も高くなる。なお、B-22・23区が調査範囲の中で標高が最も高い。

本遺跡の調査範囲は地形から4つに区分が可能と考えられる。そこで、東から順に第1～4エリアと呼称する。

### 2 層位

基本層位は平成24年度に行われた試掘調査時のものを参考にした。ただし、地点によって堆積状況は異なっており、特に谷地形となる場所では他地点ではみられない地層も存在する。詳細は以下のとおりである（第5図参照）。

1層：現耕作土・旧耕作土・造成土などである。色調や含有物により、数枚に細分可能である。

2層：黒色（10YR2/1）のシルト質土で、締まりが弱い。場所によっては削平されている。層厚は約50cm以上。

3層：黒褐色（10YR2/2）のシルト質土で、やや締まっている。御池火山灰を含む。層厚は約20cm。

4層：黒色（10YR2/1）のシルト質土で、締まりがある。池田降下軽石をわずかに含む。層厚は約15cm。

5層：黒褐色（7.5YR2/2）のシルト質土で、締まりがある。池田降下軽石（径0.5～2cm）を含むが、場所によっては含有率が少ない。層厚は約15cm。

6層：にぶい黄褐色（10YR5/4）のシルト質土で、硬質である。層厚は約10cm。

7層：明黄褐色（7.5YR5/8）のシルト質土で、締まりがある。アカホヤ火山灰層である。下部には黄褐色軽石を多く含む。層厚は約40cm。

8層：暗褐色（10YR3/3）のシルト質土で、硬質である。縄文時代早期後葉包含層。層厚は約10cm。傾斜地では認められない箇所がある。

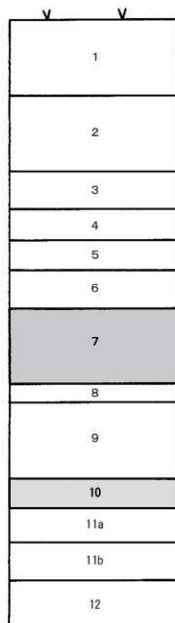
9層：黒褐色（10YR2/2）のシルト質土で、硬質である。白色粒を多く含む。下位ほど黄褐色バミス（径0.1～0.2mm）を多く含む。縄文時代早期前～中葉包含層。層厚は約40cm。谷部は色調や含有物により数枚に細分可能である。

10層：褐色（10YR4/4）のシルト質土で、かなり硬質である。層中に黄色を呈するブロック状の薩摩火山灰がみられる。層厚は約15cm。

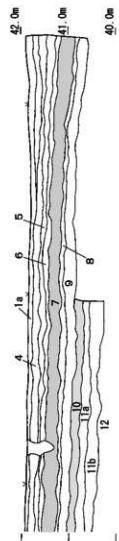
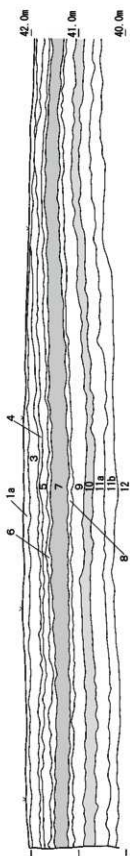
11a層：褐色（10YR4/6）の粘質土で、締まっている。旧石器時代細石刃文化期包含層。層厚は約15cm。

11b層：明黄褐色（10YR6/6）の強粘質土。下位ほど粘性が弱くなる。層厚は約20cm。

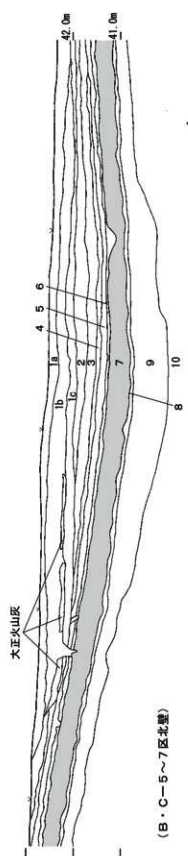
12層：いわゆるシラスである。E-3～6区の斜面部では、9層直下に12層が認められる箇所がある。



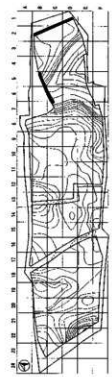
第5図 土層柱状図



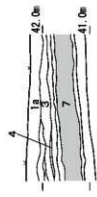
(B-D-1・2区東端)



(B・C-5~7区北端)



Ia層 礫質作土  
 Ib層 凝成土、部分的にアカホヤブロックを含む。  
 Ic層 黒色(10R2/1)シルト質土で、固まっている。  
 2層より締まっており、淡い色調である。

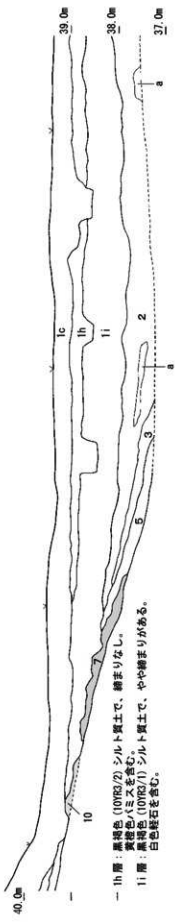


第6図 土層断面図(1)



(D・E-1～7区南壁) (上段)

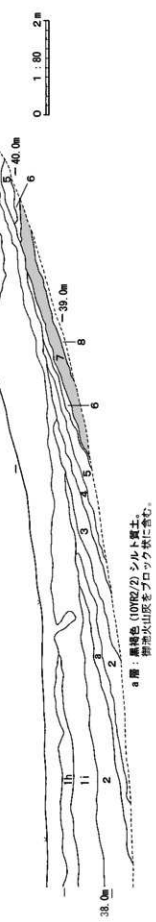
1c 層：旧沖作土。最下部に大正火山灰を含む。  
1d～1g 層：流成土。



1h 層：黒褐色 (10YR2/2) シルト質土で、締まりなし、  
黄褐色入目土を含む。  
1i 層：黒褐色 (10YR2/1) シルト質土で、やや締まりがある。  
白色結石を含む。



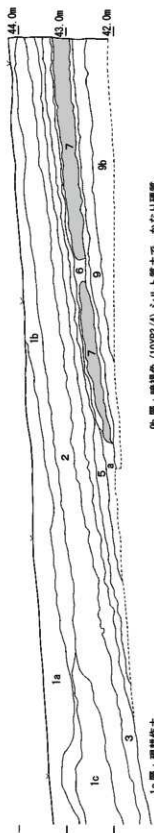
カクラン



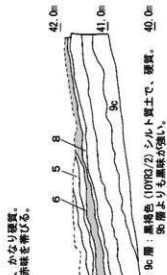
a 層：黒褐色 (10YR2/2) シルト質土。  
御池火山灰をブロック状に含む。



第7図 土層断面図 (2)



1a層：黄褐色土  
 1b層：黒色(10YR2/1)シルト質土で、締まっている。  
 1c層：黄褐色(7.5YR3/3)シルト質土で、締まっている。  
 アカホヤハミスを(径0.5mm以下)を含む、7層よりも黒味が強い。



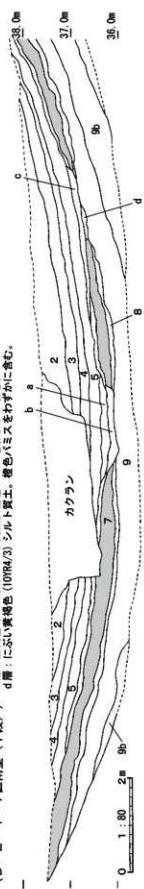
9c層：黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、硬質、40.0m  
 9層よりも黒味が強い。

(D・E-1~7区南壁(上段))

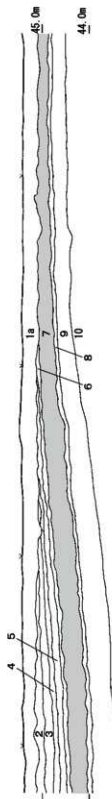


a層：黒褐色(7.5YR2/2)シルト質土で、硬質。  
 b層：暗褐色(10YR3/3)シルト質土。  
 c層：黒褐色(10YR2/3)シルト質土。褐色ハミスをわずかに含む。  
 d層：にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質土。褐色ハミスをわずかに含む。

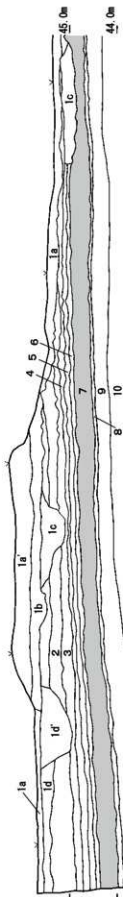
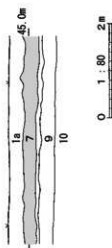
(D・E-1~7区南壁(下段))



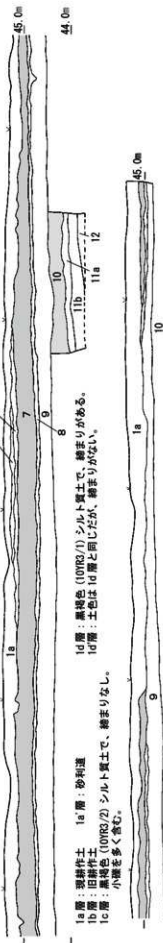
第8図 土層断面図(3)



(A-11・12区北壁)



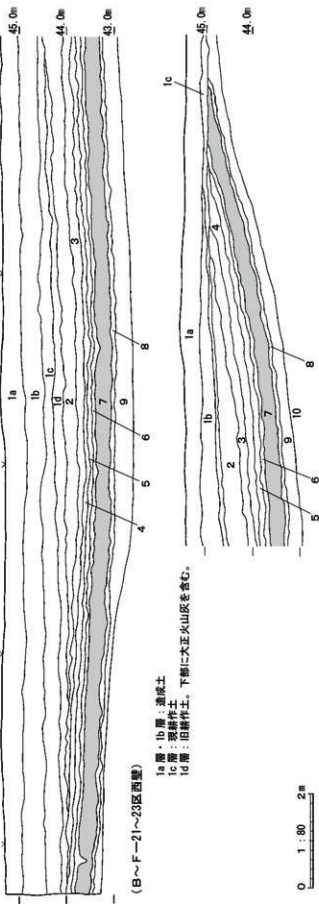
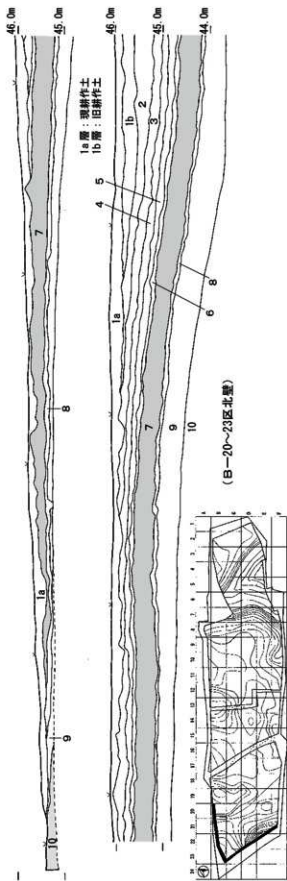
(A-16-18区西壁)



1a層: 礫持伴土  
 1b層: 黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、練まりがある。  
 1c層: 黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、練まりなし。  
 1d層: 黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、練まりなし。  
 小礫を多く含む。

第9図 土層断面図(4)





第10図 土層断面図(5)

## 第4章 調査の成果

### 第1節 旧石器時代の調査

#### 1 調査の概要

試掘調査では、旧石器時代に相当する遺構・遺物は確認されていなかった。しかし、B～D-1～3区において縄文時代早期の包含層である9層から細石刃核や細石刃が出土したため、下層確認調査を行った結果、11a層から細石刃核などが出土した。

そこで、下層確認調査の状況と地形を検討し、B～D-1～2区に旧石器時代の調査範囲を設定し、調査を行った。掘り下げはシラス層上面まで行っている。

調査の結果、細石刃文化期に属する遺物が出土した。遺物は細石刃や細石刃核、石核、スクレイパー、剥片などである。なお、11層の掘り下げ時には縄文時代早期土器や石錘も出土している。9層からも細石刃などが出土していることも含めて考えると、土壌の堆積は良好ではなく、遺物の垂直方向の移動——例えば、大きな遺物は下位へ、小さな遺物は上位へ移動——も推測できる。

遺物の出土状況を見ると(第11・12図参照)、B-1区とC・D-1区に遺物が集中していることがわかる。B-1区を中心とする一群を1ブロック、C・D-1区を中心とする一群を2ブロックと認定した。また、B-4区にも遺物が認められるが、出土量が2点と少ないため、ブロックとして認定しなかった。ただし、調査区外に広がる可能性が高い。

#### 2 遺物

出土遺物は基本的にブロック毎に提示した。その後、9層出土の細石刃核と細石刃を提示した。磨石・石皿については、各ブロックの範囲内で出土しているものもあるが、前述した土壌堆積の理由から縄文時代早期に属する可能性も考えられたため、後半にまとめて掲載した。

##### (1) 1ブロック(第13図1～14)

B-1区を中心として、約10mの範囲に広がる。遺物は55点認められた。出土遺物の特徴として、黒曜石1類(三船産)の遺物がそのほとんどを占め、細石刃核も全て黒曜石1類を素材としていることが挙げられる。

##### 細石刃核(1～5)

5点確認し、全て図示した。石材は全て黒曜石1類である。1～4はほぼ極限まで細石刃剥離が進んでいる。

1は小型の礫を素材とする。打面調整は正面から行われている。左側面は背面方向からの小さな剥離がみられるが、自然面を残している。

2も小型の礫を素材とする。打面は正面と右側面方向から調整されるが、自然面が残る。

3は剥片を素材とする。打面調整は正面から行われる。

4も剥片を素材とする。打面調整は正面から行われる。

右側面に細かい調整が行われている。

5は小型の礫を素材とする。上面・下面・左側面に自然が残る。作業面転移を行っており、正面と上面に作業面をもつ。

##### スクレイパー(6)

1点確認した。赤色を呈する頁岩の縦長の剥片を素材とする。刃部は左側縁部に形成される。

##### 楔形石器(7)

1点確認した。黒曜石1類で、両極に対向する剥離がみられる。また、上下端には階段状剥離もみられる。

##### 剥片(8)

37点確認し、1点図示した。石材は黒曜石1類29点、チャート3点、黒曜石3類2点、珪質頁岩2点、玻璃質安山岩1点である。なお、土壌堆積の理由から縄文時代早期に属する剥片が含まれている可能性もある。

##### 石核(9)

2点確認し、1点図示した。石材はシルト質頁岩と黒曜石1類である。9は灰色を呈するシルト質頁岩の大型円礫を二分割して、その分割面を打面とする。正面・背面・左側面に作業面をもつ。作業面方向から打面調整を行っている。

##### 細石刃(10～14)

9点確認し、5点図示した。石材は全て黒曜石1類である。完形1点、頭部4点、中間部3点、尾部1点である。11～14は側縁部に微細剥離痕が認められる。

##### (2) 2ブロック(第14図15～23)

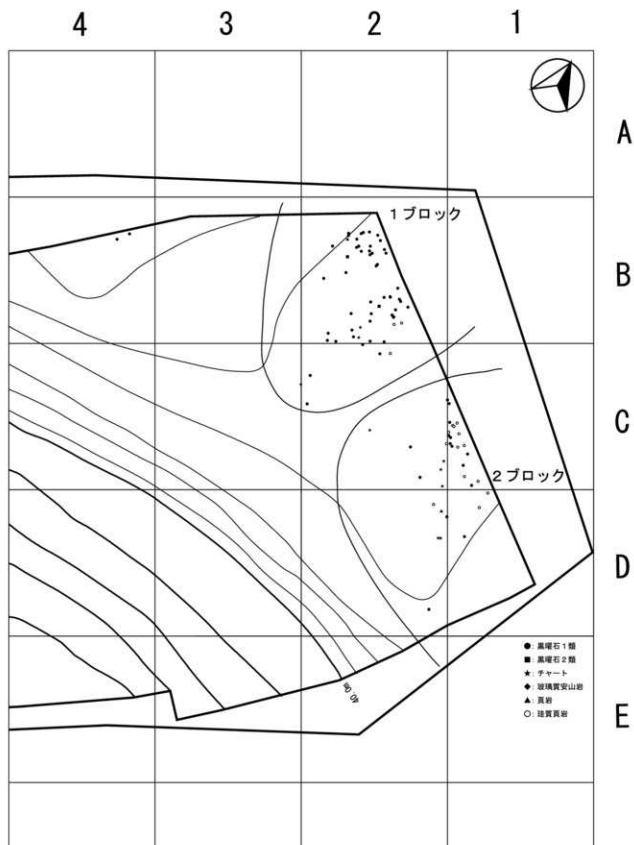
C-1区を中心に約10mの範囲に広がる。遺物は31点認められた。1ブロックとは異なり、黒曜石1類の比率が低く、また珪質頁岩を素材とする細石刃核のみが認められることが特徴である。

##### 細石刃核(15～18)

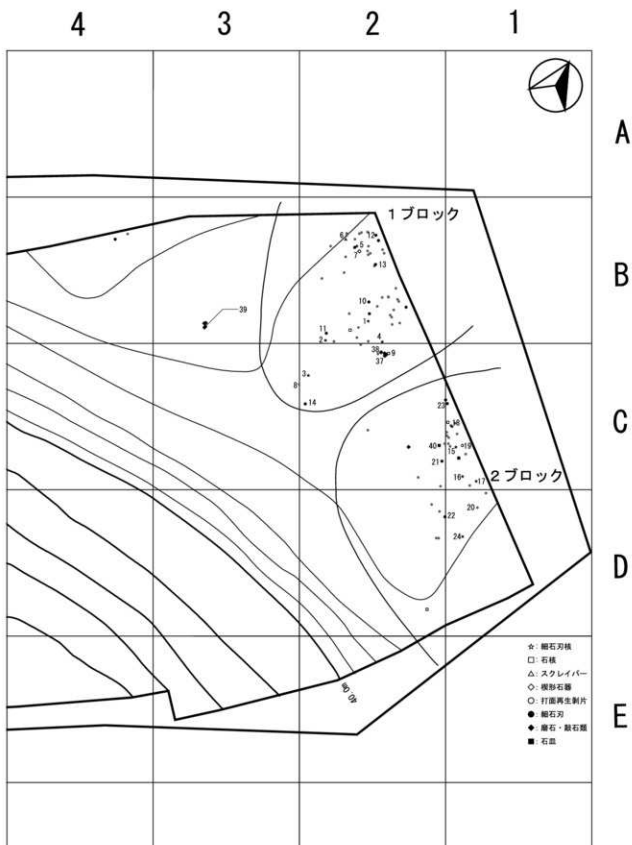
4点確認し、全て図示した。全て、円礫を二分割して、打面調整を施さず、分割面を打面とする陸原型細石刃核である。

15は黒色を呈し、白斑がみられる珪質頁岩の扁平円礫を素材とする。円礫の分割には両極打法を用いている。正面・背面・左側面に作業面をもつ。正面の作業面は少なくとも4回の有効な細石刃を剥離した剥離面が観察されるが、その後の5回の作業ではヒンジフラクチャーとなり、段がついている。背面の作業面は少なくとも2回の有効な細石刃を剥離した剥離面が観察されるが、最終の3回の剥離作業はヒンジフラクチャーとなる。剥離作業が進んだ細石刃核である。

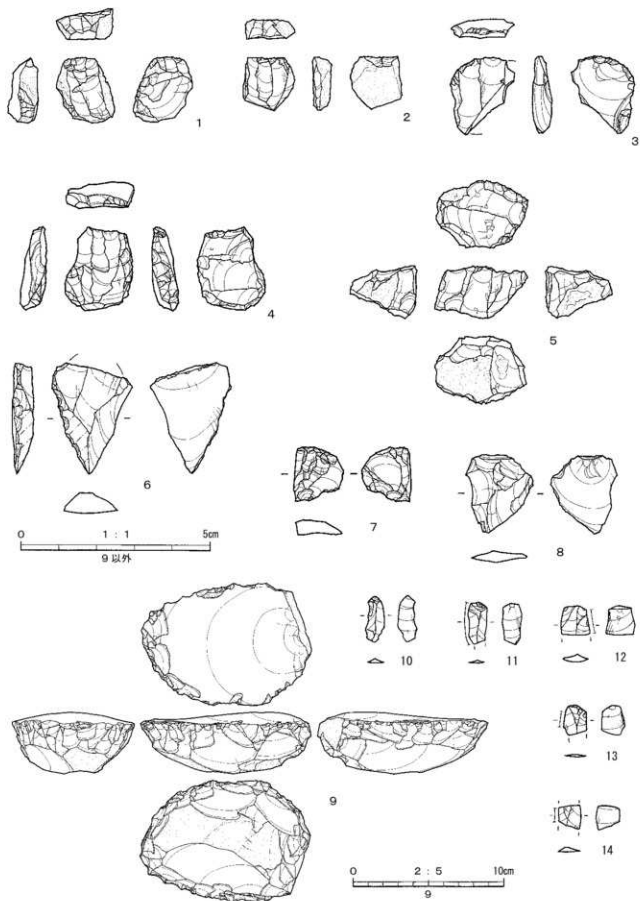
16は灰色を呈する珪質頁岩の細長い円礫を素材とする。正面と左側面に作業面をもつ。正面は細石刃核の下



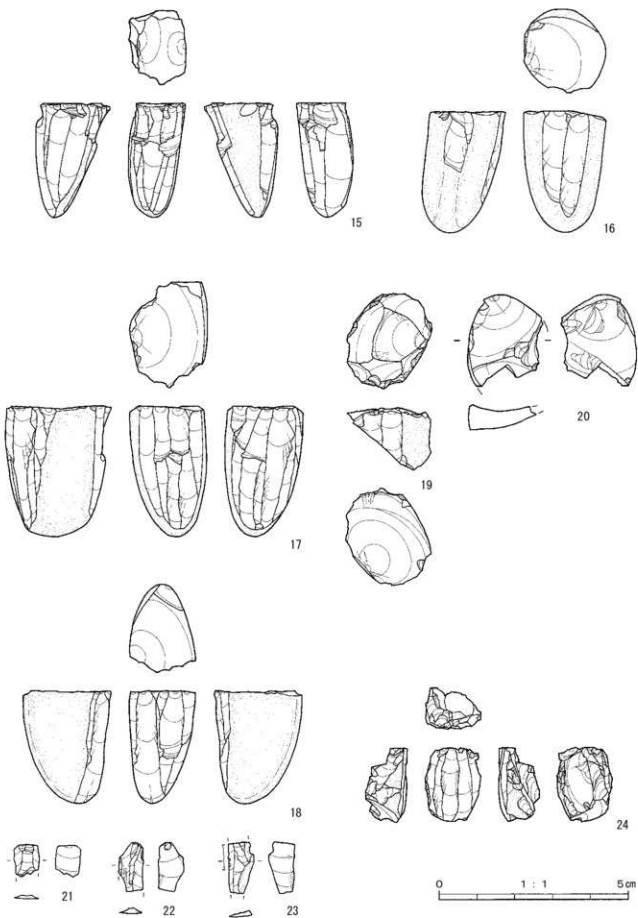
第11図 旧石器時代遺物石材別分布図



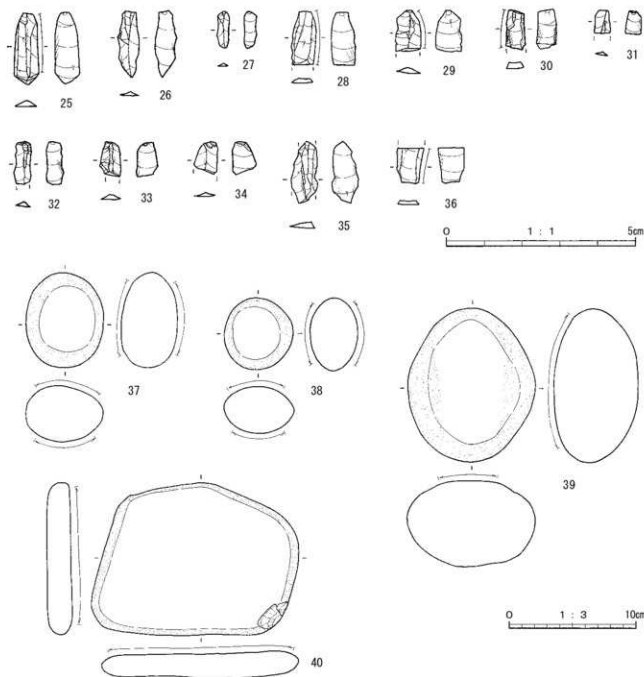
第12図 旧石器時代遺物器種別分布図



第13図 1ブロック出土遺物



第14図 2ブロック出土遺物



第15図 ブロック外出土遺物

端まで達する長い剥離面が認められるが、左側面は短く、途中でヒンジフラクチャーとなる。剥離作業が初期の段階の細石刃核である。

17は黒色を呈し、白斑がみられる珪質頁岩の扁平円礫を素材とする。正面・背面に作業面をもつ。正面は少なくとも5回の有効な細石刃を剥離した剥離面が観察されるが、その後の2回の作業ではヒンジフラクチャーとなる。背面は少なくとも5回の有効な細石刃を剥離した剥離面が観察されるが、最終の3回の剥離作業でヒンジフラクチャーとなる。

18はやや灰色と呈し、赤褐色の流理をもつ珪質頁岩の扁平円礫を素材とする。正面のみを作業面としており、背面・左側面・右側面は自然のままである。正面右側の剥離作業はヒンジフラクチャーとなる。

#### 細石刃 (21~23)

4点確認し、3点図示した。石材は黒曜石1類3点、チャート1点である。細石刃核の素材となった珪質頁岩や硬質砂岩のものは認められなかった。頭部2点、中間部1点、尾部1点である。23は左側縁部に微細剥離痕が認められる。

### 打面再生剥片 (19)

1点確認した。正面と背面に細石刃の剥離面が残る。石材は黒色を呈し、白斑がみられる珪質頁岩である。

### 剥片 (20)

20点確認し、1点図示した。石材は黒曜石1類7点、珪質頁岩8点、チャート3点、頁岩1点、黒曜石2類1点である。縄文時代早期に属するものが含まれている可能性もある。

### 石核

2点確認した。ともに石材は黒曜石1類である。

### (3) 9層出土遺物 (第14・15図24~36)

ここでは縄文時代早期包含層の9層から出土した細石刃文化期の遺物を掲載する。

### 細石刃核 (24)

1点確認した。黒曜石1類の小型礫を素材とする。側面調整が行われているものの、両側面には自然面が残る。打面調整は正面から行われている。

### 細石刃 (25~36)

28点確認し、12点図示した。石材は黒曜石1類23点、チャート5点である。完形3点、頭部14点、中間部8点、尾部3点である。側縁に微細剥離痕が認められるものもある(25・28・29・30・36)。

### (4) 磨石・石皿類 (第15図37~40)

### 磨石 (37~39)

9点確認し、3点図示した。全て顕著な磨面をもたないものである。37と38、さらに2点の磨石が近接して出土している。この4点に加えて、石核(80)も近接して出土している(図版参照)。39もこのほか3点の磨石が近接して出土している。縄文時代早期の磨石集積遺構のように密接せず、磨石同士が隙間を持った出土状況ではあるものの、細石刃文化期あるいは縄文早期のデボの可能性もあろう。

### 石皿 (40)

2点確認し、1点図示した。2点とも磨面は顕著ではない。なお、2点とも2ブロックの範囲内から出土している。

第2表 ブロック別石器組成表

| ブロック | 器種     | 1層出土 | 2層出土 | 3層出土 | 4層出土 | 5層出土 | 6層出土 | 7層出土 | 8層出土 | 9層出土 | 合計 |
|------|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| 1    | 細石刃核   | 5    |      |      |      |      |      |      |      |      | 5  |
|      | 細石刃    | 9    |      |      |      |      |      |      |      |      | 9  |
|      | スクレイパー |      |      |      |      |      |      |      | 1    |      | 1  |
|      | 機型石器   | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      | 1  |
|      | 石核     | 1    |      |      |      |      |      | 1    |      |      | 2  |
|      | 剥片     | 29   | 2    | 2    |      | 1    | 1    | 2    |      |      | 37 |
| 小計   | 45     | 2    | 2    | 0    | 1    | 1    | 3    | 1    | 0    | 55   |    |

| ブロック | 器種     | 1層出土 | 2層出土 | 3層出土 | 4層出土 | 5層出土 | 6層出土 | 7層出土 | 8層出土 | 9層出土 | 合計 |
|------|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| 2    | 細石刃核   |      |      |      |      |      |      |      | 4    |      | 4  |
|      | 細石刃    | 3    |      |      | 1    |      |      |      |      |      | 4  |
|      | 石核     | 2    |      |      |      |      |      |      |      |      | 2  |
|      | 打面再生剥片 |      |      |      |      |      |      |      | 1    |      | 1  |
|      | 剥片     | 7    | 1    | 1    |      | 2    |      |      | 8    | 1    | 20 |
|      | 小計     | 12   | 1    | 1    | 1    | 2    | 0    | 13   | 1    | 0    | 33 |

第3表 旧石器時代石器観察表 (1)

| 図録 | No. | 取上No. | 区   | 層   | ブロック | 器種     | 分類 | 部位  | 石材     | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 重量 (g) | X線照    | Y線照     | Z線照    |
|----|-----|-------|-----|-----|------|--------|----|-----|--------|----------|----------|----------|--------|--------|---------|--------|
| 13 | 1   | 39454 | B-2 | 11a | 1    | 細石刃核   | -  | -   | 黒曜石1類  | 1.7      | 1.35     | 0.8      | 2.03   | 41.515 | 224.711 | 40.670 |
|    | 2   | 39468 | B-2 | 11a | 1    | 細石刃核   | -  | -   | 黒曜石1類  | 1.4      | 1.35     | 0.52     | 1.05   | 40.203 | 221.788 | 40.656 |
|    | 3   | 21608 | C-2 | 11a | 1    | 細石刃核   | -  | -   | 黒曜石1類  | 2.01     | 1.69     | 0.52     | 1.28   | 37.808 | 220.616 | 40.619 |
|    | 4   | 39335 | B-2 | 11a | 1    | 細石刃核   | -  | -   | 黒曜石1類  | 2.18     | 1.8      | 0.7      | 2.6    | 40.104 | 225.671 | 40.555 |
|    | 5   | 21628 | B-2 | 11a | 1    | 細石刃核   | -  | -   | 黒曜石1類  | 1.58     | 2.45     | 1.76     | 4.61   | 46.642 | 223.935 | 40.629 |
|    | 6   | 39377 | B-2 | 11a | 1    | スクレイパー | -  | -   | 頁岩     | 2.9      | 2.15     | 0.5      | 3.05   | 47.094 | 223.168 | 40.826 |
|    | 7   | 21617 | B-2 | 11a | 1    | 機型石器   | -  | -   | 黒曜石1類  | 1.4      | 1.3      | 0.4      | 0.79   | 46.288 | 224.106 | 40.581 |
|    | 8   | 21607 | C-3 | 11a | 1    | 剥片     | -  | -   | チャート1類 | 2.04     | 1.8      | 0.3      | 0.99   | 37.201 | 219.978 | 40.673 |
|    | 9   | 39338 | C-2 | 11a | 1    | 石核     | -  | -   | 珪質頁岩   | 4        | 11.22    | 8        | 246.8  | 39.306 | 226.094 | 40.615 |
|    | 10  | 39320 | B-2 | 11a | 1    | 細石刃    | -  | -   | 壳岩     | 1.2      | 0.5      | 0.1      | 0.96   | 42.828 | 224.752 | 40.621 |
|    | 11  | 39467 | B-2 | 11a | 1    | 細石刃    | -  | 頭部  | 黒曜石1類  | 1.1      | 0.5      | 0.1      | 0.06   | 40.691 | 221.843 | 40.712 |
|    | 12  | 21621 | B-2 | 11a | 1    | 細石刃    | -  | 頭部  | 黒曜石1類  | 0.8      | 0.8      | 0.2      | 0.14   | 47.387 | 225.236 | 40.403 |
|    | 13  | 21609 | B-2 | 11a | 1    | 細石刃    | -  | 頭部  | 黒曜石1類  | 0.8      | 0.7      | 0.1      | 0.05   | 45.391 | 225.211 | 40.575 |
|    | 14  | 21606 | C-2 | 11a | 1    | 細石刃    | -  | 中間部 | 黒曜石1類  | 0.7      | 0.7      | 0.2      | 0.04   | 35.864 | 220.405 | 40.732 |



第4表 旧石器時代石器観察表(2)

| 標<br>号 | No.   | 取上No.  | 区     | 層   | プロ<br>ット<br>号 | 器種     | 分類  | 部位    | 石材    | 最大長<br>(cm) | 最大幅<br>(cm) | 最大厚<br>(cm) | 重量<br>(g) | X線透     | Y線透     | Z線透     |        |
|--------|-------|--------|-------|-----|---------------|--------|-----|-------|-------|-------------|-------------|-------------|-----------|---------|---------|---------|--------|
| 14     | 15    | 20360  | C-1   | 11a | 2             | 細石方楕   | -   | -     | 花崗頁岩  | 3           | 1.5         | 1.95        | 16.13     | 32,912  | 230,704 | 40,782  |        |
|        | 16    | 20371  | C-1   | 11a | 2             | 細石方楕   | -   | -     | 花崗頁岩  | 3.2         | 2.18        | 2.2         | 18.62     | 30,900  | 231,161 | 40,398  |        |
|        | 17    | 20373  | C-1   | 11a | 2             | 細石方楕   | -   | -     | 花崗頁岩  | 3.42        | 2.05        | 2.8         | 26.72     | 30,576  | 232,094 | 40,580  |        |
|        | 18    | 2115.5 | C-1   | 11a | 2             | 細石方楕   | -   | -     | 花崗頁岩  | 2.98        | 1.78        | 2.3         | 14.25     | 34,316  | 230,445 | 40,890  |        |
|        | 19    | 20361  | C-1   | 11a | 2             | 打面再生剥片 | -   | -     | 花崗頁岩  | 1.65        | 2.35        | 2.55        | 7.12      | 33,019  | 231,151 | 40,763  |        |
|        | 20    | 20375  | D-1   | 11a | 2             | 剥片     | -   | -     | 花崗頁岩  | 2.4         | 2           | 0.65        | 3.51      | 28,779  | 232,180 | 40,520  |        |
|        | 21    | 20365  | C-2   | 11a | 2             | 細石方    | -   | 頭部    | チャート類 | 0.8         | 0.7         | 0.1         | 0.65      | 31,900  | 229,732 | 40,620  |        |
|        | 22    | 20465  | D-2   | 11a | 2             | 細石方    | -   | 頭部    | 黒曜石類  | 1.3         | 0.6         | 0.15        | 0.13      | 28,149  | 229,962 | 40,292  |        |
|        | 23    | 21521  | C-1   | 11a | 2             | 細石方    | -   | 中間部   | 黒曜石類  | 1.4         | 0.7         | 0.2         | 0.15      | 35,886  | 230,121 | 40,827  |        |
|        | 24    | 12265  | D-1   | 9   | -             | 細石方    | -   | -     | 黒曜石類  | 1.92        | 1.42        | 1.11        | 2.63      | 26,796  | 231,165 | 40,896  |        |
|        | 15    | 25     | 19490 | C-3 | 9             | -      | 細石方 | -     | 先形    | 黒曜石類        | 1.9         | 0.7         | 0.2       | 0.23    | 32,202  | 214,839 | 40,737 |
| 26     |       | 15641  | D-2   | 9   | -             | 細石方    | -   | 先形    | 黒曜石類  | 1.7         | 0.55        | 0.14        | 0.1       | 25,507  | 229,275 | 40,888  |        |
| 27     |       | 20378  | D-2   | 9   | -             | 細石方    | -   | 先形    | 黒曜石類  | 1           | 0.3         | 0.1         | 0.01      | 43,844  | 225,224 | 40,954  |        |
| 28     |       | 18436  | D-3   | 9   | -             | 細石方    | -   | 頭部    | 黒曜石類  | 1.4         | 0.7         | 0.2         | 0.17      | 25,159  | 215,187 | 40,635  |        |
| 29     |       | 19830  | C-3   | 9   | -             | 細石方    | -   | 頭部    | 黒曜石類  | 1.1         | 0.7         | 0.2         | 0.13      | 39,384  | 218,754 | 41,092  |        |
| 30     |       | 17614  | C-2   | 9   | -             | 細石方    | -   | 頭部    | 黒曜石類  | 1.1         | 0.5         | 0.2         | 0.1       | 36,385  | 221,913 | 41,094  |        |
| 31     |       | 8458   | C-2   | 9   | -             | 細石方    | -   | 頭部    | 黒曜石類  | 0.6         | 0.45        | 0.1         | 0.04      | 33,245  | 224,241 | 41,090  |        |
| 32     |       | 8486   | D-1   | 9   | -             | 細石方    | -   | 頭部    | 黒曜石類  | 1.2         | 0.5         | 0.2         | 0.05      | 24,538  | 231,360 | 40,919  |        |
| 33     |       | 14797  | D-2   | 9   | -             | 細石方    | -   | 頭部    | 黒曜石類  | 0.9         | 0.6         | 0.2         | 0.08      | 25,951  | 226,310 | 40,829  |        |
| 34     |       | 12265  | D-2   | 9   | -             | 細石方    | -   | 頭部    | チャート類 | 0.9         | 0.6         | 0.2         | 0.05      | 26,607  | 229,796 | 40,899  |        |
| 35     |       | 16296  | C-2   | 9   | -             | 細石方    | -   | 中間部   | 黒曜石類  | 1.6         | 0.7         | 0.2         | 0.19      | 30,671  | 224,486 | 40,938  |        |
| 36     |       | 15909  | D-2   | 9   | -             | 細石方    | -   | 尾部    | 黒曜石類  | 0.9         | 0.7         | 0.1         | 0.07      | 27,043  | 227,603 | 40,851  |        |
| 37     |       | 20644  | C-2   | 11a | イロイ           | 磨石・磨石類 | 1   | -     | 砂岩    | 7.5         | 8.1         | 4.4         | 271.5     | 39,228  | 225,921 | 40,622  |        |
| 38     |       | 20337  | C-2   | 11a | イロイ           | 磨石・磨石類 | 1   | -     | 砂岩    | 5.6         | 5.6         | 3.7         | 151.7     | 39,301  | 225,903 | 40,613  |        |
| 39     |       | 20951  | D-3   | 11a | イロイ           | 磨石・磨石類 | 1   | -     | 砂岩    | 12          | 19.1        | 6.8         | 1074.6    | 41,085  | 213,513 | 40,767  |        |
| 40     |       | 21530  | C-2   | 11a | 29            | 石皿     | -   | -     | 砂岩    | 16.3        | 12.1        | 2.1         | 675.4     | 33,022  | 229,262 | 40,668  |        |
| -      |       | -      | 20641 | D-2 | 11a           | 1      | 石棒  | -     | -     | 黒曜石類        | 1.2         | 1.8         | 1.1       | 2.2     | 40,908  | 223,471 | 40,502 |
|        |       | -      | 20328 | D-2 | 11a           | 1      | 細石方 | -     | 頭部    | 黒曜石類        | 0.6         | 0.4         | 0.1       | 0.01    | 42,127  | 227,299 | 40,493 |
|        | -     | 21619  | D-2   | 11a | 1             | 細石方    | -   | 中間部   | 黒曜石類  | 0.5         | 0.8         | 0.1         | 0.04      | 47,028  | 225,414 | 40,416  |        |
|        | -     | 21629  | D-2   | 11a | 1             | 細石方    | -   | 中間部   | 黒曜石類  | 0.8         | 0.6         | 0.2         | 0.04      | 46,555  | 223,787 | 40,506  |        |
|        | -     | 20453  | D-2   | 11a | 1             | 細石方    | -   | 尾部    | 黒曜石類  | 0.9         | 0.5         | 0.2         | 0.04      | 42,023  | 224,789 | 40,585  |        |
|        | -     | 21518  | C-1   | 11a | 2             | 石棒     | -   | -     | 黒曜石類  | 1.6         | 2.2         | 1.1         | 3.9       | 34,602  | 230,157 | 40,871  |        |
|        | -     | 22558  | D-2   | 11a | 2             | 石棒     | -   | -     | 黒曜石類  | 2.3         | 2           | 1.6         | 4.9       | 21,822  | 228,732 | 40,712  |        |
|        | -     | 21522  | C-1   | 11a | 2             | 細石方    | -   | 尾部    | 黒曜石類  | 0.8         | 0.6         | 0.2         | 0.06      | 36,136  | 230,905 | 40,793  |        |
|        | -     | 20643  | C-2   | 11a | 29            | 磨石・磨石類 | 1   | -     | 砂岩    | 7.8         | 5.3         | 4.5         | 248.1     | 32,922  | 227,470 | 40,621  |        |
|        | -     | 20364  | C-1   | 11a | 29            | 石皿     | -   | -     | 砂岩    | 14.5        | 17.7        | 4.5         | 1793      | 32,160  | 230,900 | 40,645  |        |
|        | -     | 21648  | D-4   | 11a | 外             | 細石方    | -   | 頭部    | 黒曜石類  | 0.7         | 0.5         | 0.1         | 0.03      | 47,113  | 207,405 | 41,001  |        |
|        | -     | 20949  | D-3   | 11a | イロイ           | 磨石・磨石類 | 1   | -     | 砂岩    | 12.6        | 16.3        | 8.1         | 1326.5    | 41,360  | 213,485 | 40,816  |        |
|        | -     | 20950  | D-3   | 11a | イロイ           | 磨石・磨石類 | 1   | -     | 砂岩    | 6           | 5.6         | 4.1         | 176.1     | 41,146  | 216,564 | 40,765  |        |
|        | -     | 21070  | D-3   | 11a | イロイ           | 磨石・磨石類 | 1   | -     | 砂岩    | 10.6        | 10          | 7.7         | 1057.2    | 41,203  | 213,461 | 40,797  |        |
|        | -     | 20642  | C-2   | 11a | イロイ           | 磨石・磨石類 | 1   | -     | 火山岩   | 7.3         | 6.1         | 4.4         | 268.8     | 39,312  | 225,834 | 40,617  |        |
|        | -     | 20645  | C-2   | 11a | イロイ           | 磨石・磨石類 | 1   | -     | 砂岩    | 7.4         | 6.3         | 4.1         | 244.2     | 39,153  | 225,846 | 40,620  |        |
|        | -     | 12100  | D-1   | 8   | -             | 細石方    | -   | 頭部    | 黒曜石類  | 0.6         | 0.5         | 0.1         | 0.01      | 23,953  | 233,693 | 40,839  |        |
|        | -     | 12215  | D-1   | 8   | -             | 細石方    | -   | 頭部    | 黒曜石類  | 0.6         | 0.4         | 0.2         | 0.03      | 25,380  | 230,903 | 40,892  |        |
|        | -     | 14781  | D-1   | 9   | -             | 細石方    | -   | 頭部    | 黒曜石類  | 0.7         | 0.5         | 0.1         | 0.02      | 23,599  | 232,943 | 40,840  |        |
|        | -     | 20445  | D-2   | 9   | -             | 細石方    | -   | 頭部    | 黒曜石類  | 0.6         | 0.5         | 0.1         | 0.01      | 26,678  | 227,781 | 40,718  |        |
|        | -     | 20457  | D-2   | 10  | -             | 細石方    | -   | 頭部    | 黒曜石類  | 0.7         | 0.6         | 0.1         | 0.04      | 40,443  | 223,574 | 40,900  |        |
|        | -     | 15554  | C-2   | 9   | -             | 細石方    | -   | 頭部    | チャート類 | 1.2         | 0.6         | 0.2         | 0.1       | 31,380  | 229,551 | 40,994  |        |
|        | -     | 4913   | D-2   | 9   | -             | 細石方    | -   | 中間部   | 黒曜石類  | 0.7         | 0.6         | 0.1         | 0.03      | 26,217  | 228,081 | 40,932  |        |
|        | -     | 4920   | D-2   | 9   | -             | 細石方    | -   | 中間部   | 黒曜石類  | 0.7         | 0.9         | 0.2         | 0.12      | 29,036  | 223,469 | 40,978  |        |
|        | -     | 12107  | D-1   | 8   | -             | 細石方    | -   | 中間部   | 黒曜石類  | 0.5         | 0.6         | 0.1         | 0.01      | 25,014  | 234,557 | 40,981  |        |
|        | -     | 12128  | D-1   | 8   | -             | 細石方    | -   | 中間部   | 黒曜石類  | 0.4         | 0.3         | 0.1         | 0.01      | 24,639  | 233,151 | 40,844  |        |
|        | -     | 11952  | D-2   | 9   | -             | 細石方    | -   | 中間部   | チャート類 | 0.5         | 0.5         | 0.1         | 0.02      | 29,531  | 224,069 | 40,928  |        |
| -      | 14794 | D-2    | 9     | -   | 細石方           | -      | 中間部 | チャート類 | 0.8   | 0.6         | 0.1         | 0.03        | 23,949    | 227,703 | 40,983  |         |        |
| -      | 12304 | D-2    | 9     | -   | 細石方           | -      | 中間部 | チャート類 | 0.9   | 0.5         | 0.1         | 0.06        | 27,102    | 228,424 | 40,884  |         |        |
| -      | 15558 | C-1    | 9     | -   | 細石方           | -      | 尾部  | 黒曜石類  | 0.3   | 0.7         | 0.1         | 0.01        | 31,683    | 231,079 | 40,934  |         |        |
| -      | 16841 | C-4    | 9     | -   | 細石方           | -      | 尾部  | 黒曜石類  | 0.7   | 0.3         | 0.1         | 0.01        | 38,868    | 204,571 | 41,034  |         |        |

## 第2節 縄文時代早期の調査

### 1 調査の概要

縄文時代早期の調査は、アカホヤ火山灰層（7層）と薩摩火山灰層（10層）に挟まれた8・9層の調査で、全調査範囲に及ぶ。

遺構は落とし穴、連穴土坑、土坑、集石遺構、磨石集積遺構、配石遺構が認められた。落とし穴・連穴土坑・土坑は、当時の掘り込み面に近いレベルでの検出に努めたものの、困難であった。そのため、基本的に10層上面での検出となった。集石遺構・磨石集積遺構・配石遺構は主に9層中位から10層上面において検出した。

遺物は土器と石器が出土した。また、集石遺構に伴う膨大な数の被熱破砕礫が出土した。石器製作跡と考えられる石器集中部も見つかっている。

これら遺構・遺物は15区以東に多く分布する。

### 2 遺構

#### (1) 落とし穴（第17～21区）

B～D-19～21区の10層上面において4基検出した。分布が第4エリアに偏っている（第18図参照）。

最初に検出した1号は当初、落とし穴の可能性を想定していなかったが、他の土坑に比べて平面形態が細長く、埋土が異なっていたため、落とし穴の可能性を考慮して調査を行った。その結果、逆茂木痕を確認したことから落とし穴と認定した。その後検出した2～4号は当初から落とし穴の可能性を想定して調査を行った。

調査は長軸方向を基準として半截した。その後埋土観察を行い、完掘後に断面スライス調査を行ったものと、半截後に断面スライス調査を行ったものがある。

長軸方向がおおむね南北方向のもの（1・2号）と東西方向のもの（3・4号）がある。平面形態は楕円形または隅丸長方形を呈する。1号と2号はともに約1.9×1.4mの規模で規格性が認められる。1～3号は11層、4号は12層（シラス層）まで掘り込んでいる。全て底面に逆茂木痕が確認できたことから、落とし穴と認定した。

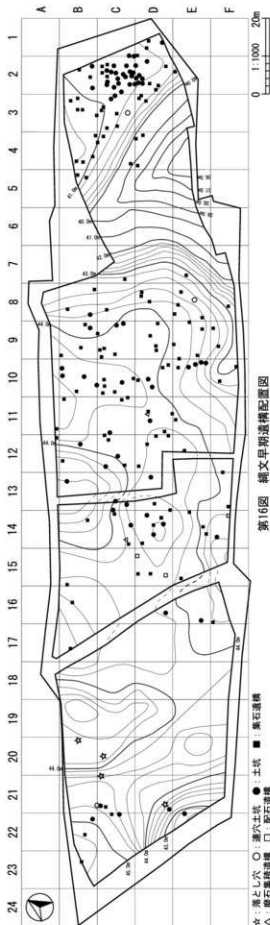
以下、個別の報告を行う。なお、各遺構の規模等の詳細は観察表を参照されたい。

#### 落とし穴1号（SK57）

B-20号で検出した。半截後に断面スライス調査を行い、底面で逆茂木痕を3本確認した。広い開口部から緩やかに底面に至る。底面は狭く、逆茂木痕は西側に寄っている。埋土は黒褐色（10YR2/2）砂質土で、締まっている。黄褐色バミスを含み、下部ほど多く含むようになる。そして下部ほど粘性が強くなる。逆茂木埋土は褐色（10YR4/6）シルト質土で、締まりがなく、粘性をもつ。

#### 落とし穴2号（SK59）

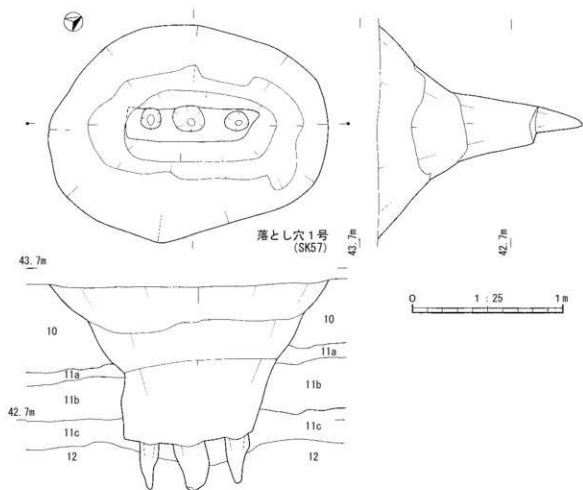
C-21区で検出した。完掘後に断面スライス調査を行い、底面で逆茂木痕を3本確認した。開口部から11層上面付近に広いテラスをもち、底面に至る。埋土は黒褐色



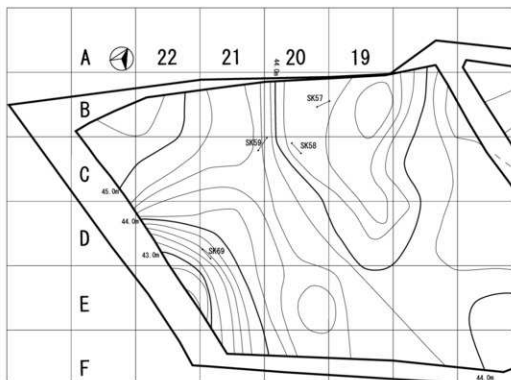
第16図 縄文早期遺構配置図

第5表 落とし穴観察表

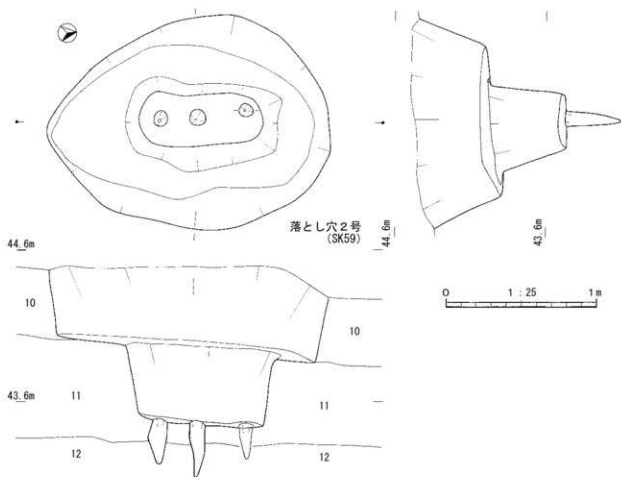
| 遺構名             | 検出区  | 検出面   | 規模(m) |      |      | 底面規模(m) |      | ビット数 | ビット規模(m) |      |      |
|-----------------|------|-------|-------|------|------|---------|------|------|----------|------|------|
|                 |      |       | 長軸    | 短軸   | 深さ   | 長軸      | 短軸   |      | 長軸       | 短軸   | 深さ   |
| 落とし穴1<br>(SK57) | B-20 | 10層上面 | 1.84  | 1.43 | 1.02 | 0.83    | 0.24 | 3    | 0.14     | 0.13 | 0.31 |
|                 |      |       |       |      |      |         |      |      | 0.21     | 0.18 | 0.32 |
|                 |      |       |       |      |      |         |      |      | 0.16     | 0.12 | 0.31 |
| 落とし穴2<br>(SK59) | C-21 | 10層上面 | 1.87  | 1.42 | 0.95 | 0.82    | 0.34 | 3    | 0.11     | 0.09 | 0.29 |
|                 |      |       |       |      |      |         |      |      | 0.11     | 0.10 | 0.34 |
|                 |      |       |       |      |      |         |      |      | 0.10     | 0.08 | 0.23 |
| 落とし穴3<br>(SK58) | C-20 | 10層上面 | 1.82  | 1.15 | 1.10 | 0.91    | 0.33 | 4    | 0.09     | 0.08 | 0.24 |
|                 |      |       |       |      |      |         |      |      | 0.09     | 0.07 | 0.42 |
|                 |      |       |       |      |      |         |      |      | 0.05     | 0.03 | 0.22 |
|                 |      |       |       |      |      |         |      |      | 0.11     | 0.11 | 0.33 |
| 落とし穴4<br>(SK69) | D-21 | 10層上面 | 1.50  | 0.87 | 1.63 | 0.89    | 0.40 | 2    | 0.14     | 0.11 | 0.20 |
|                 |      |       |       |      |      |         |      |      | 0.15     | 0.12 | 0.33 |



第17図 縄文早期落とし穴(1)



第18図 縄文早期落とし穴位置図



第19図 縄文早期落とし穴(2)

(10YR2/2)シルト質土で、黄橙色バミスをおずかに含む。下部ほど粘性が強くなる。逆茂木痕埋土は褐色(10YR4/6)シルト質土で、締まりがない。

**落とし穴3号 (SK58)**

C-20区で検出した。完掘後に断面スライス調査を行い、底面で逆茂木痕を4本確認した。開口部から11a層上面付近にテラスをもち、底面に至る。逆茂木痕は底面の北側に寄っている。埋土は黒褐色(10YR2/2)砂質土で、かなり締まっている。黄橙色バミスをおずかに含む。逆茂木痕埋土は褐色(10YR4/6)シルト質土で、締まりがない。

**落とし穴4号 (SK69)**

D-21区で検出した。完掘後に断面スライス調査を行い、底面で逆茂木痕を2本確認した。1~3号に比べると深く、12層まで掘り込んでいる。途中でややくびれる断面形状を呈する。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、黄橙色バミスを多量に含む。下部ほど粘性が強くなる。逆茂木痕埋土は褐色(10YR4/6)シルト質土で、締まりがなく、弱い粘性がある。

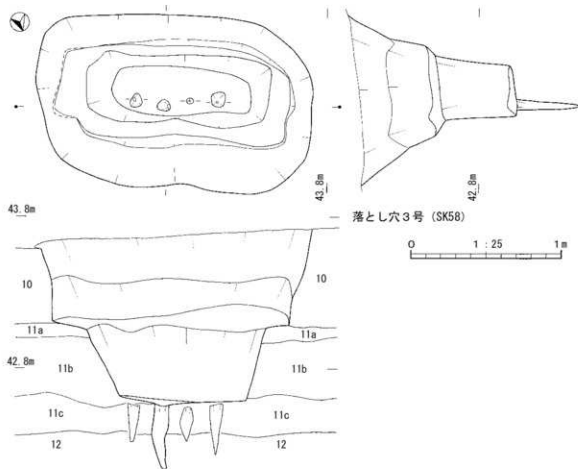
**(2) 連穴土坑 (第22~24図)**

2つの土坑が地中のトンネルでつながった土坑を連穴土坑とした。また、トンネルは認められないものの、ブリッジが崩落した可能性が高いと推測されるものも連穴土坑として扱った。本遺跡では3基確認した。全て10層上面において検出した。

なお、検出時から連穴土坑と判断できたものではなく、当初集石遺構として調査を行ったものや単なる土坑として調査を行ったものがある。

調査は基本的に長軸方向を基準に半截し、埋土観察後に完掘した。埋土から土器や被熱破砕礫が出土しているものもある。

以下、個別の報告を行う。報告にあたっては連穴土坑の小さい土坑を「煙出部」、大きい土坑を「開口部」と称している。なお、各遺構の規模等の詳細は観察表を参照されたい。



落とし穴3号 (SK58)

第20図 縄文早期落とし穴(3)

#### 連穴土坑 1号 (SK106)

C-3区で検出した。当初、開口部上面に礫がまつまっていたことから、掘り込みをもつ集石遺構 (SS16) として調査を行っていたが、掘り込み (本来は開口部) の完掘作業途中でブリッジとトンネル部が確認できたため、連穴土坑と判断した。そのため、実測図の長軸方向がずれている。煙出部がかなり広がっているが、本来の立ち上がりは断面図の破線部と推測した。11b層まで掘り込んでいる。

埋土は黒褐色 (10YR2/2) シルト質土で、締まっているが、下部ほど締まりが弱くなる。黄橙色バミスをわずかに含む。検出面上位より、10-2類土器の口縁部片 (第77図 136) と10類土器の胴部片 (第78図 146) が出土した。

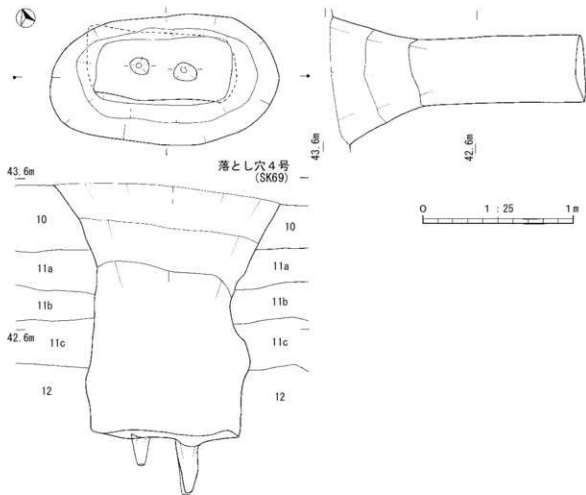
#### 連穴土坑 2号 (SK55)

E-8区で検出した。当初、礫が認められたため、集石の掘り込みが2つ並んでいると想定して調査を行っていたが、半截作業時にブリッジとトンネル部、そして焼土 (網掛け部) が認められたため、連穴土坑と判断した。12層まで掘り込んでいる。

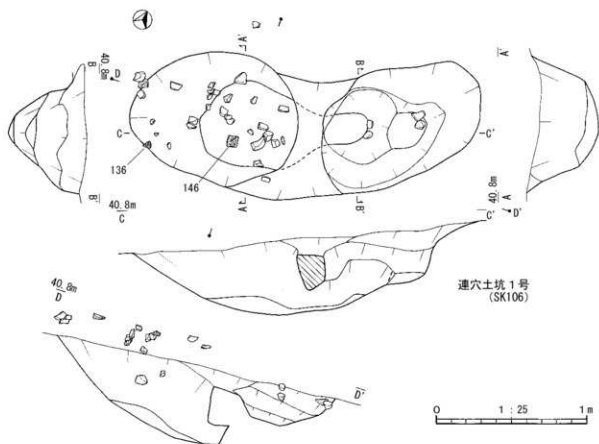
開口部の埋土は黒褐色 (10YR2/2) シルト質土で、黄橙色バミスを多く含む。煙出部の埋土は黒褐色 (10YR2/2) シルト質土で、黄橙色バミスが開口部より少ない。

#### 連穴土坑 3号 (SK62)

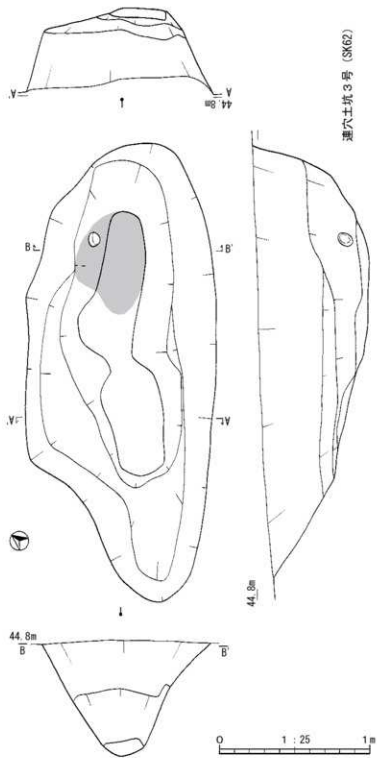
B-21区で検出した。底面で焼土 (網掛け部) が確認できたことと平面形態から、ブリッジが崩落した連穴土坑の可能性が高いと判断した。埋土は黒褐色 (10YR2/3) シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスを多量に含む。



第21図 縄文早期落とし穴 (4)

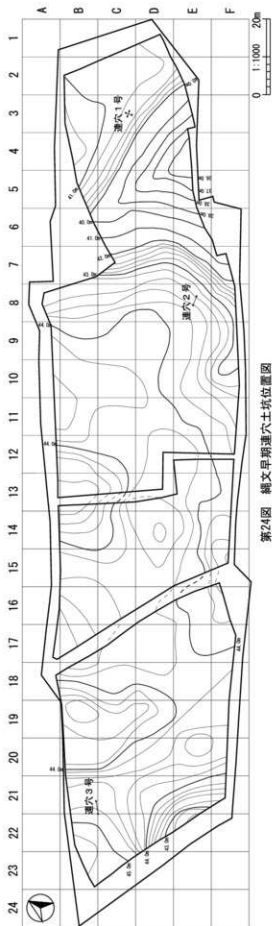


第22図 縄文早期連穴土坑 (1)



第23図 縄文早期連穴土坑(2)

連穴土坑3号 (SK62)



第24図 縄文早期連穴土坑位置図



第6表 連穴土坑観察表

| 遺構名              | 検出区  | 検出面   | 全長(m) |      | 開口部(m) |      |      | 掘出部(m) |      |      | トンネル部(m) |      |      | ブリッジ | 幾土 |
|------------------|------|-------|-------|------|--------|------|------|--------|------|------|----------|------|------|------|----|
|                  |      |       | 長軸    | 短軸   | 長軸     | 短軸   | 深さ   | 長軸     | 短軸   | 深さ   | 長軸       | 短軸   | 深さ   |      |    |
| 連穴土坑1<br>(SK106) | C-3  | 10層上面 | 2.32  | 0.87 | 1.10   | 0.87 | 0.50 | 1.06   | 0.73 | 0.46 | 0.17     | 0.74 | 0.13 | ○    | ×  |
| 連穴土坑2<br>(SK107) | E-8  | 10層上面 | 2.46  | 0.95 | 1.69   | 0.74 | 0.78 | 0.62   | 0.95 | 0.72 | 0.15     | 0.84 | 0.15 | ○    | ○  |
| 連穴土坑3<br>(SK62)  | B-21 | 10層上面 | 3.00  | 1.25 |        | -    |      |        | -    |      |          | -    |      | ×    | ○  |

## (3) 土坑 (第25~36図)

人為的に掘り込まれた堅穴状の遺構を土坑とした。本遺跡では74基認定した。当初土坑として調査を行ったものの、埋土内から被熱破砕礫が多数出土したものは整理作業・報告書作成作業時に、集石遺構として認定を改めたものもある。具体的には、SK10→SS124、SK41→SS127、SK49→SS128、SK60→SS129、SK83→SS125、SK105→SS126である。したがって、これらは欠番となる。また調査の都合により、SK4・5・12~20・56・65~68も欠番となっている。

ほとんどの土坑は10層上面で検出している。掘り下げは半截法を用いて、埋土の違いを確認しながら移植ゴテで行った。

平面形態は円形、楕円形、不定形など様々である。ほとんどが単独で検出されているが、複数の土坑が切り合っているもの、または切り合っている可能性があるものも認められる。検出面からの深さは浅いものが多い。埋土は9層土と酷似しており、判別が困難である。

埋土内から土器や石器、被熱破砕礫が出土するものもある。なお、出土遺物の一部は図化し、遺物の項目に掲載している。

報告にあたっては、規模(全長1.5m以上)と礫の有無から、以下の4つに分類した。

- I類: 全長1.5m以上で、礫が認められるもの。  
 II類: 全長1.5m以上で、礫が認められないもの。  
 III類: 全長1.5m未満で、礫が認められるもの。  
 IV類: 全長1.5m未満で、礫が認められないもの。

以下、個別の報告は地形から4つに分けたエリアごとに、I類からIV類の順で行う。なお、各土坑の規模等の詳細は観察表を参照されたい。

## 第1エリア (第26~29図)

このエリアでは35基検出した。内訳はIII類が20基、IV類が15基である。

## III類 (第26~28図)

## 土坑9号 (SK9)

D-2区で検出した。複数の土坑が切り合っている可能性が高いが、平面や埋土からは判断できなかった。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスと炭化物粒を含む。埋土上へ中位からチャート1類剥片が7点、礫が18点出土した。

## 土坑7号 (SK7)

C-3区で検出した。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスや炭化物粒をわずかに含む。床面から礫が1点出土した。

## 土坑8号 (SK8)

C-2・3区で検出した。埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスを多く含み、炭化物粒をわずかに含む。埋土上位から礫が1点出土した。

## 土坑11号 (SK11)

D-11区で検出したもので、調査区外に広がる。調査区壁面で土坑の立ち上がりを精査したが、判断できなかった。掘り込み検出面上位において出土した礫は土坑に伴うものと推測できる。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。埋土と9層土との区別は困難であった。

## 土坑76号 (SK76)

C-2区で検出した。検出面から礫が1点出土した。

## 土坑77号 (SK77)

C-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスをわずかに含む。埋土から礫が1点出土した。

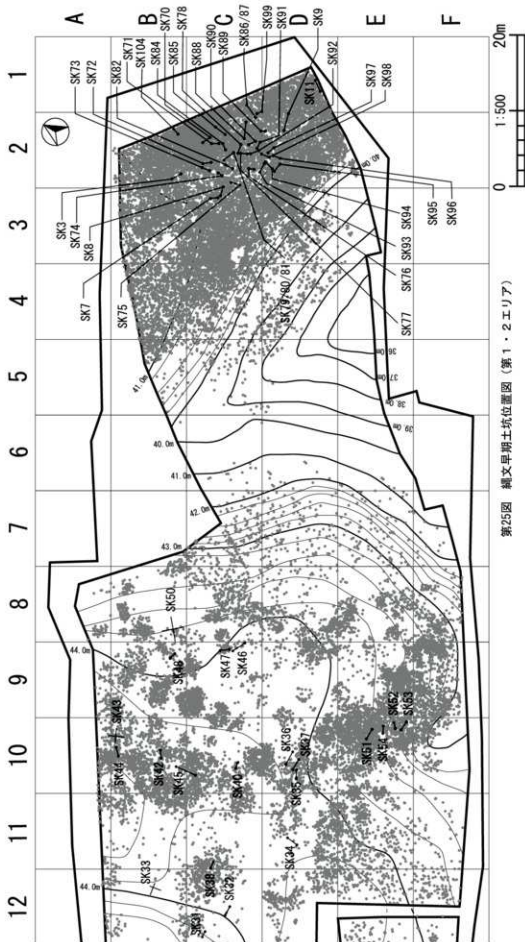
## 土坑78号 (SK78)

C-2区で検出した。他と比べて深めのもので、テラスをもつ。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスをわずかに含む。埋土上位で黒曜石1類剥片が1点、礫が1点出土した。

## 土坑84号 (SK84)

C-2区で検出した。埋土上位から礫が2点出土した。

## 土坑85号 (SK85)



第25図 縄文早期土坑位置図（第1・2エリア）

C-2区で検出した。埋土から礫が7点、床面から10類土器の胴部片(第78図151)が出土した。

**土坑 86・87号 (SK86・87)**

C-2区で検出した。切り合いの先後関係は平面や埋土から判断できなかった。埋土はともに黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まりが弱く、炭化物粒をわずかに含む。土坑86号の埋土中位から条痕文土器の胴部小片が1点、黒曜石1類剥片が1点出土した。

**土坑 88号 (SK88)**

C-2区で検出した。2つの土坑が切り合っている可能性が高いが、平面や埋土からは判断できなかった。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスをわずかに含む。

**土坑 92号 (SK92)**

C-2区で検出した。テラスをもつ。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスをわずかに含む。埋土から14類土器の胴部小片が出土した。

**土坑 93号 (SK93)**

C-D-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR3/3)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスと炭化物粒をわずかに含む。埋土上位から礫1点と、14-2類土器の胴部片(第85図203の一部)が出土した。

**土坑 94号 (SK94)**

D-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスと炭化物粒をわずかに含む。埋土下位から礫が3点出土した。

**土坑 95号 (SK95)**

D-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。床面から礫が3点出土した。

**土坑 96号 (SK96)**

D-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まりが弱い。埋土から礫が5点出土した。

**土坑 97号 (SK97)**

D-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。検出面から礫が1点出土した。

**土坑 99号 (SK99)**

C-1・2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスをわずかに含む。

**土坑 104号 (SK104)**

B-2区で検出した。土坑の北側は調査区外に広がる。また、土坑の南側は崩落により形状不明である。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。

**IV類 (第28・29図)**

**土坑 70号 (SK70)**

C-2区で検出した。

**土坑 71号 (SK71)**

C-2区で検出した。

**土坑 72号 (SK72)**

C-2区で検出した。中央が深く、両側にテラスをもつ。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスをわずかに含む。

**土坑 73号 (SK73)**

C-2区で検出した。

**土坑 74号 (SK74)**

C-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスをわずかに含む。

**土坑 75号 (SK75)**

C-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスをわずかに含む。

**土坑 79・80・81号 (SK79・80・81)**

C-2区で検出した。3つの土坑が切り合っており、平面で切り合いの先後関係が判断できた。81号が新しく、順に79号、80号となる。79号の埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスと白色粒をわずかに含む。80号の埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスをわずかに含む。81号の埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。

**土坑 82号 (SK82)**

C-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスをわずかに含む。

**土坑 89号 (SK89)**

C-D-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスをわずかに含む。

**土坑 90号 (SK90)**

C-2区で検出した。

**土坑 91号 (SK91)**

C-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。白色粒を多く含む。

**土坑 98号 (SK98)**

D-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスをわずかに含む。

**土坑 3号 (SK3)**

B-2区の9層上位で検出した。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルト質土で、締まっている。黄色・黄褐色パミスを多量に含む。他の土坑とは検出面や埋土が異なる。

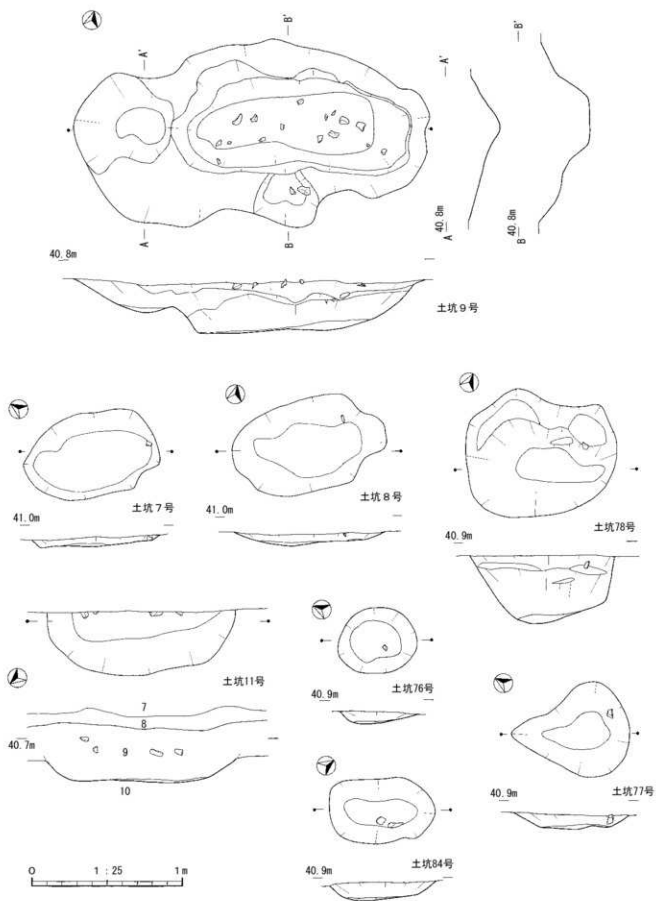
**第2エリア (第29~33図)**

このエリアでは23基検出した。内訳はI類が3基、II類が1基、III類が13基、IV類が6基である。I・II類土坑が、標高の高いA・B-8~10区に偏っている。

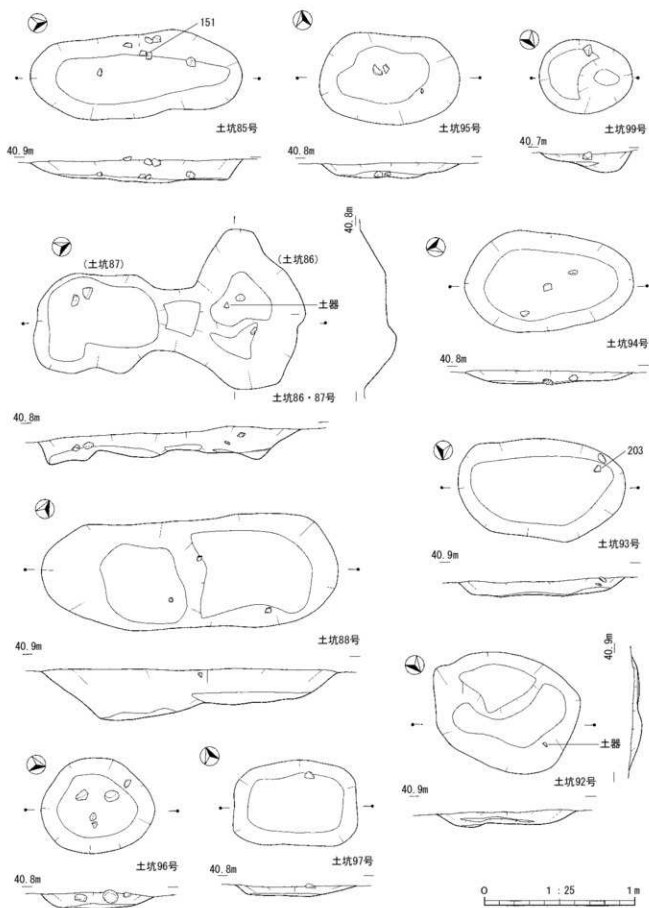
**I類 (第29・30図)**

**土坑 50号 (SK50)**

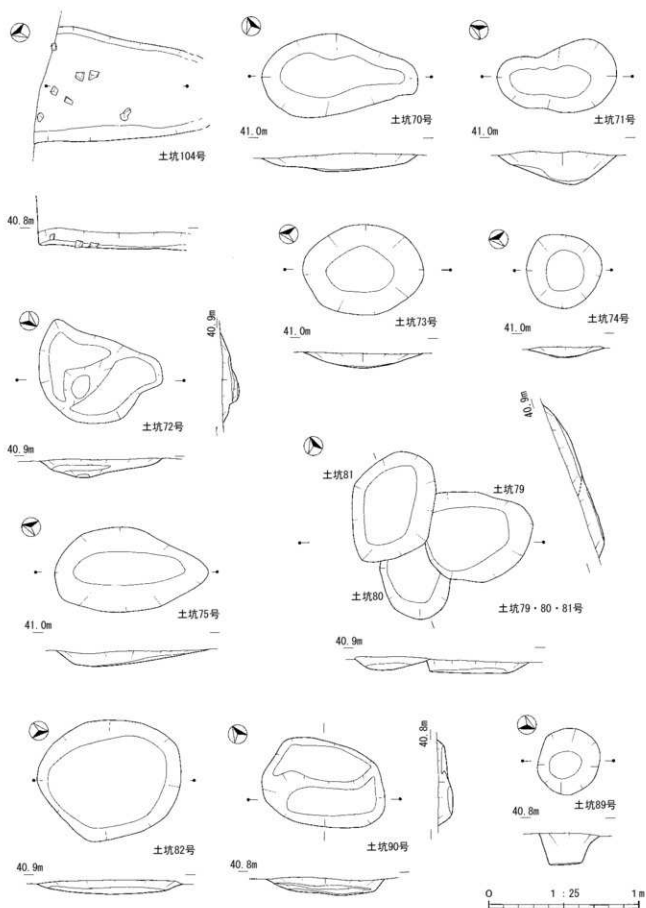
B-8区で検出した。全長が約2.5mを測り、本遺跡



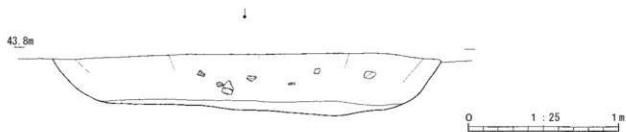
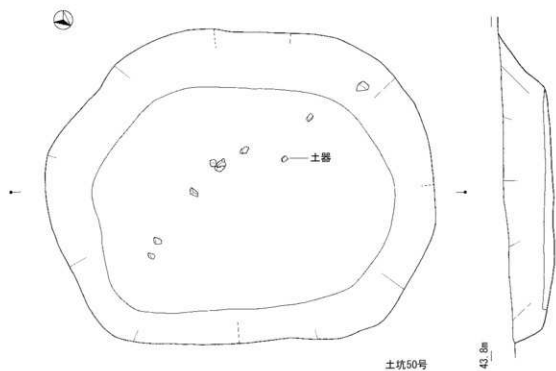
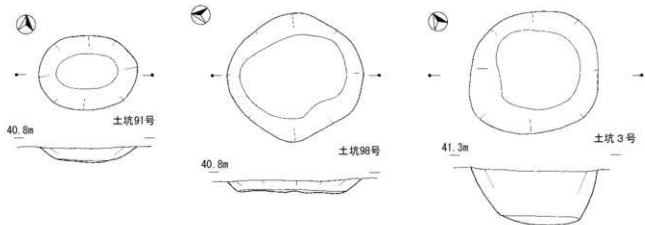
第26図 第1エリア土坑(1)



第27図 第1エリア土坑(2)



第28図 第1エリア土坑(3)



第29図 第1エリア土坑(4)・第2エリア土坑(1)

において最大の土坑である。堅穴建物の可能性も考慮して調査を行ったものの、焼土や柱穴は確認できず、堅穴建物とは確定できなかった。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスを多量に含む。埋土中位から礫が8点と、早期土器の底部片が1点出土した。

#### 土坑 45号 (SK45)

B・C-10区で検出した。全長が2m以上で、堅穴建物の可能性も考慮して調査を行ったものの、焼土や柱穴は確認できず、堅穴建物とは確定できなかった。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスを多量に含む。埋土から礫が2点と、6類土器の胴部片(第71図90の一部)が出土した。

#### 土坑 43号 (SK43)

A・B-10区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスを多量に含む。埋土上位から礫が2点、下位から6類土器の胴部片(第71図90の一部)が出土した。

#### Ⅱ類 (第31図)

#### 土坑 46号 (SK46)

C-9区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。

#### Ⅲ類 (第31・32図)

#### 土坑 31号 (SK31)

C-12区で検出した。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスを含む。検出面上位で礫が4点出土した。

#### 土坑 32号 (SK32)

C-12区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。検出面上位で礫が1点出土した。

#### 土坑 33号 (SK33)

B-12区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/1)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスを多く含む。検出面及び埋土から礫が3点、埋土中位から6類土器の胴部片(第70図87)が出土した。

#### 土坑 36号 (SK36)

D-10区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。検出面から礫が4点出土した。

#### 土坑 37号 (SK37)

D-10区の9層下位で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。検出面及び埋土から礫が7点と14-1類土器の口縁部片(第84図195の一部)が出土した。

#### 土坑 40号 (SK40)

C-10区で検出した。埋土は黒色(10YR2/1)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。炭

化物粒を多量に含む。埋土から礫が6点出土した。

#### 土坑 42号 (SK42)

B-10区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。検出面及び埋土から礫が3点出土した。

#### 土坑 44号 (SK44)

B-10区で検出した。両側にテラスをもつ。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。埋土から礫が1点出土した。

#### 土坑 48号 (SK48)

B-9区の9層下位で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/1)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。9層土よりかなり黒味が強い。検出面から礫が3点出土した。

#### 土坑 51号 (SK51)

E-10区で検出した。東南側に小さなテラスをもつ。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。検出面及び埋土から礫が6点出土した。

#### 土坑 52号 (SK52)

E-10区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスと白色粒を含み、炭化物粒をわずかに含む。埋土から礫が9点出土した。

#### 土坑 53号 (SK53)

E-10区で検出した。南側が一段深くなっており、2つの土坑が切り合っている可能性もあるが、平面と埋土からは判断できなかった。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。埋土から礫が4点出土した。

#### 土坑 54号 (SK54)

E-10区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスを含み、炭化物粒をわずかに含む。埋土から礫が1点出土した。

#### Ⅳ類 (第33図)

#### 土坑 29号 (SK29)

B-13区で検出した。他の土坑と比べて深めである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。

#### 土坑 34号 (SK34)

D-11区で検出した。埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質土で、締まりは弱い。

#### 土坑 35号 (SK35)

D-10区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。

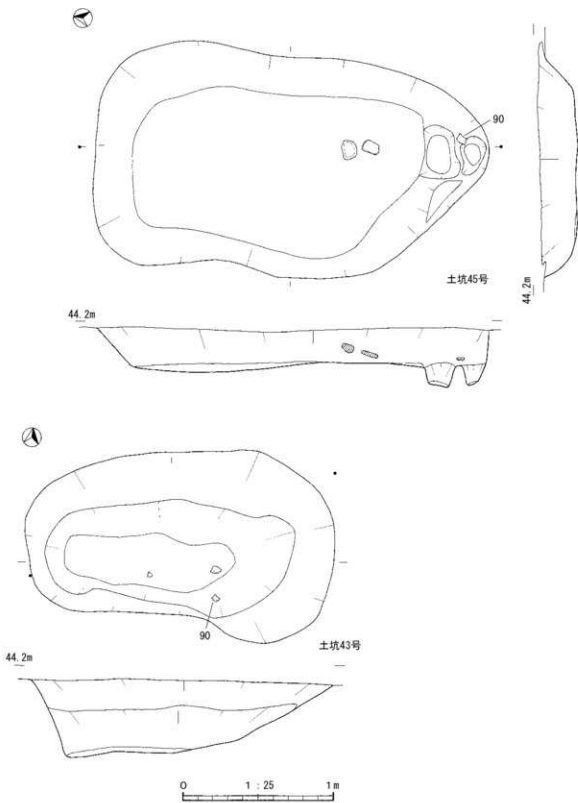
#### 土坑 38号 (SK38)

C-11区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。

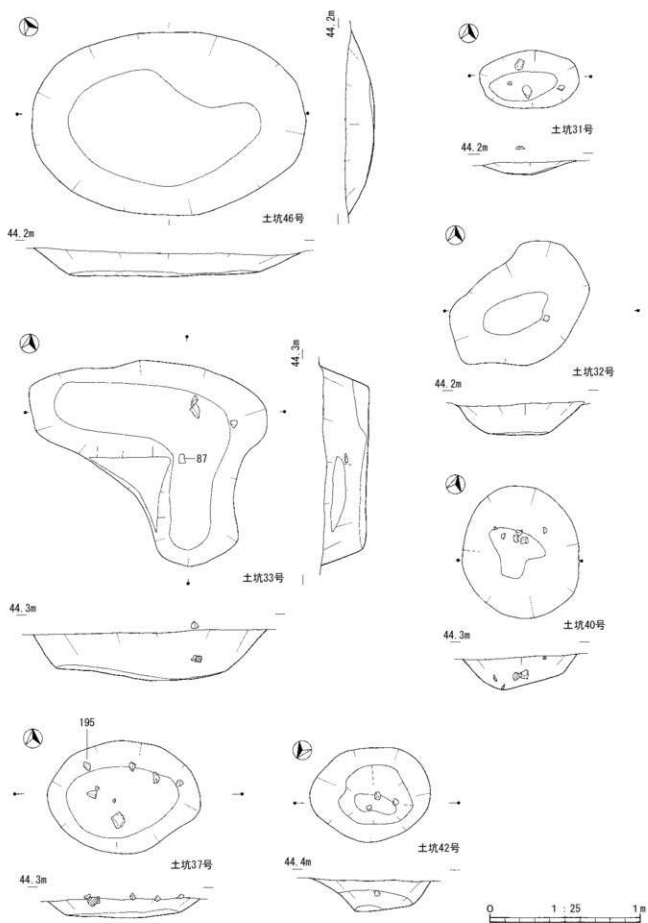
#### 土坑 39号 (SK39)

D-11区で検出した。10層上面で検出したが、9層掘

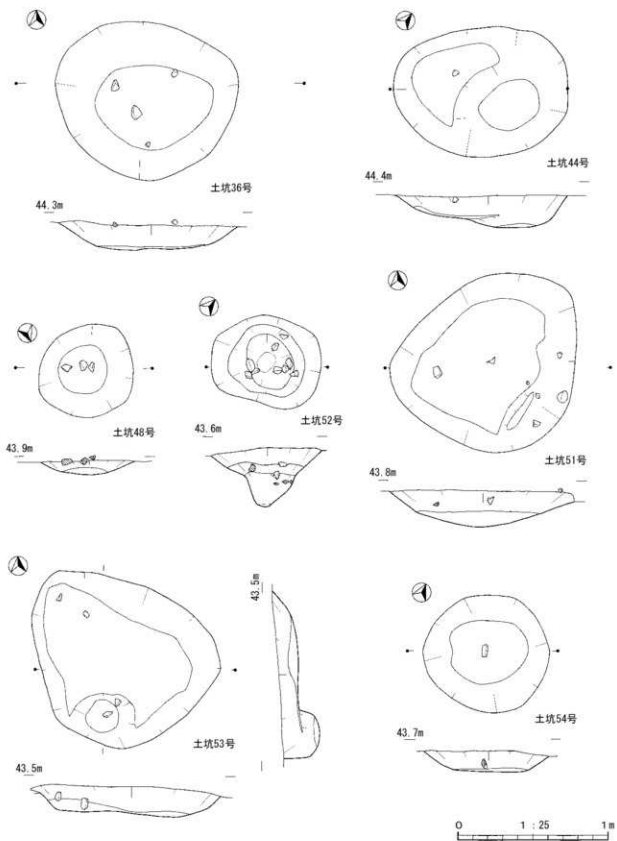




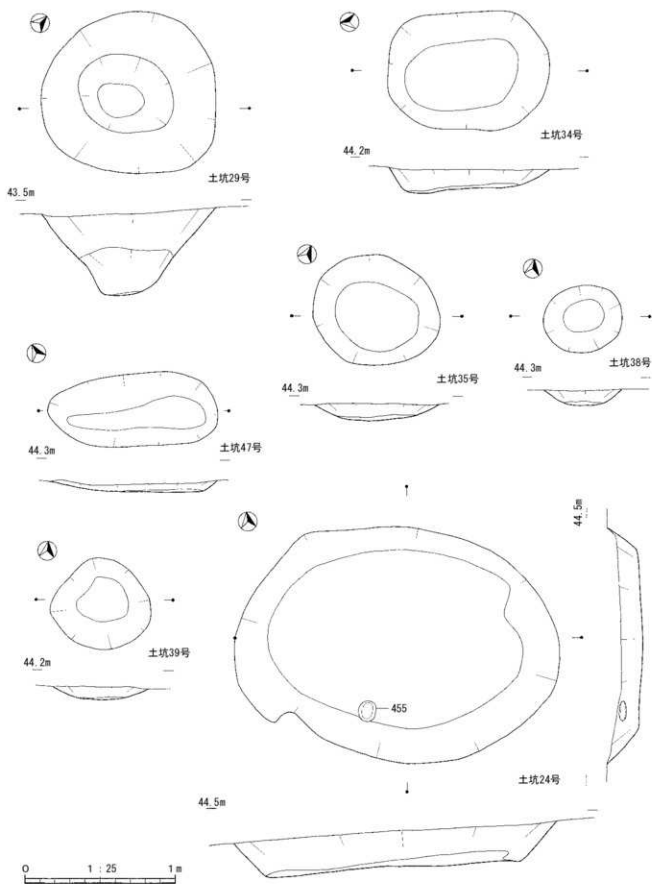
第30図 第2エリア土坑(2)



第31図 第2エリア土坑 (3)



第32図 第2エリア土坑(4)



第33図 第2エリア土坑(5)・第3エリア土坑(1)

り下げ中から周囲に比べて土色の黒味が強かった。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスや炭化物粒をわずかに含む。

**土坑 47号 (SK47)**

C-9区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。

**第3エリア (第33・35・36区)**

このエリアでは11基検出した。内訳はI類が1基、II類が1基、IV類が9基である。標高の高いD-14区に分布が偏る。また、礫を伴うものがほとんど認められない。

**I類 (第33区)**

**土坑 24号 (SK24)**

C-14区で検出した。全長が2m以上で、堅穴建物の可能性を考慮して調査を行ったものの、焼土や柱穴は確認できず、堅穴建物とは確定できなかった。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスを含む。下部は11a層土を含む。検出面上位から14類土器の胴部小片が、埋土から磨石・礫石1類(第118図455)が出た。

**II類 (第35区)**

**土坑 102号 (SK102)**

D-16区で検出した。他の土坑より深めで、テラスをもつ。落とし穴の可能性も考慮して調査を行ったものの、逆茂木痕は認められなかった。埋土は黒褐色(10YR2/2)やや砂質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。

**IV類 (第35・36区)**

**土坑 21号 (SK21)**

D-14区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まりは弱い。黄橙色バミスをわずかに含む。

**土坑 22号 (SK22)**

D-14区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスを含む。

**土坑 23号 (SK23)**

D-14区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスを含み、炭化物粒をわずかに含む。

**土坑 25号 (SK25)**

C-13区で検出した。検出面は10層上面であるが、9層掘り下げ中から土色が周囲に比べて黒味が強かった。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスを含む。

**土坑 26号 (SK26)**

C-13区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。白色粒を多く含み、炭化物粒をわずかに含む。

**土坑 27号 (SK27)**

C-13区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスを多量に含む。

**土坑 28号 (SK28)**

F-14区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。

**土坑 30号 (SK30)**

D-13区で検出した。9層掘り下げ中から周囲に比べて土色の黒味が強かった。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。

**土坑 103号 (SK103)**

E-16区で検出した。中央部が突出しており、2つの土坑が重複している可能性もある。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスを多量に含む。

**第4エリア (第36区)**

このエリアでは5基検出した。内訳はII類が1基、IV類が4基である。他のエリアと比べると深めのものが多い。

**II類 (第36区)**

**土坑 100号 (SK100)**

E-21・22区で検出した。西側の一部は掘り過ぎている。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスを多量に含む。

**IV類 (第36区)**

**土坑 61号 (SK61)**

B-22区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まりが弱い。黄橙色バミスをわずかに含む。

**土坑 63号 (SK63)**

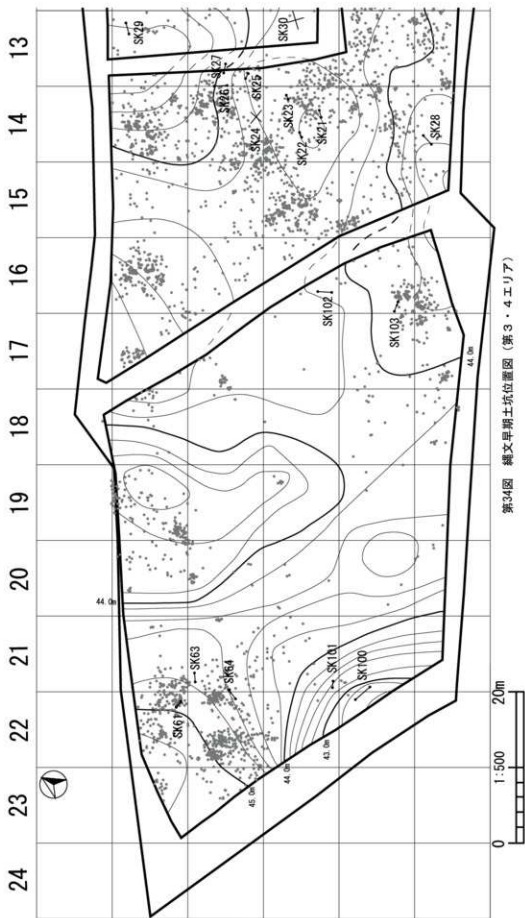
C-21区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。

**土坑 64号 (SK64)**

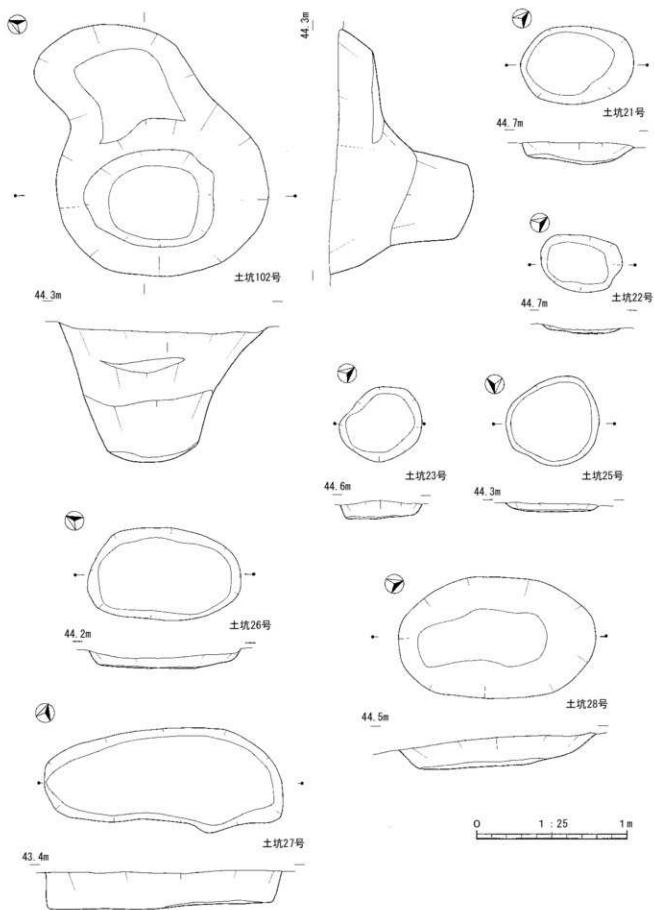
C-21・22区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。

**土坑 101号 (SK101)**

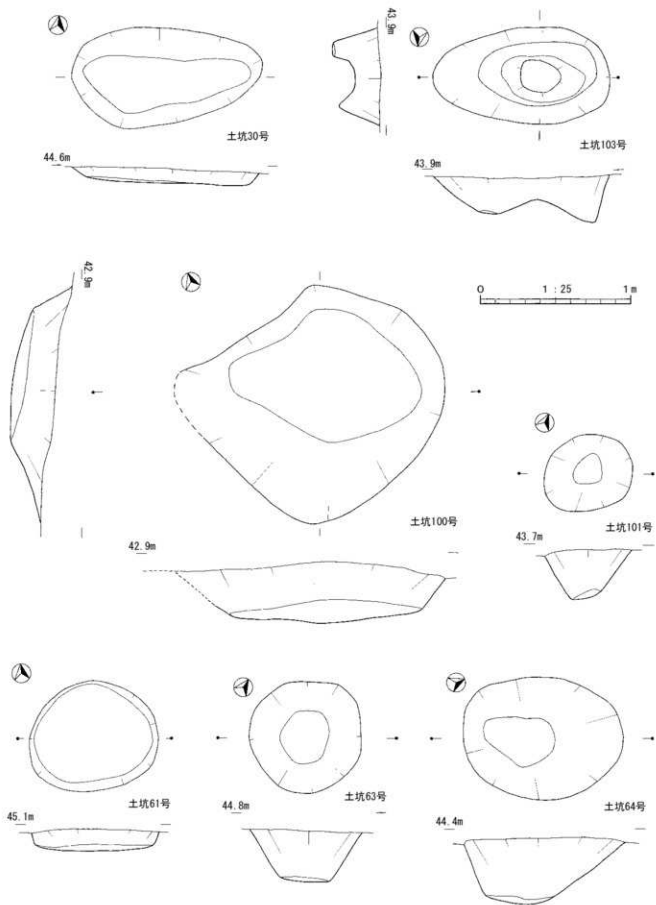
D-21区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスを多量に含む。



第34図 縄文早期土坑位置図(第3・4エリア)



第35図 第3エリア土坑(2)



第36図 第3エリア土坑(3)・第4エリア土坑



第 7 表 土坑観察表 ( 1 )

| 遺構名  | エリア     | 検出区    | 検出面   | 分類   | 規模(m) |        |      | 出土物    |            |       |    |    |    |    |       |      |      |            |     |     |   |   |   |
|------|---------|--------|-------|------|-------|--------|------|--------|------------|-------|----|----|----|----|-------|------|------|------------|-----|-----|---|---|---|
|      |         |        |       |      | 長軸    | 短軸     | 深さ   | 数      | 総重量<br>(g) | 石材別個数 |    |    |    |    | 重量別個数 |      |      | 最大径(mm)別個数 |     |     |   |   |   |
|      |         |        |       |      |       |        |      |        |            | 砂岩    | 頁岩 | 灰山 | 凝灰 | 花崗 | 他     | ~100 | 100~ | ~5         | ~10 | 10~ |   |   |   |
| SK3  |         | B-2    | 9層上位  | IV   | 0.93  | 0.85   | 0.31 | 0      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK7  | 1       | C-3    | 10層上流 | III  | 0.99  | 0.96   | 0.96 | 1      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK8  |         | C-2・3  |       | III  | 1.02  | 0.62   | 0.98 | 1      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK9  |         | D-2    |       | III  | 2.33  | 1.23   | 0.23 | 19     | 932.7      | 13    | 5  | 0  | 1  | 0  | 0     | 16   | 3    | 8          | 11  | 0   | - | - | - |
| SK11 | 2       | D-11   |       | III  | 1.24  | (0.42) | 0.12 | 4      | 415        | 2     | 1  | 1  | 0  | 0  | 0     | 2    | 2    | 2          | 2   | 0   | - | - |   |
| SK21 | 3       | D-14   |       | IV   | 0.75  | 0.52   | 0.14 | 0      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK22 |         | D-14   |       | IV   | 0.54  | 0.38   | 0.04 | 0      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK23 |         | D-14   |       | IV   | 0.55  | 0.46   | 0.09 | 0      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK24 |         | C-14   |       | I    | 2.15  | 1.56   | 0.24 | 1      | 1035.3     | 1     | 0  | 0  | 0  | 0  | 0     | 0    | 1    | 0          | 0   | 0   | 1 | - | - |
| SK25 |         | C-13   |       | IV   | 0.62  | 0.6    | 0.05 | 0      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - | - |
| SK26 |         | C-13   |       | IV   | 1.1   | 0.62   | 0.12 | 0      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - | - |
| SK27 |         | C-13   | IV    | 1.57 | 0.69  | 0.25   | 0    | -      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK28 | F-14    | IV     | 1.3   | 0.8  | 0.17  | 0      | -    | -      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - |   |   |
| SK29 | 2       | D-13   | IV    | 1.14 | 1.09  | 0.53   | 0    | -      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - |   |   |
| SK30 | 3       | D-13   | IV    | 1.26 | 0.65  | 0.1    | 0    | -      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - |   |   |
| SK31 | 2       | C-12   | III   | 0.65 | 0.39  | 0.07   | 4    | 339    | 3          | 0     | 1  | 0  | 0  | 0  | 2     | 2    | 2    | 2          | 0   | -   | - |   |   |
| SK32 |         | C-12   | III   | 1.01 | 0.68  | 0.2    | 1    | 11.6   | 0          | 1     | 0  | 0  | 0  | 0  | 1     | 0    | 1    | 0          | 0   | -   | - |   |   |
| SK33 |         | D-12   | III   | 1.7  | 1.05  | 0.3    | 3    | 170.9  | 1          | 0     | 0  | 2  | 0  | 0  | 3     | 0    | 0    | 3          | 0   | -   | - |   |   |
| SK34 |         | D-11   | IV    | 1.06 | 0.78  | 0.17   | 0    | -      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - |   |   |
| SK35 |         | D-10   | IV    | 0.86 | 0.74  | 0.11   | 0    | -      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK36 |         | D-10   | III   | 1.2  | 1.02  | 0.17   | 4    | 548.5  | 3          | 1     | 0  | 0  | 0  | 0  | 2     | 2    | 2    | 2          | 0   | -   | - |   |   |
| SK37 |         | D-10   | III   | 1.01 | 0.75  | 0.12   | 7    | 843.1  | 3          | 4     | 0  | 0  | 0  | 0  | 5     | 2    | 2    | 5          | 0   | -   | - |   |   |
| SK38 |         | C-11   | IV    | 0.53 | 0.45  | 0.1    | 0    | -      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK39 |         | D-11   | IV    | 0.66 | 0.61  | 0.08   | 0    | -      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK40 | 2       | C-10   | III   | 0.88 | 0.78  | 0.21   | 6    | 203.9  | 5          | 1     | 0  | 0  | 0  | 0  | 4     | 2    | 4    | 2          | 0   | -   | - |   |   |
| SK42 |         | B-10   | III   | 0.8  | 0.62  | 0.2    | 3    | 120.4  | 3          | 0     | 0  | 0  | 0  | 0  | 3     | 0    | 2    | 1          | 0   | -   | - |   |   |
| SK43 |         | A・B-10 | I     | 2.05 | 1.25  | 0.5    | 2    | 222.3  | 0          | 2     | 0  | 0  | 0  | 0  | 1     | 1    | 1    | 1          | 0   | -   | - |   |   |
| SK44 |         | B-10   | III   | 1.16 | 0.89  | 0.21   | 1    | 33.1   | 0          | 0     | 1  | 0  | 0  | 0  | 1     | 0    | 1    | 0          | 0   | -   | - |   |   |
| SK45 |         | B・C-10 | I     | 2.6  | 1.45  | 0.28   | 2    | 1209.4 | 2          | 0     | 0  | 0  | 0  | 0  | 0     | 2    | 0    | 0          | 0   | 2   | - | - |   |
| SK46 |         | C-9    | II    | 1.82 | 1.21  | 0.16   | 0    | -      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK47 |         | C-9    | IV    | 1.12 | 0.49  | 0.05   | 0    | -      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK48 |         | B-9    | 9層下位  | III  | 0.62  | 0.59   | 0.1  | 3      | 274.3      | 2     | 1  | 0  | 0  | 0  | 0     | 2    | 1    | 0          | 3   | 0   | - | - |   |
| SK50 |         | B-8    | 10層上流 | I    | 2.36  | 2.06   | 0.42 | 8      | 972.2      | 4     | 4  | 0  | 0  | 0  | 0     | 5    | 3    | 1          | 6   | 1   | - | - |   |
| SK51 |         | E-10   |       | III  | 1.22  | 1.13   | 0.2  | 6      | 868        | 5     | 2  | 0  | 0  | 0  | 0     | 5    | 2    | 3          | 4   | 0   | - | - |   |
| SK52 | F-10    | III    |       | 0.73 | 0.6   | 0.4    | 9    | 889.5  | 6          | 2     | 1  | 0  | 0  | 0  | 6     | 3    | 0    | 9          | 0   | -   | - |   |   |
| SK53 | F-10    | III    |       | 1.3  | 1.08  | 0.13   | 4    | 300    | 2          | 2     | 0  | 0  | 0  | 0  | 4     | 0    | 0    | 4          | 0   | -   | - |   |   |
| SK54 | F-10    | III    |       | 0.84 | 0.77  | 0.12   | 1    | 112    | 0          | 1     | 0  | 0  | 0  | 0  | 0     | 1    | 0    | 1          | 0   | -   | - |   |   |
| SK61 | B-22    | IV     |       | 0.85 | 0.73  | 0.12   | 0    | -      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK63 | C-21    | IV     |       | 0.74 | 0.74  | 0.33   | 0    | -      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK64 | C-21・22 | IV     |       | 1.07 | 0.82  | 0.4    | 0    | -      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK70 | 1       | C-2    |       | IV   | 1.03  | 0.54   | 0.1  | 0      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK71 |         | C-2    |       | IV   | 0.79  | 0.45   | 0.2  | 0      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - | - |
| SK72 |         | C-2    | IV    | 0.82 | 0.75  | 0.11   | 0    | -      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK73 |         | C-2    | IV    | 0.8  | 0.6   | 0.1    | 0    | -      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK74 |         | C-2    | IV    | 0.5  | 0.49  | 0.06   | 0    | -      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |
| SK75 |         | C-2    | IV    | 1    | 0.55  | 0.1    | 0    | -      | -          | -     | -  | -  | -  | -  | -     | -    | -    | -          | -   | -   | - | - |   |

第8表 土坑観察表(2)

| 遺構名   | エリア | 検出区     | 検出面   | 分類   | 規模(m)  |      |      | 出土物  |            |       |    |    |    |    |   |       |           |      |    |     |     |   |   |
|-------|-----|---------|-------|------|--------|------|------|------|------------|-------|----|----|----|----|---|-------|-----------|------|----|-----|-----|---|---|
|       |     |         |       |      | 長軸     | 短軸   | 深さ   | 数    | 総重量<br>(g) | 石材別個数 |    |    |    |    |   | 重量別個数 | 最大長(m)別個数 |      |    |     |     |   |   |
|       |     |         |       |      |        |      |      |      |            | 砂岩    | 頁岩 | 安山 | 凝灰 | 花崗 | 他 |       | ~100      | 100~ | ~5 | ~10 | 10~ |   |   |
| SK76  | 1   | C-2     | 10層上面 | Ⅲ    | 0.52   | 0.44 | 0.08 | 1    | -          | -     | -  | -  | -  | -  | - | -     | -         | -    | -  | -   | -   | - | - |
| SK77  |     |         |       | Ⅲ    | 0.77   | 0.63 | 0.09 | 1    | 64.5       | 1     | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 | 1     | 0         | 0    | 1  | 0   | -   | - | - |
| SK78  |     |         |       | Ⅲ    | 1      | 0.84 | 0.45 | 1    | 58.8       | 0     | 1  | 0  | 0  | 0  | 0 | 1     | 0         | 0    | 1  | 0   | -   | - | - |
| SK79  |     |         |       | Ⅳ    | 0.71   | 0.63 | 0.08 | 0    | -          | -     | -  | -  | -  | -  | - | -     | -         | -    | -  | -   | -   | - | - |
| SK80  |     |         |       | Ⅳ    | 0.40   | 0.48 | 0.08 | 0    | -          | -     | -  | -  | -  | -  | - | -     | -         | -    | -  | -   | -   | - | - |
| SK81  |     |         |       | Ⅳ    | 0.78   | 0.57 | 0.1  | 0    | -          | -     | -  | -  | -  | -  | - | -     | -         | -    | -  | -   | -   | - | - |
| SK82  |     |         |       | Ⅳ    | 0.95   | 0.8  | 0.07 | 0    | -          | -     | -  | -  | -  | -  | - | -     | -         | -    | -  | -   | -   | - | - |
| SK84  |     |         |       | Ⅲ    | 0.7    | 0.42 | 0.11 | 2    | -          | -     | -  | -  | -  | -  | - | -     | -         | -    | -  | -   | -   | - | - |
| SK85  |     |         |       | Ⅲ    | 1.4    | 0.55 | 0.15 | 5    | 419        | 5     | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 | 4     | 1         | 0    | 5  | 0   | -   | - | - |
| SK86  |     |         |       | Ⅲ    | 1.5    | 0.87 | 0.2  | 2    | 113.4      | 1     | 1  | 0  | 0  | 0  | 0 | 2     | 0         | 0    | 2  | 0   | -   | - | - |
| SK87  |     |         |       | Ⅲ    | 0.9    | 0.67 | 0.15 | 2    | 339.2      | 2     | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 | 0     | 2         | 0    | 2  | 0   | -   | - | - |
| SK88  |     |         |       | Ⅲ    | 1.96   | 0.75 | 0.32 | 3    | 496.6      | 0     | 2  | 0  | 0  | 0  | 1 | 3     | 0         | 3    | 0  | 0   | -   | - | - |
| SK89  |     |         |       | Ⅳ    | 0.43   | 0.42 | 0.2  | 0    | -          | -     | -  | -  | -  | -  | - | -     | -         | -    | -  | -   | -   | - | - |
| SK90  |     |         |       | Ⅳ    | 0.82   | 0.57 | 0.1  | 0    | -          | -     | -  | -  | -  | -  | - | -     | -         | -    | -  | -   | -   | - | - |
| SK91  |     |         |       | Ⅳ    | 0.65   | 0.5  | 0.08 | 0    | -          | -     | -  | -  | -  | -  | - | -     | -         | -    | -  | -   | -   | - | - |
| SK92  |     |         |       | Ⅲ    | 1      | 0.75 | 0.08 | 0    | -          | -     | -  | -  | -  | -  | - | -     | -         | -    | -  | -   | -   | - | - |
| SK93  |     |         |       | Ⅲ    | 1.1    | 0.86 | 0.1  | 1    | 23.5       | 0     | 0  | 1  | 0  | 0  | 0 | 1     | 0         | 0    | 1  | 0   | -   | - | - |
| SK94  |     |         |       | Ⅲ    | 1.12   | 0.68 | 0.07 | 3    | 183.2      | 2     | 0  | 1  | 0  | 0  | 0 | 3     | 0         | 0    | 2  | 0   | -   | - | - |
| SK95  |     |         |       | Ⅲ    | 0.92   | 0.6  | 0.1  | 3    | 181.1      | 2     | 1  | 0  | 0  | 0  | 0 | 2     | 1         | 2    | 1  | 0   | -   | - | - |
| SK96  |     |         |       | Ⅲ    | 0.75   | 0.63 | 0.1  | 5    | 966.5      | 3     | 2  | 0  | 0  | 0  | 0 | 4     | 2         | 1    | 4  | 0   | -   | - | - |
| SK97  | Ⅲ   | 0.8     | 0.57  | 0.07 | 1      | 76.2 | 1    | 0    | 0          | 0     | 0  | 0  | 1  | 0  | 0 | 1     | 0         | -    | -  | -   |     |   |   |
| SK98  | Ⅳ   | 0.9     | 0.85  | 0.08 | 0      | -    | -    | -    | -          | -     | -  | -  | -  | -  | - | -     | -         | -    | -  | -   |     |   |   |
| SK99  | Ⅲ   | 0.62    | 0.49  | 0.13 | 1      | 198  | 1    | 0    | 0          | 0     | 0  | 0  | 0  | 1  | 0 | 1     | 0         | -    | -  | -   |     |   |   |
| SK100 | 4   | E-21・22 | 3     | Ⅱ    | (1.78) | 1.57 | 0.32 | 0    | -          | -     | -  | -  | -  | -  | - | -     | -         | -    | -  | -   | -   |   |   |
| SK101 |     |         |       | Ⅳ    | 0.61   | 0.5  | 0.3  | 0    | -          | -     | -  | -  | -  | -  | - | -     | -         | -    | -  | -   | -   | - |   |
| SK102 |     |         |       | Ⅱ    | 1.76   | 1.36 | 0.92 | 0    | -          | -     | -  | -  | -  | -  | - | -     | -         | -    | -  | -   | -   | - |   |
| SK103 |     |         |       | Ⅳ    | 1.16   | 0.64 | 0.3  | 0    | -          | -     | -  | -  | -  | -  | - | -     | -         | -    | -  | -   | -   | - |   |
| SK104 | 1   | B-2     | Ⅲ     | 0.98 | 0.75   | 0.1  | 7    | 1793 | 4          | 3     | 0  | 0  | 0  | 4  | 3 | 2     | 5         | 0    | -  | -   |     |   |   |

#### (4) 集石遺構 (第 37～59 図)

本遺跡では 128 基検出した。9 層からは膨大な数の被熱破砕礫が出土しており、それらを平板測量やトータルステーションで随時取り上げて、礫がある程度まとまっている箇所を集石遺構として認定した。また、9 層下位～10 層上面において、集石遺構の掘り込みと推定できる土坑に伴って礫が散在しているものも集石遺構と判断した。

土坑の項目でも述べたが、検出時に礫がほとんど認められないために土坑として調査を行ったものの、埋土から礫が多数出土したために、整理作業・報告書作成作業の際に集石遺構として改めたものもある。なお、集石 16 号は調査中に連穴土坑と判断できたため、欠番となっている。

分布状況を見ると、B-6 区から E-4 区に入る谷を取り巻くように多くの集石遺構が認められる一方で、16 区は少ない。

集石遺構の検出面は 9 層中位～10 層上面が多い。特に膨大な数の被熱破砕礫が出土した調査区 (5 区以东の第 1 エリアなど) では、礫の出土量が少なくなる 9 層下位まで常に取り上げを行っていたため、9 層下位から 10 層上面での検出が多くなっている。

集石遺構の認定後、礫の集中している箇所を集石の中心部として想定し、そこを基準に軸を設定し、平面図と見通し断面図 1 面を作成しながら、礫を取り上げた。礫は遺構毎に番号を付けて取り上げた。礫の取り上げ後、実測ポイントを残しながら、掘り込みの有無の精査を 10 層上面まで行った。検出時における礫の平面分布状況から実測基準軸を設定しているため、掘り込みの中心軸と一致しないものもある。なお、検出時に掘り込みを確認しているものは、掘り込みの長軸方向を基準に調査を行っている。

掘り込みは基本的に 10 層上面で検出した。検出した掘り込みは半蔵し、埋土観察後に完掘した。埋土は 9 層土と類似しているものが多く、9 層土より黒味が強いものもある。掘り込みの平面形状は円形や楕円形のものが多い。検出面からの深さは、浅いものが多い。

集石遺構の範囲内や掘り込み検出面の直上、または掘り込み内から土器や剥片石器、剥片、そして集石遺構に利用された磨石・蔽石類が出土するものもある。出土遺物の一部は図化し、遺物の項目に掲載している。

構成礫のほとんどは被熱により破砕しており、図化が困難なほど小さくなっているものもある。また、長径 15 cm 程の大型の礫で構成されたものもある。石材は、砂岩と頁岩がそのほとんどを占める。

報告にあたっては、掘り込みの有無や掘り込み内の礫の有無、構成礫の集中部の有無から以下の 4 つに分類した。

I 類：掘り込みが確認できたもので、掘り込み内にも礫が認められるもの。

II 類：掘り込みが確認できたもので、掘り込みの検出面と集石の礫にレベル差があり、掘り込み内に礫が認められないもの。

III 類：掘り込みが確認できず、構成礫が集中するもの。

IV 類：掘り込みが確認できず、構成礫が集中せず、まんべんなく広がるもの。

なお、構成礫の集中部の有無は感覚的なもので、礫間の空間の有無や上下の重なりなどを目安にしている。

以下、個別の報告はエリアごとに I 類から IV 類の順で行う。なお、各遺構の規模や構成礫の石材・重量等の詳細は観察表を参照されたい。

#### 第 1 エリア (第 38～45 図)

このエリアでは 40 基検出した。内訳は I 類が 22 基、II 類が 11 基、III 類が 4 基、IV 類が 3 基である。

##### I 類 (第 38～42 図)

###### 集石 4 号 (SS4)

D-1 区の 9 層上位で検出した。調査範囲外にも 10 cm 程の礫が密集して広がっている。掘り込みは 9 層下位で検出した。掘り込み埋土は黒褐色 (10YR3/2) シルト質土で、締まりがなく、11a 層土を含む。9 層土とは締まり具合が異なることから、掘り込みを 9 層下位で検出できた。掘り込み内から 10 類土器の底部片 (第 80 図 163) と磨石・蔽石 3 類の破損品 (第 119 図 465) が出土した。

###### 集石 11 号 (SS11)

B・C-4 区の 9 層中位で検出した。掘り込み内出土の礫が多い。掘り込み埋土は黒褐色 (10YR2/2) シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスを含み、下部には炭化物粒を多く含む。掘り込み検出面上位から 10 類土器の底部片 (第 80 図 164) と 14 類土器の胴部片 (第 86 図 229)、黒曜石 1 類の剥片が出土した。

###### 集石 12 号 (SS12)

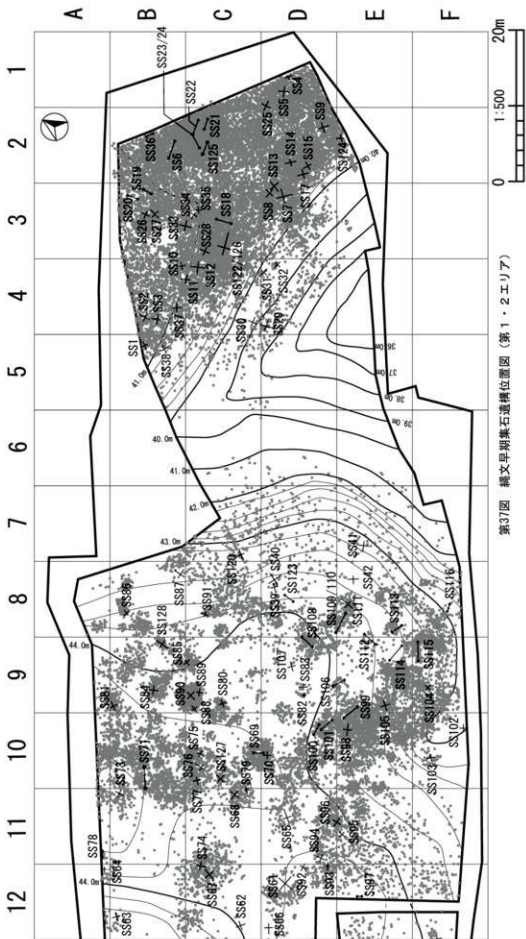
C-4 区の 9 層下位で検出した。検出時、礫は少なく散在していたが、掘り込みが確認できたために集石と認定した。掘り込み埋土は黒褐色 (10YR3/2) シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスと白色粒を含み、炭化物粒を多く含む。掘り込み内から黒曜石 1 類の剥片 3 点が出土した。

###### 集石 13 号 (SS13)

D-2・3 区の 10 層上面で検出した。掘り込み底面で磨石・蔽石 1 類の破損品 (第 118 図 457) が出土した。掘り込み埋土は褐色 (10YR3/3) シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。

###### 集石 15 号 (SS15)

D-2 区の 10 層上面で検出した。検出時、礫は少なく



第37図 縄文早期集石遺構位置図(第1・2エリア)

散在していたが、掘り込みが確認できたために集石と認定した。掘り込み内出土の礫が多い。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、かなり締まっている。炭化物粒を含む。

#### 集石 17号 (SS17)

D-2区の10層上面で検出した。検出時、礫が少なく散在していたが、掘り込みが確認できたために集石と認定した。掘り込み埋土は灰黄褐色(10YR4/2)シルト質土で、締まりが弱い。11a層土を多く含む。

#### 集石 18号 (SS18)

C-3区の9層中位で検出した。周縁部で4類土器の口縁部小片と早期土器の底部片が出土した。

#### 集石 21号 (SS21)

C-2区の9層中位で検出した。掘り込みは10層上面で検出したため、礫の集中部と掘り込みの位置がずれている。集石の範囲内から2類土器の胴部片(第66図60)と10-2類土器の口縁部小片が出土した。

#### 集石 23号 (SS23)・集石 24号 (SS24)

C-2区の10層上面で検出した。ともに検出時に掘り込みを確認しており、掘り込み内出土の礫が多い。集石24号の掘り込み埋土中位出土の炭化物は<sup>14</sup>C年代測定の結果、8490±30BPを示した(第5章参照)。

#### 集石 25号 (SS25)

D-1・2区の9層下位で検出した。掘り込み検出面上位から2類土器の口縁部片2点(第66図49)と胴部片が出土した。

#### 集石 27号 (SS27)

B-3区の9層下位で検出した。礫がある程度まとまり、中心部の土色が黒味を帯びていたことから集石と認定した。掘り込み内出土の礫が多い。掘り込み検出面上位から2類土器の口縁部片(第66図52)と胴部片が出土した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、かなり締まっている。黄橙色バミスと白色粒を含む。

#### 集石 29号 (SS29)

D-4区の傾斜地の9層下位で検出した。礫がある程度まとまり、土色が周囲より黒味を帯びていたことから、掘り込みをもつ集石と認定した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、かなり締まっている。炭化物粒を多く含む。

#### 集石 30号 (SS30)

C-4区の傾斜地の10層上面で検出した。礫がある程度まとまり、土色が周囲より黒味を帯びていたことから、掘り込みをもつ集石と認定した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、かなり締まっている。炭化物粒を多く含む。埋土上位から磨石・礫石1類(第118図456)が出土した。

#### 集石 31号 (SS31)

D-4区の傾斜地の10層上面で検出した。礫がある程

度まとまり、土色が周囲より黒味を帯びていたことから、掘り込みをもつ集石と認定した。掘り込み埋土は灰黄褐色(10YR4/2)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む、11a層土を多く含む。

#### 集石 32号 (SS32)

D-4区の傾斜地の9層下位で検出した。礫がある程度まとまり、土色が周囲より黒味を帯びていたことから、掘り込みをもつ集石と認定した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。埋土上位から10-2類土器の口縁部片(第75図120)と胴部片が出土した。

#### 集石 33号 (SS33)

B・C-3区の10層上面で検出した。検出時、礫は数点のみだったが、掘り込みが確認できたため、集石と認定した。掘り込み内出土の礫が多い。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、かなり締まっている。炭化物粒を多く含む。

#### 集石 36号 (SS36)

B-2区の9層下位で検出した。調査範囲外にも礫が広がる。調査区壁面で掘り込みの立ち上がりを精査したが、確認できなかった。大型の扁平な礫を含む。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。白色粒を含む。

#### 集石 122号 (SS122)

C-3区の10層上面で検出した。集石126号を切っており、先後関係は平面で確認できる。掘り込み内から多数の礫が出土し、図化が困難な2cm以下の破砕礫も多数出土した。掘り込み埋土は黒色(10YR2/1)シルト質土で、締まっているが、下部ほど締まりが弱い。炭化物粒を含み、下部には赤色粒(焼土か?)を多く含む。掘り込み底面は11a層で、炭化物のために黒味を帯びる。

#### 集石 124号 (SS124)

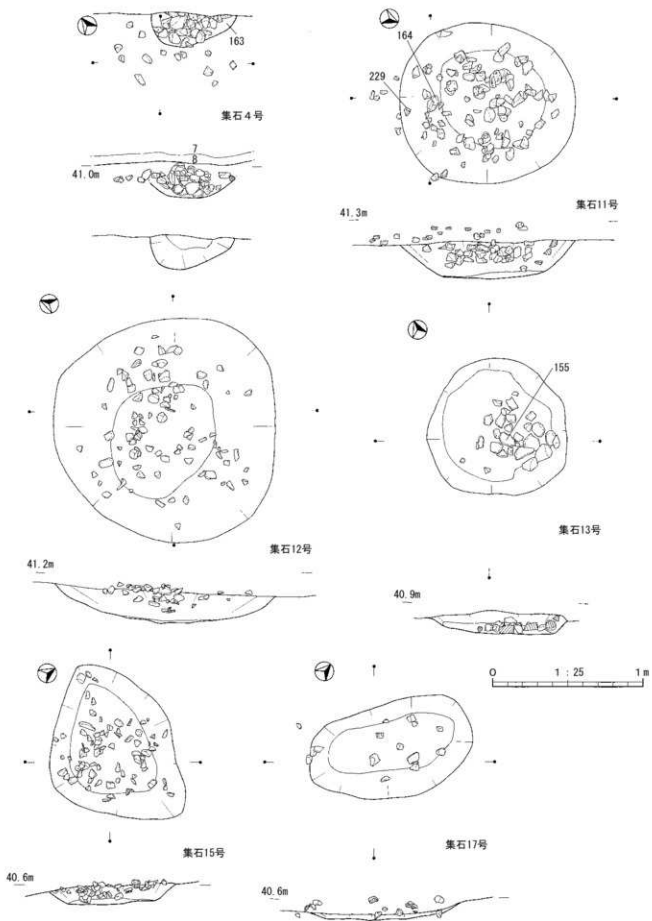
D-2区の10層上面で検出した。当初、土坑10号として調査したものである。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。埋土下位から条痕土器の胴部小片が出土した。

#### 集石 125号 (SS125)

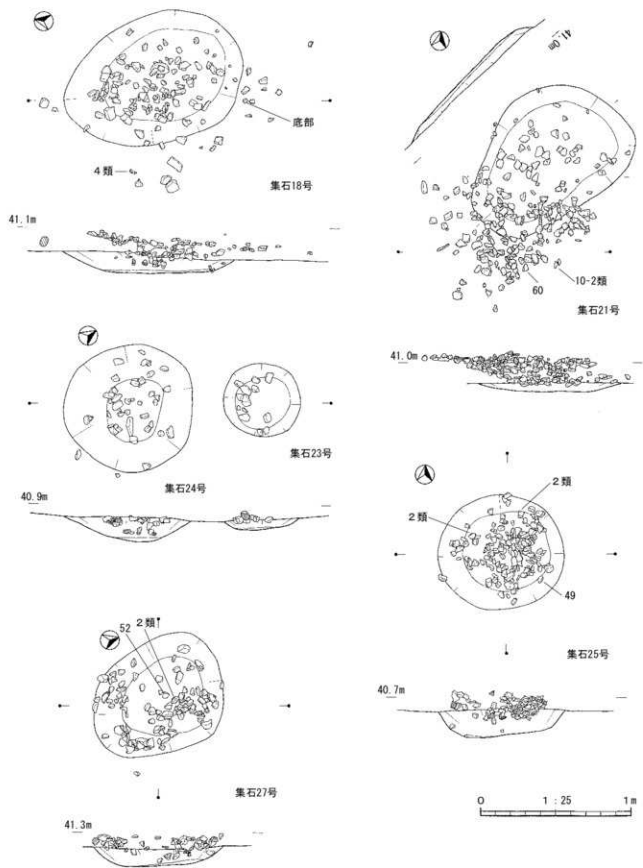
C-2区の10層上面で検出した。当初、土坑83号として調査したものである。掘り込み内から条痕土器の胴部片が出土している。

#### 集石 126号 (SS126)

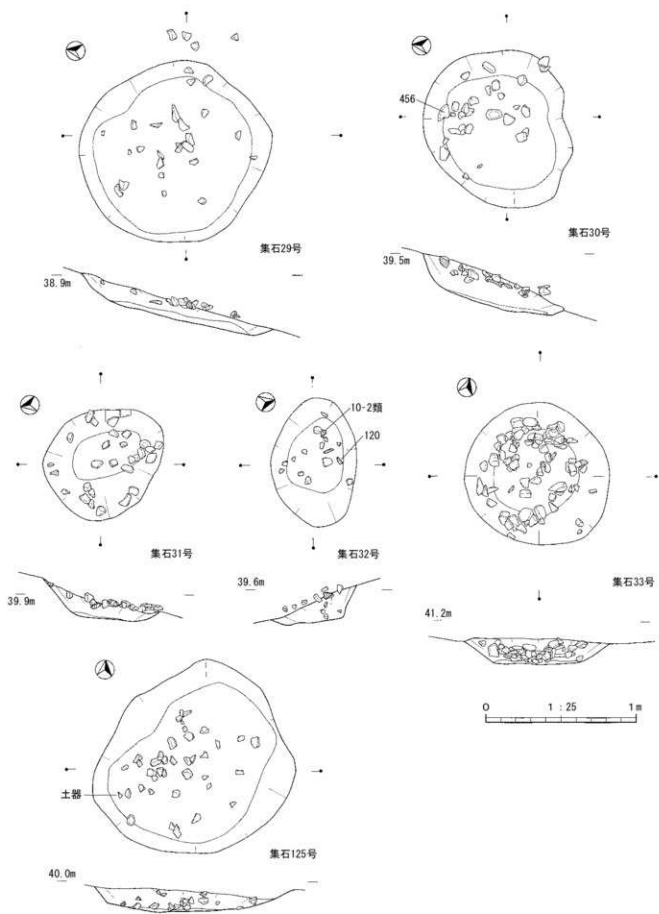
C-3区の10層上面で検出した。当初、土坑105号として調査したものである。礫の広がりに掘り込み範囲が広いが、複数の土坑が切り合っていると推測できる。土坑同士の切り合い関係は平面や埋土断面からは判断できなかった。南側は落とし穴6号の断面スライス調査用トレンチのために削平されている。礫の集中部から外れ



第38図 第1エリア集石(1)

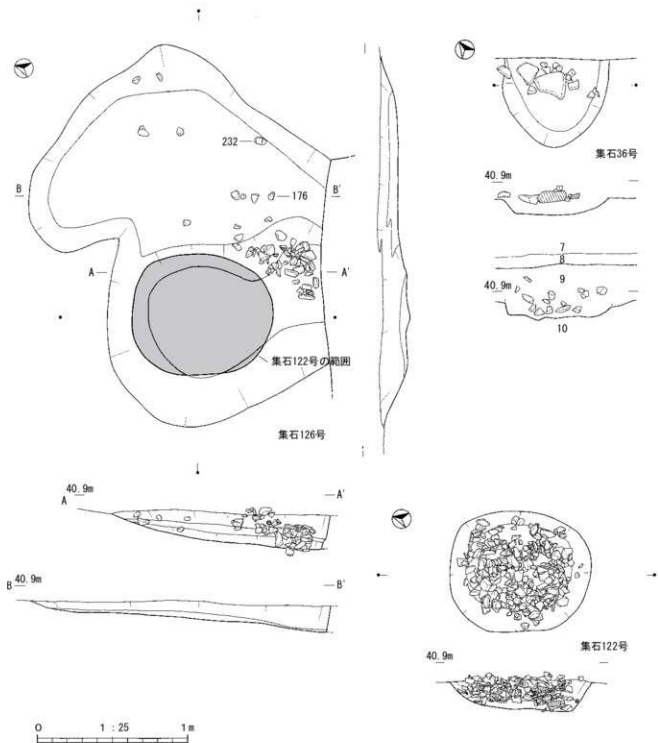


第39図 第1エリア集石(2)



第40図 第1エリア集石(3)





第41図 第1エリア集石(4)

た箇所、14-1 類土器の口縁部片(第83図176)と14 類土器の胴部片(第86図232)が出土した。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、かなり締まっている。炭化物粒をわずかに含む。

Ⅱ類(第42・43図)

集石2号(SS2)

B-4区の9層中位で検出した。礫の集中部と掘り込みの位置がずれている。

集石5号(SS5)

D-1区の9層中位で検出した。集石の範囲内から15 類土器の胴部片2点(第91図288)が出土した。掘り込みは9層下位で検出した。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。

集石7号(SS7)

D-3区の9層中位で検出した。検出面の下位から礫が多数出土した。集石の範囲内から14-2 類土器の胴部

片(第85図203の一部)と条痕文土器の胴部片が出土した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/1)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。礫集中部の土色は周囲より黒味が強い。

#### 集石 10号 (SS10)

B-4区の9層中位で検出した。集石の範囲内から黒曜石1種の剥片が出土した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。

#### 集石 14号 (SS14)

D-2区の9層下位で検出した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。

#### 集石 20号 (SS20)

B-3区の9層中位で検出した。

#### 集石 26号 (SS26)

B-3区の9層中位で検出した。掘り込みは9層下位で検出した。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスを含み、炭化物粒をわずかに含む。

#### 集石 28号 (SS28)

C-3区の9層中位で検出した。集石の範囲内から4類土器の胴部小片が出土した。

#### 集石 34号 (SS34)

C-3区の9層上位で検出した。礫の垂直分布にはレベル差がある。掘り込み検出面上位から、15類土器の胴部片(第91図289)が出土した。

#### 集石 35号 (SS35)

C-3区の9層中位で検出した。掘り込みにテラスをもつ。長径10cm以上の非破砕の円礫を含む。集石の周縁でチャート2類剥片が1点出土した。

#### 集石 37号 (SS37)

B-4区の9層下位で検出した。検出時、礫が少なく散在していたが、掘り込みが確認できたために集石と認定した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。

#### Ⅲ類 (第44図)

#### 集石 1号 (SS1)

B-5区の9層中位で検出した。非破砕礫が目立つ。

#### 集石 3号 (SS3)

B-4区の9層中位で検出した。

#### 集石 6号 (SS6)

B-2区の9層上位で検出した。礫の垂直分布にはレベル差がある。集石の範囲内から10類土器の胴部片2点、10-2類土器の口縁部片(第76図121)、14-2類土器の胴部片(第86図219)、20類土器の胴部片、条痕文土器胴部片、無文土器胴部片2点、チャート製石織(第110図357)、黒曜石2類剥片、チャート2類剥片が出土した。

#### 集石 9号 (SS9)

E-2区の9層下位で検出した。集石の範囲内から、14-1類土器の口縁部片(第83図178と同一個体)が出土した。

#### 集石 38号 (SS38)

B-5区の9層中位で検出した。集石の範囲内から、2類土器の口縁部片(第66図50)が出土した。

#### Ⅳ類 (第45図)

#### 集石 8号 (SS8)

D-3区の9層下位で検出した。礫周囲の土には炭化物粒をわずかに含む。範囲内から10類土器の胴部片が出土した。

#### 集石 19号 (SS19)

B-3区の9層中位で検出した。

#### 集石 22号 (SS22)

C-2区の9層中位で検出した。長径10cm以上の礫も目立つ。範囲内から3類土器の口縁部片(第67図64の一部)4類土器の胴部片、10-2類土器の口縁部片(第76図125)、15類土器の胴部片(第91図287)が出土した。

#### 第2エリア (第45~55図)

このエリアでは64基検出した。内訳はⅠ類が16基、Ⅱ類が22基、Ⅲ類が17基、Ⅳ類が9基である。

#### Ⅰ類 (第45~48図)

#### 集石 41号 (SS41)

E-7区の9層下位で検出した。礫がある程度まとまり、土色が周囲より黒味を帯びていたことから集石と認定した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、かなり締まっている。11a層土をわずかに含む。掘り込み検出面上位から14類土器の胴部片が出土した。

#### 集石 67号 (SS67)

C-12区の9層下位で検出した。検出時、礫は少なかったが、掘り込みが確認できたために集石と認定した。掘り込み内出土の礫が多い。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/1)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。

#### 集石 68号 (SS68)

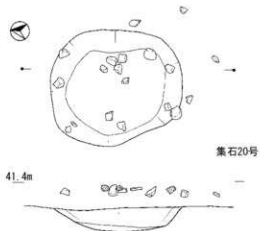
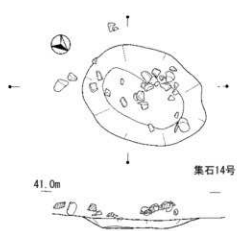
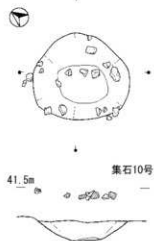
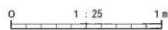
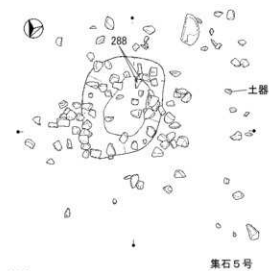
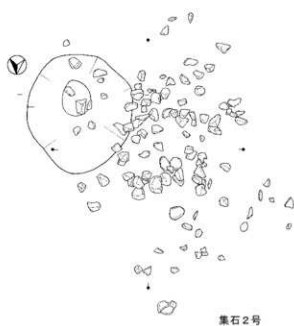
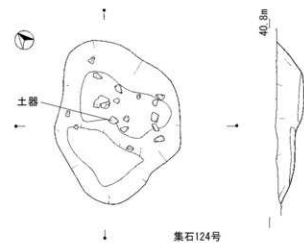
C-11区の10層上面で検出した。検出時、礫は少なかったが、掘り込みが確認できたために集石と認定した。

#### 集石 70号 (SS70)

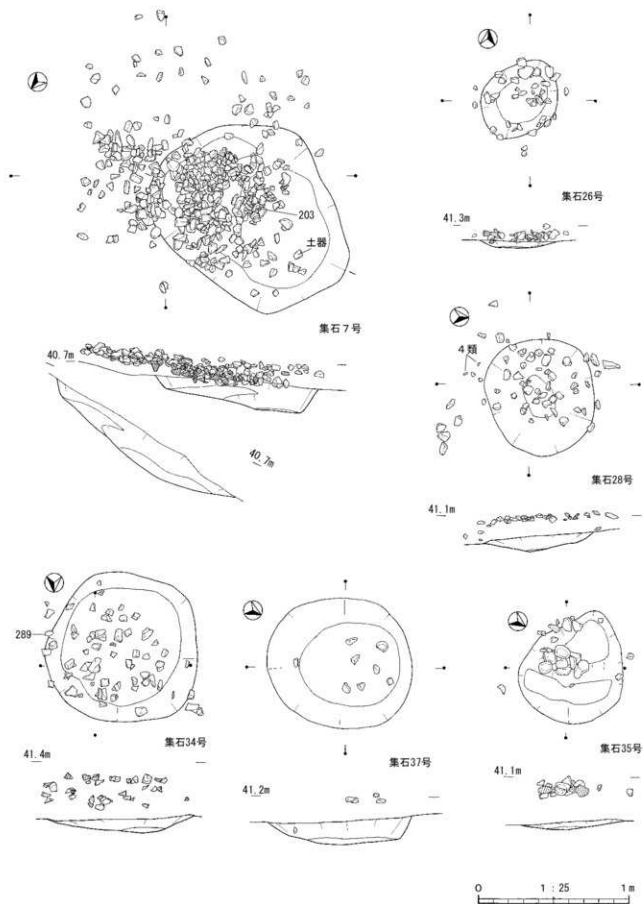
D-10区の9層下位で検出した。掘り込み内出土の礫が多い。掘り込みは深めで、埋土下位からは大きめの炭化物が出土した。この炭化物は<sup>14</sup>C年代測定の結果、8270±30BPを示した(第5章参照)。掘り込み検出面より上位で、10-2類土器の口縁部片(第77図134)が出土した。

#### 集石 74号 (SS74)

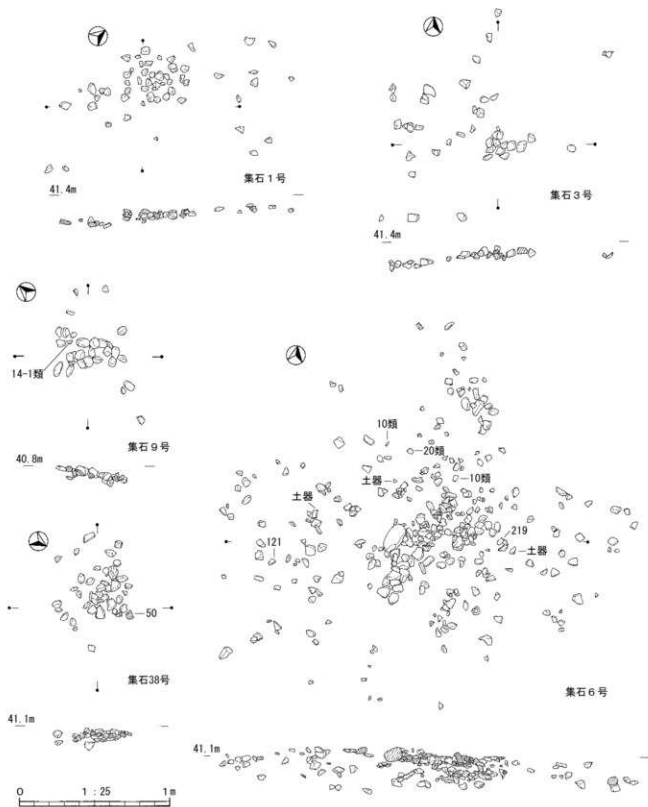
C-11・12区の9層下位で検出した。検出時に掘り込



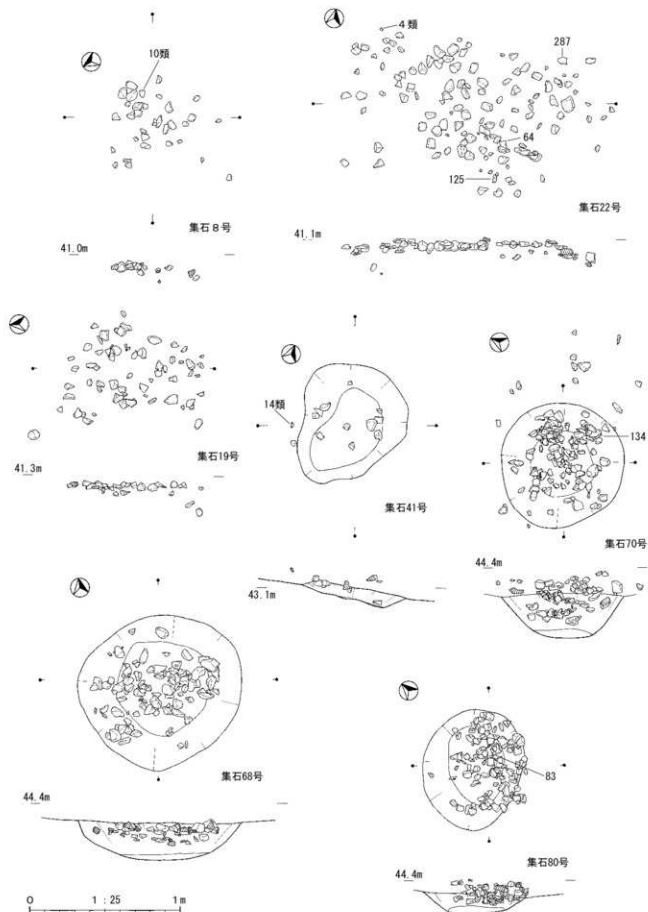
第42図 第1エリア集石(5)



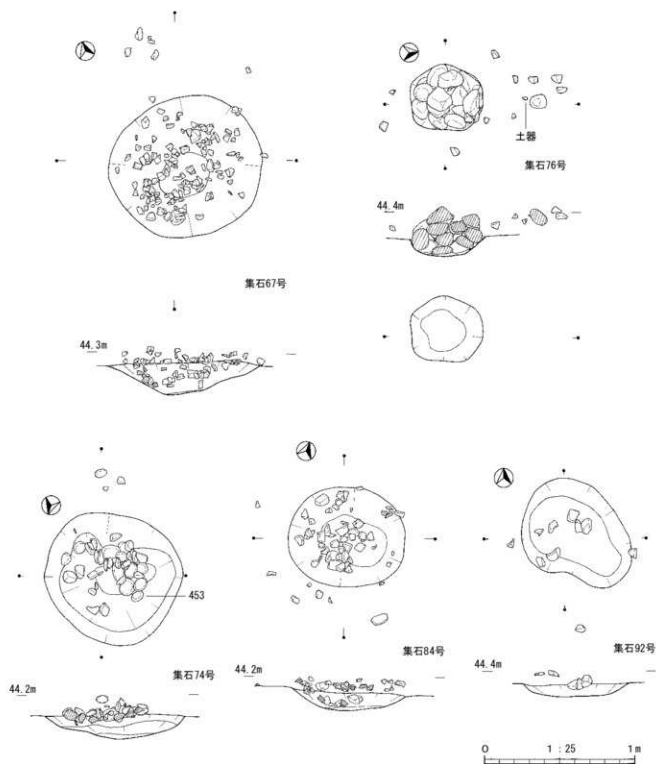
第43図 第1エリア集石(6)



第44図 第1エリア集石(7)



第45図 第1エリア集石(8)・第2エリア集石(1)



第46図 第2エリア集石(2)

みも確認した。大きめの円礫や角礫が大半を占める。掘り込み埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質土で、締まっている。掘り込み検出面直上から磨石・載石1類の完形品(第117図453)が出土した。

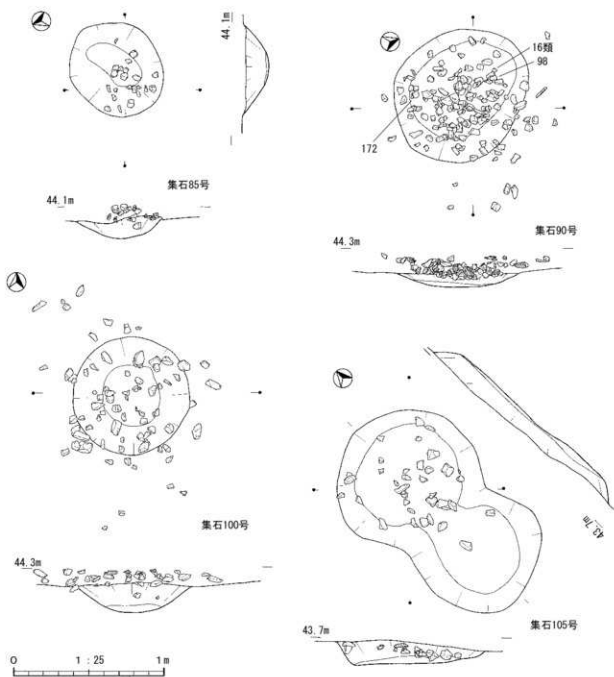
**集石76号(SS76)**

C-10区の9層下位で検出した。20cm程の非破砕の円

礫や角礫が密集している。凝灰岩の円礫が目立つ。掘り込み範囲外から無文土器の胴部小片が出土した。

**集石80号(SS80)**

C-9区の9層下位で検出した。検出時に掘り込みも確認した。掘り込み埋土上位から、6類土器の口縁部片(第70図83の一部)が出土した。



第47図 第2エリア集石 (3)

**集石 84 号 (SS84)**

B-9区の9層下位で検出した。検出時に掘り込みも確認した。非破砕礫が目立つ。

**集石 85 号 (SS85)**

B・C-9区の9層下位で検出した。掘り込みは10層上面で検出した。

**集石 90 号 (SS90)**

C-9区の9層下位で検出した。掘り込み検出面より上位から、9類土器の胴部片 (第72図98の一部)、13類土器の胴部片 (第80図172の一部)、16類土器の胴部片 (第91図291と同一個体) が出土した。

**集石 92 号 (SS92)**

D-12区の9層下位で検出した。礫がある程度まとまり、土色が周囲より黒味を帯びていたために集石と認定した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをおわずかに含む。

**集石 100 号 (SS100)**

D-10区の9層中位で検出した。掘り込みは9層下位で検出した。

**集石 105 号 (SS105)**

E-9区の9層中位で検出した。掘り込みの平面形状がひょうたん形をしていることから、2つの集石掘り込



みが切り合っている、または集石掘り込みと土坑が切り合っていると推測できる。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、黄褐色パミスをおおむね含む。

#### 集石 116号 (SS116)

F-8区の9層下位で検出した。10cm程の非破砕の角礫が密集している。

#### 集石 127号 (SS127)

C-10区の10層上面で検出した。当初、土坑41号として調査したものである。検出面は10層上面であるが、9層掘り下げ時から土色が黒味を帯びていた。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスと炭化物粒を含む。埋土上位から7類土器胴部片(第71図93の一部)と石鐘(第116図435)が出土した。

#### 集石 128号 (SS128)

B-9区の9層下位で検出した。当初、土坑49号として調査したものである。周囲に比べて土色が黒味を帯びていた。掘り込み内出土礫が多い。床面の一部は樹根のため不明である。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスを含む。

### Ⅱ類 (第48~52図)

#### 集石 39号 (SS39)

D-8区の9層中位で検出した。10cm程の礫がほとんどである。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスを含み、炭化物粒をおおむね含む。

#### 集石 61号 (SS61)

D-12区の9層中位で検出した。掘り込みは10層上面で検出しており、礫集中部と掘り込みがずれている。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスをおおむね含む。集石の範囲内で14類土器の胴部片5点(第85図209・第86図227・第87図235)と無文土器の胴部片が出土した。

#### 集石 65号 (SS65)

D-11区の9層中位で検出した。10cm以上の大きめの礫が目立つ。礫集中部の土色は黒味が強い。掘り込みは9層下位で検出した。掘り込み範囲外から石鐘(第116図436)が出土した。

#### 集石 66号 (SS66)

D-12区の9層中位で検出した。礫がある程度まとまり、土色が周囲より黒味を帯びていたために集石と認定した。掘り込みは9層下位で検出しており、礫集中部と掘り込みがずれている。掘り込み埋土は黒褐色(10YR4/2)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をおおむね含む。

#### 集石 71号 (SS71)

B-10区の9層中位で検出した。掘り込みは10層上面で検出しており、礫の広がりを中心からはずれている。集石の範囲内からは、10-2類土器の口縁部片2点(第

76図130)、10類土器胴部片、条痕文土器胴部片4点(第98図336)、チャート3類剥片が出土した。

#### 集石 75号 (SS75)

C-10区の9層中位で検出した。礫周辺の土色は黒味が強い。掘り込みは10層上面で検出しており、礫の集中部と掘り込みがずれている。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。

#### 集石 77号 (SS77)

C-10区の9層中位で検出した。集石中心部の土色は黒味が強かったものの、検出時には掘り込みが確認できず、10層上面で検出した。集石の範囲内で6類土器と無文土器の胴部小片が2点出土した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まりが弱い。炭化物粒をおおむね含む。

#### 集石 78号 (SS78)

A-11区の9層下位で検出した。調査範囲外にも広がる。礫集中部の土色は黒味が強い。調査区壁面で掘り込みの立ち上がりを探したが、確認できなかった。集石の礫として、磨石・砥石1類の破損品2点(第117図451)が利用されている。

#### 集石 87号 (SS87)

B-8区の9層下位で検出した。礫周辺の土色は周囲より黒味を帯びていたが、検出時には掘り込みは確認できず、10層上面で検出した。

#### 集石 93号 (SS93)

D-12区の9層下位で検出した。掘り込みは10層上面で検出しており、礫集中部と掘り込みがずれている。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスをおおむね含む。

#### 集石 94号 (SS94)

D-11区の9層下位で検出した。礫周辺の土色は周囲より黒味を帯びていたが、検出時に掘り込みは確認できず、10層上面で検出した。

#### 集石 101号 (SS101)

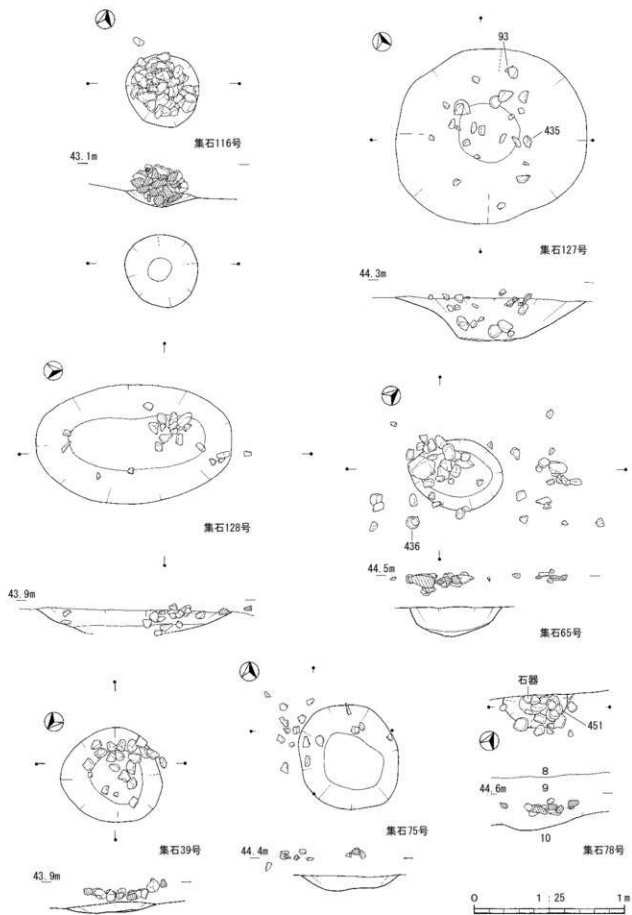
D-10区の9層下位で検出した。礫周辺の土色は周囲より黒味を帯びていたが、検出時には掘り込みは確認できず、10層上面で検出した。

#### 集石 103号 (SS103)

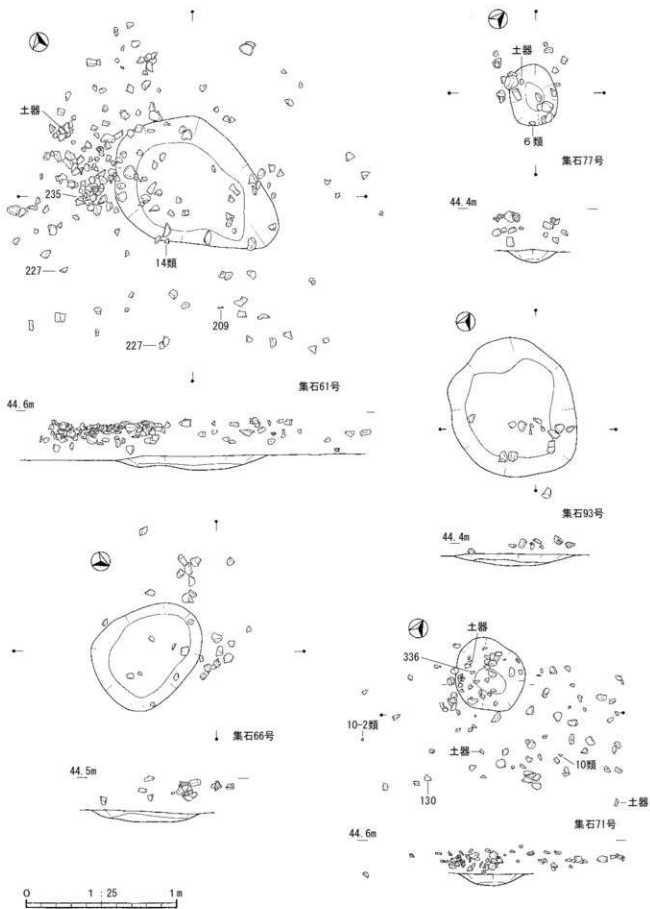
F-10区の9層下位で検出した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスをおおむね含む。

#### 集石 107号 (SS107)

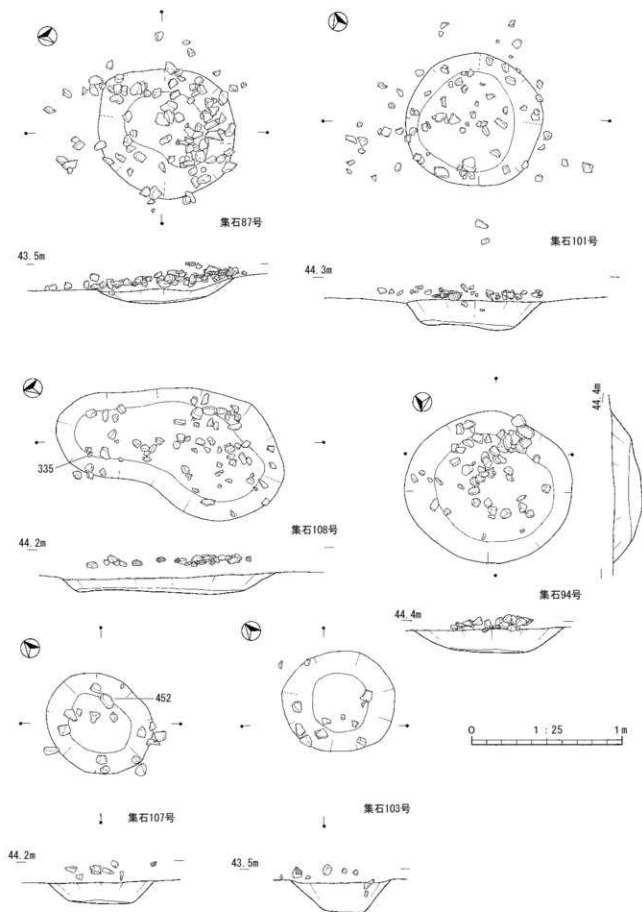
D-9区の9層下位で検出した。大型の円礫と角礫が大半を占める。掘り込み検出面上位から、磨石・砥石1類の破損品(第117図452)が出土した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄褐色パミスをおおむね含む。



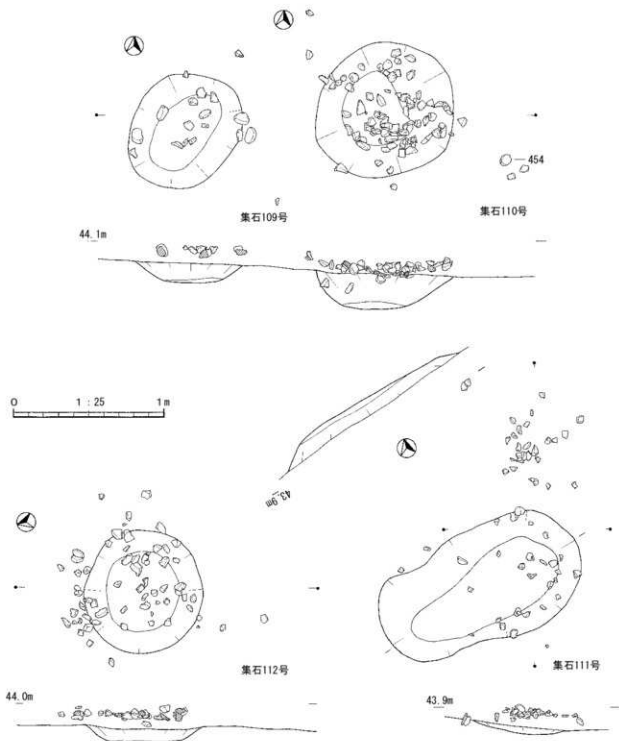
第48図 第2エリア集石(4)



第49図 第2エリア集石(5)



第50図 第2エリア集石(6)



第51図 第2エリア集石(7)

**集石 108号 (SS108)**

D-9区の9層下位で検出した。掘り込みは10層上面で検出した。掘り込み検出面上位から、22類土器の口縁部片(第98図335)が出土した。

**集石 109号 (SS109)**

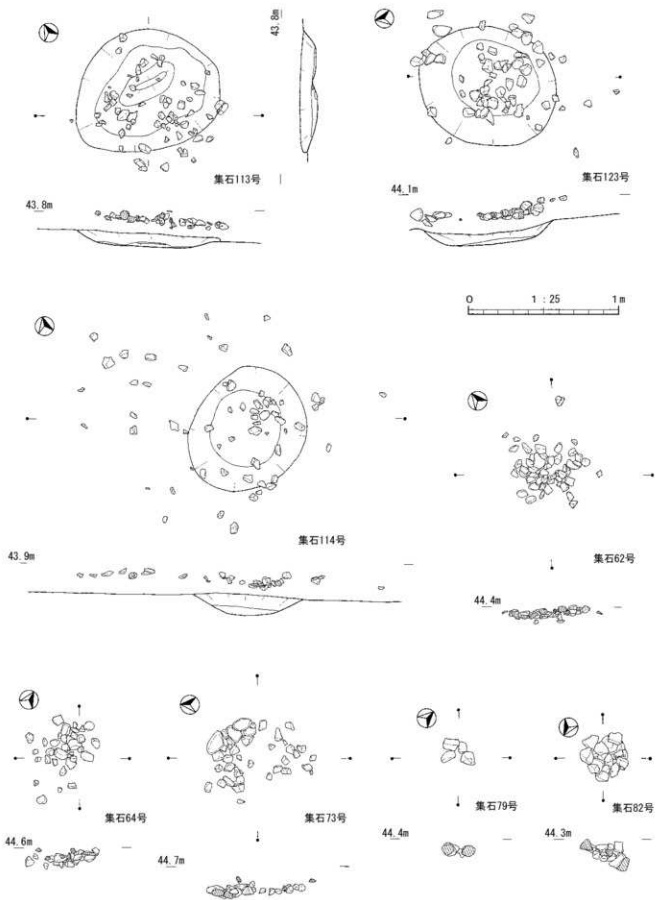
E-8区の9層下位で検出した。大型の破砕礫が多い。

**集石 110号 (SS110)**

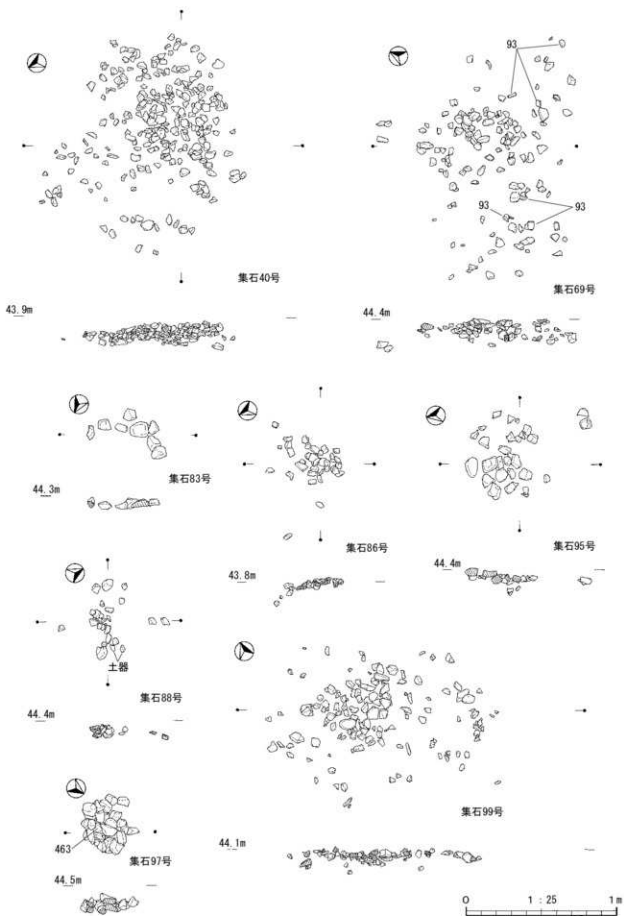
E-8区の9層下位で検出した。集石の周縁で磨石・蔽石1類の完形品(第117図454)が出土した。

**集石 111号 (SS111)**

E-8区の9層下位で検出した。掘り込みは10層上面で検出しており、礫の広がりと掘り込みがずれている。



第52図 第2エリア集石(8)



第53図 第2エリア集石(9)

**集石 112号 (SS112)**

E-8・9区の9層下位で検出した。

**集石 113号 (SS113)**

E-8区の9層中位で検出した。掘り込みは床面の中央部が盛り上がっている。

**集石 114号 (SS114)**

E-9区の9層中位で検出した。

**集石 123号 (SS123)**

D-8区の9層下位で検出した。10 cm程の礫が大半を占める。

**Ⅲ類 (第52～54図)**

**集石 40号 (SS40)**

D-8区の9層中位で検出した。

**集石 62号 (SS62)**

C-12区の9層中位で検出した。集石中心部の土色が周囲より黒味を帯び、炭化物粒をわずかに含むが、掘り込みは確認できなかった。

**集石 64号 (SS64)**

A-12区の9層中位で検出した。集石中心部の土色は周囲より黒味を帯びていたが、掘り込みは確認できなかった。

**集石 69号 (SS69)**

D-10区の9層下位で検出した。集石の範囲内から7類土器の胴部片6点(第71図93の一部)が出土した。

**集石 73号 (SS73)**

B-11区の9層中位で検出した。集石中心部の土色は周囲より黒味が強く、炭化物粒をわずかに含むが、掘り込みは確認できなかった。大型の破砕礫が大半を占める。

**集石 79号 (SS79)**

C-11区の9層中位で検出した。礫周辺の土色は周囲より黒味を帯びる。

**集石 82号 (SS82)**

D-9区の9層下位で検出した。10 cm程の角礫が密集している。

**集石 83号 (SS83)**

D-9区の10層上面で検出した。10 cm程の角礫で構成される。

**集石 86号 (SS86)**

B-8区の9層下位で検出した。

**集石 88号 (SS88)**

C-9区の9層中位で検出した。集石の範囲内から、20類土器に類似する胴部片2点が出土した。

**集石 95号 (SS95)**

E-11区の9層中位で検出した。10 cm程の角礫が大半を占める。

**集石 97号 (SS97)**

E-12区の9層中位で検出した。10 cm程の円礫と角礫が密集している。磨石・砥石2類の完形品(第119図463)

が利用されている。

**集石 99号 (SS99)**

E-9・10区の9層中位で検出した。

**集石 102号 (SS102)**

F-10区の9層中位で検出した。

**集石 104号 (SS104)**

F-9区の9層中位で検出した。

**集石 106号 (SS106)**

D・E-9区の9層中位で検出した。集石の範囲内から9類土器の口縁部片(第72図99)と14-1類土器の胴部片3点(第83図173の一部)、条痕文土器の胴部片が出土した。

**集石 115号 (SS115)**

F-9区の9層中位で検出した。20 cm弱の礫を含む。

**Ⅳ類 (第54・55図)**

**集石 42号 (SS42)**

E-8区の9層上位で検出した。被熱破砕の著しい礫が多い。

**集石 63号 (SS63)**

B-12区の9層中位で検出した。集石の中心部は炭化物粒がわずかに認められる。

**集石 72号 (SS72)**

B-10区の9層下位で検出した。集石の範囲内からチャート1類剥片が出土した。

**集石 81号 (SS81)**

B-9区の9層中位で検出した。集石の範囲内から、磨石・砥石1類の破損品が出土した。

**集石 89号 (SS89)**

C-9区の9層下位で検出した。礫の周辺において炭化物粒がわずかに認められる。

**集石 91号 (SS91)**

C-8区の9層中位で検出した。

**集石 96号 (SS96)**

D・E-11区の9層中位で検出した。

**集石 98号 (SS98)**

E-10区の9層中位で検出した。

**集石 120号 (SS120)**

C-7区の9層下位で検出した。集石中心部の土色は周囲より黒味をやや帯びる。

**第3エリア (第55・57～59図)**

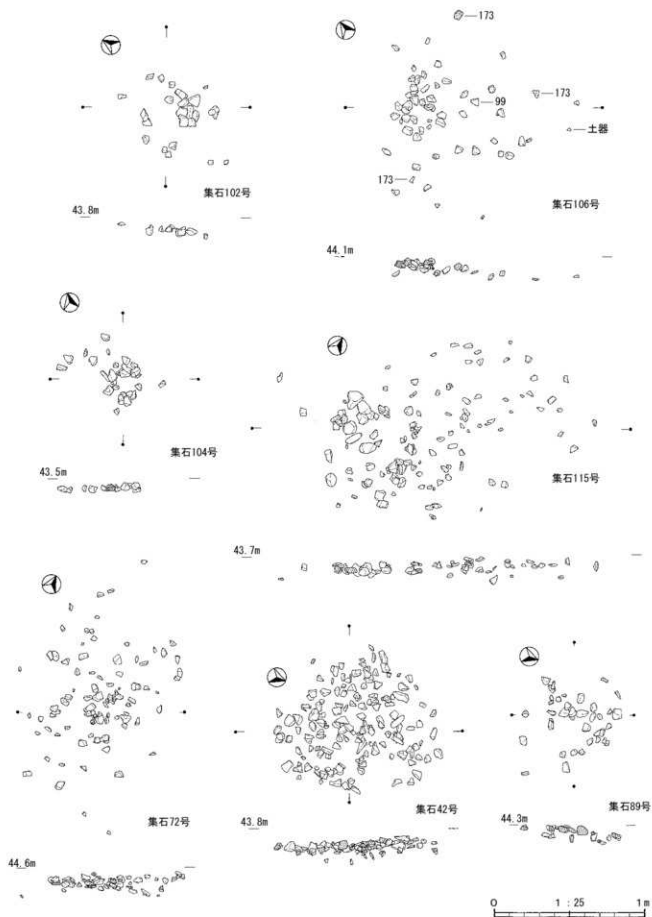
このエリアでは19基検出した。内訳はI類が4基、II類が8基、III類が3基、IV類が4基である。

**I類 (第55・57図)**

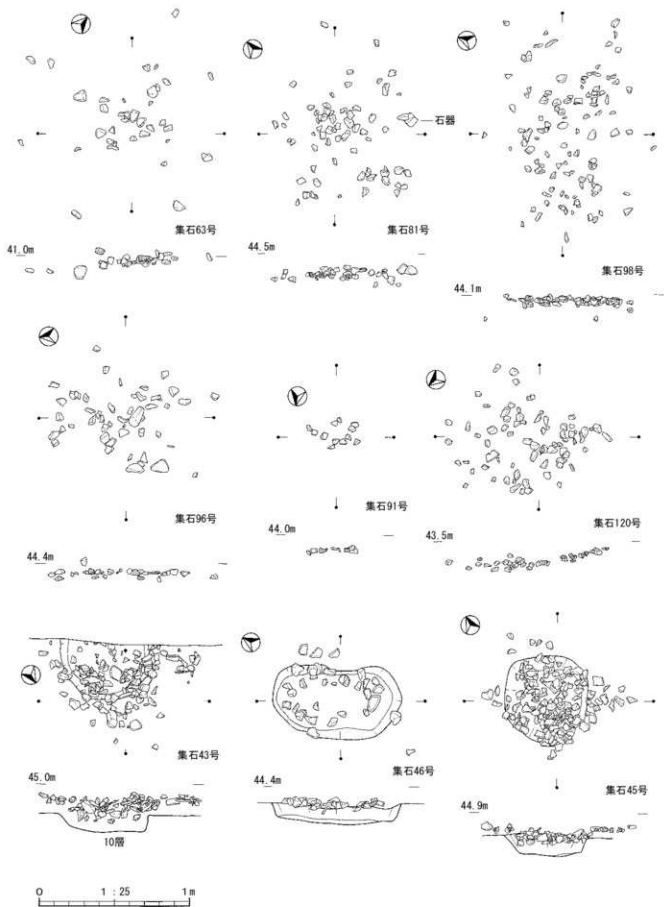
**集石 43号 (SS43)**

B-17区の9層下位で検出した。調査範囲外にも広がると推測できる。掘り込みは10層上面で検出しており、集石中心部と掘り込みがずれている。掘り込み埋土は黒

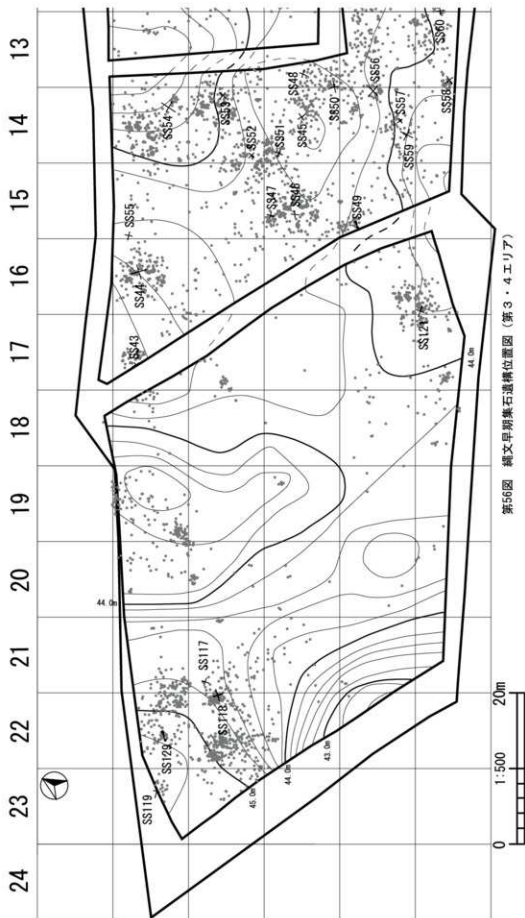




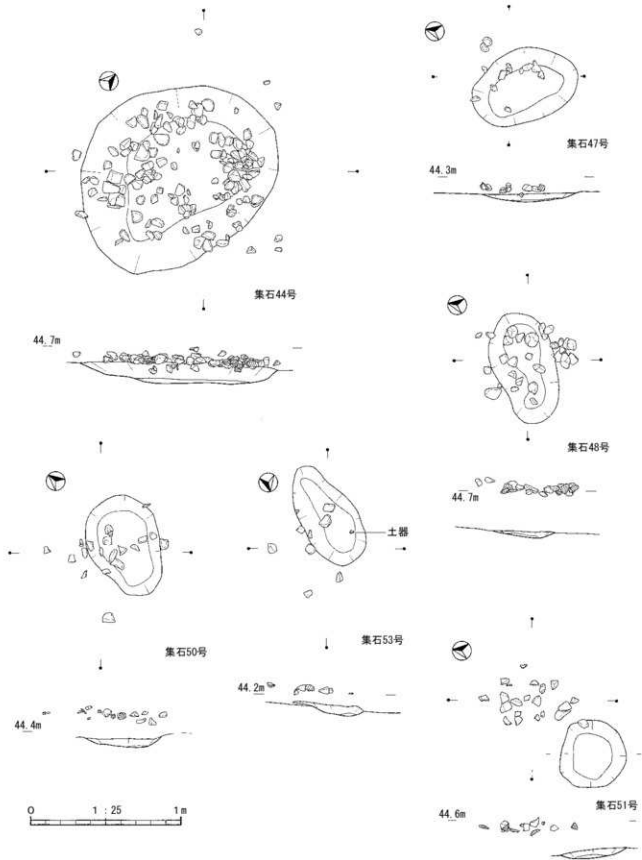
第54図 第2エリア集石 (10)



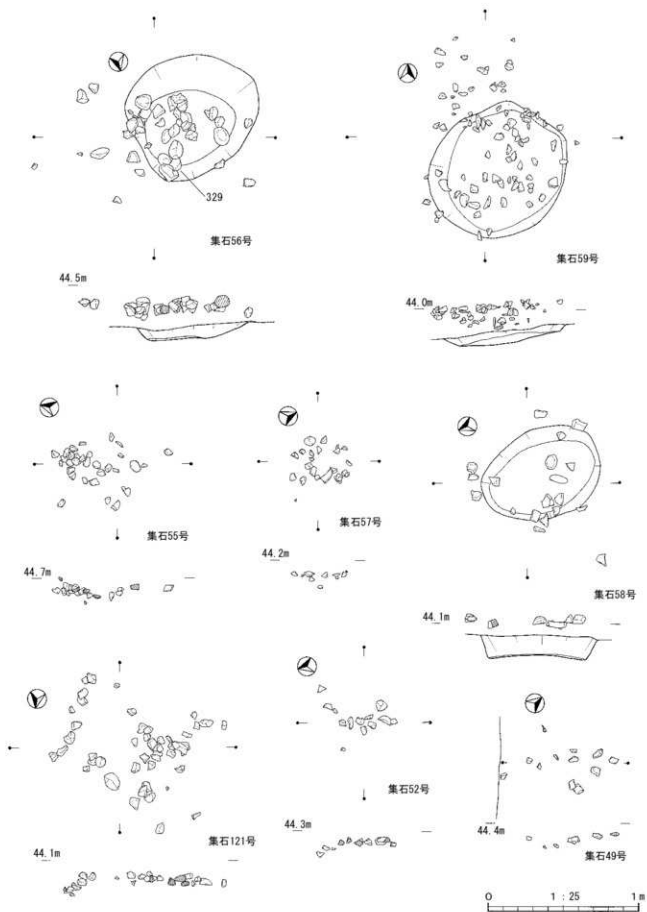
第55図 第2エリア集石(11)・第3エリア集石(1)



第56図 縄文早期集石遺跡位置図(第3・4エリア)



第57図 第3エリア集石(2)



第58図 第3エリア集石(3)

褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。9層土との区別が困難で、調査区壁面で掘り込みの立ち上がりを精査したが、確認できなかった。

**集石 44号 (SS44)**

B-16区の9層下位で検出した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。

**集石 45号 (SS45)**

D-14区の9層下位で検出した。掘り込み埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質土で、締まっている。

**集石 46号 (SS46)**

D-15区の10層上面で検出した。検出時に掘り込みも確認している。掘り込み埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスと炭化物粒をわずかに含む。掘り込み埋土は9層下部の土色と類似しており、区別が困難であった。

**Ⅱ類 (第57・58図)**

**集石 47号 (SS47)**

D-15区の9層下位で検出した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスを含み、白色粒を多く含む。

**集石 48号 (SS48)**

D-13区の9層中位で検出した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスを含む。

**集石 50号 (SS50)**

D-13・14区の9層中位で検出した。

**集石 51号 (SS51)**

D-14区の9層中位で検出した。礫と掘り込みがずれており、掘り込みが集石に伴うものではない可能性もありうる。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスと炭化物粒を含む。

**集石 53号 (SS53)**

C-14区の9層中位で検出した。掘り込み検出面上位から、無文土器の胴部小片が出土した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。

**集石 56号 (SS56)**

E-13・14区の9層下位で検出した。10 cm程の礫が大半を占める。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスと白色粒をわずかに含む。掘り込み検出面上位から、早期土器の底部片(第97図329)が出土した。

**集石 58号 (SS58)**

F-13区の9層中位で検出した。掘り込み埋土は黒色(10YR2/1)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。

**集石 59号 (SS59)**

E-14区の9層下位で検出した。礫が平面的にも、レベル的にも散在している。

**Ⅲ類 (第58図)**

**集石 55号 (SS55)**

B-15区の9層上位で検出した。

**集石 57号 (SS57)**

E-14区の9層下位で検出した。

**集石 121号 (SS121)**

F-16区の9層中位で検出した。

**Ⅳ類 (第58・59図)**

**集石 49号 (SS49)**

E-15区の9層中位で検出した。礫周辺の土色が周囲より黒味を帯びていたが、掘り込みは確認できなかった。

**集石 52号 (SS52)**

C-14区の9層中位で検出した。

**集石 54号 (SS54)**

B-14区の9層中位で検出した。集石の範囲内から無文土器の胴部小片が出土した。

**集石 60号 (SS60)**

F-12区の9層中位で検出した。集石の範囲内から、被熱した磨石・巖石1類の破損品が出土した。

**第4エリア (第59図)**

このエリアでは4基検出した。Ⅰ類が2基、Ⅲ類が1基、Ⅳ類が1基である。

**Ⅰ類**

**集石 117号 (SS117)**

C-21区の9層下位で検出した。掘り込み内出土礫が多い。

**集石 129号 (SS129)**

B-22区の10層上面で検出した。当初、土坑60号として調査したものである。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色バミスをわずかに含む。

**Ⅲ類**

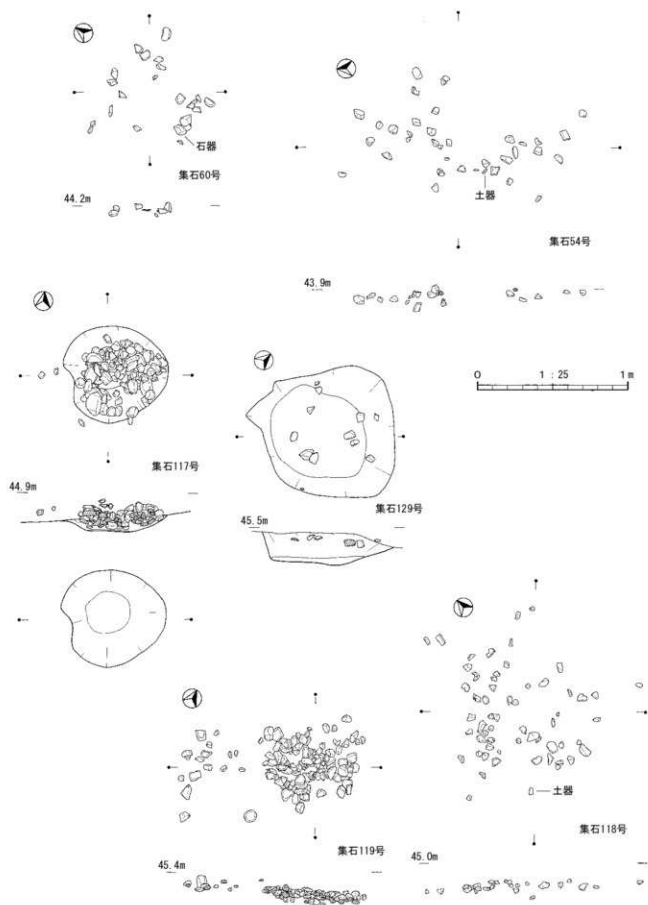
**集石 119号 (SS119)**

B-23区の9層下位で検出した。長径10 cm程の礫で構成される。

**Ⅳ類**

**集石 118号 (SS118)**

C-22区の9層下位で検出した。集石の範囲内で条痕文土器の胴部小片が出土した。



第59図 第3エリア集石(4)・第4エリア集石



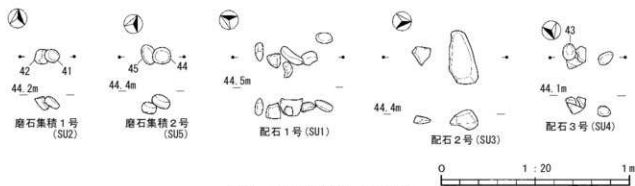




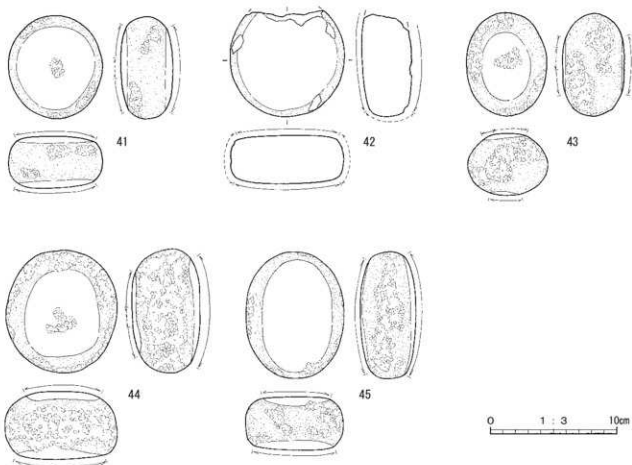


第12表 集石船察表(4)

| 変換番号  | 種別    | 分級 | 傾度(%) |      | 振り込み(%) |      | 積     |     | 石村別積数 |    |    |    | 積重量(%) |       |        |       | 積重量(%)別積数 |      |     |     | 積長さ(m) |     | 積長さ別積数 |      |      |      |     |     |    |    |   |
|-------|-------|----|-------|------|---------|------|-------|-----|-------|----|----|----|--------|-------|--------|-------|-----------|------|-----|-----|--------|-----|--------|------|------|------|-----|-----|----|----|---|
|       |       |    | 真横    | 真縦   | 真横      | 真縦   | 深込    | 積数  | 砂岩    | 頁岩 | 空山 | 層状 | 花崗     | 磁     | 平均層    | 中位層   | 層位層       | 層位層  | 層位層 | 層位層 | 層位層    | 層位層 |        | 層位層  | 層位層  | 層位層  |     |     |    |    |   |
| SS101 | 9層下位  | Ⅱ  | 0.65  | 1.5  | -       | -    | 78    | 68  | 9     | 0  | 0  | 0  | 32.3   | 47.5  | 438.2  | 4.3   | 17        | 18   | 1   | 2   | 0      | 0   | 5.7    | 11   | 2.7  | 38   | 30  | 2   |    |    |   |
| SS102 | 9層下位  | Ⅱ  | 0.85  | 0.6  | -       | -    | 23    | 20  | 2     | 0  | 1  | 0  | 106.5  | 92.9  | 238.4  | 13.8  | 12        | 8    | 3   | 0   | 0      | 0   | 6.8    | 7.4  | 0.3  | 4.5  | 4   | 19  | 0  |    |   |
| SS103 | 9層下位  | Ⅱ  | 0.85  | 0.7  | 0.25    | 0.7  | 0.22  | 13  | 11    | 1  | 0  | 0  | 138.6  | 125   | 308.5  | 28.1  | 6         | 3    | 1   | 1   | 1      | 0   | 3.1    | 7.3  | 0.4  | 2.7  | 3   | 19  | 0  |    |   |
| SS104 | 9層下位  | Ⅱ  | 0.78  | 0.55 | -       | -    | 27    | 27  | 0     | 0  | 0  | 0  | 71.8   | 65.5  | 187.1  | 18.1  | 21        | 6    | 0   | 0   | 0      | 0   | 6.3    | 6.4  | 0.7  | 4    | 3   | 22  | 0  |    |   |
| SS105 | 9層下位  | Ⅱ  | 1.55  | 0.95 | 1.55    | 0.95 | 0.15  | 37  | 34    | 13 | 0  | 0  | 86.2   | 68.4  | 273.7  | 2.1   | 22        | 12   | 3   | 0   | 0      | 0   | 6.4    | 6.5  | 0.3  | 3.4  | 0   | 29  | 0  |    |   |
| SS106 | 9層下位  | Ⅱ  | 1.4   | 1.3  | -       | -    | 57    | 32  | 25    | 0  | 1  | 0  | 175.7  | 188.6 | 301.1  | 13.3  | 5         | 4    | 7   | 1   | 1      | 0   | 7.9    | 7.8  | 11   | 4.7  | 1   | 14  | 2  |    |   |
| SS107 | 9層下位  | Ⅱ  | 0.8   | 0.7  | 0.25    | 0.63 | 0.13  | 17  | 11    | 2  | 3  | 1  | 0      | 0     | 175.7  | 188.6 | 301.1     | 13.3 | 5   | 4   | 7      | 1   | 1      | 0    | 7.9  | 7.8  | 11  | 4.7 | 1  | 14 | 2 |
| SS108 | 9層下位  | Ⅱ  | 1.4   | 0.85 | 1.52    | 0.83 | 0.13  | 66  | 65    | 0  | 1  | 0  | 0      | 42.1  | 63.1   | 306.9 | 4.9       | 41   | 21  | 3   | 1      | 0   | 0      | 6.3  | 6.26 | 10.3 | 3.3 | 15  | 30 | 1  |   |
| SS109 | 9層下位  | Ⅱ  | 0.85  | 0.95 | 0.65    | 0.67 | 0.13  | 18  | 13    | 5  | 0  | 2  | 0      | 169.5 | 141.7  | 400   | 23.4      | 4    | 0   | 3   | 3      | 4   | 0      | 7.8  | 7.4  | 12   | 4.4 | 12  | 13 | 3  |   |
| SS110 | 9層下位  | Ⅱ  | 0.85  | 0.95 | 0.32    | 0.9  | 0.23  | 86  | 84    | 0  | 0  | 2  | 0      | 0     | 367.3  | 347.7 | 288.3     | 5.7  | 47  | 36  | 2      | 0   | 0      | 6.8  | 7.1  | 10.2 | 2.4 | 11  | 74 | 1  |   |
| SS111 | 9層下位  | Ⅱ  | 1.85  | 1.25 | 1.4     | 0.78 | 0.13  | 59  | 38    | 19 | 1  | 1  | 0      | 0     | 56     | 44.1  | 228.3     | 7.3  | 59  | 8   | 1      | 0   | 5.4    | 5.2  | 9    | 2.8  | 28  | 31  | 0  |    |   |
| SS112 | 9層下位  | Ⅱ  | 1.2   | 1.4  | 0.8     | 0.78 | 0.1   | 64  | 40    | 24 | 0  | 0  | 0      | 34.1  | 34.635 | 248.4 | 4.2       | 48   | 12  | 4   | 0      | 0   | 6.2    | 5.96 | 10.8 | 3    | 36  | 47  | 1  |    |   |
| SS113 | 9層下位  | Ⅱ  | 1.05  | 0.95 | 1.0     | 0.8  | 0.6   | 67  | 38    | 27 | 0  | 0  | 2      | 52.2  | 31.3   | 368.7 | 1.4       | 59   | 6   | 1   | 1      | 5.1 | 4.9    | 9.7  | 2.2  | 35   | 32  | 0   |    |    |   |
| SS114 | 9層下位  | Ⅱ  | 2.05  | 1.45 | 0.85    | 0.73 | 0.12  | 62  | 41    | 1  | 0  | 0  | 0      | 68.2  | 41.7   | 386.4 | 4.3       | 48   | 11  | 2   | 1      | 0   | 0      | 5.15 | 5.3  | 2.8  | 29  | 42  | 0  |    |   |
| SS115 | 9層下位  | Ⅱ  | 1.8   | 1.4  | -       | -    | 121   | 52  | 61    | 8  | 0  | 0  | 74.2   | 36.5  | 635.5  | 1.5   | 89        | 7    | 9   | 6   | 3      | 7   | 5.7    | 5.4  | 12.8 | 2.3  | 31  | 87  | 3  |    |   |
| SS116 | 9層下位  | Ⅱ  | 0.6   | 0.4  | 0.3     | 0.45 | 0.08  | 63  | 46    | 1  | 6  | 10 | 0      | 0     | 354.9  | 303.8 | 685.7     | 43.7 | 3   | 19  | 18     | 33  | 8.7    | 8.4  | 14   | 5.4  | 0   | 39  | 24 | 0  |   |
| SS117 | 9層下位  | Ⅱ  | 0.85  | 0.6  | 0.7     | 0.65 | 0.08  | 192 | 65    | 29 | 6  | 2  | 0      | 131.6 | 116.6  | 504.9 | 11.7      | 42   | 35  | 12  | 13     | 2.2 | 6.16   | 13.9 | 3.7  | 11   | 82  | 9   |    |    |   |
| SS118 | 9層下位  | Ⅱ  | 1.35  | 1.35 | -       | -    | 59    | 37  | 18    | 3  | 1  | 0  | 0      | 52.2  | 45.3   | 185.4 | 8.3       | 53   | 6   | 0   | 0      | 5.4 | 5.3    | 5.7  | 3.1  | 23   | 26  | 0   |    |    |   |
| SS119 | 9層下位  | Ⅱ  | 1.25  | 0.7  | -       | -    | 118   | 61  | 47    | 7  | 3  | 0  | 0      | 106.9 | 84.25  | 332.3 | 9.2       | 71   | 28  | 12  | 3      | 6.6 | 6.4    | 11.1 | 3.1  | 22   | 92  | 4   |    |    |   |
| SS120 | 9層下位  | Ⅱ  | 1.13  | 0.9  | -       | -    | 74    | 71  | 3     | 0  | 0  | 0  | 39.0   | 40.85 | 213.1  | 8.6   | 60        | 13   | 1   | 0   | 5.7    | 5.4 | 9.3    | 3.7  | 27   | 47   | 0   |     |    |    |   |
| SS121 | 9層下位  | Ⅱ  | 1.2   | 1.1  | -       | -    | 46    | 44  | 0     | 2  | 0  | 0  | 122.1  | 101.7 | 653.3  | 13.1  | 22        | 19   | 4   | 1   | 6.9    | 6.5 | 11.9   | 3.9  | 4    | 39   | 3   |     |    |    |   |
| SS122 | 10層上層 | Ⅱ  | 1.95  | 0.8  | 0.95    | 0.8  | 0.2   | 266 | 168   | 67 | 0  | 1  | 0      | 0     | 58.4   | 40.65 | 561       | 5.2  | 225 | 21  | 8      | 2   | 6.3    | 6    | 11.2 | 3.5  | 68  | 191 | 7  |    |   |
| SS123 | 10層上層 | Ⅱ  | 1.4   | 1.1  | 0.35    | 0.38 | 0.13  | 160 | 55    | 4  | 1  | 0  | 0      | 138   | 101.8  | 448.8 | 8         | 249  | 15  | 12  | 4      | 2.1 | 6.8    | 12.8 | 2.9  | 11   | 43  | 6   |    |    |   |
| SS124 | 10層上層 | Ⅱ  | 1.65  | 0.85 | 1.05    | 0.85 | 0.15  | 167 | 6     | 11 | 0  | 0  | 0      | 36.9  | 32.9   | 198.1 | 7.7       | 16   | 1   | 0   | 0      | 5.4 | 5.8    | 10.5 | 3.3  | 9    | 1   | 1   | 0  |    |   |
| SS125 | 10層上層 | Ⅱ  | 1.3   | 1.2  | 1.3     | 1.2  | 0.15  | 37  | 11    | 25 | 0  | 1  | 0      | 0     | 52.8   | 40.8  | 143.9     | 9.6  | 32  | 3   | 0      | 0   | 5.9    | 5.9  | 0.5  | 4.1  | 19  | 27  | 0  |    |   |
| SS126 | 10層上層 | Ⅱ  | 2.3   | 1.69 | 2.3     | 1.90 | 0.2   | 96  | 64    | 0  | 2  | 0  | 0      | 67.7  | 45     | 312.3 | 12.2      | 52   | 9   | 4   | 1      | 6.2 | 5.95   | 12.1 | 3.6  | 18   | 45  | 3   |    |    |   |
| SS127 | 10層上層 | Ⅱ  | 1.25  | 1.15 | 1.25    | 1.15 | 0.25  | 24  | 13    | 9  | 1  | 0  | 0      | 133.4 | 108.35 | 668.8 | 14.1      | 15   | 4   | 2   | 3      | 2.1 | 6.15   | 10.8 | 4.2  | 4    | 17  | 3   |    |    |   |
| SS128 | 9層下位  | Ⅱ  | 1.45  | 0.8  | 1.3     | 0.8  | 0.127 | 21  | 12    | 7  | 1  | 0  | 0      | 135.8 | 86.35  | 371.3 | 2.3       | 12   | 7   | 0   | 3      | 7   | 6.6    | 12.7 | 2.6  | 4    | 16  | 2   |    |    |   |
| SS129 | 10層上層 | Ⅱ  | 1.0   | 0.95 | 1.0     | 0.95 | 0.15  | 12  | 11    | 0  | 1  | 0  | 0      | 192.3 | 174.25 | 353.1 | 12        | 8    | 3   | 0   | 1      | 6.6 | 6.3    | 9.7  | 4    | 2    | 10  | 0   | 0  |    |   |



第60図 磨石集積遺構・配石遺構



第61図 磨石集積遺構及び配石遺構出土石器

#### (5) 磨石集積遺構 (第60・61図)

磨石・敲石類が複数集積したものである。2基礎確認した。いわゆるデポの可能性も想定し、平面の精査や断面敲ち割り調査を行ったものの、掘り込みは確認できなかった。

##### 磨石集積1号 (SU2)

C-14区 の9層中位で検出した。磨石・敲石類が2点重なった状態で見つかった。

41は正・背面に磨面を、周縁に敲打痕を、正面に敲打

による凹みをもつ磨石・敲石3類である。42は正・背面に磨面を、周縁に敲打痕をもつ磨石・敲石2類である。ただし、器面の風化が著しく剥離も認められるため、敲打痕の範囲は不明である。

##### 磨石集積2号 (SU5)

D-11区 の9層中位で検出した。磨石・敲石類が2点重なった状態で見つかった。

44は正・背面に磨面を、周縁に敲打痕を、正面に凹みをもつ磨石・敲石3類である。背面の磨りは著しく、稜

線が認められる。45は正・背面に磨面を、周縁に敲打痕をもつ磨石・敲石2類である。正・背面の磨りは著しく、稜線が認められる。いわゆる「石舂型」を呈する。

#### (6) 配石遺構 (第60・61図)

磨石・敲石類や石皿を集積した、あるいは磨石・敲石類の礫や石皿類の礫を集積した遺構で、集石遺構とは異なる性格を想定したため、配石遺構として調査を行った。3基確認した。

##### 配石1号 (SU1)

D-15区の9層中位で検出した。6点の礫で構成されている。礫は著しく被熱しており、赤化している。一部、黒化しているものもある。

##### 配石2号 (SU3)

D-15区の10層上面で検出した。当初、磨石・敲石類と石皿で構成されていると考えていたが、調査後の礫の観察により、全て自然礫と判明した。ともに、赤化は認められない。

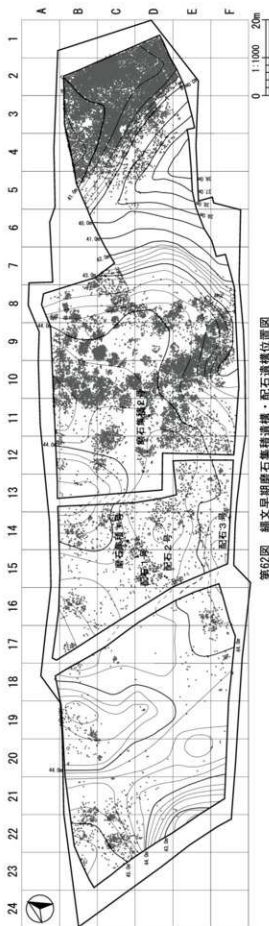
##### 配石3号 (SU4)

F-14区の9層中位で検出した。3点の礫と1点の磨石・敲石類で構成されている。3点の礫のうち、2点は被熱破砕礫である。

43は正・背面に磨面を、周縁に敲打痕を、正面に凹みをもつ磨石・敲石3類である。

第13表 磨石集積・配石遺構出土石器観察表

| 図号 | %  | 出土遺構        | 区    | 器種     | 分類 | 石材 | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 重量 (g) |
|----|----|-------------|------|--------|----|----|----------|----------|----------|--------|
| 61 | 41 | 磨石集積1 (SU2) | C-14 | 磨石・敲石類 | 3  | 砂岩 | 8.1      | 7.4      | 4.2      | 376    |
|    | 42 | 磨石集積1 (SU2) | C-14 | 磨石・敲石類 | 2  | 砂岩 | (8.4)    | 9        | 3.9      | 354.9  |
|    | 43 | 配石3 (SU4)   | F-14 | 磨石・敲石類 | 3  | 砂岩 | 8.2      | 6.3      | 4.9      | 347.9  |
|    | 44 | 磨石集積2 (SU5) | D-11 | 磨石・敲石類 | 3  | 砂岩 | 9.8      | 8.8      | 5.4      | 638.65 |
|    | 45 | 磨石集積2 (SU5) | D-11 | 磨石・敲石類 | 2  | 砂岩 | 10       | 7.7      | 4.4      | 536.09 |



第62図 縄文早期磨石集積遺構・配石遺構位置図

### 3 土器

縄文時代早期土器は主に9層から、約4,000点出土している。平面分布状況を見ると、16区以西からの出土は少なく、15区以東に偏っている。16区以西では、B・C-21~23区付近の標高が高いところに分布が認められ、集石など遺構の分布とも重なる(第63図参照)。

文様などから、1~22類に大別した。以下、各類について報告する。

#### 1類土器(第66図46・47)

口縁端部外面に貝殻腹縁による刺突文(貝殻刺突文)を施し、また口唇部に深めの刻みを施し、口縁端部内面に段を有することを特徴とする。2点確認し(接合作業前時点、以下同じ)、全て図示した。B・C-14区付近にのみ分布する(第64図参照)。

口縁部が直行し、口唇部の刻みにより正面観が鋸歯状となる口縁を呈する。外面はヨコ貝殻条痕後ナゲ調整を、内面はヨコナゲ調整を行う。

#### 2類土器(第66図48~63)

口縁端部外面に縦位の刺突文を、胴部に横・斜位の貝殻条痕文を施すことを特徴とする。88点確認し、16点図示した。B・C-2・3区、A~F-9~11区、B・C-21・22区の3ヶ所に分布する(第64図参照)。

器形は直行する口縁部から平底となる底部へ直線的に至る。波状口縁もみられる(55・56)。口縁部の刺突文は貝殻腹縁によるもの(48・49)、ヘラ状工具によるもの(50~56)がある。53は幅広の刺突文を2段に施す。55・56は貝殻刺突文にヘラ状工具による刺突文を重ねている。口唇部に刻みを施すものもある。内面は縦・斜位のケズリ調整(↑方向)を行う。

#### 3類土器(第67図64)

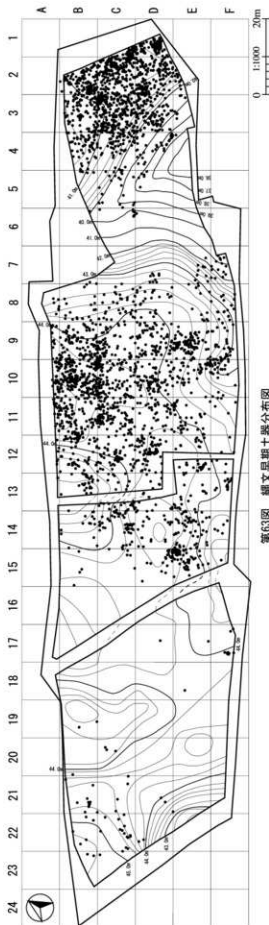
胴部に横位の貝殻条痕文を施し、さらにその貝殻条痕文に貝殻腹縁による短沈線文を重ねることを特徴とする。4点確認し(1個体分)、1点図示した。C-2区に分布する(第64図参照)。

口縁部は角部を形成するが、胴部は角部を形成しておらず、「上角下円」形となる。角部が一對となるレモン形を呈する可能性もある。緩やかな波状口縁を呈する。口縁端部外面にヘラ状工具による縦位の刺突文を施す。縦長の補修孔をもつ。内面はタテケズリ調整(↑)を行う。

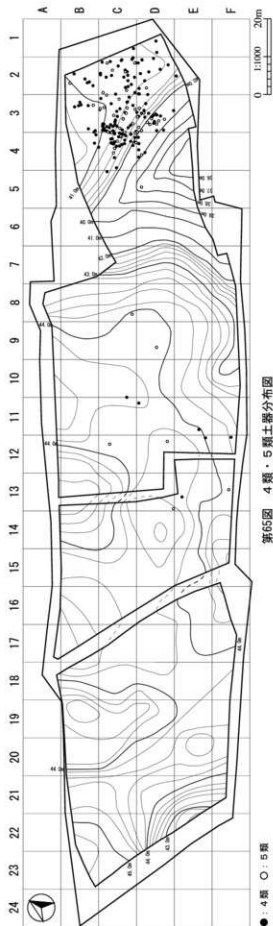
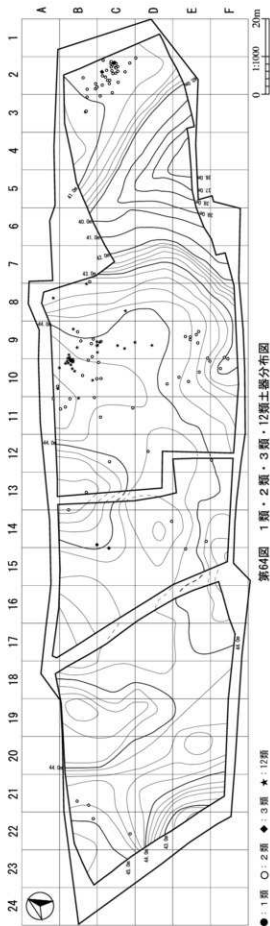
#### 4類土器(第67・68図65~75)

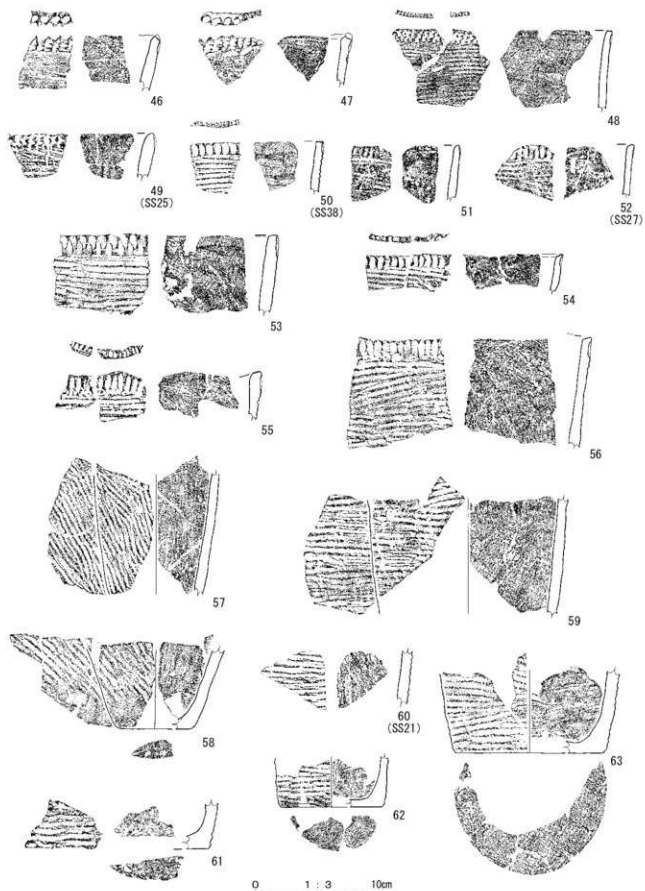
胴部に斜位の貝殻条痕文を施し、さらにその貝殻条痕文に縦・斜位の貝殻刺突文を重ねることを特徴とする。148点確認し、12点図示した。B~D-1~4区に分布が偏る(第65図参照)。

直行する口縁部から平底となる底部へ直線的に至る。円筒形のほか、角部をもつ角筒形またはレモン形を呈するものもある。口縁端部外面に横位の貝殻刺突文を2~



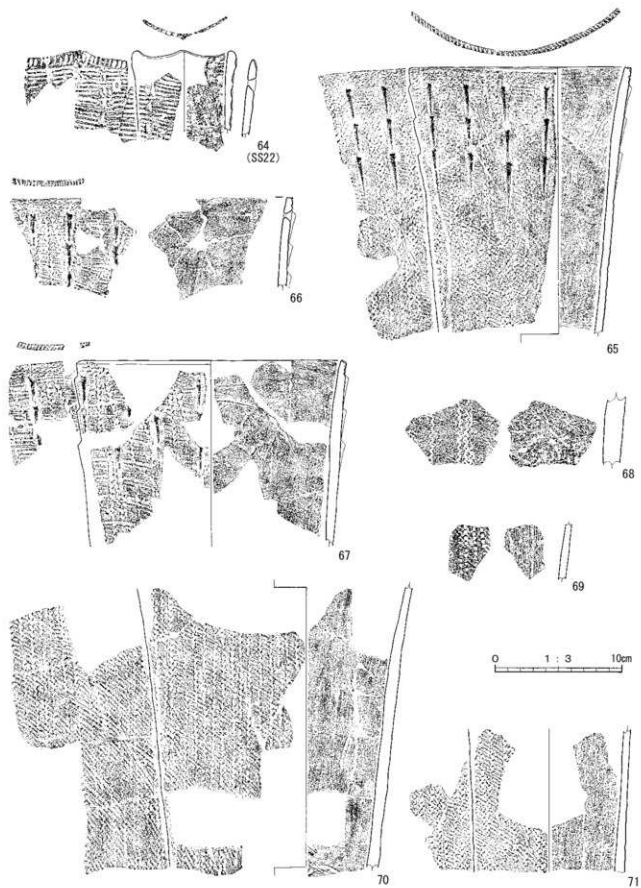
第63図 縄文早期土器分布図



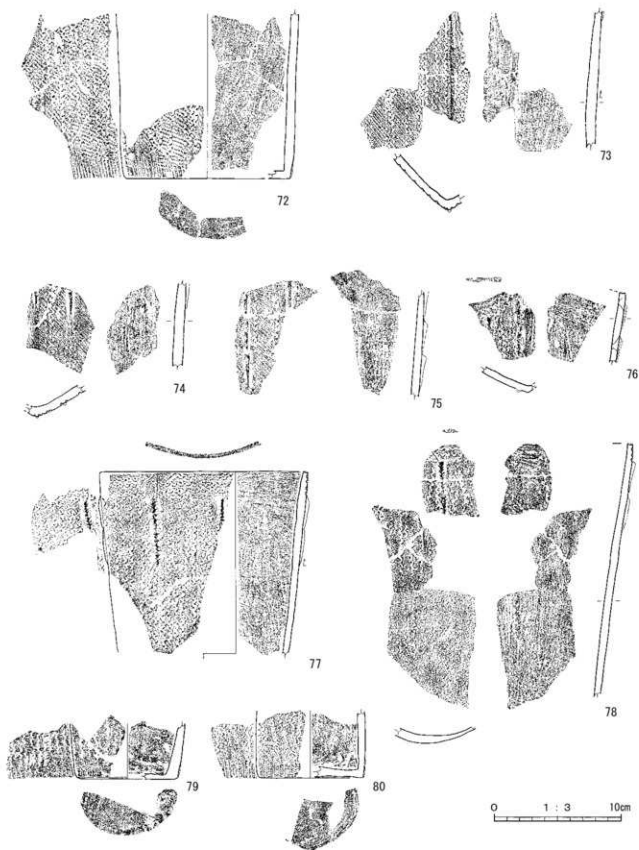


第66圖 1類・2類土器

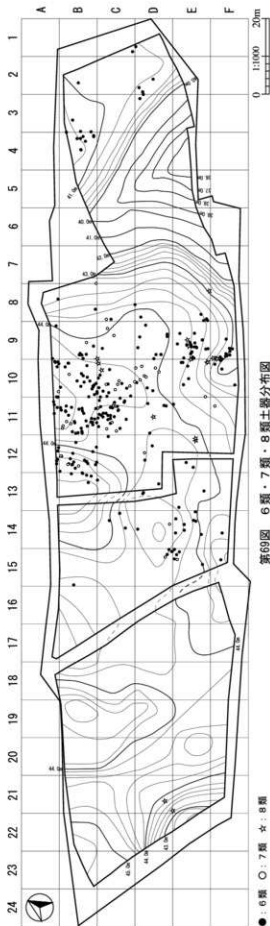




第67図 3類・4類土器



第68図 4類・5類土器



第69図 6類・7類・8類土器分布図

3段巡らせる。その下位には楔形突起を貼付し、その両側に柳状工具による刺突文を施す。その後、縦・斜位の貝殻刺突文を施す。口唇部にはヘラ状工具による刻みを施す。底部外面にヘラ状工具による刻みを巡らせる。内面は口縁部にヨコケズリ調整を、胴部にタテケズリ調整(↑)を行う。

66は縦長の補修孔をもつ。73~75は同一個体で、角部をもち、角部にも楔形突起を貼付する。

#### 5類土器 (第68図76~80)

胴部に貝殻条痕文が認められず、密接した貝殻刺突文を施すことを特徴とする。53点確認し、5点図示した。B~D-1~4区に分布は限られる(第65図参照)。

直行する口縁部から平底となる底部へ直線的に至る。円筒形のほかレモン形を呈するものもある。口縁部外面に横位の貝殻刺突文を3~4段巡らせる。その下位には楔形突起を貼付し、その両側に柳状工具による刺突文を施す。その後、縦・斜位の貝殻刺突文を施す。口唇部にはヘラ状工具による刻みを施す。底部外面にヘラ状工具による刻みを施す。内面は口縁部にヨコケズリ調整を、胴部に縦・斜位のケズリ調整(↑)を行う。

77・78・80は同一個体で、レモン形を呈する。77は波状口縁を呈し、角部付近に縦長の補修孔を上下二ヶ所にもつ。

#### 6類土器 (第70・71図81~91)

口縁部に楔状または楔形突起を意識した貝殻刺突文を施し、胴部に縦位の貝殻腹縁による横方向の押引文(貝殻押引文)を施すことを特徴とする。272点確認し、11点図示した。分布は8~15区に広がる(第69図参照)。

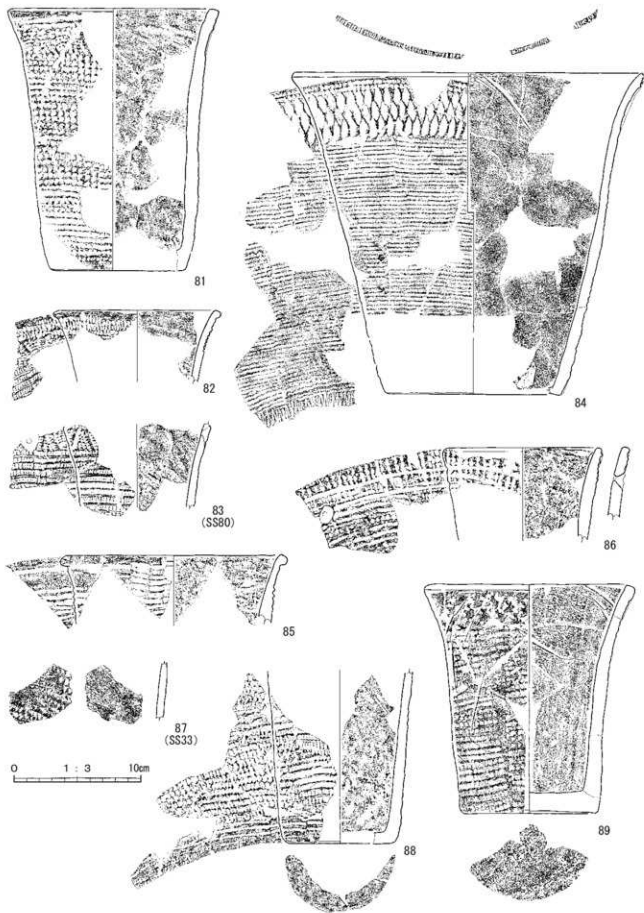
やや外反する口縁部からそのまま平底となる底部へ至る。内面は縦・斜位のケズリ調整(↑)やナゲ調整を行う。

口縁部外面に横位の貝殻刺突文を巡らせるもの(81~84)や巡らせないもの(85・86・89)がある。84は口縁部に貝殻腹縁による幅広の刺突文を3段施す。そして胴~底部には横位の貝殻条痕文を施す。86は縦位の貝殻刺突文を巡らせた後、沈線文を2条巡らせる。83・86は円形の補修孔をもつ。

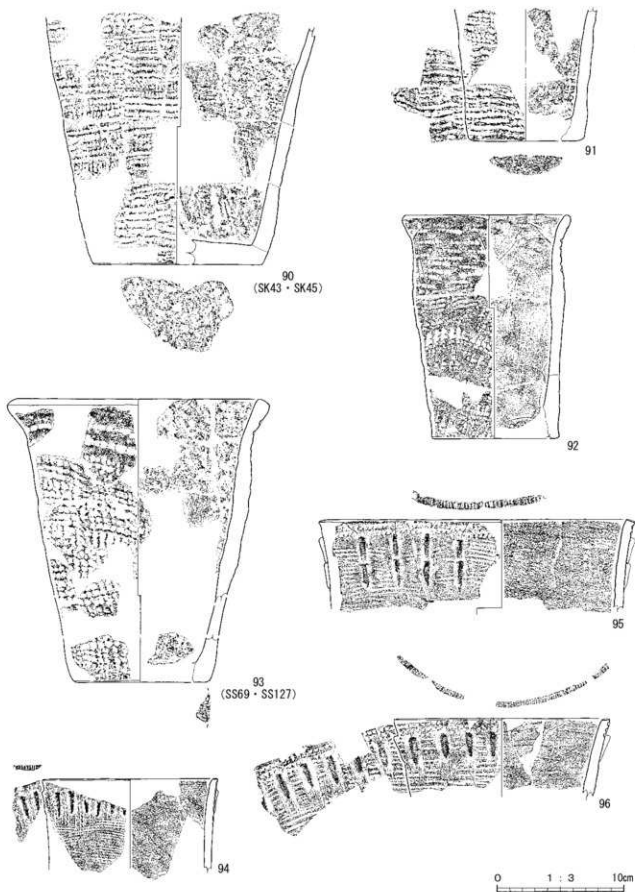
#### 7類土器 (第71図92・93)

口縁部に横位に貝殻刺突文を数段施し、胴部に貝殻押引文を施すことを特徴とする。楔状または楔形突起を意識した貝殻刺突文が認められないものである。44点確認し(2個体分)、2点図示した。なお、胴部片では6類または7類に分類できないものがあり、それらは6類に含めている。個体数は少ないが、9~11区に分布する(第69図参照)。

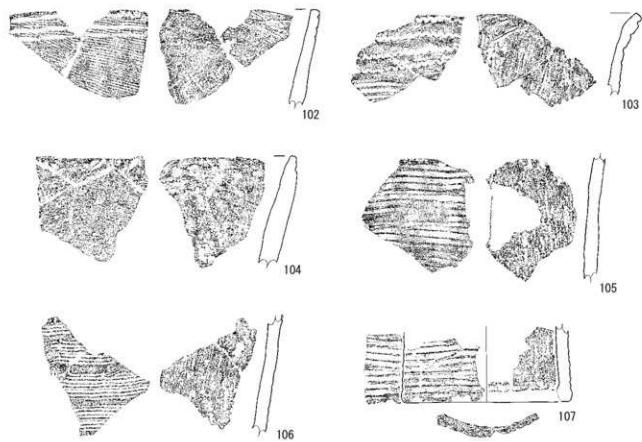
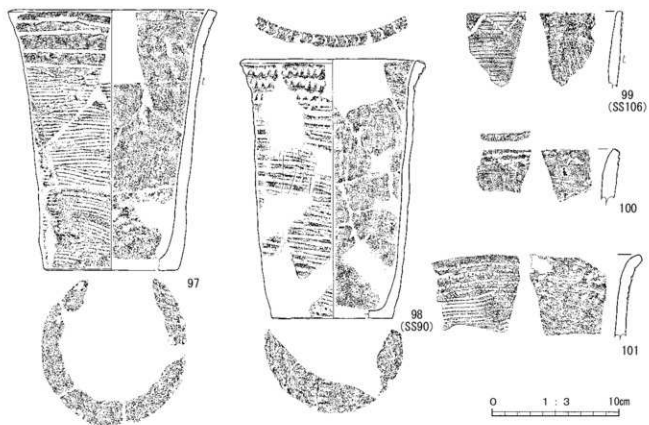
やや外反する口縁部からそのまま平底となる底部へ至る。内面は、口縁部にヨコケズリ調整を、胴部にタテケズリ調整(↑)を行う。93は胎土に石英・長石類が目立



第70図 6類土器



第71図 6類・7類・8類土器



第72図 9類土器

つ。

#### 8 類土器 (第 71 図 94~96)

口縁部に楔形突起を貼付し、胴部に横位の貝殻条痕文を施すことを特徴とする。また、楔形貼付文にシャープさが欠けることも特徴の一つである。18 点確認し (3 個体分)、3 点図示した。9~11 区のみ分布する (第 69 図参照)。

口縁部はやや外反する。口縁部外面に横位の貝殻刺突文を 2~3 段巡らせ、その下に楔形突起を貼付する。口唇部にヘラ状工具による刻みを施す。内面はヨコナデ調整やヨコミガキ調整を行う。

楔形突起の両側に 94 は縦位の貝殻刺突文を、96 は縦位の沈線文を施す。色調について、94・95 は赤褐色系を、96 は黄褐色系を呈する。

#### 9 類土器 (第 72 図 97~107)

口縁部に貝殻刺突文を施し、胴部に貝殻条痕文を施すことを特徴とする。104 点確認し、11 点図示した。9~12 区に多く分布する (第 73 図参照)。

口縁部は外反し、そのまま平底となる底部へ至る。内面は口縁部にヨコケズリ調整を、胴部にタテケズリ調整 (↑) を行うものがほとんどである。口縁部に横位の貝殻刺突文を 2~4 段施すものや彫削状に施すものがある。底部は、円形の粘土板の側面から胴部を積み上げていることがわかる (97・107 参照)。

#### 10 類土器 (第 75~80 図 108~164)

胴部に被杉状の貝殻条痕文を施すことを基本的な特徴とする。595 点確認した。口縁部形態から、2 類及びこれらに分類できない胴~底部に大別した。

##### 10-1 類 (第 75 図 108~110)

口縁部が外反するもの。口縁部がやや肥厚する。19 点確認し、3 点図示した。主に 9~11 区に分布する (第 74 図参照)。

口縁部外面に横位の貝殻刺突文を 2 段巡らせ、その下に斜位の貝殻刺突文を施す。内面はナデ調整を行う。108 は口唇部に浅い刻みを施す。円形の補修孔をもつ。

##### 10-2 類 (第 75~78 図 111~145)

口縁部が直行するもの。200 点確認し、35 点図示した。1~5 区と 8~13 区に分布する (第 74 図参照)。

文様により a~e の 5 つに細分した。口縁部にコブ状突起を貼付するものもある。内面は口縁部にヨコナデ調整またはヨコケズリ調整を、胴部にタテナデ調整 (↑) またはタテケズリ調整 (↑) を行うが、ケズリ調整が多い。円形の補修孔をもつ。

##### a 類 (111~126)

貝殻刺突文を横位に 2~4 段施すもの。122~126 はコブ状突起をもつ。

##### b 類 (127~136)

貝殻刺突文を彫削状に施すもの。横位の貝殻刺突文を

組み合わせるものもある。

##### c 類 (137~140)

貝殻刺突文を縦位または斜位に施すもの。縦位の貝殻刺突文の下位に横位の貝殻刺突文を施すものもある (137・138)。

##### d 類 (141・142)

横位の貝殻刺突文を器面全体に施すもの。外面には被杉状の貝殻条痕文が認められない。

##### e 類 (143~145)

被杉状の貝殻条痕文のみのもの。144・145 は同一個体で、小波状口縁を呈し、波頂部がやや肥厚する。

#### 胴~底部 (第 78~80 図 146~164)

1 または 2 類に分類できないもの。376 点確認し、19 点図示した。肋の幅が広いものや狭いものなど様々な貝殻条痕文が認められる。

#### 11 類土器 (第 80 図 165~167)

口縁部に横位の貝殻刺突文を施すもので、胴部の貝殻条痕文が確認できないため、9 類または 10 類に分類できないものである。51 点確認し、3 点図示した。

直行する口縁部で、内面はヨコ・ナナメナデ調整を行う。165 は円形の補修孔をもつ。

#### 12 類土器 (第 80 図 168・169)

内外面ともにナデ調整を行い、文様が施されないことを特徴とする。器壁厚が 4~5 mm と薄く、硬質なつくりであることも特徴の一つである。41 点確認し (1 個体分)、2 点図示した。B・C・9・10 区に分布する (第 64 図参照)。

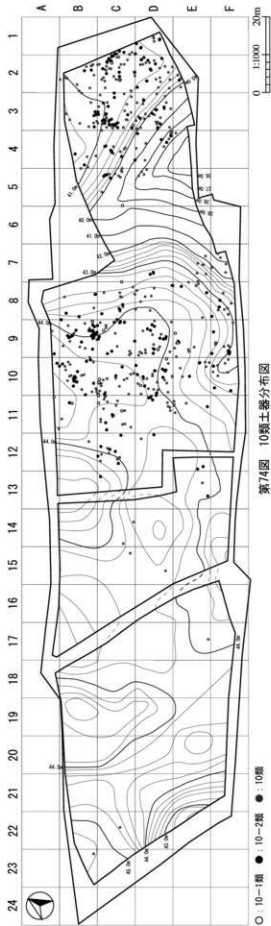
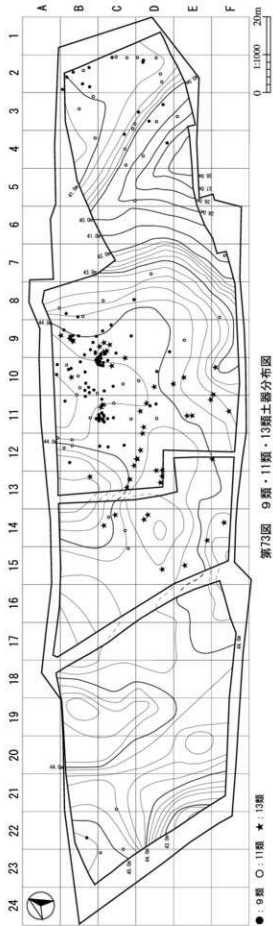
外傾する口縁部から、そのまま底部に至るもので、底部は尖底になると思われる。口縁部に円形の補修孔をもつ。胎土に石英・長石類と織維状のものを含む。

#### 13 類土器 (第 80 図 170~172)

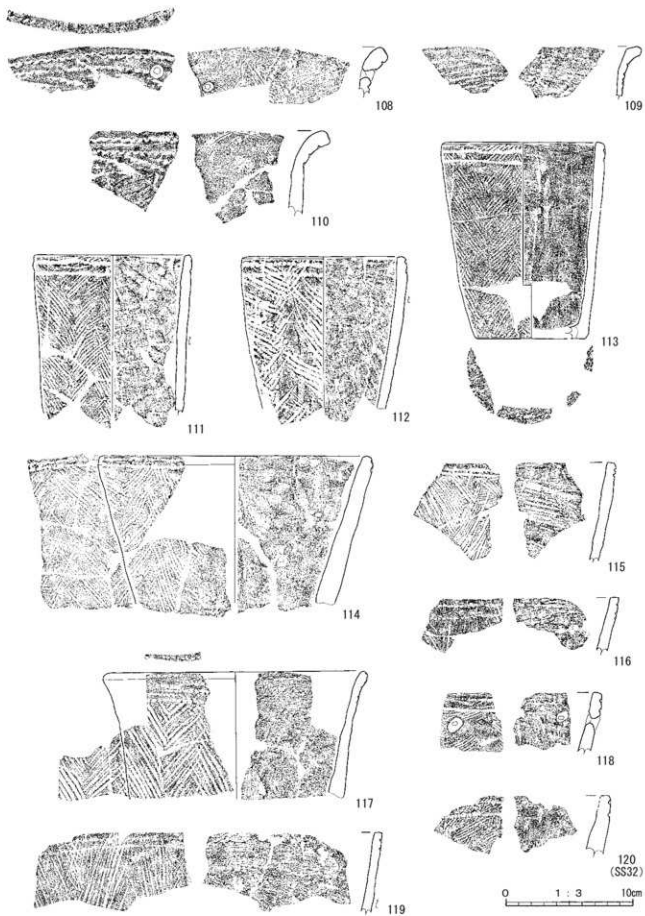
貝殻腹縁による条線文 (貝殻条線文) を施すことを特徴とする。この貝殻条線文は口縁部から胴部上半まで施される。また、貝殻条線文を縦位に施した後、横位に施しており、縦位のものはわずかに確認できる。48 点確認し (2 個体分)、3 点図示した。9~13 区に分布する (第 73 図参照)。

直行する口縁部からそのまま平底となる底部へ至る。内面は丁寧なナナメナデ調整またはナナメミガキ調整 (↑) を行う。

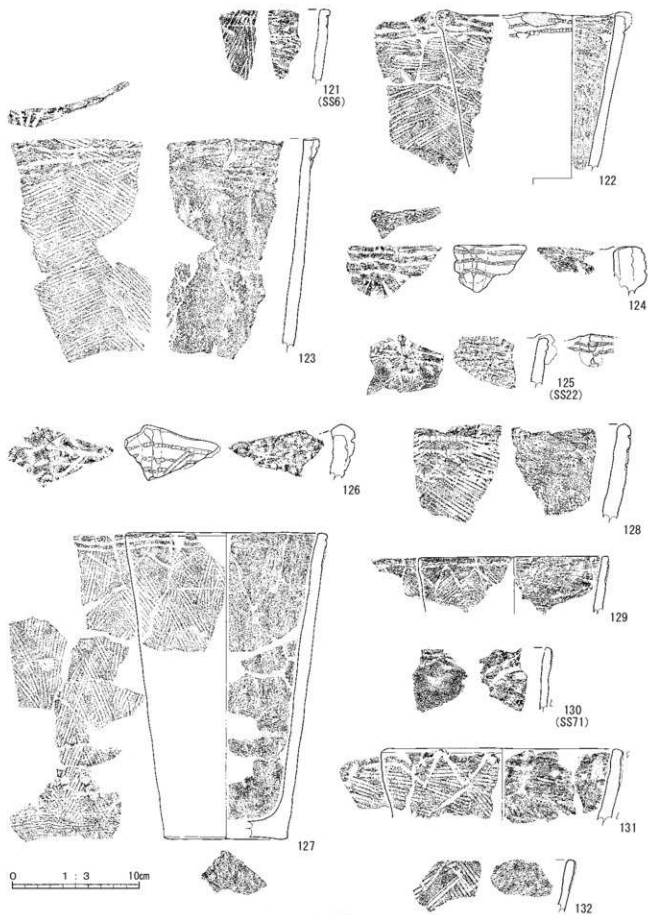
170・171 は同一個体で、橙色を呈し、胎土に石英・長石類の小礫を多く含む。170 は円形の補修孔をもち、その上位には穿孔途中の孔もある。器壁厚が 12~14 mm で厚手のつくりである。外面に炭化物が付着しており、<sup>14</sup>C 年代測定の結果、8730±25BP を示した (第 5 章参照)。172 は浅黄色を呈し、胎土に輝石・角閃石類を含む。また、上面観がやや楕円状を呈しており (15×13.5 cm)、歪み大きい。170 に比べて、器壁厚は薄い。



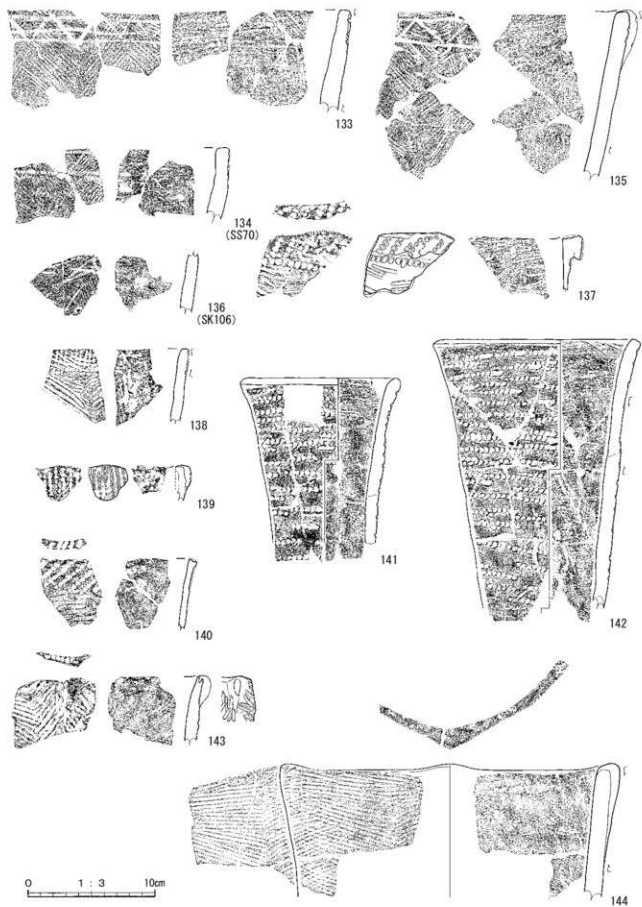




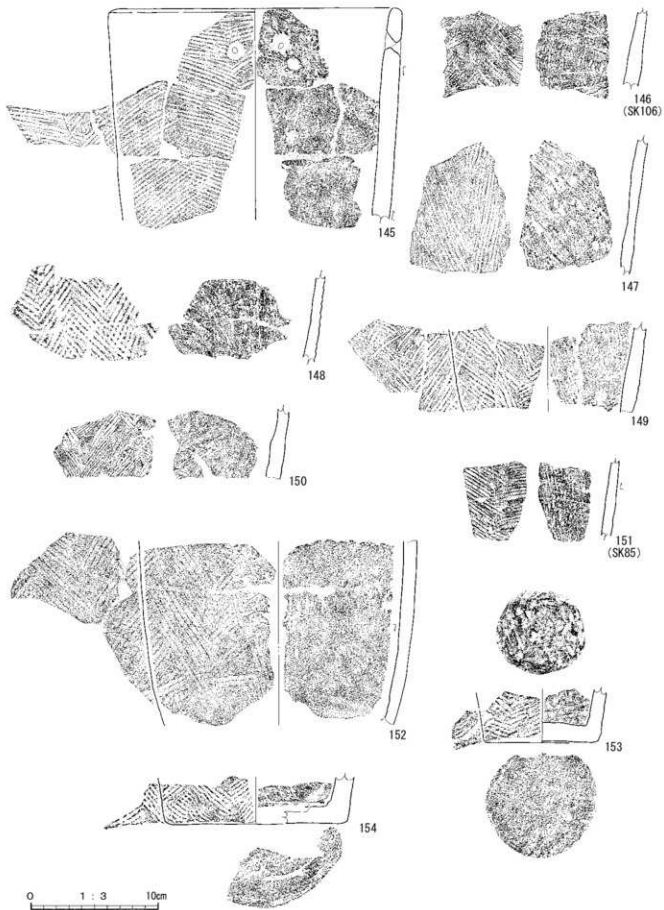
第75図 10類土器 (1)



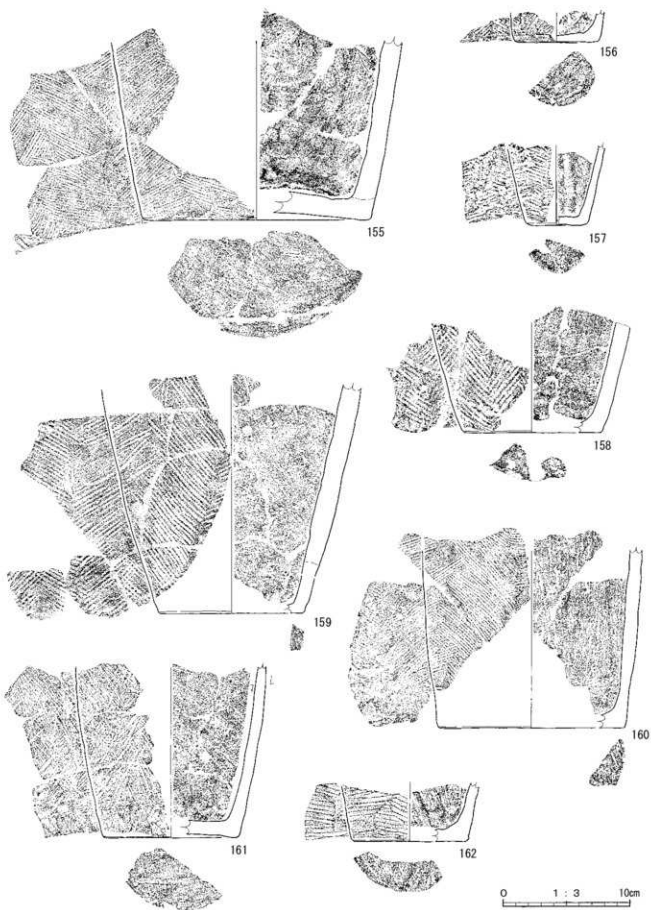
第76圖 10類土器 (2)



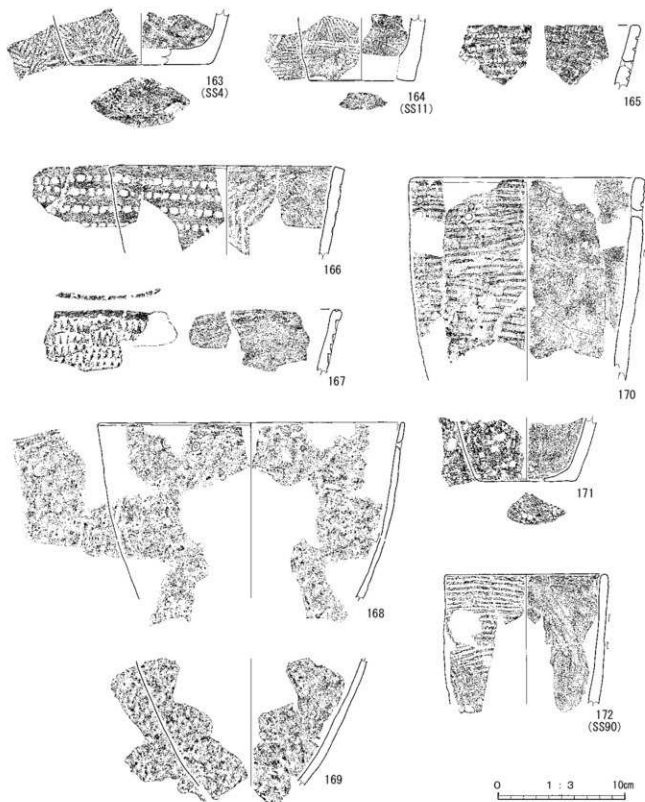
第77図 10類土器 (3)



第78図 10類土器 (4)



第79図 10類土器 (5)



第80圖 10類・11類・12類・13類土器

#### 14 類土器 (第 83～88 図 173～266)

器面全体に貝殻刺突文で文様を施すことを特徴とする。貝殻刺突文は縦位や縦位の単純なモチーフや鋸歯状や羽状を呈する複雑なモチーフに施される。890 点確認した。

器形は直行または内湾する口縁部から、そのまま平底となる底部へ至るものが基本である。口唇部に平坦面をもつものもある。波状口縁を呈するものや口縁部に山形突起をもつものもある。口縁部に縦長のコブ状突起をもつものがある。内面はナデ調整またはミガキ調整を行う(ケズリ状のもの有り)。調整痕が明瞭に残るものもある。胎土に石英・長石類や細かい金色雲母を含むものが多い。円形の補修孔をもつ。

口縁部文様帯の有無から、2 類及びこれらに分類できない胴～底部に大別した。

##### 14-1 類 (第 83・84 図 173～195)

口縁部に文様帯をもつもの。151 点確認し、23 点図示した。分布は B～E-1～5 区と B～D-9～15 区周辺の 2ヶ所にみられる (第 81 図参照)。

口縁部文様帯には、横位の貝殻刺突文を数段施すもの(173～191)、縦位の貝殻刺突文を巡らせるもの(192・193)、貝殻刺突文と短沈線文を組み合わせるもの(194・195)がある。口縁部文様帯の下位には、鋸歯状モチーフを縦方向に展開するもの(180～184、189～192 など)、羽状モチーフを横方向に展開するもの(174～177 など)、横位の貝殻刺突文を施すもの(192～195)がある。

173 は口縁部文様帯の下位に 4 条単位の縦位の貝殻刺突文を、間隔をおいて施す。一対のコブ状突起をもつ。177 は波状口縁を呈し、波頂部に縦長のコブ状突起をもつ。180 は穿孔途中の補修孔をもつ。185・186 は口縁部内面が突出している。193 は口縁部が強く内湾する。屈曲部下位に炭化物が付着しており、<sup>14</sup>C 年代測定を行ったものの、結果が得られなかった。

##### 14-2 類 (第 84～86 図 196～222)

口縁部文様帯が確認できないもの、または口縁部文様帯をもたず器面全体に単一文様を施すもの。326 点確認し、17 点図示した。9～15 区に分布し、1～5 区にはあまり認められない (第 81 図参照)。

横位の貝殻刺突文を施すもの(196～201)、縦位の貝殻刺突文を施すもの(202～209)、羽状モチーフをもつもの(210・211)、縦位と斜位の貝殻刺突文を組み合わせるもの(212・213)、斜位の貝殻刺突文を施すもの(214～217)、部分的に貝殻刺突文を施すもの(218～220)、貝殻押圧文を施すもの(221・222)がある。縦位の貝殻刺突文には、202・203 のようにロッキングしながら施文するものもある。

##### 胴～底部 (第 86～88 図 223～266)

1 類または 2 類に分類できない胴～底部を一括した。413 点確認し、45 点図示した。

横位の貝殻刺突文を縦方向に展開するもの(223～229 など)、羽状モチーフを横方向に展開するもの(230～239 など)、縦位の貝殻刺突文を横方向に展開するもの(240～247)、鋸歯状モチーフを縦方向に展開するもの(248～250 など)がある。

底部成形には、円盤状の粘土板の側面から胴部を立ち上げるもの(252・264 など)と、円盤状の粘土板の上面縁から胴部を立ち上げるもの(254)が認められる。

#### 15 類土器 (第 89～91 図 267～289)

器面全体に貝殻縁またはへら状工具により、鋸歯状、羽状、流水状などのモチーフを描くことを特徴とする。230 点確認した。

器形は直行または内湾する口縁部からそのまま平底となる底部へ至る。口唇部に平坦面をもつ。口縁部に縦長または横長のコブ状突起をもつものがある。内面はミガキ調整を行う。胎土に石英・長石類や細かい金色雲母を含むものも目立つ。

口縁部文様帯の有無から、2 類及びこれらに分類できない胴～底部に大別した。

##### 15-1 類 (267～272)

口縁部文様帯をもつもの。52 点確認し、6 点図示した。分布は B～D-1～4 区周辺に偏る (第 82 図参照)。

文様帯には横位の貝殻刺突文を数段巡らせるもの(267・271)や貝殻条線文を巡らせるもの(268)がある。口縁部文様帯下位には、貝殻条線文による鋸歯状モチーフを描く。271 は山形突起をもち、波頂部外面を肥厚させる。

##### 15-2 類 (273～282)

口縁部文様帯をもたず、器面全体に単一文様を施すもの。139 点確認し、10 点図示した。分布は B～D-1～4 区周辺に偏る (第 82 図参照)。

縦位の貝殻条線文(273～275)や羽状モチーフを横方向に展開するもの(276・280～282)、縦位の流水状モチーフのもの(277～279)がある。

##### 胴～底部 (283～289)

1 類または 2 類に分類できない胴～底部を一括した。39 点確認し、7 点図示した。283 はへら状工具による縦位の沈線文を横方向に展開する。285 はへら状工具による沈線文を不規則に施す。

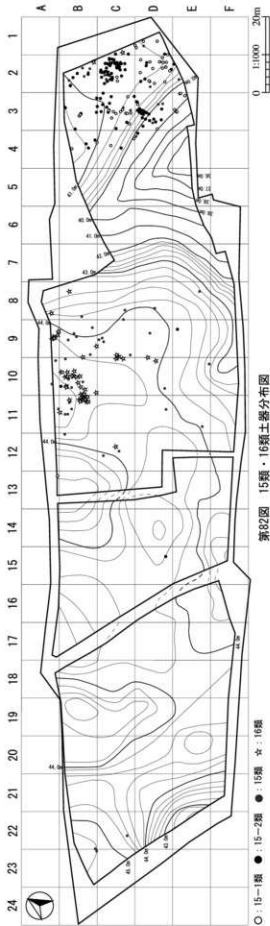
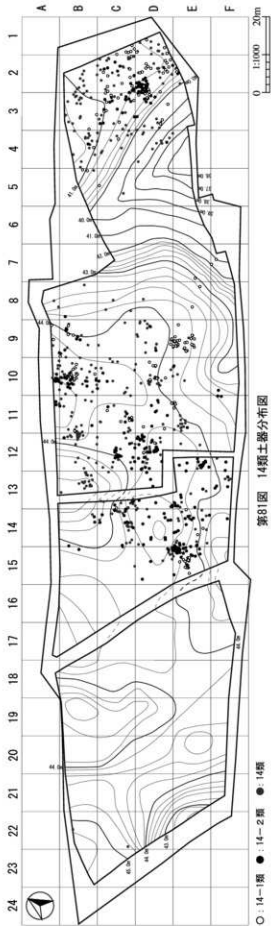
#### 16 類土器 (第 91 図 290～293)

器面全体に短沈線文で文様を施すことを特徴とする。48 点確認し(2 個体分)、3 点図示した。口縁部が内湾し、そのまま底部へ至る。内面はミガキ調整を行う。

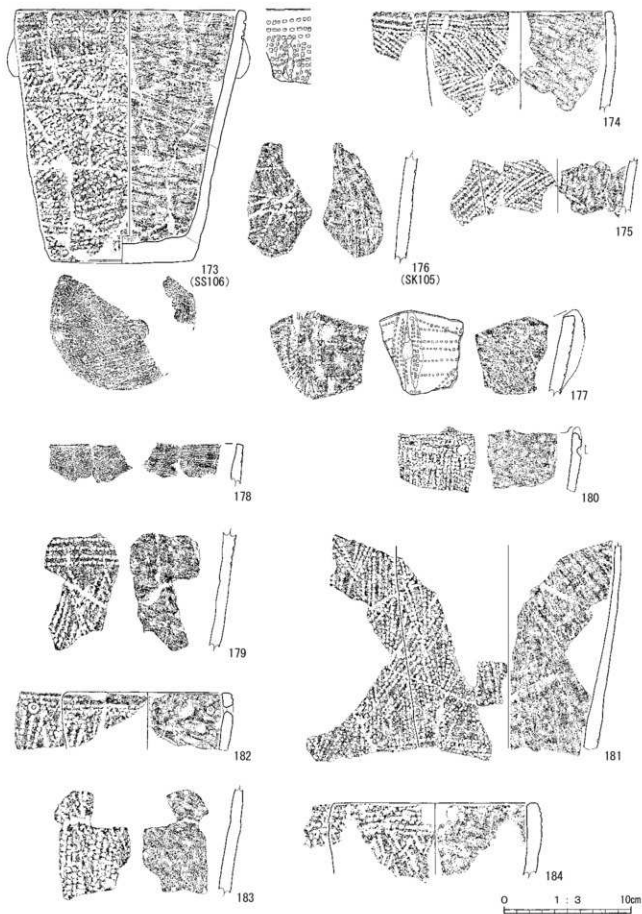
290 は浅い短沈線文を用いて、丁寧に施文されている。一方、291～293 は短沈線文を粗雑に施している。

#### 17 類土器 (第 91・92 図 294～301)

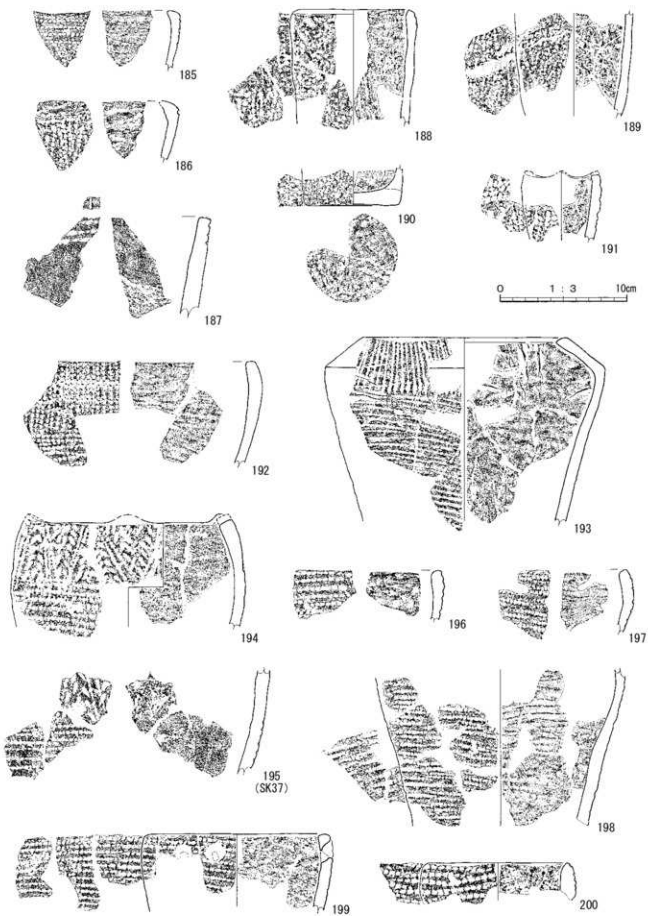
施文原体を回転押捺した文様をもつことを特徴とする。



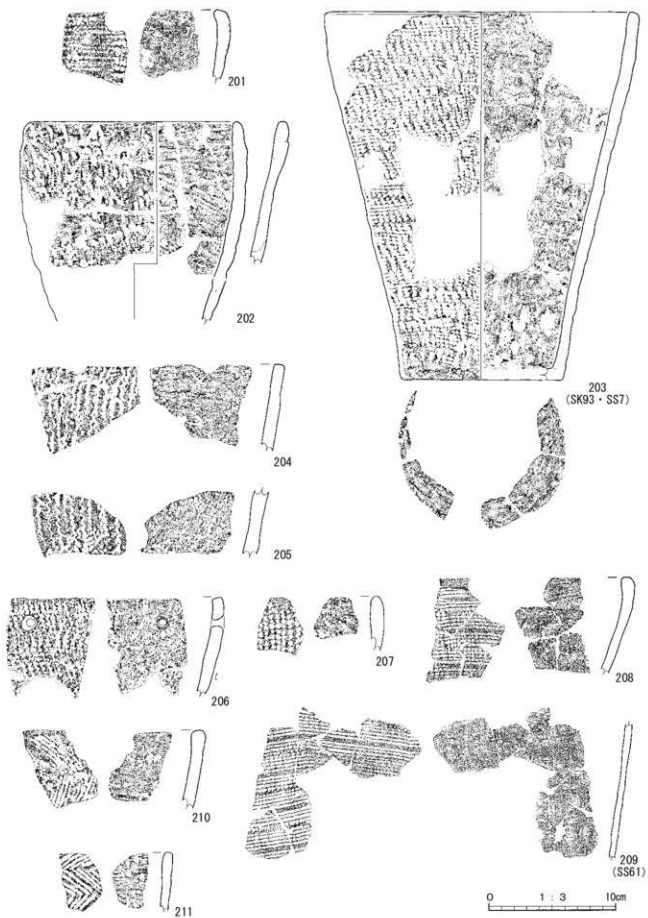




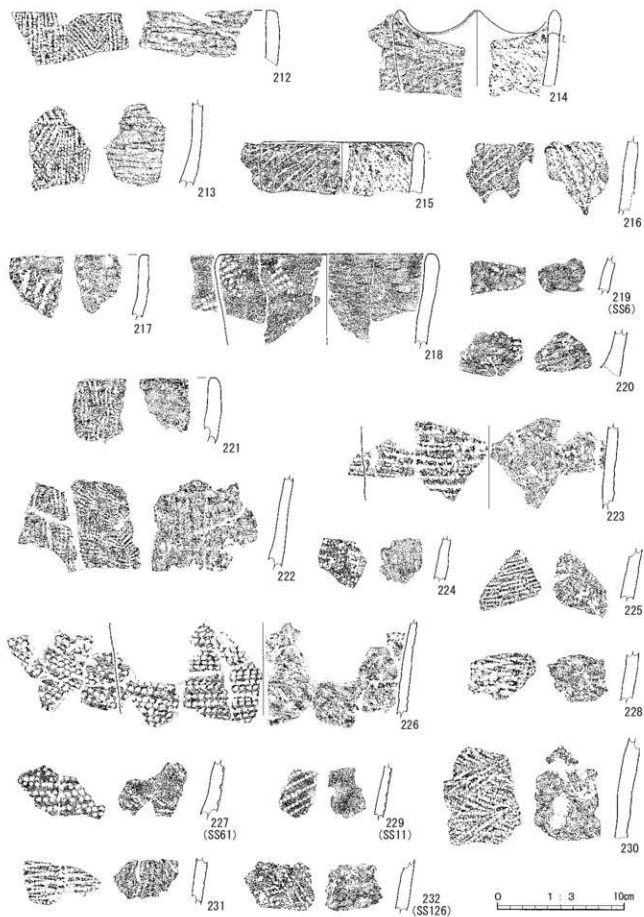
第83圖 14類土器 (1)



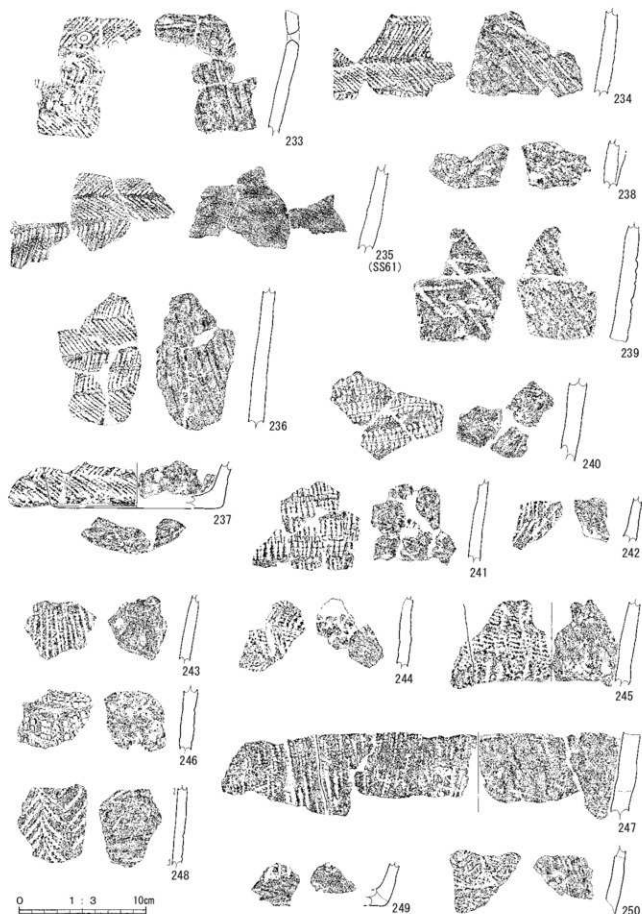
第84図 14類土器 (2)



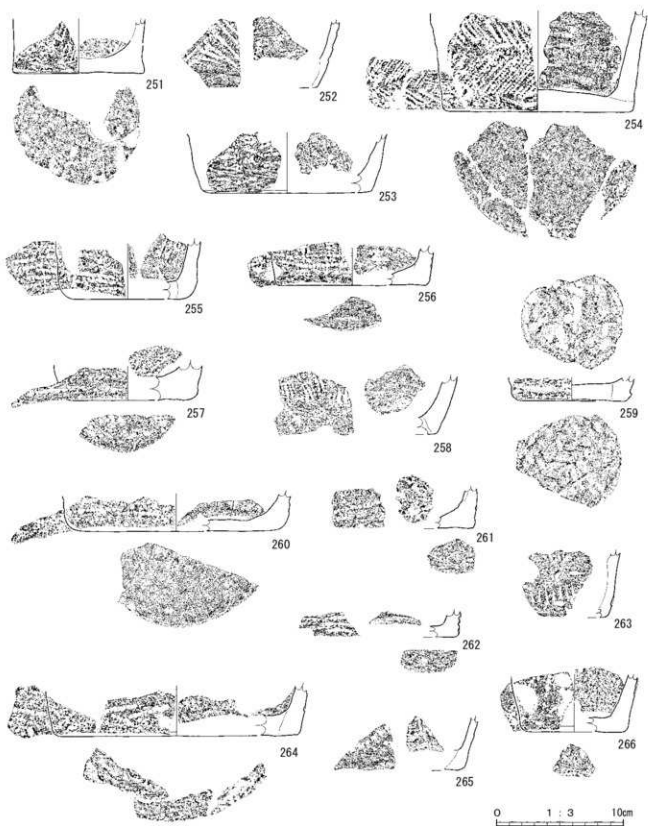
第85図 14類土器 (3)



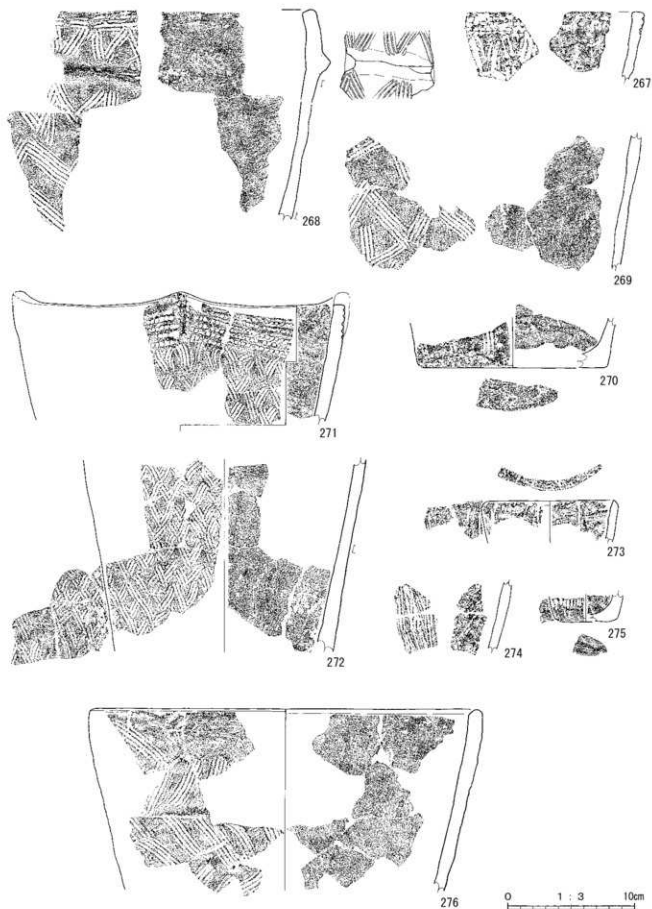
第86圖 14類土器 (4)



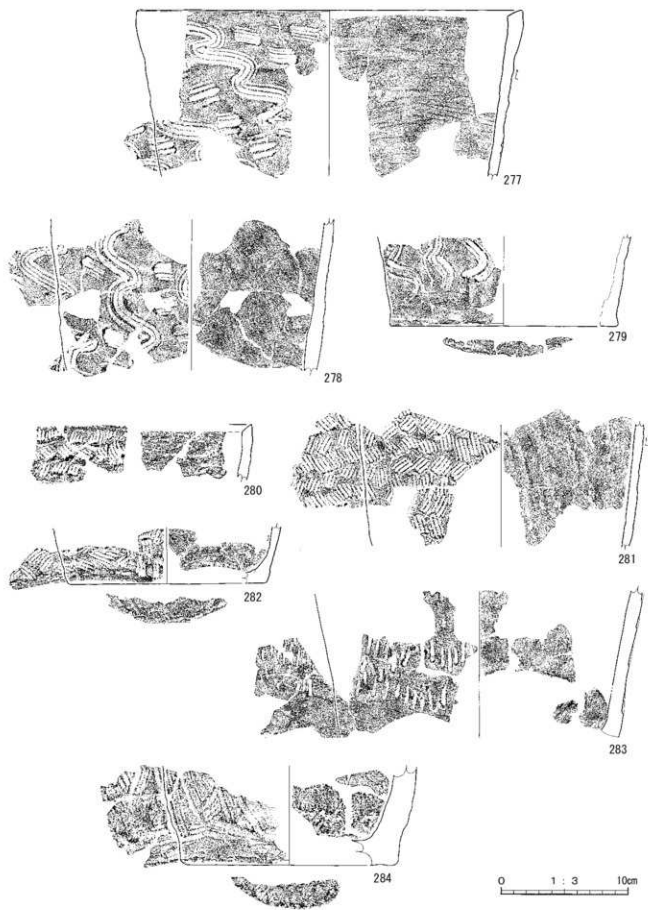
第87圖 14類土器 (5)



第88圖 14類土器(6)

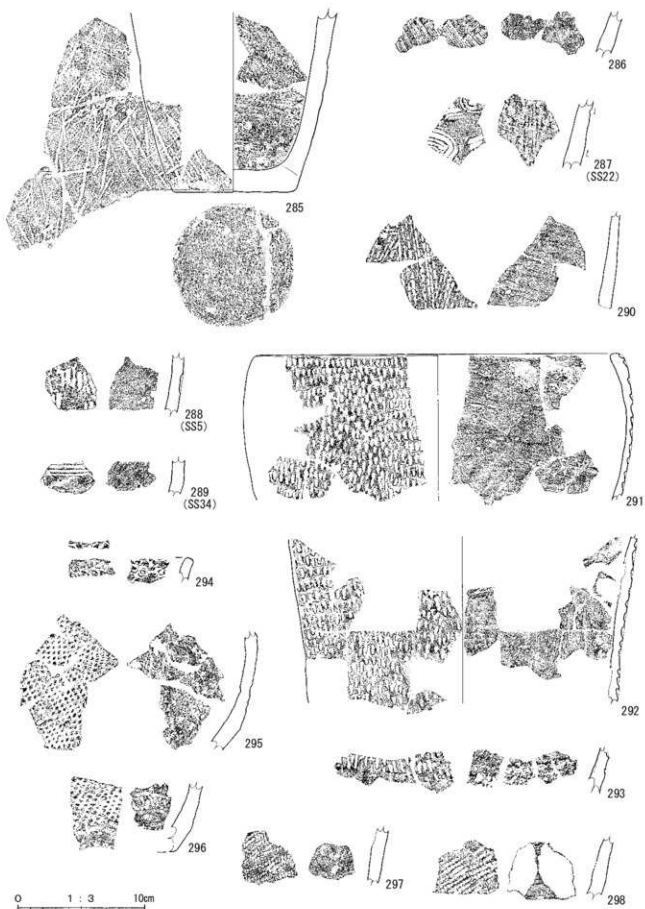


第89圖 15類土器（1）

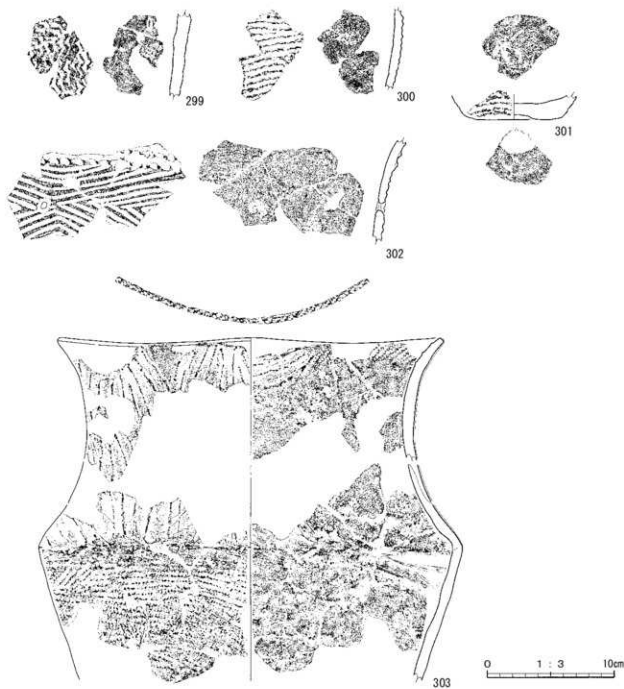


第90圖 15類土器(2)





第91圖 15類・16類・17類土器



第92図 17類・18類土器

53点確認し、8点図示した。文様ごとに分布が異なる(第94図参照)。

楕円押型文(294~296)、縄文(297・298)、山形押型文(299~301)が認められる。294は口縁部内面にも施文される。297・298は単節縄文(LR)を施す。299は縦位の大きな山形文で、300・301は横位の小さな山形文である。

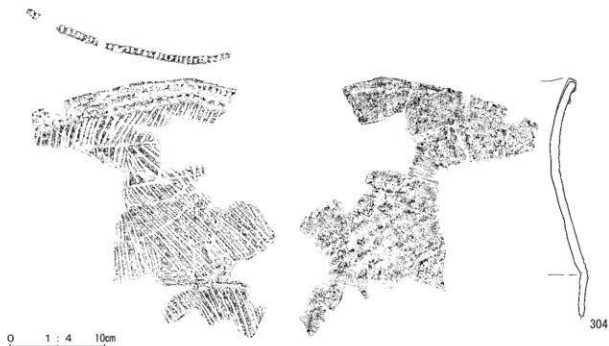
色調・胎土について、294~296は石英・長石類や金色雲母が目立ち、橙色を呈する一方、300・301は輝石・角

閃石類が目立ち、黄橙色を呈する。

**18類土器(第92・93図302~304)**

口縁部が大きく外反し、屈曲する胴部をもち、外面に突帯文や沈線文、ミミズばれ文、縄文を施すことを特徴とする。内面はナゲ調整を行う。128点確認し(3個体分)、3点図示した。分布はB~D-1~3区に偏る(第94図参照)。

302は円形の補修孔をもつ。303は胴部屈曲部上位にミミズばれ文を、屈曲部下位に単節縄文(LR)を施す。



第93図 18類土器

口縁部内面は同じ単節縄文を施し、波頂部のみミミズばれ文を波状に施す。口唇部にも同じ単節縄文を施す。304は口縁部上位に刻みのある突帯を施し、その下位には沈線文を施す。なお、屈曲部上位には沈線施文前に2条単位の刺突文を巡らせる。口唇部には貝殻腹縁による刺突文を施す。胎土について、302・304は石英・長石類や金色雲母を含み、303は輝石・角閃石類が目立つ。

#### 19類土器 (第96図305~310)

口縁部が「く」字状に屈曲し、口縁~底部外面に網目燃糸文を施すことを特徴とする。110点確認し、6点図示した。器形は「く」字状に屈曲する口縁部から平底となる底部へそのまま至る。網目燃糸文は無文帯を挟みながら3~4条一単位で縦位に施される。その後、3条一単位の横位の沈線文を施す。沈線文は一部円弧状となる(306)。内外面ともにナゲ調整を行う。分布はB~D-1~3区に多い(第95図参照)。

#### 20類土器 (第96・97図311~316)

壺形の器形を呈することを特徴とする。88点確認し、6点図示した。内外面ともにナゲ調整を行う。分布はB~D-1~3区に多い(第95図参照)。

311は刻みのある微突帯文を6+a条巡らせる。312は313または314と同一個体と考えられ、内傾する口縁部から胴部が若干膨らみ、平底となる底部へ至る。文様は認められない。315・316は平底の底部で、内外面ともにミガキ調整が行われていることから、この類に含めた。

#### 21類土器 (第97図317~329)

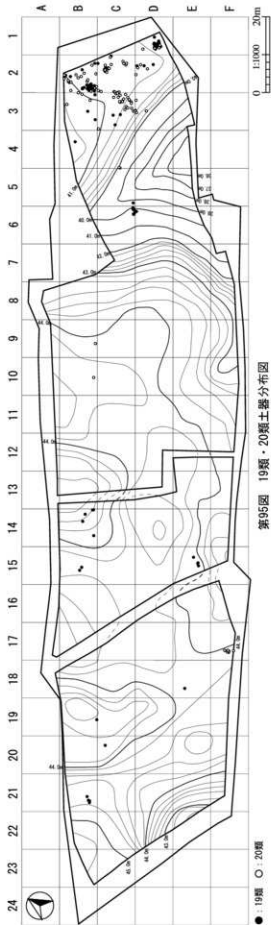
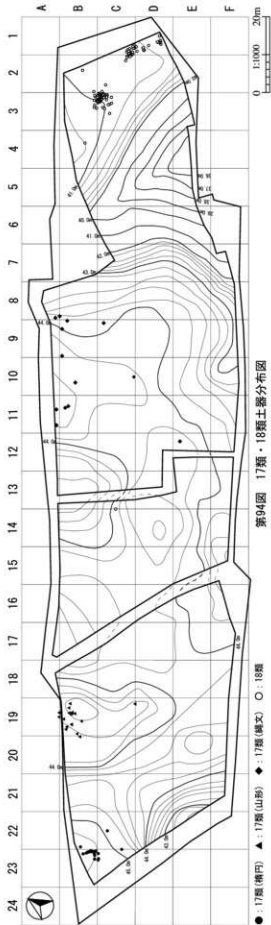
1~20類に分類できなかった縄文時代早期土器の底部を一括したものである。139点確認し、13点図示した。

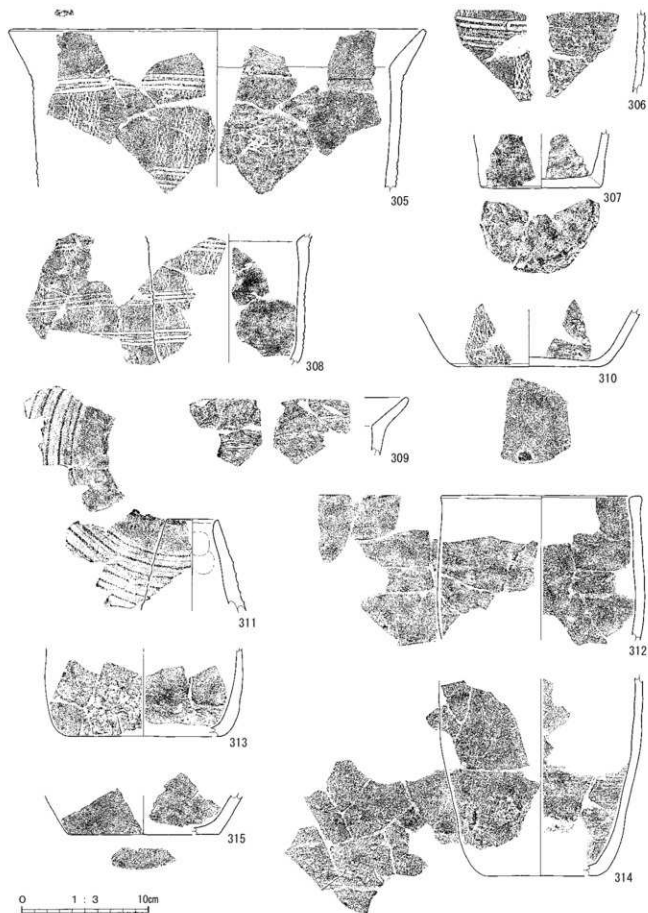
317・318は底部外面に縦位の刻みを施す特徴から、4~6類土器に含まれる可能性がある。321・322は横位の貝殻条痕が確認できる。326~329は胎土に石英・長石類を多く含む特徴から、14類土器に含まれる可能性がある。

#### 22類土器 (第98図330~336)

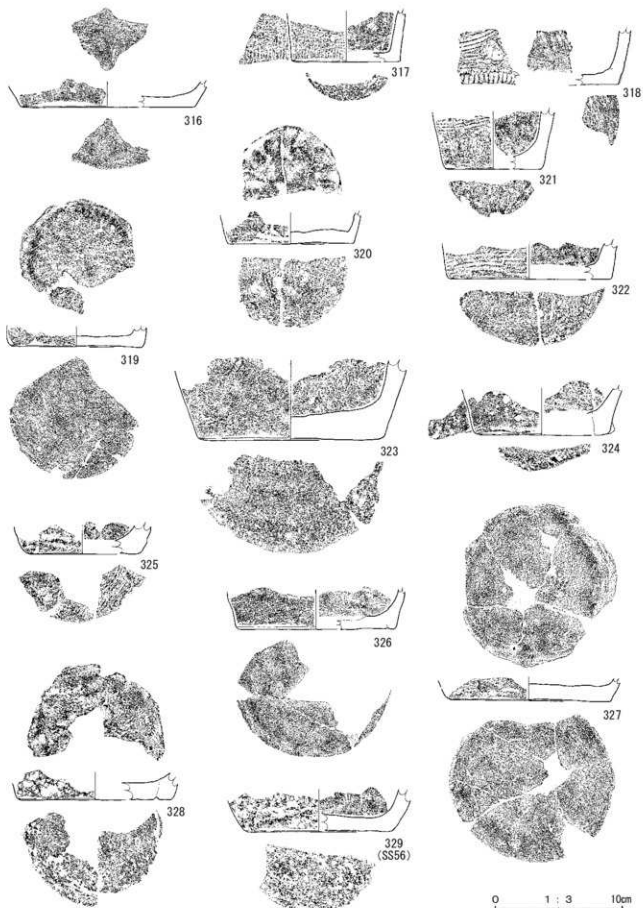
1~20類に分類できなかった縄文時代早期土器を一括したものである。無文土器や条痕文土器の胴部片などを含め、約830点確認した。その中で特徴的なものを6点図示した。

330は外面に横位の貝殻条痕を施す。331は横位の貝殻条痕を施した後、ヘラ状工具による縦位の沈線文を施す。332は端部が肥厚する口縁部で、横位の貝殻刺突文を施す。333は無文の小型土器で、底面に木葉痕が残る。334は口縁端部外面に横位の貝殻条痕文を施し、その下位に縦・斜位の貝殻条痕文を施す。335は無文で、胎土に石英・長石類の小礫を多く含む。336は縦位の貝殻条痕文を施す。

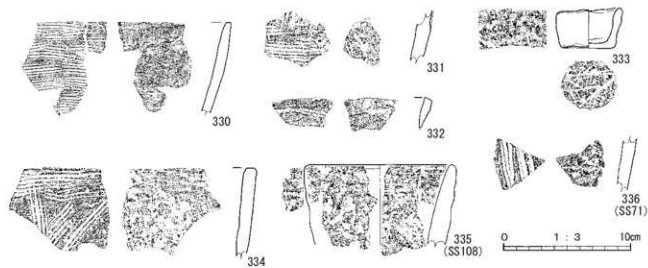




第96図 19類・20類土器



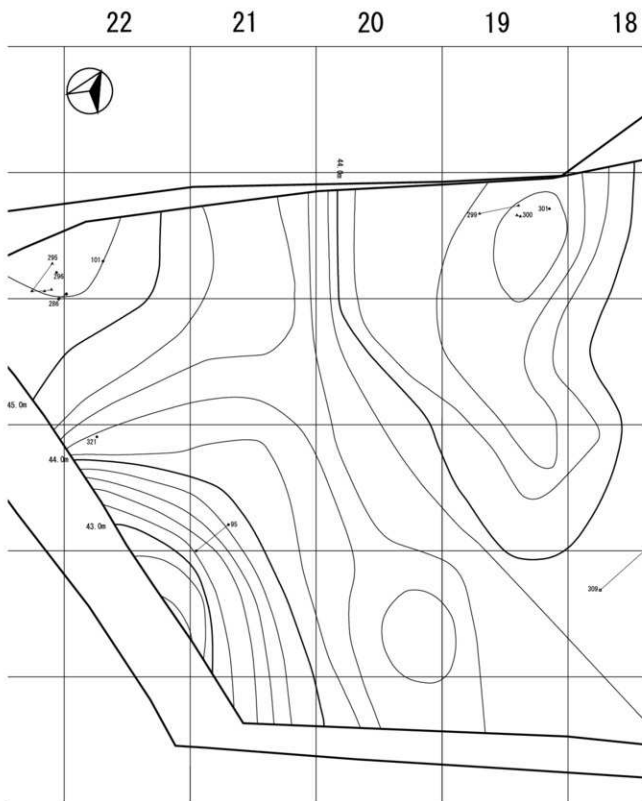
第97図 21類土器



第98図 22類土器

第14表 縄文土器観察表(1)

| 標本<br>No. | 出土<br>層位 | 形   | 厚 | 容<br>積 | 型式       | 表裏 |    | 表裏                |                   | 片<br>数 | 割<br>片 | 注<br>記 | 備考 |
|-----------|----------|-----|---|--------|----------|----|----|-------------------|-------------------|--------|--------|--------|----|
|           |          |     |   |        |          | 外面 | 内面 | 外面                | 内面                |        |        |        |    |
| 330       | 1000     | 中-上 | 中 | 1      | 中-上段縞縞土器 | ナナ | ナナ | 25.0-15.0(1000/3) | 25.0-15.0(1000/3) | 中      | 中      |        |    |
| 331       | 1000     | 中-上 | 中 | 1      | 中-上段縞縞土器 | ナナ | ナナ | 25.0-15.0(1000/3) | 25.0-15.0(1000/3) | 中      | 中      |        |    |
| 332       | 1000     | 中-上 | 中 | 1      | 中-上段縞縞土器 | ナナ | ナナ | 25.0-15.0(1000/3) | 25.0-15.0(1000/3) | 中      | 中      |        |    |
| 333       | 1000     | 中-上 | 中 | 1      | 中-上段縞縞土器 | ナナ | ナナ | 25.0-15.0(1000/3) | 25.0-15.0(1000/3) | 中      | 中      |        |    |
| 334       | 1000     | 中-上 | 中 | 1      | 中-上段縞縞土器 | ナナ | ナナ | 25.0-15.0(1000/3) | 25.0-15.0(1000/3) | 中      | 中      |        |    |
| 335       | 1000     | 中-上 | 中 | 1      | 中-上段縞縞土器 | ナナ | ナナ | 25.0-15.0(1000/3) | 25.0-15.0(1000/3) | 中      | 中      |        |    |
| 336       | 1000     | 中-上 | 中 | 1      | 中-上段縞縞土器 | ナナ | ナナ | 25.0-15.0(1000/3) | 25.0-15.0(1000/3) | 中      | 中      |        |    |



第99圖 掲載土器分布圖（1）



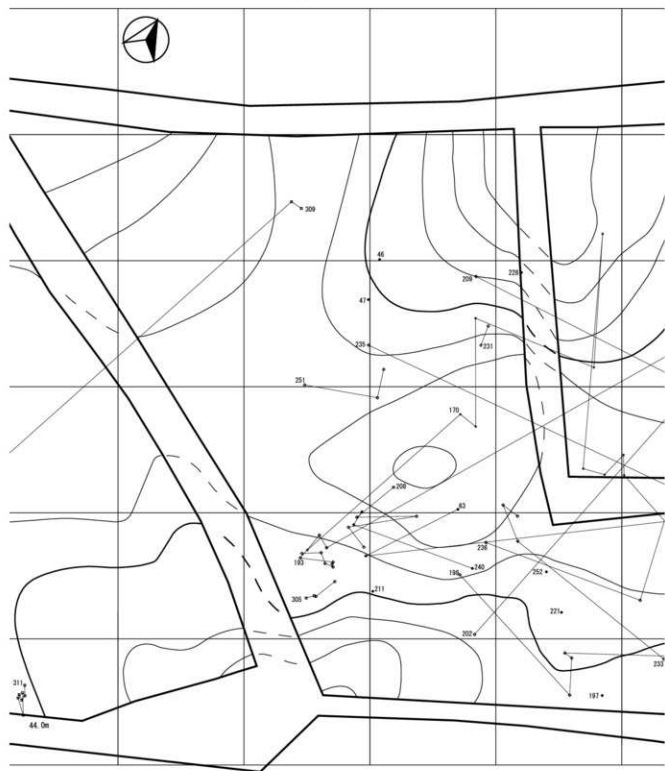
17

16

15

14

13



第100圖 掲載土器分布図(2)

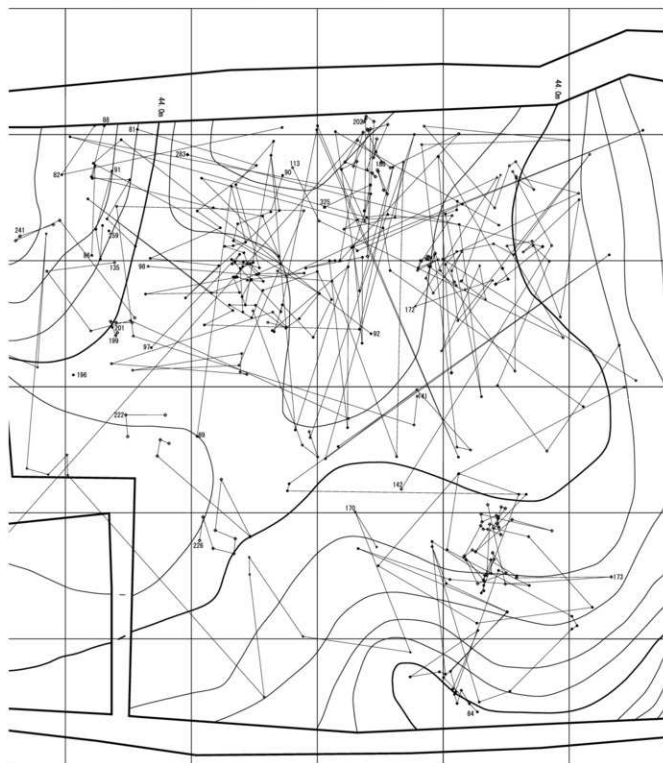
12

11

10

9

8



第101図 掘載土器分布図(3)

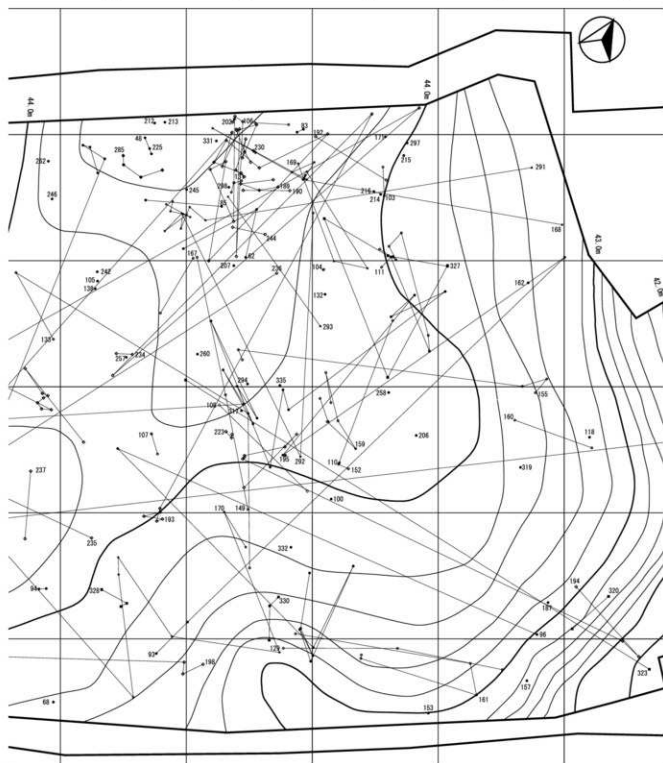
11

10

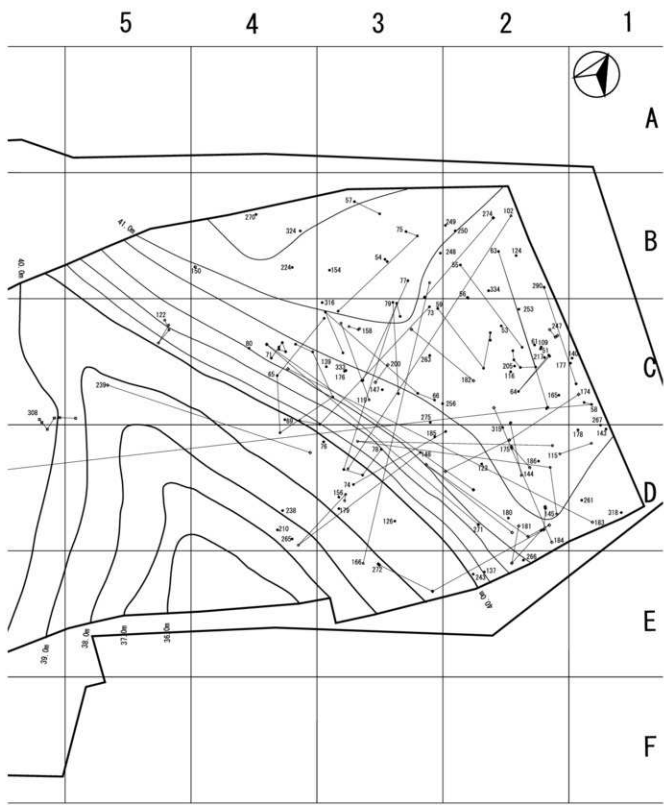
9

8

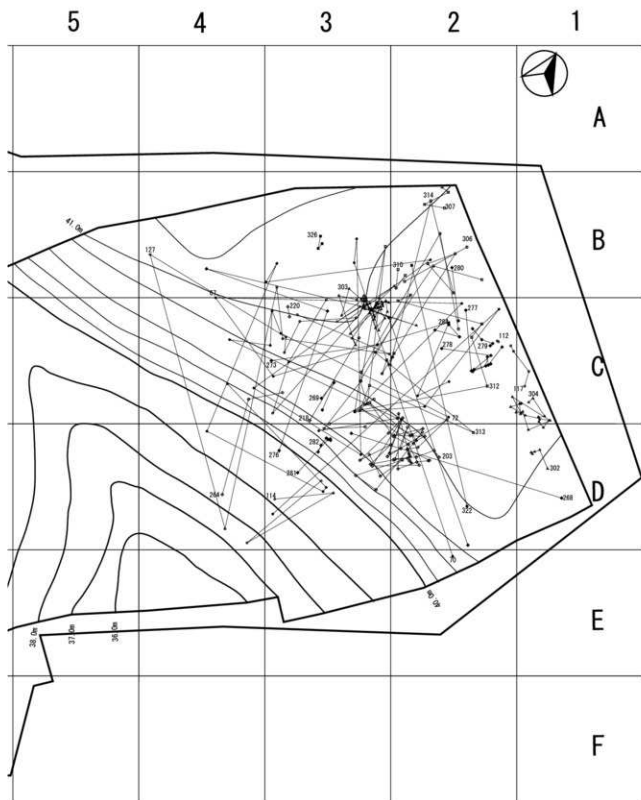
7



第102图 掲載土器分布图(4)



第103图 掲載土器分布图(5)



第104圖 掲載土器分布図(6)











#### 4 石器

縄文時代早期に属する石器は9層を中心に約1600点出土した。剥片石器は138点確認し、その中で石鏃がほとんどを占める。礫石器は154点確認し、磨石・敲石類がそのほとんどを占める。使用される石材は、剥片石器の場合はチャートがその半数以上を占め、次いで黒曜石1類である。礫石器の場合は砂岩と頁岩が多い。

分布状況について、16区以西にはほとんど認められない一方で、13区以東に多く、特に1～3区の第1エリアと呼称した緩やかな平坦地に偏り、4ヶ所の石器集中部も確認できる。また、調査区中央付近のE・F-11区、E・F-13区、D-13区、D-14区にも石器集中部が確認される。

1～3区の石器集中部について、D-1区の石器集中部はチャートと黒曜石4類で構成されており、これ以外の3ヶ所の石器集中部はほぼチャートのみで構成される。D-13区とD-14区の石器集中部もチャートのみで構成される。E・F-11区はチャートと玻璃質安山岩、黒曜石2類で、E・F-12区はチャートと頁岩、黒曜石5類で構成される。

石器はこれらの集中部に密集するというのではなく、比較的緩慢に分布しており、有意義な分布状況を示していない。ただし、トトロ石器が第1エリアに偏る傾向はある。以下、器種毎に報告を行う。

#### 石鏃 (第110～113図 337～392)

平面形態などから、6類及び欠損品と未製品に大別した。107点確認した。

##### I類

全体形状が正三角形(長幅比=1.3:1未満)を呈するものである。基部の抉りの有無により2類に細分した。

##### I a類 (337～341)

基部に抉りがないもの。9点確認し、5点図示した。

##### I b類 (342～345)

基部に抉りがあるもの。8点確認し、5点図示した。

##### II類

全体形状が二等辺三角形(長幅比=1.3:1以上)を呈するものである。基部の抉りの有無や刃部形状により3つに細分した。

##### II a類 (346～348)

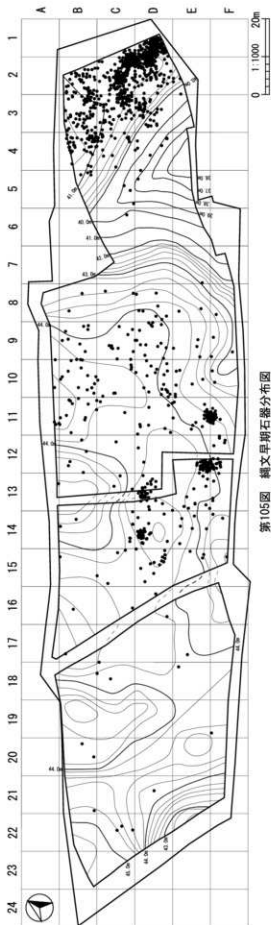
基部に抉りがあるもの。6点確認し、2点図示した。

##### II b類 (349～351)

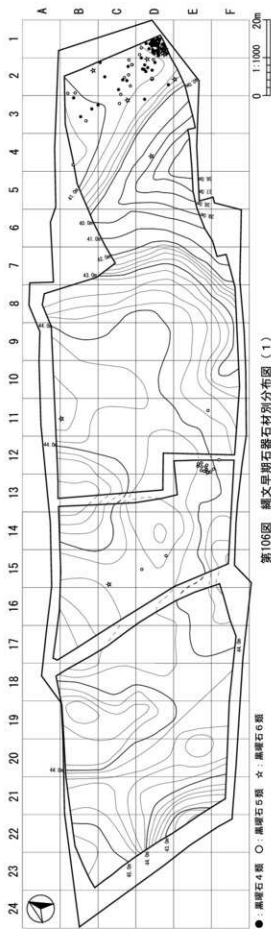
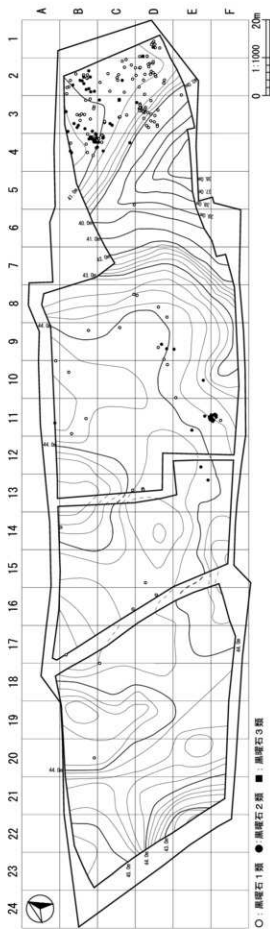
基部に抉りがあり、刃部が鋸歯状のもの。5点確認し、3点図示した。確認した全てがチャートを素材とする。351は背面に主要剥離面を残す。

##### II c類 (352・353)

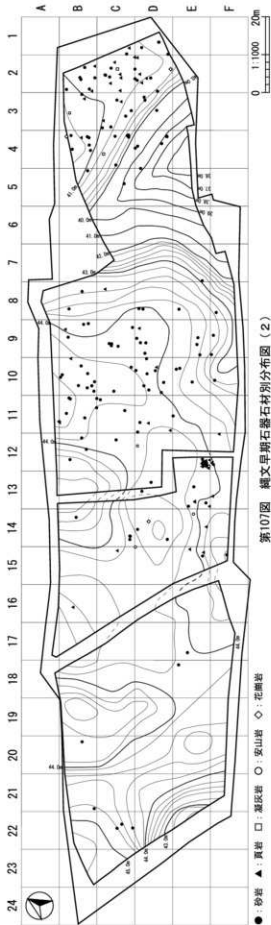
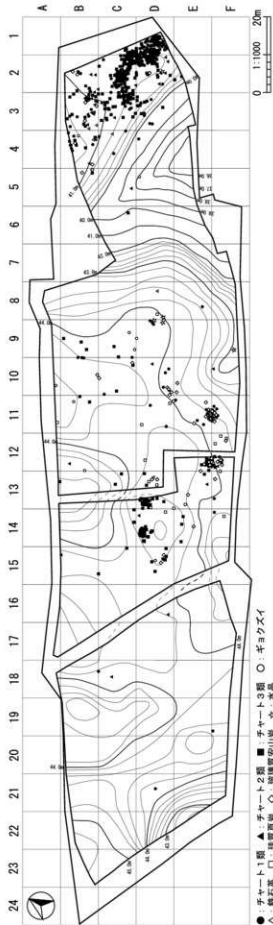
基部に抉りがないもの。2点確認し、全て図示した。



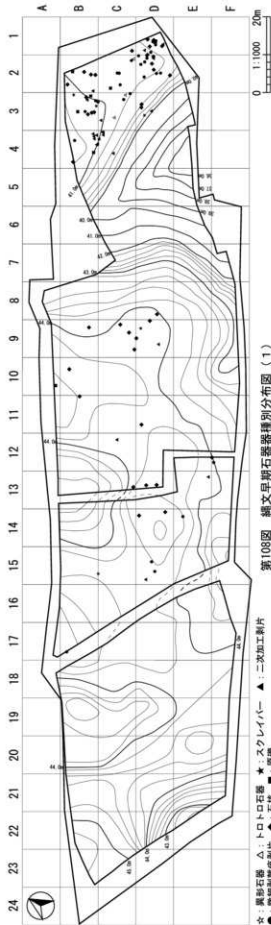
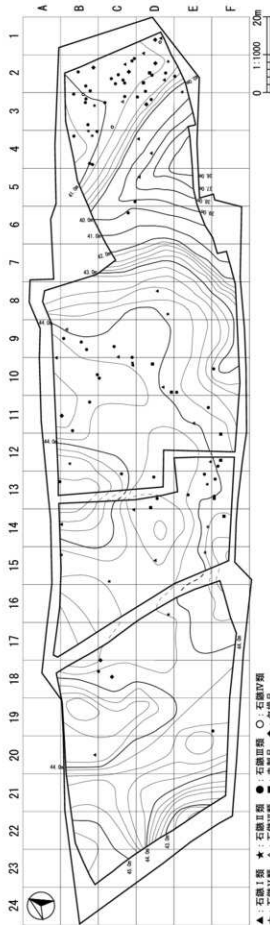
第105図 縄文早期石器分布図



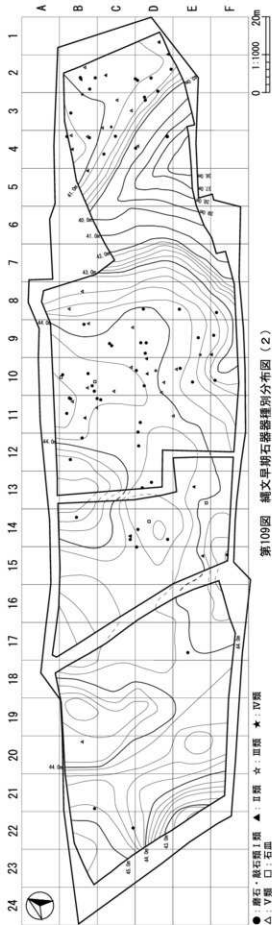
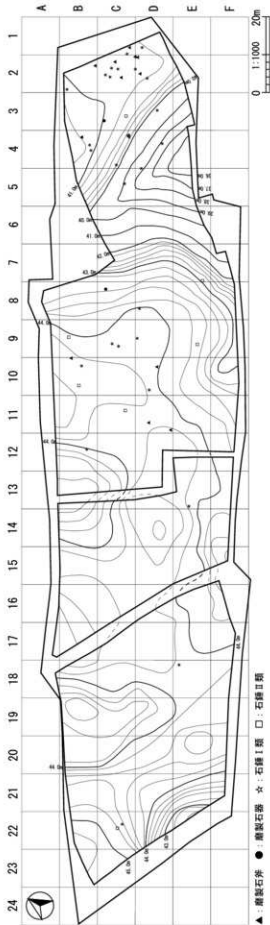
第106図 縄文早期石器石材別分布図(1)



第107図 縄文早期石器石材別分布図(2)



第108図 縄文早期石器器種別分布図(1)



第109圖 繩文早期石器遺址分布圖 (2)

### III類

基部に深い抉りがあり、明確に脚部が作出されるものである。脚部形態や刃部形態から4つに細分した。

#### IIIa類 (354~368)

脚端部が突るもの。33点確認し(うち、遺構内出土1点)、14点図示した。チャートを素材とするものが大半を占める。355・356は二次加工が周縁の一部にとどまった、いわゆる剥片態である。

#### IIIb類 (369~374)

脚端部が平らなもの。9点確認し、6点図示した。チャートを素材とするものがほとんどである。比較的大型である。369は欠損していた脚部が接合している。

#### IIIc類 (375~378)

刃部が鋸歯状のもの。5点確認し、4点図示した。

#### IIId類 (379~383)

脚部が全長の約1/2を占めるほど抉りが深いもの。8点確認し、4点図示した。チャートを素材とするものがほとんどである。

### IV類 (384・385)

最大幅が胴部中央よりやや下位にみられるもの。2点確認し、全て図示した。ギョクズイを素材とする。最大幅部が緩やかな弧状を呈するもの(384)と最大幅部が強く張り出すもの(385)である。

### V類 (386・387)

側縁部の剥離を残す局部磨製石鏃である。2点確認し、全て図示した。頁岩を素材とする。全体形状が二等辺三角形形状を呈し、抉りがあるものとなないものがある。

### VI類 (388)

磨製石鏃である。2点確認し、1点図示した。全体形状が二等辺三角形形状を呈し、抉りはない。

### 欠損品

破損のため、上記の分類に含めることができないものである。8点確認した。先端部だけのものや脚部が破損したものがある。

### 未製品 (389~392)

打製石鏃の未製品と考えられるものである。8点確認し、4点図示した。389は先端部がノッチ状の加工にも見えることから、石鏃の可能性もある。

### トロトロ石器 (第113図 393~395)

3点確認し、全て図示した。青灰色を呈するチャート2類を素材とする。393・395は剥離の磨滅が認められる。394は剥離の磨滅が明確に確認できないものの、石材や形態からトロトロ石器と判断した。

### 異形石器 (第113図 396)

1点確認した。黒色半透明のチャート3類を素材とする。

### スクレイパー (第113図 397・398)

4点確認し、2点図示した。397は厚手の縦長剥片を

素材としており、側縁に剥離を行って刃部としている。398は両側縁に鋭角な剥離を行って刃部としている。

### 二次加工剥片 (第113図 399~401)

剥片の一部に二次加工が認められるが、器種認定が困難なものである。25点確認し、3点図示した。

399は抉りが作出されている。400は周縁に細かい加工が認められる。401は厚みのある大型の縦長剥片の周縁に加工が認められる。

### 石核 (第114図 402~408)

37点確認し、7点図示した。402は剥片素材で、極限まで剥離が行われている。403は平坦な先行剥離面を打面として、剥離が行われている。404~407は打面転移を繰り返し、ほぼ極限まで剥離が行われている。408は背面に自然面を残しており、平坦な先行剥離面を打面として、剥離が行われている。

### 微細剥離痕剥片 (第115図 409~410)

剥片の縁辺に微細な剥離痕が認められるものである。27点確認し、2点図示した。

### 剥片 (第115図 411~413)

約1,300点の剥片が認められた。この中から代表的なものを3点図示した。

### 磨製石斧 (第115図 414~419)

12点確認し、6点図示した。

414は刃部と基部を破損後に加工を行っている。415は刃部の幅が狭いもので、両側縁には装着痕と考えられる潰れが認められる。416は右側面に潰れが認められる。418は両側面に潰れが認められる。419は小型の礫を素材とし、成形剥離を施さず、研磨により刃部を形成している。しかし、刃部は鋭利ではないため、未製品の可能性もある。

### 磨製石器 (第115図 420)

全体に研磨を施すが、器種の特定が困難なものである。1点確認した。

### 石鏃 (第116図 421~442)

製作技法により、2つに分類した。ほとんどが砂岩を素材とする。

#### I類 (421~439)

礫の短軸上の両端に打ち欠きによる抉りを出すもの。いわゆる「短軸打欠石鏃」である。33点確認し(うち、遺構内出土2点)、19点図示した。

断面肉厚の円礫を素材とするものは少なく(428・429・430・436)、平面形態が不定形の礫を素材とするものがほとんどである。被熱礫を利用したもの(432・437)や被熱破砕礫を利用したもの(425・435・438)もある。

正面または背面いずれかに打ち欠きを行うもの(421・423・431・437・439)や4ヶ所に打ち欠きを行うもの(438)もある。また、424・429・430・434・439は上下端に敲打による潰しが認められる。

## II 類 (440~442)

礪の長軸上の両端に打ち欠きによる抉りを出出するもの。敲石と類似しており、上下端が凹むものを石鐘として扱った。

440・441 は上下端に打ち欠きと潰しが認められる。442 は上下端に打ち欠きが確認できず、正面と背面にあばた状の剥離が筋状に残る。

## 磨石・敲石類 (第 117~119 図 443~472)

磨面や敲打痕が認められるものを一括して扱い、使用痕から 5 類に大別した。なお、図面のドットの白抜きが磨面を表している。

## I 類 (443~457)

正・背面に磨面が認められるもの。いわゆる「磨石」である。70 点確認し (うち、遺構内出土 10 点)、15 点図示した。硬質な砂岩の円礪を素材とするものがほとんどで、447 のみ花崗岩である。446・447 は一部赤化している。

## II 類 (458~463)

正・背面に磨面が、周縁に敲打痕が認められるもの。いわゆる「磨石・敲石」である。15 点確認し (うち、遺構内出土 1 点)、6 点図示した。I 類に比べると、磨りが顕著である。460・462・463 は稜線が認められるほど、顕著な磨面をもつ。462 は磨面が左斜上方から右斜下方に広がり、上下端の敲打が著しい。

## III 類 (464)

正・背面に磨面と凹みが、周縁に敲打痕が認められるもの。2 点確認し、1 点図示した。464 は稜線が認められるほど、顕著な磨面をもつ。磨面は左斜上方から右斜下方に広がる。

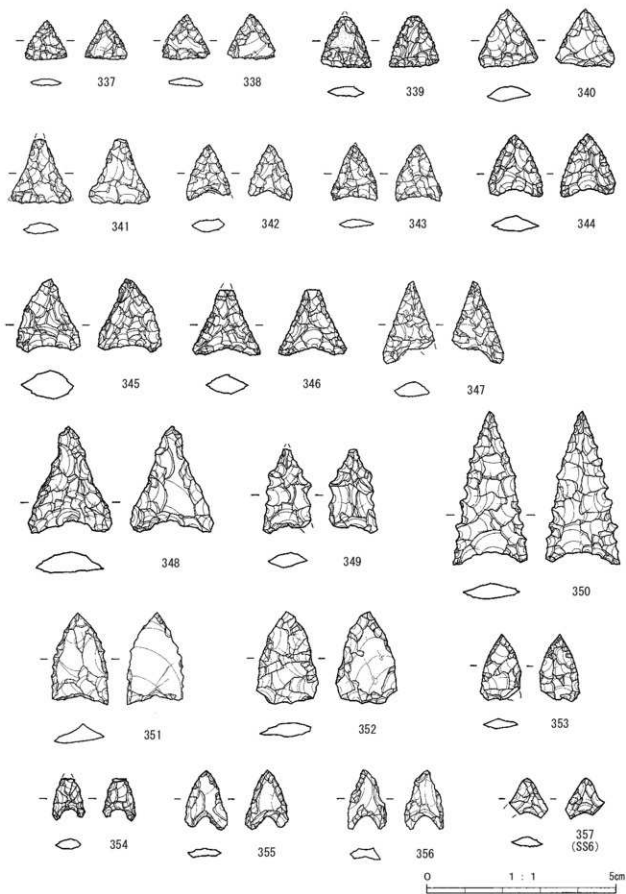
## IV 類 (465・466)

正・背面に凹みをもつもの。磨面をもつものもある。5 点確認し (うち、遺構内出土 1 点)、2 点図示した。466 は上・下・左側面に敲打痕がわずかに認められる。

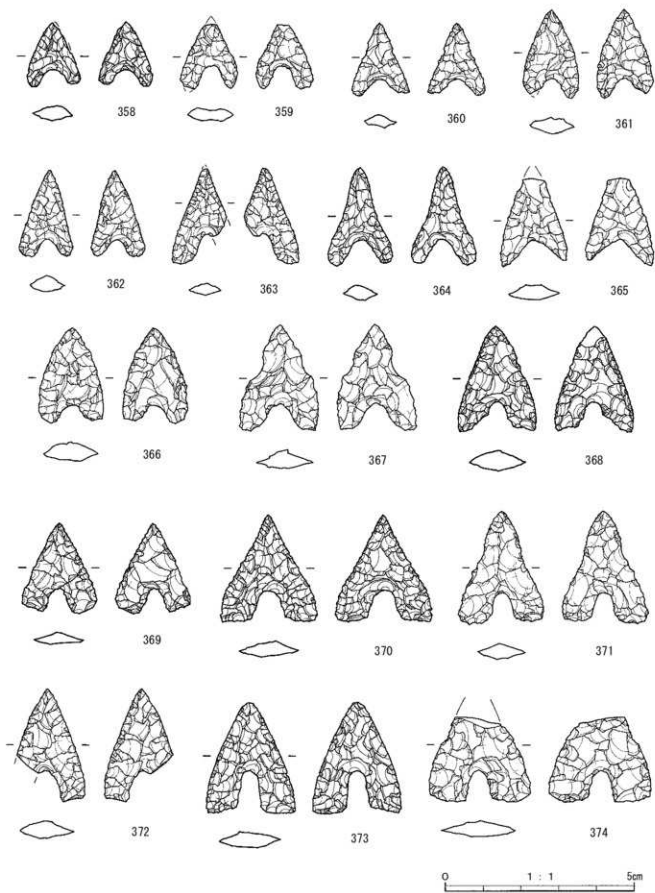
第19表 縄文石器観察表 (1)

| 種別  | 番号  | 出土層      | 区    | 層   | 器種   | 分類   | 石材     | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 重量 (g) |
|-----|-----|----------|------|-----|------|------|--------|----------|----------|----------|--------|
| 110 | 337 | 14795    | D-2  | 9   | 打製石礪 | Ia   | 黒曜石1類  | 1        | 1.1      | 0.18     | 0.17   |
|     | 338 | 20449    | D-1  | 9   | 打製石礪 | Ia   | 黒曜石礪   | 1.15     | 1.25     | 0.22     | 0.26   |
|     | 339 | 31431    | A-10 | 9   | 打製石礪 | Ia   | 黒曜石礪   | 1.33     | 1.3      | 0.32     | 0.45   |
|     | 340 | 31960    | E-11 | 9   | 打製石礪 | Ia   | 玻璃質安山岩 | 1.32     | 1.55     | 0.5      | 0.89   |
|     | 341 | 19237    | D-5  | 9   | 打製石礪 | Ia   | ゴクズイ   | 1.68     | 1.6      | 0.3      | 0.71   |
|     | 342 | 19173    | D-4  | 9   | 打製石礪 | Ib   | 黒曜石礪   | 1.5      | 1.15     | 0.35     | 0.44   |
|     | 343 | 21783    | D-4  | 9   | 打製石礪 | Ib   | チャート1類 | 1.4      | 1.2      | 0.22     | 0.31   |
|     | 344 | 21718    | D-15 | 9   | 打製石礪 | Ib   | ゴクズイ   | 1.63     | 1.42     | 0.45     | 0.72   |
|     | 345 | 30655    | D-10 | 9   | 打製石礪 | Ib   | チャート1類 | 1.9      | 1.65     | 0.75     | 1.62   |
|     | 346 | 22159    | D-8  | 9   | 打製石礪 | Ib   | 鉄石英    | 1.72     | 1.78     | 0.52     | 0.97   |
|     | 347 | 16985    | E-2  | 9   | 打製石礪 | IIa  | 黒曜石1類  | 2.15     | 1.35     | 0.4      | 0.76   |
|     | 348 | 22556    | E-12 | 9   | 打製石礪 | IIa  | 珪藻質岩   | 2.9      | 2.2      | 0.55     | 2.25   |
|     | 349 | 22497    | E-13 | 9   | 打製石礪 | IIb  | チャート2類 | 2.22     | 1.27     | 0.45     | 1.08   |
|     | 350 | 22098    | B-15 | 9   | 打製石礪 | IIb  | チャート2類 | 4.93     | 1.95     | 0.5      | 2.68   |
|     | 351 | 9903     | D-2  | 9   | 打製石礪 | IIb  | チャート2類 | 2.4      | 1.5      | 0.53     | 1.73   |
|     | 352 | 7945     | B-3  | 9   | 打製石礪 | IIc  | 黒曜石1類  | 2.42     | 1.6      | 0.35     | 1.25   |
|     | 353 | 37021    | D-8  | 9   | 打製石礪 | IIc  | 黒曜石1類  | 1.73     | 1.06     | 0.23     | 0.41   |
|     | 354 | 32466    | E-11 | 9   | 打製石礪 | IIIa | 黒曜石5類  | 1.1      | 0.85     | 0.28     | 0.2    |
|     | 355 | 21925    | D-13 | 9   | 打製石礪 | IIIa | チャート3類 | 1.54     | 1.12     | 0.25     | 0.33   |
|     | 356 | 3486     | C-3  | 9   | 打製石礪 | IIIa | チャート3類 | 1.55     | 1        | 0.3      | 0.46   |
|     | 357 | -        | B-2  | S96 | 打製石礪 | IIIa | チャート2類 | 1.63     | 1.01     | 0.26     | 0.21   |
|     | 358 | 27540    | C-10 | 9   | 打製石礪 | IIIa | 玻璃質安山岩 | 1.7      | 1.4      | 0.4      | 0.63   |
|     | 359 | 7322     | B-4  | 9   | 打製石礪 | IIIa | 玻璃質安山岩 | 1.7      | 1.5      | 0.35     | 0.71   |
|     | 360 | 1402     | B-2  | 8   | 打製石礪 | IIIa | チャート1類 | 1.9      | 1.5      | 0.35     | 0.66   |
|     | 361 | 15811    | D-2  | 9   | 打製石礪 | IIIa | 玻璃質安山岩 | 2.3      | 1.45     | 0.45     | 1.19   |
|     | 362 | 17191    | D-3  | 9   | 打製石礪 | IIIa | チャート1類 | 2.25     | 1.4      | 0.42     | 0.94   |
|     | 363 | 19216    | C-6  | 9   | 打製石礪 | IIIa | チャート3類 | 2.5      | 1.4      | 0.32     | 0.93   |
|     | 364 | 22308    | F-13 | 9   | 打製石礪 | IIIa | 頁岩     | 2.58     | 1.7      | 0.47     | 1.07   |
|     | 365 | 584      | E-2  | 8   | 打製石礪 | IIIa | 黒曜石6類  | 2.3      | 1.75     | 0.4      | 1.04   |
|     | 366 | 4915     | C-2  | 8   | 打製石礪 | IIIa | 玻璃質安山岩 | 2.5      | 1.75     | 0.5      | 1.73   |
|     | 367 | 3486     | D-2  | 8   | 打製石礪 | IIIa | チャート2類 | 2.8      | 2.1      | 0.5      | 1.91   |
|     | 368 | 30520    | B-10 | 9   | 打製石礪 | IIIa | 玻璃質安山岩 | 2.75     | 2.07     | 0.55     | 1.99   |
|     | 369 | 17621他1点 | C-2  | 9   | 打製石礪 | IIIb | チャート1類 | 2.37     | 1.97     | 0.35     | 1.07   |
|     | 370 | 40790    | F-19 | 9   | 打製石礪 | IIIb | チャート1類 | 2.8      | 2.55     | 0.45     | 2.14   |

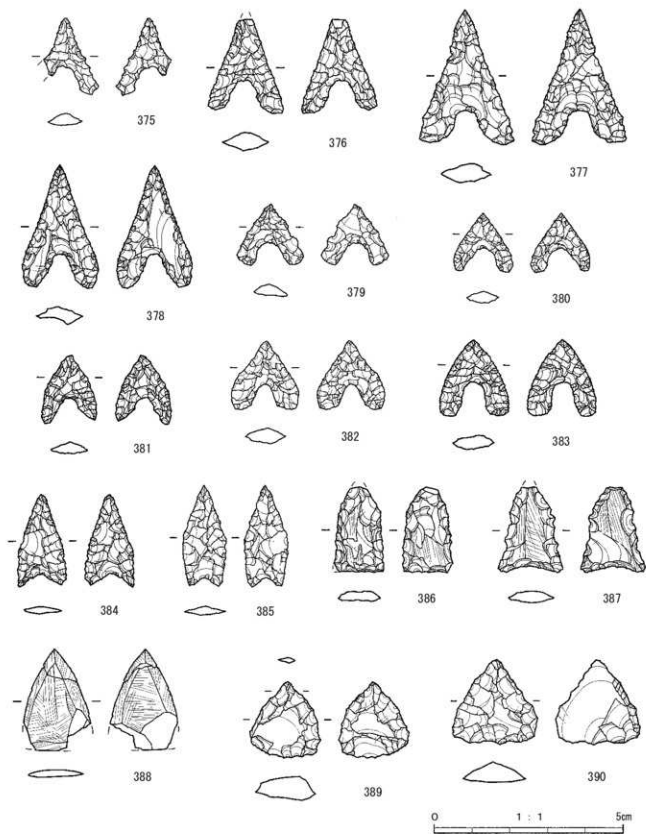




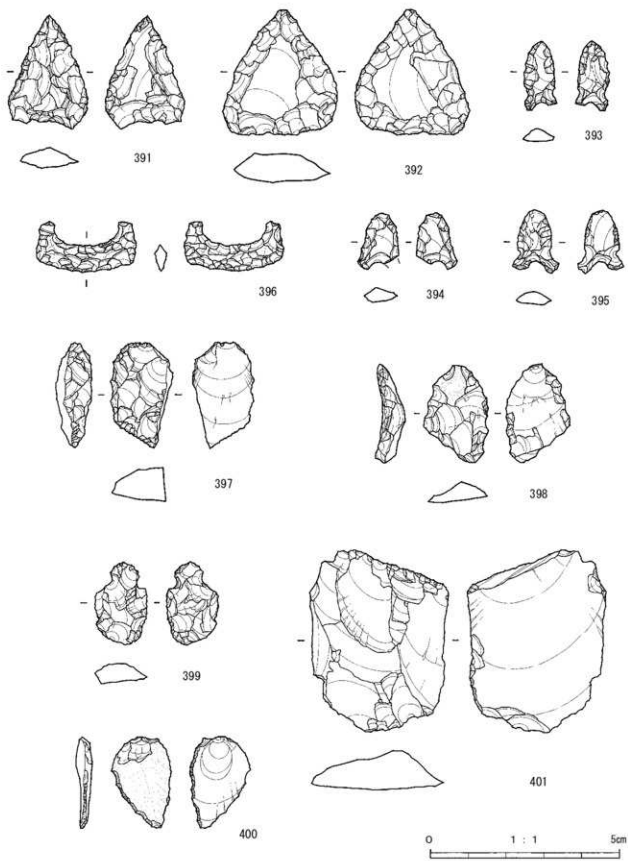
第110圖 縄文早期石器（1）



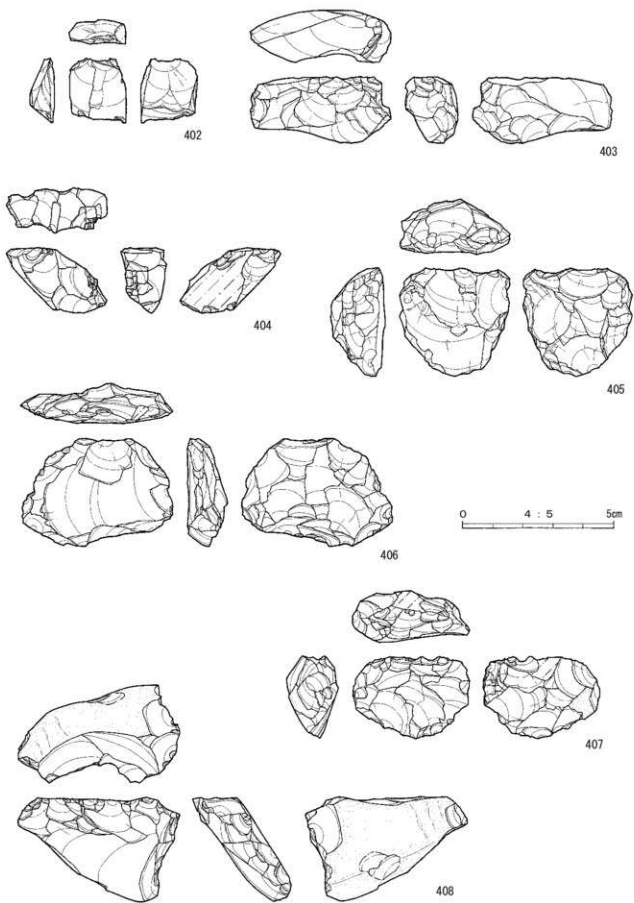
第111圖 繩文早期石器（2）



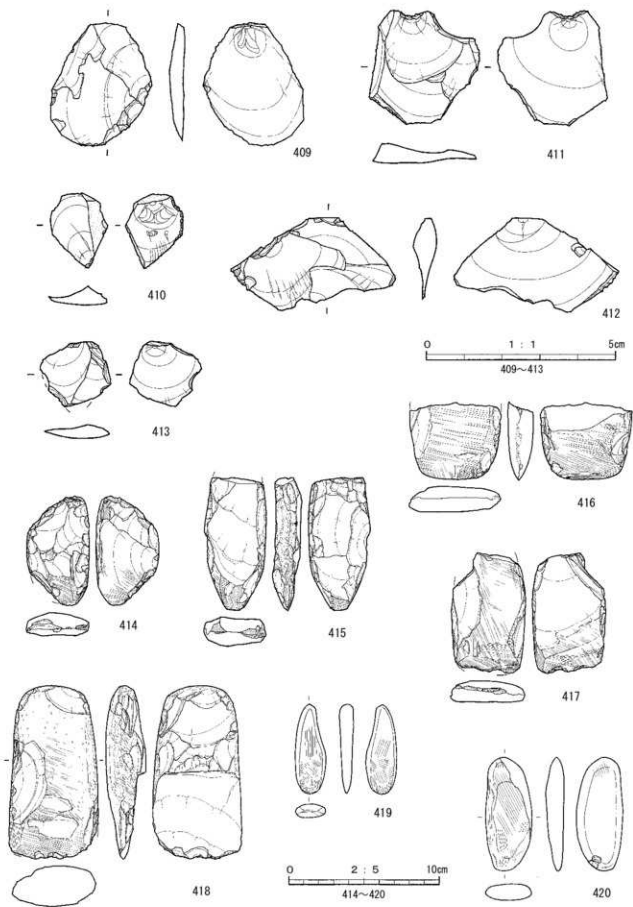
第112図 縄文早期石器（3）



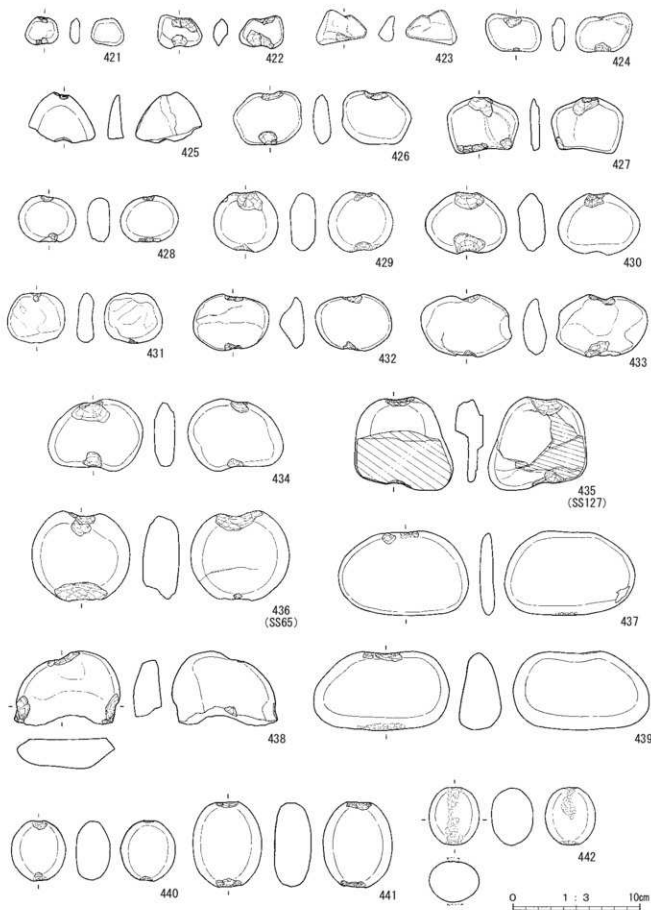
第113図 縄文早期石器（4）



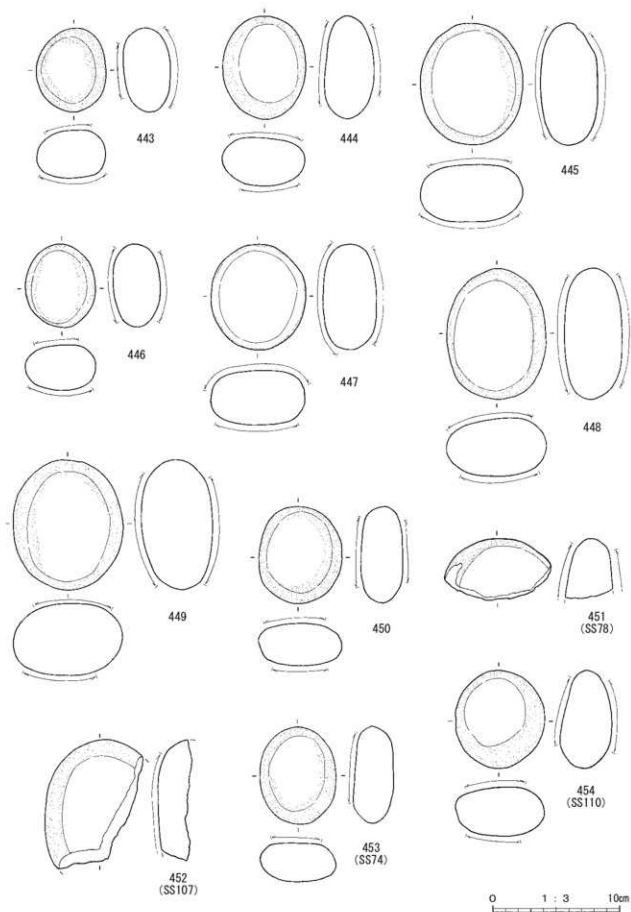
第114図 縄文早期石器（5）



第115図 縄文早期石器 (6)

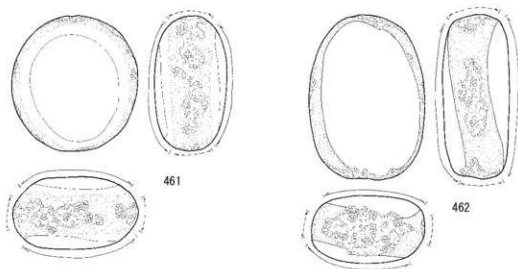
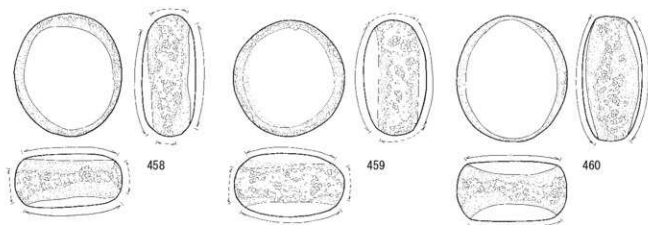
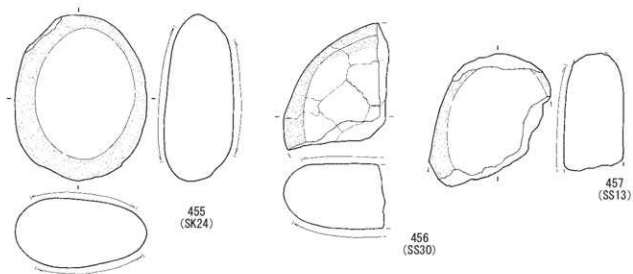


第116図 縄文早期石器（7）

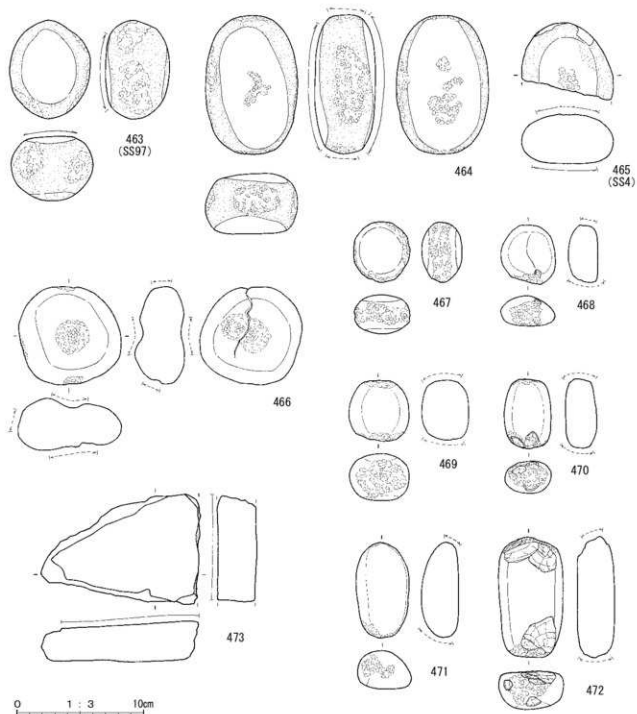


第117図 縄文早期石器 (8)





第118図 縄文早期石器（9）



第119図 縄文早期石器 (10)

**V類 (467~472)**

礫の上下端や周縁に敲打痕が認められるもの。いわゆる「敲石」または「ハンマーストーン」である。敲打痕の部位により、2つに細分した。

**Va類 (467)**

周縁に敲打痕があるもの。1点確認した。

**Vb類 (468~472)**

上下端部に敲打痕があるもの。20点確認し、4点図示

した。平面形態が円形のもの(468・469)や棒状のもの(470~472)がある。470・472は敲打時の剥離も認められる。

**石皿 (第119図473)**

4点確認し、1点図示した。確認したもの全て破損しており、使用痕は顕著ではない。473は花崗岩を素材とする。

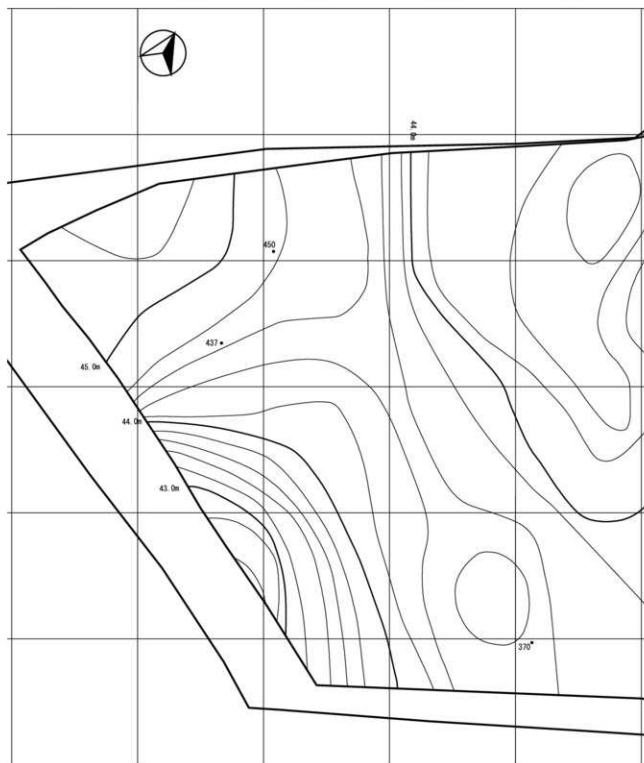
23

22

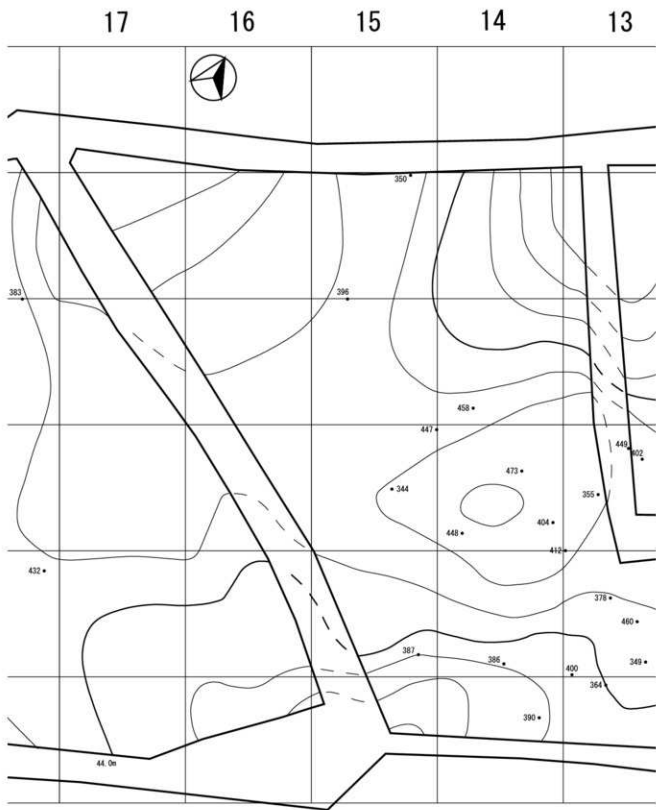
21

20

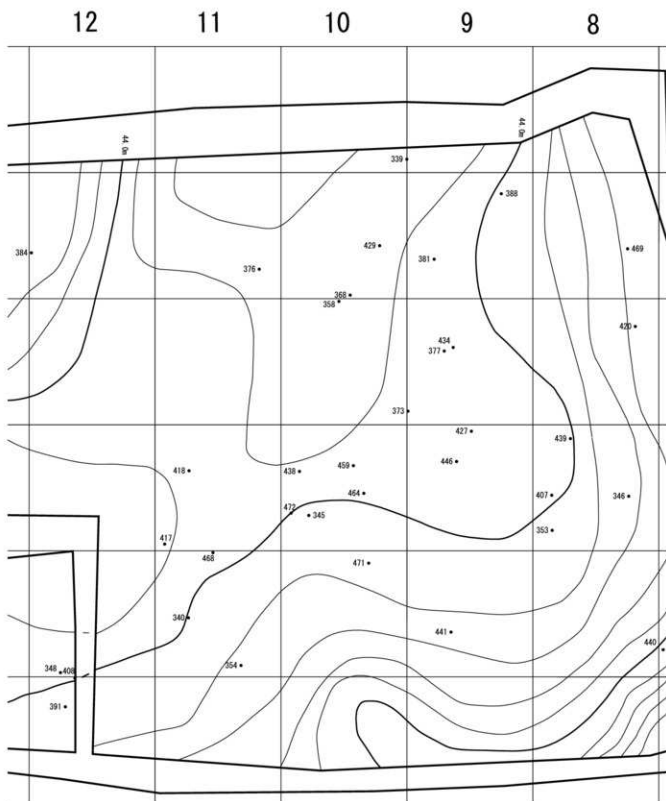
19



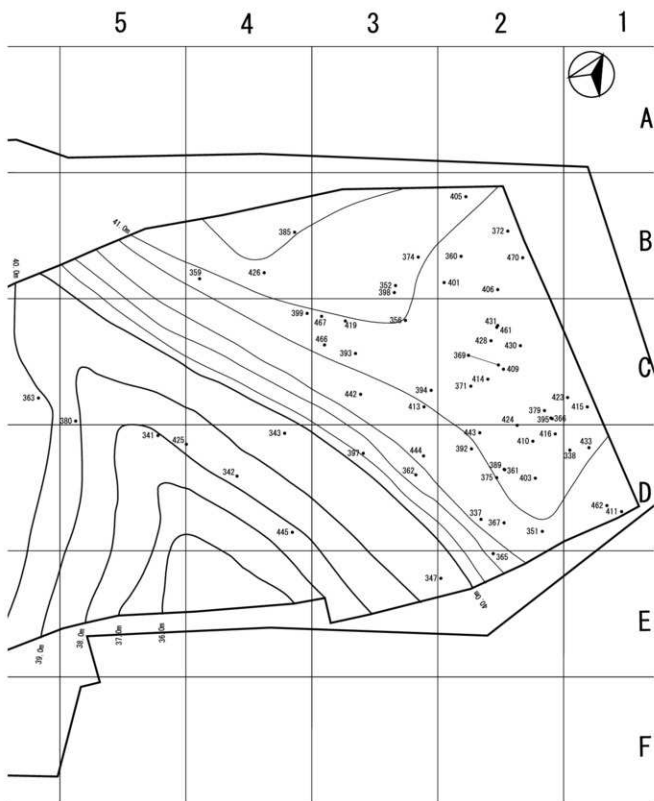
第120圖 掲載石器分布圖(1)



第121圖 掲載石器分布圖(2)



第122圖 掘載石器分布圖(3)



第123圖 掲載石器分布圖(4)

第20表 縄文石器観察表(2)

| 標記  | 報告No. | 取上No. | 区     | 層      | 器種     | 分類     | 石材     | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 重量(g)  |
|-----|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|--------|
| 111 | 371   | 16290 | C-2   | 9      | 打製石鏃   | Ⅲb     | チャート2期 | 3       | 2.25    | 0.4     | 1.88   |
|     | 372   | 18825 | B-2   | 9      | 打製石鏃   | Ⅲb     | チャート3期 | 2.95    | 1.78    | 0.48    | 1.92   |
|     | 373   | 27998 | C-9   | 9      | 打製石鏃   | Ⅲb     | チャート1期 | 2.9     | 2.32    | 0.47    | 2.14   |
|     | 374   | 1718  | B-3   | 8      | 打製石鏃   | Ⅲb     | 頁岩     | 2.2     | 2.7     | 0.42    | 2.56   |
|     | 375   | 4918  | D-2   | 9      | 打製石鏃   | Ⅲc     | 黒曜石類   | 2       | 1.4     | 0.32    | 0.42   |
|     | 376   | 23926 | B-11  | 9      | 打製石鏃   | Ⅲc     | チャート3期 | 2.48    | 1.98    | 0.5     | 1.35   |
|     | 377   | 28094 | C-9   | 9      | 打製石鏃   | Ⅲc     | チャート3期 | 3.53    | 2.5     | 0.58    | 2.66   |
|     | 378   | 22392 | E-13  | 9      | 打製石鏃   | Ⅲc     | 地溝貫安山岩 | 3.22    | 2       | 0.6     | 1.68   |
|     | 379   | 13291 | C-2   | 9      | 打製石鏃   | Ⅲd     | チャート2期 | 1.6     | 1.75    | 0.35    | 0.64   |
|     | 380   | 19227 | C-5   | 9      | 打製石鏃   | Ⅲd     | 黒曜石類   | 1.55    | 1.55    | 0.32    | 0.44   |
| 381 | 26197 | B-9   | 9     | 打製石鏃   | Ⅲd     | チャート3期 | 1.8    | 1.45    | 0.35    | 0.62    |        |
| 112 | 382   | 一部    | B-3   | 9      | 打製石鏃   | Ⅲd     | チャート2期 | 1.8     | 1.8     | 0.4     | 0.91   |
|     | 383   | 30627 | C-18  | 9      | 打製石鏃   | Ⅲd     | チャート1期 | 2.92    | 1.82    | 0.4     | 0.98   |
|     | 384   | 23513 | B-12  | 9      | 打製石鏃   | Ⅳ      | ゴックズイ  | 2.42    | 1.28    | 0.23    | 0.6    |
|     | 385   | 2606  | B-4   | 9      | 打製石鏃   | Ⅳ      | ゴックズイ  | 2.65    | 1.15    | 0.25    | 0.7    |
|     | 386   | 22398 | E-14  | 9      | 局部磨製石鏃 | V      | 頁岩     | 2.23    | 1.33    | 0.28    | 1.14   |
|     | 387   | 22393 | E-15  | 9      | 局部磨製石鏃 | V      | 頁岩     | 2.23    | 1.7     | 0.33    | 1.25   |
|     | 388   | 30036 | B-9   | 9      | 磨製石鏃   | Ⅵ      | 頁岩     | 2.65    | 1.8     | 0.22    | 1      |
|     | 389   | 8499  | D-2   | 9      | 打製石鏃   | 未製品    | チャート2期 | 2       | 1.85    | 0.6     | 2.56   |
|     | 390   | 22412 | F-14  | 9      | 打製石鏃   | 未製品    | 珩質頁岩   | 2.2     | 2.5     | 0.5     | 2.56   |
|     | 113   | 391   | 22508 | F-12   | 9      | 打製石鏃   | 未製品    | 地溝貫安山岩  | 3       | 2.1     | 0.55   |
| 392 |       | 19649 | D-2   | 9      | 打製石鏃   | 未製品    | 頁岩     | 3.3     | 3.05    | 0.75    | 9.22   |
| 393 |       | 19835 | C-3   | 9      | トロトロ石鏃 | -      | チャート2期 | 1.82    | 0.88    | 0.32    | 0.49   |
| 394 |       | 6199  | C-3   | 8      | トロトロ石鏃 | -      | チャート2期 | 1.47    | 1.06    | 0.37    | 0.56   |
| 395 |       | 18672 | C-2   | 9      | トロトロ石鏃 | -      | チャート2期 | 1.65    | 1.23    | 0.35    | 0.62   |
| 396 |       | 21733 | C-15  | 9      | 黒曜石鏃   | -      | チャート3期 | 1.32    | 2.62    | 0.33    | 0.97   |
| 397 |       | 16615 | D-3   | 8      | スタレイバー | -      | 黒曜石類   | 2.8     | 1.7     | 0.95    | 3.84   |
| 398 |       | 15203 | B-3   | 9      | スタレイバー | -      | 地溝貫安山岩 | 2.59    | 1.7     | 0.77    | 2.11   |
| 399 |       | 6723  | C-4   | 9      | 二次加工削片 | -      | 黒曜石類   | 2.14    | 1.4     | 0.54    | 1.36   |
| 400 |       | 22415 | E-13  | 9      | 二次加工削片 | -      | 頁岩     | 2.39    | 1.6     | 0.43    | 1.35   |
| 401 | 13713 | B-2   | 9     | 二次加工削片 | -      | 頁岩     | 4.8    | 3.7     | 1.05    | 18.31   |        |
| 114 | 402   | 22866 | D-13  | 9      | 石鏃     | -      | チャート3期 | 2.98    | 1.66    | 0.8     | 3.62   |
|     | 403   | 13659 | D-2   | 9      | 石鏃     | -      | チャート3期 | 2.16    | 4.61    | 1.72    | 18.4   |
|     | 404   | 21923 | D-14  | 9      | 石鏃     | -      | 珩質頁岩   | 2.13    | 3.3     | 1.5     | 7.43   |
|     | 405   | 15119 | B-2   | 9      | 石鏃     | -      | 黒曜石類   | 3.55    | 3.6     | 1.87    | 23.05  |
|     | 406   | 21544 | B-2   | 9      | 石鏃     | -      | チャート2期 | 3.54    | 4.96    | 1.3     | 21.62  |
|     | 407   | 39231 | D-8   | 9      | 石鏃     | -      | 珩質頁岩   | 2.67    | 3.82    | 1.69    | 17.3   |
|     | 408   | 22472 | F-12  | 9      | 石鏃     | -      | 珩質頁岩   | 3.43    | 5.31    | 3.24    | 35.54  |
|     | 409   | 3491  | C-2   | 9      | 黒曜石磨削片 | -      | チャート3期 | 3.25    | 2.65    | 0.4     | 3.44   |
|     | 410   | 18646 | D-2   | 9      | 黒曜石磨削片 | -      | 黒曜石類   | 1.95    | 1.51    | 0.5     | 1.19   |
|     | 411   | 13660 | D-1   | 9      | 削片     | -      | 珩質頁岩   | 3       | 2.91    | 0.5     | 3.82   |
| 115 | 412   | 21972 | D-13  | 9      | 削片     | -      | 珩質頁岩   | 2.45    | 4.35    | 0.6     | 4.71   |
|     | 413   | 746   | C-3   | 8      | 削片     | -      | チャート2期 | 1.7     | 1.9     | 0.35    | 1.09   |
|     | 414   | 11948 | C-2   | 9      | 磨製石鏃   | -      | 頁岩     | 7.2     | 4.12    | 1.5     | 50.58  |
|     | 415   | 4921  | C-1   | 8      | 磨製石鏃   | -      | 頁岩     | 8.72    | 4.03    | 1.84    | 86.71  |
|     | 416   | 13210 | D-2   | 9      | 磨製石鏃   | -      | 頁岩     | 5.05    | 6.02    | 1.67    | 79.4   |
|     | 417   | 32420 | D-11  | 9      | 磨製石鏃   | -      | 頁岩     | 7.93    | 4.86    | 1.4     | 81.46  |
|     | 418   | 23438 | D-11  | 9      | 磨製石鏃   | -      | 頁岩     | 11.93   | 5.88    | 2.68    | 209.83 |
|     | 419   | 6654  | C-3   | 9      | 磨製石鏃   | -      | 頁岩     | 6       | 2       | 1       | 16.72  |
|     | 420   | 41121 | C-8   | 9      | 磨製石鏃   | -      | 頁岩     | 7.6     | 3.1     | 1.3     | 38.39  |
|     | 421   | 一部    | C-3   | 9      | 石鏃     | 短輪打突   | 砂岩     | 2.2     | 2.6     | 0.9     | 7.08   |
| 116 | 422   | 一部    | D-1   | 8      | 石鏃     | 短輪打突   | 砂岩     | 2.7     | 3.5     | 1.2     | 14.42  |
|     | 423   | 16276 | C-1   | 9      | 石鏃     | 短輪打突   | 砂岩     | 2.8     | 3.9     | 1.2     | 17.08  |
|     | 424   | 850   | D-2   | 9      | 石鏃     | 短輪打突   | 砂岩     | 3       | 4.4     | 1       | 21.76  |
|     | 425   | 21962 | D-5   | 9      | 石鏃     | 短輪打突   | 砂岩     | 4       | 5.2     | 1.4     | 24.9   |
|     | 426   | 7394  | B-4   | 9      | 石鏃     | 短輪打突   | 砂岩     | 4.2     | 5.5     | 1.4     | 48.21  |
|     | 427   | 28985 | D-9   | 9      | 石鏃     | 短輪打突   | 砂岩     | 4.4     | 5.6     | 1       | 36.33  |

第21表 縄文石器観察表(3)

| 標本  | 番号No. | 取上No. | 区     | 層      | 図様     | 分類   | 石材    | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 重量(g)  |
|-----|-------|-------|-------|--------|--------|------|-------|---------|---------|---------|--------|
| 116 | 428   | 13509 | C-2   | 9      | 石鏃     | 短軸打欠 | 砂岩    | 3.7     | 4.5     | 1.8     | 39.29  |
|     | 429   | 30354 | B-10  | 9      | 石鏃     | 短軸打欠 | 砂岩    | 4.8     | 5.1     | 2       | 68.05  |
|     | 430   | 39355 | C-2   | 11b    | 石鏃     | 短軸打欠 | 砂岩    | 4.9     | 6.4     | 2.2     | 94.69  |
|     | 431   | 13630 | C-2   | 9      | 石鏃     | 短軸打欠 | 砂岩    | 3.9     | 4.5     | 1.5     | 34.83  |
|     | 432   | 41316 | E-18  | 9      | 石鏃     | 短軸打欠 | 砂岩    | 4.5     | 6       | 2       | 61.89  |
|     | 433   | 29066 | D-1   | 9      | 石鏃     | 短軸打欠 | 砂岩    | 4.9     | 7.2     | 1.9     | 77.36  |
|     | 434   | 28190 | C-9   | 9      | 石鏃     | 短軸打欠 | 砂岩    | 5.7     | 7.5     | 1.7     | 111.22 |
|     | 435   | -     | C-10  | S3127  | 石鏃     | 短軸打欠 | 砂岩    | 7.4     | 7.3     | 2.2     | 118.86 |
|     | 436   | -     | D-11  | S565   | 石鏃     | 短軸打欠 | 砂岩    | 7.2     | 7.7     | 2.9     | 213.4  |
|     | 437   | 40371 | C-22  | 9      | 石鏃     | 短軸打欠 | 砂岩    | 6.7     | 10.2    | 1.3     | 131.16 |
|     | 438   | 25553 | D-10  | 9      | 石鏃     | 短軸打欠 | 砂岩    | 5.9     | 8.4     | 2.7     | 139.39 |
|     | 439   | 38454 | D-8   | 9      | 石鏃     | 短軸打欠 | 砂岩    | 6.3     | 10.7    | 3.4     | 323.85 |
|     | 440   | 21675 | E-7   | 9      | 石鏃     | 長軸打欠 | 砂岩    | 4.7     | 4.3     | 2.7     | 71.06  |
|     | 441   | 34448 | E-9   | 9      | 石鏃     | 長軸打欠 | 砂岩    | 6.7     | 5.4     | 3       | 154.28 |
| 442 | 12617 | C-3   | 9     | 石鏃     | 長軸打欠   | 砂岩   | 4.4   | 3.9     | 3.4     | 72.89   |        |
| 117 | 443   | 11943 | D-2   | 9      | 磨石・磨石類 | I    | 砂岩    | 6.6     | 5.5     | 3.7     | 186.31 |
|     | 444   | 6221  | D-3   | 8      | 磨石・磨石類 | I    | 砂岩    | 8.1     | 6.5     | 3.9     | 282.91 |
|     | 445   | 18388 | D-4   | 9      | 磨石・磨石類 | I    | 砂岩    | 9.6     | 8.2     | 4.5     | 343.82 |
|     | 446   | 28079 | D-9   | 9      | 磨石・磨石類 | I    | 砂岩    | 6.4     | 5.6     | 3.6     | 175.78 |
|     | 447   | 21931 | D-15  | 9      | 磨石・磨石類 | I    | 安山岩   | 8.3     | 7.5     | 4.3     | 417.91 |
|     | 448   | 21816 | D-14  | 9      | 磨石・磨石類 | I    | 砂岩    | 10.3    | 7.8     | 4.6     | 548.47 |
|     | 449   | 21837 | D-13  | 9      | 磨石・磨石類 | I    | 砂岩    | 10.4    | 8.6     | 5.7     | 695.57 |
|     | 450   | 39914 | B-21  | 9      | 磨石・磨石類 | I    | 砂岩    | 7.7     | 6.6     | 3.4     | 234.86 |
|     | 451   | -     | A-11  | S578   | 磨石・磨石類 | I    | 砂岩    | (4.9)   | (6.5)   | (3.8)   | 188.95 |
|     | 452   | -     | D-9   | S5107  | 磨石・磨石類 | I    | 砂岩    | (10.2)  | (7.7)   | (28.7)  | 233.9  |
|     | 453   | -     | C-11  | S574   | 磨石・磨石類 | I    | 砂岩    | 7.7     | 6       | 3.2     | 201.32 |
| 454 | -     | E-8   | S5110 | 磨石・磨石類 | I      | 砂岩   | 2.7   | 7       | 4       | 280.29  |        |
| 118 | 455   | -     | C-14  | S824   | 磨石・磨石類 | I    | 砂岩    | 13      | 10.4    | 5.6     | 1033.3 |
|     | 456   | -     | C-4   | S530   | 磨石・磨石類 | I    | 砂岩    | 10      | 8.3     | 5.3     | 538.95 |
|     | 457   | -     | D-2   | S513   | 磨石・磨石類 | I    | 砂岩    | (10.6)  | (9.6)   | (4.7)   | 536.4  |
|     | 458   | 21820 | C-14  | 9      | 磨石・磨石類 | II   | 砂岩    | 9.6     | 8.5     | 4.3     | 525.41 |
|     | 459   | 31347 | D-10  | 9      | 磨石・磨石類 | II   | 砂岩    | 9.1     | 8.8     | 5       | 560.41 |
|     | 460   | 22491 | E-13  | 9      | 磨石・磨石類 | II   | 砂岩    | 9.9     | 8.7     | 4.8     | 647.41 |
|     | 461   | 19661 | C-2   | 9      | 磨石・磨石類 | II   | 砂岩    | 10.7    | 10      | 5.7     | 888    |
|     | 462   | 20660 | D-1   | 9      | 磨石・磨石類 | II   | 砂岩    | 13      | 9.1     | 5.4     | 996.87 |
| 119 | 463   | -     | E-12  | S597   | 磨石・磨石類 | III  | 砂岩    | 7.9     | 6.4     | 5.1     | 234.2  |
|     | 464   | 27289 | D-10  | 9      | 磨石・磨石類 | III  | 砂岩    | 10.9    | 7.3     | 4.8     | 664.25 |
|     | 465   | -     | D-1   | S54    | 磨石・磨石類 | IV   | 砂岩    | 6       | 7.2     | 4       | 205.59 |
|     | 466   | 19953 | C-3   | 9      | 磨石・磨石類 | IV   | 砂岩    | 7.7     | 8.1     | 4.1     | 343.1  |
|     | 467   | 10874 | C-3   | 9      | 磨石・磨石類 | Va   | 砂岩    | 4.8     | 4.4     | 3.1     | 83.56  |
|     | 468   | 38660 | E-11  | 9      | 磨石・磨石類 | Vb   | 砂岩    | 4.7     | 4.3     | 2.4     | 64.04  |
|     | 469   | 30178 | B-8   | 9      | 磨石・磨石類 | Vb   | 砂岩    | 4.8     | 4.7     | 3.7     | 109.09 |
|     | 470   | 18878 | B-2   | 9      | 磨石・磨石類 | Vb   | 砂岩    | 5.5     | 3.7     | 2.5     | 78.99  |
|     | 471   | 35056 | E-10  | 9      | 磨石・磨石類 | Vb   | 砂岩    | 7.4     | 4.2     | 3       | 126.88 |
|     | 472   | 35666 | D-10  | 9      | 磨石・磨石類 | Vb   | 砂岩    | 9.6     | 5.1     | 3       | 225.67 |
| 473 | 21389 | D-14  | 9     | 石皿     | -      | 花崗岩  | (8.8) | (12.5)  | 3.2     | 681.19  |        |



### 第3節 縄文時代前期以降の調査

#### 1 調査の概要

試掘調査では縄文前期以降、つまり7層（アカホヤ火山灰層）上位において遺構・遺物は確認されていなかった。しかし、調査開始時の1～5区の重機による表土～7層掘り下げ作業の際、B-3区とC-3区の7層最下部において土坑を2基検出した。さらに、D-3区7層下位でも土坑を1基検出した。これらは7層を掘り込んで構築され、底面に逆茂木痕を検出したことから、縄文前期以降の落とし穴と認定できた。

これ以後、重機による表土～7層掘り下げ作業の際には、7層上面において遺構精査を行った。しかし、第1エリアの3・4区検出の落とし穴以外は確認できなかった。

#### 2 遺構（第124・125図）

3基の落とし穴がほぼ等間隔で一列に検出された（第126図参照）。検出時、6層上位で遺物が出土しないことやその平面形状から、落とし穴の可能性が高いと想定し調査を行った。

調査は長軸方向を基準にして南半を半裁した。その後、埋土観察を行い、完掘後に断面スライス調査を行ったも

のと、半裁後に断面スライス調査を行ったものがある。

平面形態は全て隅丸長方形を呈しており、概ね110×60cmの規模で、規格性がある。11b層まで掘り込んでおり、底面に逆茂木痕を確認できたものもある。逆茂木痕が確認できなかったものも、平面・断面形状が逆茂木痕をもつものと酷似していることから、落とし穴と認定した。

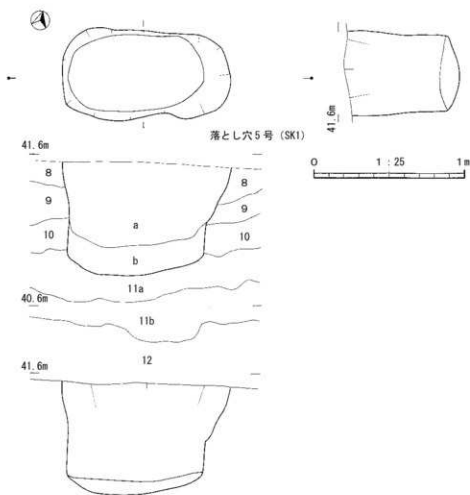
以下、個別の報告を行う。なお、規模などの詳細は観察表を参照されたい。

#### 落とし穴5号（SK1）

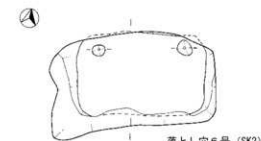
B-3区の7層最下部で検出した。完掘後に断面スライス調査を行った。逆茂木痕は確認できなかった。埋土は2つに分層できた。

**埋土a**：黒色(10YR1.7/1)シルト質土で、締まっている。0.5～2cm程度の黄色バミス（池田降下軽石か?）を含む。

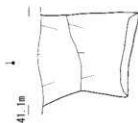
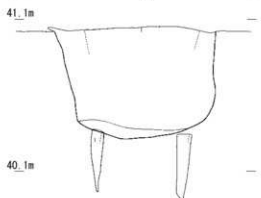
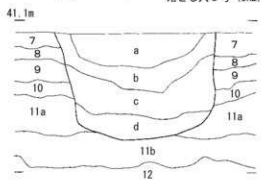
**埋土b**：褐色(7.5YR3/3)シルト質土で、粘性がある。部分的に炭化物粒を含む。



第124図 縄文前期以降落とし穴（1）



落とし穴6号 (SK2)



41.1m

0 1:25 1m

落とし穴6号 (SK2)

C-3区の7層下部で検出した。完掘後に断面スライス調査を行い、底面で逆茂木痕を2本確認した。逆茂木痕は底面北側に寄っている。埋土は4つに分層できた。

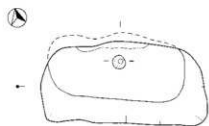
埋土a: 黒色(10YR1.7/1)シルト質土で、締まっている。0.5~2cm程度の黄色バミスを含む。

埋土b: 黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。0.5~2cm程度の黄色バミス(池田降下軽石か?)を含む。

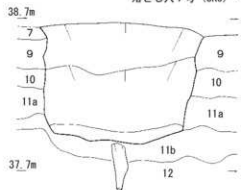
埋土c: 黒色(10YR2/1)シルト質土で、埋土bに比べて締まりが弱い。0.5~2cm程度の黄色バミスをおおむね含む。

埋土d: 暗褐色(10YR3/3)シルト質土で、締まりが弱い。粘質である。

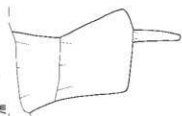
逆茂木痕埋土は、褐色(10YR4/6)シルト質土で、締まりがなく、弱い粘質である。



落とし穴7号 (SK6)



37.7m

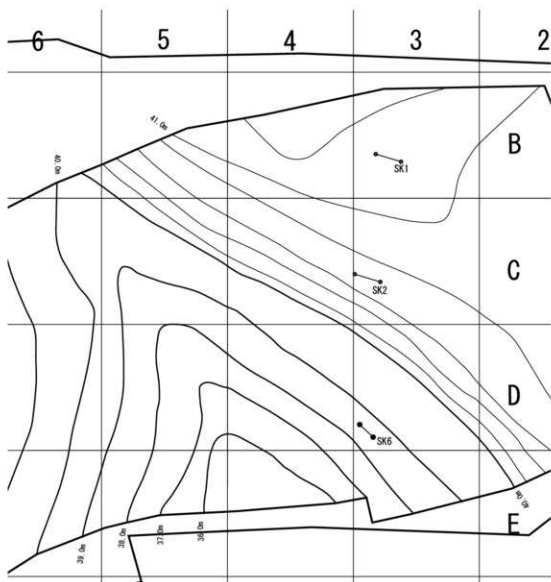


38.7m

落とし穴7号 (SK6)

D-3区の7層下位で検出した。傾斜が強い場所で検出している。半掘後に断面スライス調査を行い、底面で逆茂木痕を1本確認した。逆茂木痕はやや北側に寄っている。なお、底面自体が北側に偏っているものの、傾斜地で構築したためと推測できる(地表面に対しては垂直方向に掘り込んでいる)。

埋土は単一層で、黒色(10YR1.7/1)シルト質土で、締まっているが、下部ほど締まりが弱くなる。0.5~3cm程度の黄色バミスを含む。逆茂木痕埋土は褐色(10YR4/6)シルト質土で、締まりがなく、弱い粘質である。



第126図 縄文前期以降落とし穴位置図

第22表 落とし穴観察表

| 遺構名            | 検出区 | 検出面  | 規模(m) |      |      | 底面規模(m) |      | ピット数 | ピット規模(m) |      |      |
|----------------|-----|------|-------|------|------|---------|------|------|----------|------|------|
|                |     |      | 長軸    | 短軸   | 深さ   | 長軸      | 短軸   |      | 長軸       | 短軸   | 深さ   |
| 落とし穴5<br>(SK1) | B-3 | 8層上面 | 1.10  | 0.59 | 0.75 | 0.90    | 0.51 | 0    | -        | -    | -    |
| 落とし穴6<br>(SK2) | C-3 | 7層下位 | 1.10  | 0.62 | 0.70 | 0.84    | 0.54 | 2    | 0.08     | 0.07 | 0.41 |
|                |     |      |       |      |      |         |      |      | 0.11     | 0.08 | 0.42 |
| 落とし穴7<br>(SK6) | D-7 | 7層下位 | 1.82  | 1.15 | 1.10 | 0.91    | 0.33 | 1    | 0.09     | 0.08 | 0.24 |

#### 第4節 弥生時代以降の調査

##### 1 調査の概要

表土やE-4区付近の谷部を埋めた造成土内から、弥生時代や古代の遺物が認められている。なお、本来の包含層は削平を受けていると推定できる。遺物は12点確認し、7点図示した。

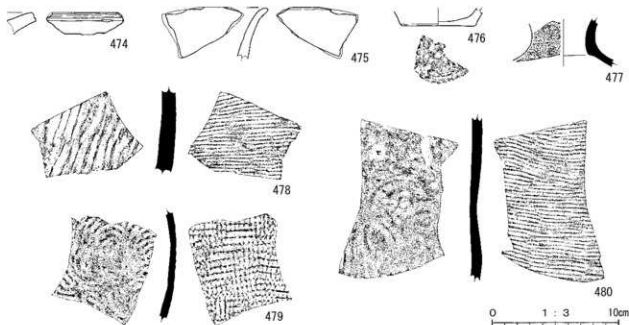
##### 2 遺物 (第127図 474~480)

474は口唇部に凹線をもつ変形土器の口縁部である。弥生時代中期後半の山ノ口Ⅱ式に比定できる。475・476は土師器の坏である。476は底面にヘラ切り痕が残る。477は須恵器の変形土器の頸部片である。478~480は須恵器の変形土器の胴部片である。外面は平行タタキや格子状タタキ、内面は平行状または同心円状当て具痕が残る。

第23表 弥生時代以降遺物観察表

| 種別  | No. | 出土番号 | 区   | 層  | 時期 | 型式・種類  | 器種 | 器体                       |      | 胎土               |                  | 備考 |   |   |   |   |           |
|-----|-----|------|-----|----|----|--------|----|--------------------------|------|------------------|------------------|----|---|---|---|---|-----------|
|     |     |      |     |    |    |        |    | 外面                       | 内面   | 外面               | 内面               |    |   |   |   |   |           |
| 127 | 474 | 一統   | -   | 須恵 | 弥生 | 山ノ口Ⅱ式  | 変  | ヨコナデ                     | ヨコナデ | 比呂(黄緑) (0.017/4) | 比呂(黄緑) (0.017/4) | -  | - | - | - | - | -         |
|     | 475 | 一統   | E-5 | 1  | 古代 | 黒色土器A類 | 坏  | 凹輪ナデ                     | 凹輪ナデ | 比呂(黄緑) (0.017/4) | 黒土 (0.02/1)      | -  | - | - | - | - | -         |
|     | 476 | 一統   | E-3 | 1  | 古代 | 土師器    | 坏  | 凹・凹輪ナデ<br>底・凹輪ヘラ切り<br>ナデ | 凹輪ナデ | 浅黄緑 (0.008/4)    | 浅黄緑 (1.000/4)    | -  | - | - | - | - | 腹口径径6.0cm |

| 種別  | No. | 出土番号 | 区   | 層  | 時期 | 分類  | 器種  | 器体     |        | 胎土              |                 | 備考                      |
|-----|-----|------|-----|----|----|-----|-----|--------|--------|-----------------|-----------------|-------------------------|
|     |     |      |     |    |    |     |     | 外面     | 内面     | 外面              | 内面              |                         |
| 127 | 477 | 一統   | E-5 | 1  | 古代 | 須恵器 | 物/蓋 | 凹輪ナデ   | 凹輪ナデ   | 灰白(2.018/1)     | 灰(0.6/)         | 腹口径径径3.0cm<br>外面に自然釉が沁る |
|     | 478 | 一統   | E-4 | 1  | 古代 | 須恵器 | 物/蓋 | 平行タタキ  | 平行オヤシ  | 比呂(黄) (2.500/4) | 比呂(黄) (2.500/2) | -                       |
|     | 479 | 一統   | -   | 跡土 | 古代 | 須恵器 | 物/蓋 | 格子目タタキ | 同心円オヤシ | 灰(0.6/)         | 灰(0.6/)         | -                       |
|     | 480 | 一統   | E-4 | 1  | 古代 | 須恵器 | 物/蓋 | 平行タタキ  | 同心円オヤシ | 黄灰(0.006/1)     | 比呂(黄) (2.507/2) | -                       |



第127図 弥生時代以降遺物

## 第5章 自然科学分析

### 次五遺跡における土器付着炭化物の放射性炭素年代

愛媛県久万高原町教育委員会  
遠部 慎

#### 1 はじめに

鹿児島県志布志市次五遺跡から出土した炭化物の年代測定を行ったので、その結果を報告する。試料の採取は遠部慎が採取した。試料の前処理は国立歴史民俗博物館年代調査室で行い、測定はパレオ・ラボ (PLD) によるものである。測定結果は計測値(補正)とともに、実年代の確率を示す較正年代値を示した。また、その根拠となった較正曲線を示し、あわせて安定同位体の分析を行った。これまで、鹿児島県域で測定例の少ない円筒形条痕文土器に付着した炭化物の分析例であり、重要な値が得られたと考える。

#### 2 測定資料と観察所見

測定対象とした資料は、遠部が採取した土器付着物3点のうち、測定可能であった1点である。試料番号KGSB-16である(第80図170)。

#### 3 炭化物の処理

炭化物試料については、註1に記した手順で試料処理を行った。本試料はバインダー処理による汚染が懸念されたため、アセトンによる処理を入念に繰り返して、溶解がなくなったことを確認したうえで試料処理を行った。ガス化率、グラファイト化率とも十分な炭素量が得られた。(1)・(2)・(3)の作業はパレオ・ラボ (PLD) で行った。

#### 4 測定結果と暦年較正

測定結果は、補注2に示す方法で、同位体効果を補正し14C年代、較正年代を算出した。

年代測定結果は、8730±25BPであった。これを暦年較正すると、7935-7925calBC (0.8%)、7910-7900calBC (1.0%)、7865-7855calBC (0.5%)、7835-7605cal BC (92.9%)である(第1図)。加速器の $\delta^{13}C$ の測定は-27.29±0.17‰である。

#### 5 測定結果について

縄文時代早期の土器付着炭化物の年代測定は近年増加しつつあるが、型式によっては少ないものもある(遠部2009、柴畑2015)。系統的に十分測定例が蓄積されていないのが、円筒形条痕文土器である。

円筒形条痕文土器については、木崎康弘などによってその型式変化は整理されているが(木崎1995・1996)、その型式名称などはブライオリティの問題も少なくない

(水ノ江1998)。

いわゆる貝殻文円筒形土器の政所式の年代測定例については、鹿児島県湯屋原遺跡で9225±45BPと宮崎県吉野第2遺跡で9150±50BPという、9200-9100BPを中心とする測定値が得られている(遠部2008a・b)。

佐賀県小ヶ倉遺跡において、年代測定が実施されている中原系土器群に先行しそうな土器資料の年代測定値は9565±30BPである。こういった土器群が北部九州に燃系土器以降に出現するであろうことは指摘しているが(遠部ほか2007)、木崎などによる型式学的検討とも符合する。

南九州で年代測定値の得られている政所式土器よりも1段階古く位置づけることが可能であり、木崎のいう中原I式とも刺突原体が異なり、型式設定する意義はある(大坪2015)と考える。今後さらに、円筒形条痕文土器の年代値を集積していく必要があるだろう。

本稿の測定結果は、「基盤研究(B)25284153炭素14年代測定による縄文文化の枠組みの再構築-環境変動と文化変化の実年代体系化」(代表小林謙一)の成果を利用した。暦年較正については今村肇雄、坂本稔の方法に従った。本実験にあたり、志布志市教育委員会相美伊久雄氏には、サンプルの採取から各種のご協力をいただいた。また、山下大輔氏、宮田佳樹氏をはじめ、国立歴史民俗博物館・学術創成研究グループ、犬島貝塚調査保護プロジェクトチームの諸先生、諸氏には資料調査や位置づけについて、ご教示、ご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。

#### 補注1 土器付着物については下記の方法で処理した。

(1) 前処理: 酸・アルカリ・酸による化学洗浄  
AAA処理に先立ち、土器付着物については、アセトンに浸け振とうし、油分など汚染の可能性のある不純物を溶解させ除去した(2回)。AAA処理として、80℃、各1時間で、希塩酸溶液(1N-HCl)で岩石などに含まれる炭酸カルシウム等を除去(2回)し、さらにアルカリ溶液(NaOH, 1回目0.1N、3回目以降1N)でフミン酸等を除去した。アルカリ溶液による処理は、5回以上行い、ほとんど着色がなくなったことを確認した。さらに酸処理2回(1N-HCl 1時間)を行い、アルカリ分を除いた後、純水により洗浄した(4回)。



桑畑光博2015「貝殻文円筒形土器群の14C年代と校正暦年代」  
『貝殻文と押型文』平成26年度宮崎考古学会研究会資料集  
pp81-90 宮崎考古学会県南例会実行委員会

小林謙一編2007『AMS炭素14年代測定を利用した東日本縄紋時  
代前半期の実年代の研究 (課題番号: 17520529) 平成17~18  
年度科学研究費補助金基盤研究(C)(1)研究成果報告書』  
国立歴史民俗博物館

西本豊弘編2009『弥生農耕の起源と東アジア』 国立歴史民俗  
博物館

水ノ江和同1998「九州における押型土器の地域性」『九州  
の押型土器—論叢編—』縄文集成シリーズ3 九州縄文研究  
会

山下大輔2012「宮崎の中原式土器」『九州縄文時代早期研究  
会』5 九州縄文時代早期研究会

山下大輔2015「南九州における押型土器研究の現状と課題」  
『貝殻文と押型文』平成26年度宮崎考古学会研究会資料集  
pp1-18 宮崎考古学会県南例会実行委員会

Reimer, Paula J. et al. 2004 IntCal04 Terrestrial  
Radiocarbon Age Calibration, 0-26 Cal Kyr BP. Radiocarbon  
46(3), 1029-1058(30).

Stuiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J. W., Burr, G. S.,  
Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, F. G., v. d. Plicht, J., and  
Spurk, M. (1998): INTCAL98 radiocarbon age calibration,  
24,000-0 cal BP. Radiocarbon, 40(1), 1041-1083.

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon  
dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時  
代の14C年代編集委員会編「日本先史時代の14C年代」: 3-20,  
日本第四紀学会。

Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Black  
well, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Cheng, H., Edw  
ards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T.  
P., Hafflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T. J.,  
Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F.,  
Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richa  
rds, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Tur  
ney, C. S. M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and M  
arine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Year  
s cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

## 次五遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

### 1 測定対象試料

次五遺跡は、鹿児島県志布志市有明町野井倉（北緯 31° 28' 11"、東経 131° 3' 53"）に所在し、シラス台地の縁辺部に立地する。測定対象試料は、集石から出土した炭化物 2 点である（第 1 表）。

遺構の時期は、周囲から出土する土器（石坂式、桑ノ丸式、下剥峯式）により縄文時代早期前葉から中葉頃と考えられている。

### 2 測定の意義

集石の年代を把握する。

### 3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と第 1 表に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### 4 測定方法

加速器をベースとした <sup>14</sup>C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、<sup>14</sup>C の計数、<sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C 濃度 (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (Hox II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### 5 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の <sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) <sup>14</sup>C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 <sup>14</sup>C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値

の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C 年代は  $\delta^{13}\text{C}$  によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。<sup>14</sup>C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C 年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の <sup>14</sup>C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の <sup>14</sup>C 濃度の割合である。pMC が小さい (<sup>14</sup>C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (<sup>14</sup>C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$  によって補正する必要があるため、補正した値を第 1 表に、補正していない値を参考値として第 2 表に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の <sup>14</sup>C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の <sup>14</sup>C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた較正年代である。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C 年代に対応する較正曲線上の暦年較正範囲であり、1 標準偏差 ( $1\sigma = 68.2\%$ ) あるいは 2 標準偏差 ( $2\sigma = 95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が <sup>14</sup>C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$  補正を行い、下 1 桁を丸めない <sup>14</sup>C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCal v4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第 2 表に示した。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

### 6 測定結果

試料の測定結果を第 1・2 表に示す。

試料の <sup>14</sup>C 年代は、No. 35 が 8490 ± 30yrBP, No. 263 が 8270 ± 30yrBP である。暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、2 点とも縄文時代早期中葉頃に相当し (小林編 2008)、土器か



ら推定される時期と整合する。

試料の炭素含有率はいずれも 60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

(文献)

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51 (1), 337-360

小林達雄編 2008 『総覧調文土器』 総覧調文土器刊行委員会、アム・プロモーション

Reimer, P. J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver M. and Polach H. A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

第 1 表 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  補正值)

| 測定番号        | 試料名    | 採取場所           | 試料形態 | 処理方法 | $\delta^{13}\text{C}$ (‰)<br>(AMS) | $\delta^{13}\text{C}$ 補正あり |              |
|-------------|--------|----------------|------|------|------------------------------------|----------------------------|--------------|
|             |        |                |      |      |                                    | Libby Age<br>(yrBP)        | pMC (%)      |
| IAAA-161401 | No.35  | 集石 24 号 掘り込み埋土 | 炭化物  | AaA  | -29.30 ± 0.24                      | 8,490 ± 30                 | 34.75 ± 0.14 |
| IAAA-161402 | No.263 | 集石 70 号 掘り込み埋土 | 炭化物  | AAA  | -29.27 ± 0.22                      | 8,270 ± 30                 | 35.74 ± 0.14 |

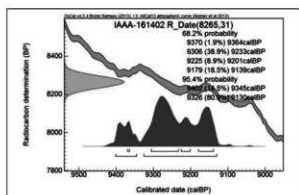
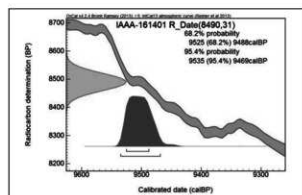
[#8243]

第 2 表 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  未補正值、暦年較正用  $^{14}\text{C}$  年代、較正年代)

| 測定番号        | $\delta^{13}\text{C}$ 補正なし |              | 暦年較正用<br>(yrBP) | 1 $\sigma$ 暦年代範囲   | 2 $\sigma$ 暦年代範囲   |
|-------------|----------------------------|--------------|-----------------|--|--|
|             | Age (yrBP)                 | pMC (%)      |                 |  |  |
| IAAA-161401 | 8,560 ± 30                 | 34.44 ± 0.13 | 8,490 ± 31      | 9525calBP - 9488calBP (68.2%)  | 9533calBP - 9469calBP (95.4%)                                  |
| IAAA-161402 | 8,340 ± 30                 | 35.43 ± 0.14 | 8,265 ± 31      | 9370calBP - 9364calBP ( 1.9%)<br>9306calBP - 9233calBP (38.9%)<br>9225calBP - 9201calBP ( 8.9%)<br>9179calBP - 9139calBP (18.5%) | 9402calBP - 9345calBP (14.5%)<br>9326calBP - 9130calBP (80.9%) |

[参考値]

第 1 図 暦年較正年代グラフ (参考)



## 第6章 総括

### 第1節 旧石器時代の調査

本遺跡最東部(1~4区)の11a層において、細石刃文化期の遺物が出土した。なお縄文早期包含層の9層から細石刃が出土している。

遺物は二つのブロックに分けられ、細石刃核の出土分布をみると、1ブロックに黒曜石1類(三船産類似)素材のもの、2ブロックに珪質頁岩素材のものが認められた。

1ブロックの細石刃核は、下縁調整や側面調整をあまり行わずに端面が残る野岳型と考えられるもの(1・2)や平坦面に打面を設置し、打面調整を行わない船野型(5)が認められる。2ブロックのものは全て宮崎平野部に顕著に分布する畦原型である。野岳型と船野型は歴史的・技術的な近似性が指摘されており、畦原型は技術的に船野型に含まれることが指摘されている(芝2011他)。したがって、本遺跡資料はあまり時期差がないものと考えたい。

### 第2節 縄文時代早期の調査

本遺跡の中心となる時代である。アカホヤ火山灰層下位の8・9層から土器や石器が出土し、集石や土坑、連穴土坑、落とし穴が検出されている。

#### 1 遺物

##### (1) 土器

各種土器の特徴をもとに既存の土器型式に比定すると、以下のとおりである。

##### 1類：岩本式

##### 2類：前平式

口縁部が小波状を呈する、いわゆる「発生段階の角筒形」(黒川1998)も認められる。

##### 3類：前平式の角筒形または志風頭式

「上角下円筒形」を呈しており、これも「発生段階の筒形」である。

##### 4類：加葉山式

##### 5類：小牧3A段階(前道2000)

##### 6類：吉田式

模形貼付文が認められないことから、吉田式II段階(前道2000)、吉田II式(上杉2003)に比定できる。

##### 7類：岩之上段階(黒川2002)

##### 8類：札ノ元瓦類土器(黒川2004)

##### 9類：倉園B式

##### 10類：石坂式

口縁部が外反する10-1類は石坂I式(前道2003)、口縁部が直行する10-2類は石坂II式に比定できる。10-2類の中でd類とした、横位の貝殻刺突文を器面全体に施し、縁状の貝殻条痕文が施されない資料(141・142)は石坂II式の範疇に含まれてはいるものの、その存在はとて少ない。前道氏が指摘するように(前道1993)、文様は下剥率式に近い。後述する下剥率式との関係を考える上で注目される資料である。

##### 11類：倉園B式または石坂II式

##### 12類：東九州系の無文土器

##### 13類：中原IV式

##### 14類：下剥率式

##### 15類：桑ノ丸式

##### 16類：辻タイプ

柴畑光博氏によると、典型的な辻タイプは浅い短沈線文を丁寧に施しているという。つまり、290は典型的な辻タイプと言える。一方、291~293は短沈線文を粗雑に施していることから、典型的な辻タイプを模倣した土器の可能性はある。

##### 17類：押型文土器

##### 18類：手向山式

ミミズブレ文を施す303は手向山2式(横手1998)、突帯文や沈線文を施す302・304は手向山3式に比定できる。

##### 19類：塞ノ神A式の深鉢形土器

区画沈線文を施さないことから、塞ノ神Aa式に比定できる。

##### 20類：塞ノ神A式の壺形土器

東九州系無文土器について 12類とした無文土器は、内外面ともにナゲ調整を行い、胎土に石英・長石類と繊維状のものを含み、器壁厚が約0.5cmと薄いなどの特徴から、東九州系の無文土器に比定した。

大分県と宮崎県の東九州地域において無文土器は草創期末から押型文土器出現期以前の早期前半に位置づけられている。東九州系の無文土器は総貫一氏により、主に底部形態の変化を軸にした編年が行われている(総貫1993・2008)。

本資料は外傾する口縁部から尖底となる底部へそのまま器形を呈すと考える。底部形態が確定できないために型式比定は難しいが、薄手でナゲ調整を行うことから、第3段階の高並垣式の可能性が高いと考える。

次に本資料に伴う在地の土器型式を考えたい。分布状況を見ると、前平式または吉田式・岩之上段階・倉園B式と重なる。総貫氏によれば、政所式は底部形態の類似性から第3段階に含まれる可能性が高いとされる。また、鹿児島市フミカキ遺跡では連穴土坑内で政所式と吉田式が共存している(鹿児島県埋蔵文化センター2004)。したがって、吉田式と高並垣式そして政所式が併行関係にあり、本資料は吉田式後半期の搬入品である可能性が高いと考える。

なお、本遺跡では小牧3A段階までは縦長の補修孔、吉田式以降は円形の補修孔となる。高並垣式に比定した本資料も円形の補修孔であり、併行関係を示唆するものであろうか。

整理作業当初、本資料の位置づけが分からずに型式不明土器としていた。しかし、柴畑光博氏から東九州地域の無文土器の可能性を指摘され、初めて認識した次第である。宮崎県内では宮崎市清武町五反畑遺跡B地点(清武町教委2010)などで出土している一方、鹿児島県内では現在のところ筆者の知る限り報告されていないようである。無文土器のために見落とされている可能性もあろう。今後大隅半島側の調

査を行う際は、東九州系の無文土器が出土する可能性も意識しておく必要がある。

**札ノ元Ⅶ類土器について** 札ノ元Ⅶ類は、加葉山式後半～吉田式前半期において東九州に分布する地域性の強い土器とされる(黒川2004)。本道跡での分布状況をみると、札ノ元Ⅶ類は加葉山式や小牧3A段階ではなく、吉田式と重なっている。ただし、注意したいのが本道跡の吉田式が後半期のものということである。となると、札ノ元Ⅶ類の存続期間が吉田式後半期まで下る、あるいは吉田式前半期において本道跡では札ノ元Ⅶ類が主体的存在であったという、どちらかの見解が考えられる。

ここで注目したいのが84である。この資料は胴部に貝殻押印文ではなく、横位の貝殻条痕文を施している。胴部に横位の貝殻条痕文を施す札ノ元Ⅶ類の存在を知っていた人物が製作した模倣土器とも捉えることができる。つまり、札ノ元Ⅶ類の存続期間が吉田式後半期まで下る可能性を指摘できる。

**下刺釜・辻タイプ・桑ノ丸式について** これらの土器群は山下大輔・柴垣光博氏によって、下刺釜・桑ノ丸式系土器群としてまとめられ、1期と2期に区分されている(山下・柴垣2007)。岡氏は、下刺釜系(従来の下刺釜式)はほぼ1期におさまり、辻タイプは1期において下刺釜系に併行する地域的な土器群としている。一方、桑ノ丸系(従来の桑ノ丸式)のうち、口縁部文線帯を有し、胴部に筒歯状モチーフを縦方向に展開するもの(267～272)を1期、羽状モチーフを横方向に展開するもの(276・280等)を2期に位置づけた。

以上から、14類と16類、15-1類は下刺釜・桑ノ丸式系土器群1期に、15-2類は同2期に位置づけられる。

ところで、193のように「く」字状に強く内湾する下刺釜式はこれまで鹿児島県内において認められていない。一方宮崎県清武町白々野第2・第3遺跡では、桑ノ丸式(下刺釜・桑ノ丸式系土器群1期)ではあるが、同様の器形が認められる(宮崎県埋蔵2002)。このような器形がどのように出現したのかは今後の課題となるが、志布志地域と宮崎平野部の関係を考える上で注目される資料である。

**分布状況について** 早期土器は15区以上でそのほとんどが出土しており、大まかに言えば4～6区に走る谷部の両側(第1エリアと第2エリア)に分布が偏る。

型式ごとの分布をみると、前半式は両エリア、加葉山式・小牧3A段階は第1エリア、吉田式・岩之上段階・倉園B式は第2エリア、石坂1式は第2エリア、石坂2式は両エリア、下刺釜式は両エリア、桑ノ丸式は第1エリア、手向山式は第1エリア、塞ノ神A式は第1エリアに認められる。このように型式ごとに出土分布域が異なっている。つまり、本道跡は当時の生活領域として継続的に利用されていたが、細かく見れば時期によって利用場所を漸移的に移動していたことが看取できる。

## (2) 石鐘 (第24表参照)

まず石鐘組成について、石鐘と磨石・敲石類がほぼ同等で多く、次いで石鐘となる。石鐘はIIIa類が多い。磨石・敲石類はI類(磨石)が多く、Vb類(敲石)が続く。石鐘は短軸打欠石鐘がほとんどである。

石材は、曾於市郡部町大川原に産地のあるチャート(宮田2002、黒川2014)が全体の約55%を占める。本道跡出土のチャートも大川原

産が含まれているようである。

次いで多いのが、南九州の黒曜石産地の中で最も地理的に近い黒曜石1類(三船産地型)と砂岩である。遠隔地石材である黒曜石4～6類の利用はかなり少なく、本道跡では在地系の石材利用が中心となる。器種別の石材について、剃片石器類はチャートと黒曜石1類、石斧は頁岩、磨石・敲石類と石鐘は砂岩が多く利用されており、器種に応じた石材利用が看取できる。

石鐘について、IIb類やⅢ類ではチャートの利用が顕著である。IV類(大久保型石鐘)はギョクズイが利用されている。大久保型石鐘はギョクズイが多用されることが指摘されており(藤木2009b)。本道跡の様相もそれに合致する。いわゆる小型正三角形縁を含むIa類では黒曜石1類がその大半を占める。小型正三角形縁を含む小型石鐘は桑ノ丸式・上青木産黒曜石との強い相関性が指摘されているが(馬場2003)、本道跡では1点のみの出土に留まる。地理的要因から桑ノ丸式・上青木産黒曜石の入手が困難であったため、石材を転用した可能性もあろう。

時期について土器分布状況から全体的な傾向を判断すると以下のとおりである。

1～4区出土石器：前半～小牧3A段階期、石坂2式～下刺釜・桑ノ丸式系土器群2期、手向山式期、塞ノ神A式期のいずれか。

9～15区出土石器：前半式期、吉田～下刺釜・桑ノ丸式系土器群2期、塞ノ神A式期のいずれか。

主に石坂式や中原式に伴うことが指摘されている大久保型石鐘は1～4区で出土しており、石坂2式期に属する可能性がある。押印文土器群前後の土器に伴うと考えられているトロトロ石器は1～4区で出土しており、下刺釜・桑ノ丸式系土器群1・2期に属する可能性がある。異形石器は塞ノ神A式の分布に近く、当該期に属する可能性がある。

**短軸打欠石鐘について** 縄文早期の短軸打欠石鐘は押印文土器期を中心に認められるようになり(藤木2009a)、宮崎県内では全域、鹿児島県内では志布志湾沿岸に分布している(藤木2003・黒2005)。志布志湾沿岸でも、志布志市神明遺跡(有明町教委2005a)や横瀬遺跡(有明町教委2005b)、夏井土光遺跡(志布志町教委1991)、そして大崎町平良上C遺跡(鹿児島県埋蔵2017)など、主に北岸域で出土しており、地域的に限定された石器の可能性がある。

用途について、藤木聡氏は漁網以外の可能性を指摘している(藤木2009a)。本道跡資料の中にも、最大幅3cm前後のがなり小さなものもあり、福物用鍾の可能性もあろう。なお、本道跡資料のようになりに小さなものがあるため、発掘調査の際に見落して、廃棄してしまう可能性も高く、今後注意したい石器である。

## (3) 小鉢

本道跡では、早期初頭の岩式から早期中葉の手向山式までの早期前半の土器群がほぼ認められている。細かく見れば吉田式前半期は認められないものの、本道跡が当時の人々にとっての生活領域として継続的に利用されていたことが分かる。そして、倉園B式、石坂2式、下刺釜・桑ノ丸式系土器群の出土量が多いことから、当該期にはより活発に利用されていたと考えられる。手向山式以降は一時期生活領域としては利用されないが、早期後葉の塞ノ神A式期に再び利用される。



したがって、被熱破砕礫の分布図は出土した礫全てを表したものでないことに注意されたい。

出土した礫を取上げながら、礫がある程度まとまっている箇所を集石として認定した。そのため、本来集石であったものを礫のまとまりがないために、被熱破砕礫として取上げたものも少なからずあると考える。また上記の認定方法を採用したため、集石範囲は恣意的になっていることも否めない。礫が調査範囲に満遍なく出土することが多く、特に1～5区では礫を取上げてもその直下から礫が出土するという状況であったため、平面的・垂直的にどこまでの範囲を一つの集石として認定するのかわという問題を頭を悩ませていたことも事実である。

集石の分布は遺物や土坑同様、4～6区の谷部を挟んだ両側にそのほとんどがみられる。集石29～32号のように傾斜地でも検出している。検出された集石のうち、掘り込みが確認できたものが85基あり、掘り込み内にも礫が認められるものと認められないものが半々である。礫と掘り込み検出面とにレベル差があるもの(Ⅱ型)は集石と掘り込みが別のもの——既に埋没していた土坑の上に集石を構築した——である可能性もあろうが、そのほとんどは掘り込み埋没過程で埋土上位に礫が集中した状態であると考えたい。

構成礫は、最大長が5～7cmのものが多い一方で、集石76・116号のように非破砕の礫が密集するものも認められる。これらは分布において特に偏りはない。時期によって利用する礫が異なっている、あるいは使用回数によるもの、あるいは利用する礫を意図的に変えているなどの要因が指摘できる。

土器の分布状況からみても同じ場所を何度も利用していることがうかがえる。つまり、既にあった集石の礫や散在している礫を再び集石として利用し、最後に利用した状態の集石を調査時に検出していると考えることができる。レベル的に下位のものは古い時期の可能性もあろうが、第1～3エリアで検出した集石の多くは出土した土器群の中でも新しい時期である下割臺・桑ノ丸式系土器群Ⅰ・Ⅱ期、または塞ノ神A式期に属する可能性が高いと考える。集石24・70号出土炭化物の<sup>14</sup>C年代測定結果を早期前半の各土器型式の較正暦年代(柴畑2015)と比較すると桑ノ丸式期に含まれていることも、上記の見解と矛盾しない。なお、第4エリアの集石は押型文土器期の可能性がある。

#### (5) 小結

本道跡には集石と連穴土坑は検出されたが、竪穴建物は検出されていない。今回の調査範囲外に竪穴建物が存在する可能性もあろうが、竪穴建物が伴わずに集石と連穴土坑が検出される道跡は市内にも下堰道跡(有明町敷2004)や横塚道跡、稲荷道跡(鹿児島県串2012)、高吉B道跡(鹿児島県串2014)などがある。

石器集中部(ブロック)が確認され、磨石・蔽石類も数多く出土している状況を含めて考えても、本道跡は「断続的な移動(回遊的な存続行為)の際のキャンプサイト」(岡本・袋達・2014)として利用されていたと考える。

#### 第3節 縄文時代前期以降の調査

調査区最東部(3・4区)のアカホヤ火山尻層下位または8層上面において落し穴を3基検出した。谷部で検出されており、台地下から登るための軌道上に造られたと考える。

全て長軸が等高線に沿った状態で横っており、形態・規模もほぼ同

じで、約10mの間隔で検出されたことから、これらは同時に造られたと考える。隅丸長方形を呈する平面形態から、縄文中期に位置づけられる。

縄文前期以降の遺物は出土していないことから、縄文中期に狩猟の場として利用された以外は、人間活動の痕跡は認められない。

#### 第4節 弥生時代以降の調査

表土や造成土から弥生中期の山ノ口Ⅱ式や古代の遺物が出土しているが、今回の調査の中心とはならない。当該期の包含層が判明されていることや当該期における道跡の中心から外れていることが推測される。

(引用・参考文献) ※調査報告書は割愛した。

上杉彰紀 2003 「南九州の縄文時代早期前半期に関する覚書」『立命館大学考古学論集』Ⅲ

岡本真一・袋達秀人・東和幸 2014 「第7章 道跡」『船道遺跡・高吉B道跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(180)

黒川忠広 1998 「角筒土器の発生に関する一考察」『南九州縄文通信』12

黒川忠広 2002a 「南九州貝殻文土器Ⅰ—鹿児島県」

黒川忠広 2004 「南九州貝殻文土器に見られる地域性について」『縄文の森から』2

黒川忠広 2014 「石器石材としての大川原産産産」『縄文の森から』7

柴畑光博 2015 「貝殻文円筒形土器群の<sup>14</sup>C年代と較正暦年代」『貝殻文と押型文』平成26年度宮崎考古学会研究会資料集

芝原次郎 2011 「九州における細石瓦石器群の研究」

新東英一 2005 「九州の連穴土坑の再検討」『南九州縄文通信』16

東憲志 2005 「有明町(住)道跡・横塚道跡 報告書未掲載遺物の報告(1)」『南九州縄文通信』16

藤木聡 2003 「宮崎県の雑具の変遷と分布」『史学・考古学論究』Ⅳ

藤木聡 2009a 「打穴石鐮の用途と切目石鐮の来歴」『九州における縄文時代の漁具』第19回九州縄文研究会長崎大会発表要旨・資料集

藤木聡 2009b 「玉製を模した縄文土と2つの欠」『南の縄文・地域文化論考』上巻

前迫亮一 1993 「香園B道跡の再検討1」『南九州縄文通信』7

前迫亮一 2000 「大隅半島中南部域における縄文時代早期前半期土器の交通」『大中原道跡』根占埋蔵文化財発掘調査報告書(9)

前迫亮一 2003 「石版式土器再考」『研究紀要 縄文の森から』創刊号

馬場亮博 2003 「桑ノ木津産産産礫石と縄文時代早期の小型石鐮について」『Stone Sources』2

宮田栄二 2002 「鹿児島県の非黒曜石原産地について」『Stone Sources』1

山下大輔・柴畑光博 2007 「南九州貝殻文土器群と押型文土器の関係」『縄文時代』18

山田暁 2015 「どんぐり考古学」

横手浩二郎 1998 「押型文土器様式最末期の様相」『古文化談義』41

舘貫俊一 1993 「九州の縄文時代前期末から早期の土器編年に関する一考察」『古文化談義』42

舘貫俊一 2008 「西日本の無文土器」『総覧縄文土器』

# 図 版





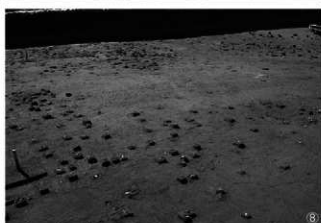
遺跡遠景（北西から）



図版 2

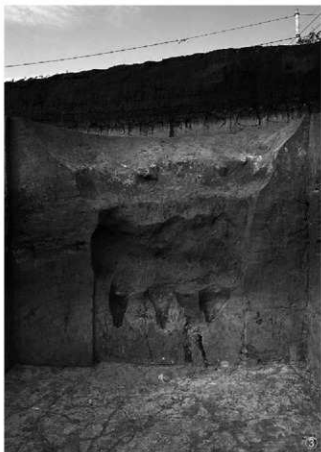


①B-12区北壁 ②C-16区西壁 ③D-3区作業風景 ④D-1・2区南壁 ⑤E-4～6区南壁 ⑥C・D-22区西壁 ⑦B・C-18・19区北壁

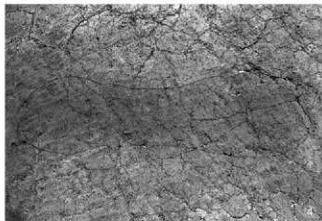


①・②B-2区11a層遺物出土 ③D-2区9層遺物・礫出土 ④D・E-7・8区9層礫出土 ⑤B・C-16・17区9層礫出土  
 ⑥C・D-14・15区9層礫出土 ⑦E・F-13・14区9層礫出土 ⑧D-F-9・10区9層礫出土

図版 4

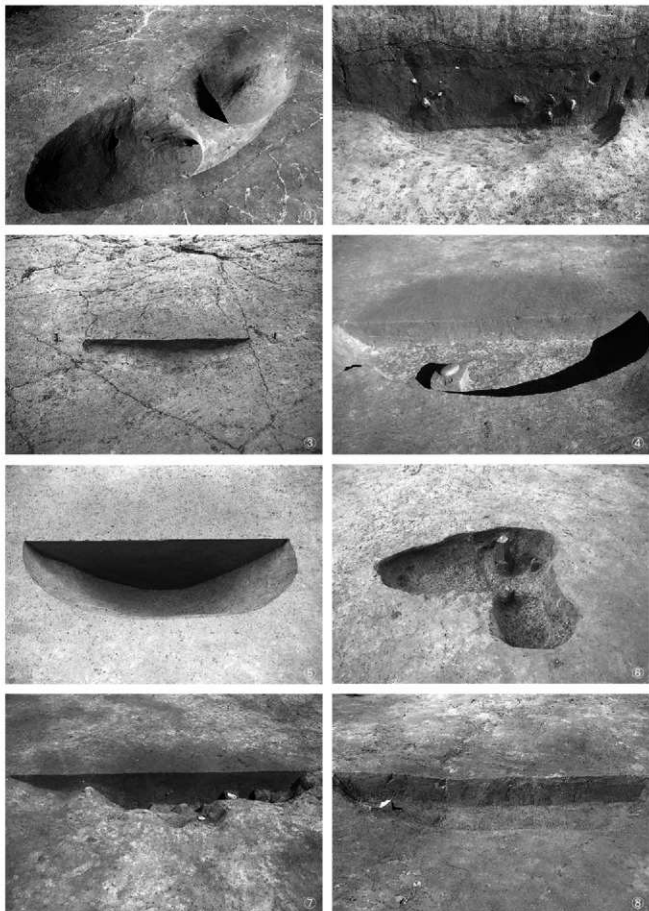


①落とし穴1号検出 ②落とし穴1号埋土 ③落とし穴1号載ち割り ④落とし穴2号半載 ⑤落とし穴2号載ち割り ⑥落とし穴3号半載 ⑦落とし穴3号載ち割り

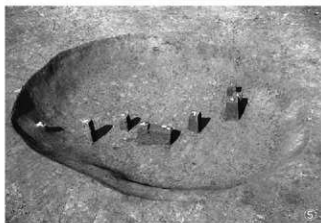
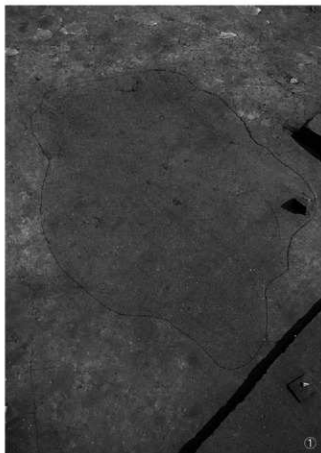


①落とし穴4号半裁 ②落とし穴4号完掘 ③落とし穴4号裁ち割り裁 ④連穴土坑2号検出 ⑤連穴土坑2号完掘 ⑥連穴土坑3号半裁

图版 6

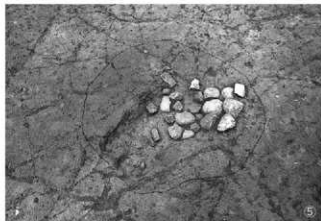


①连穴土坑 1号完掘 ②土坑 11号完掘 ③土坑 22号半截 ④土坑 24号半截 ⑤土坑 29号半截 ⑥土坑 33号完掘 ⑦土坑 9号半截  
⑧土坑 93号半截



①土坑45号坑出 ②土坑45号完掘 ③土坑100号半截 ④土坑50号半截 ⑤土坑50号完掘 ⑥C-E-2·3区10层上面

图版 8



①E·F-13区石器集中部 ②E-11区石器集中部 ③集石4号検出 ④集石18号検出 ⑤集石13号検出 ⑥集石7号検出  
⑦集石23・24号検出



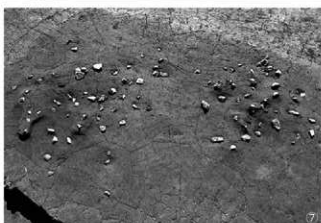
①集石35号検出 ②集石29・30号検出 ③集石31号検出 ④集石44号検出 ⑤集石45号検出 ⑥集石43号掘り込み検出 ⑦集石40号検出 ⑧集石59号検出



図版10

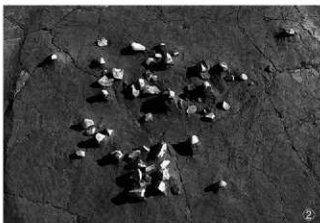


①集石66号検出 ②集石65号検出 ③集石67号検出 ④集石69・70号検出 ⑤集石74号検出 ⑥集石75・76・77号検出 ⑦集石70号掘り込み検出 ⑧集石80号検出



①集石78号检出 ②集石81号检出 ③集石84号检出 ④集石87号检出 ⑤集石89·90号检出 ⑥集石97号检出 ⑦集石100·101号检出

図版12



①D・E-8・9区集石群検出 ②集石112号検出 ③集石116号検出 ④集石117号検出 ⑤集石129号掘り込み完掘 ⑥集石119号検出 ⑦集石33号半鉄 ⑧集石27号半鉄

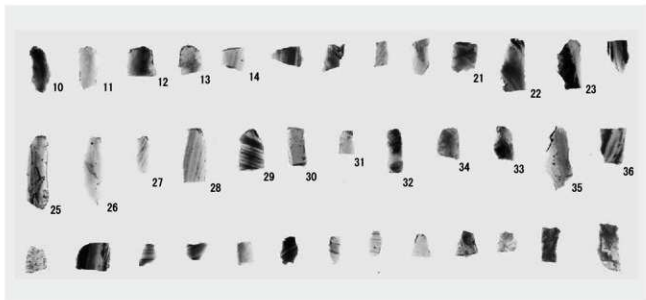


①集石122号検出 ②集石122号半裁 ③磨石集積1号検出 ④磨石集積2号検出 ⑤配石1号検出 ⑥配石3号検出 ⑦落とし穴5号検出 ⑧落とし穴5号裁ち割り

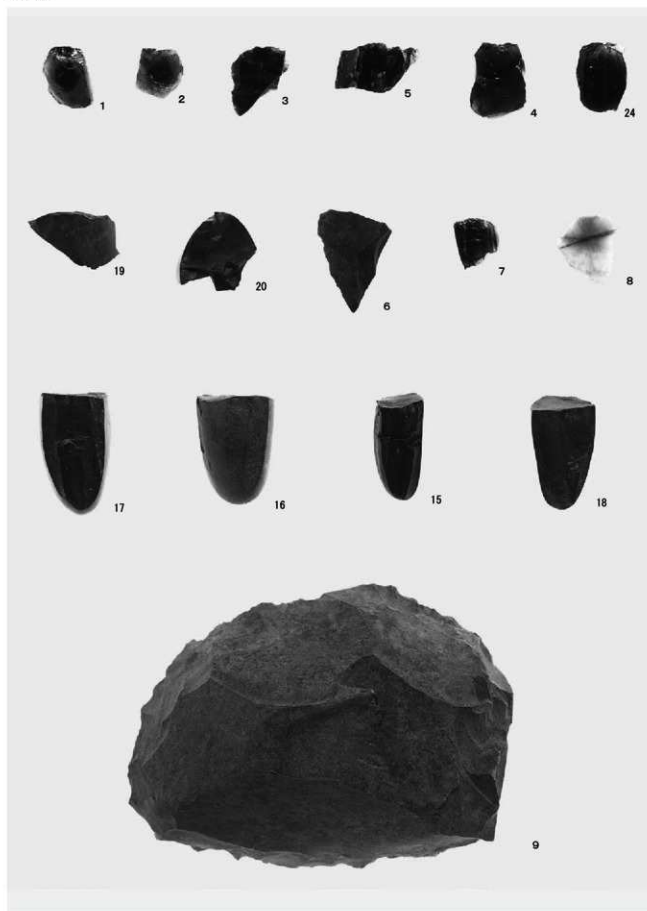
図版14



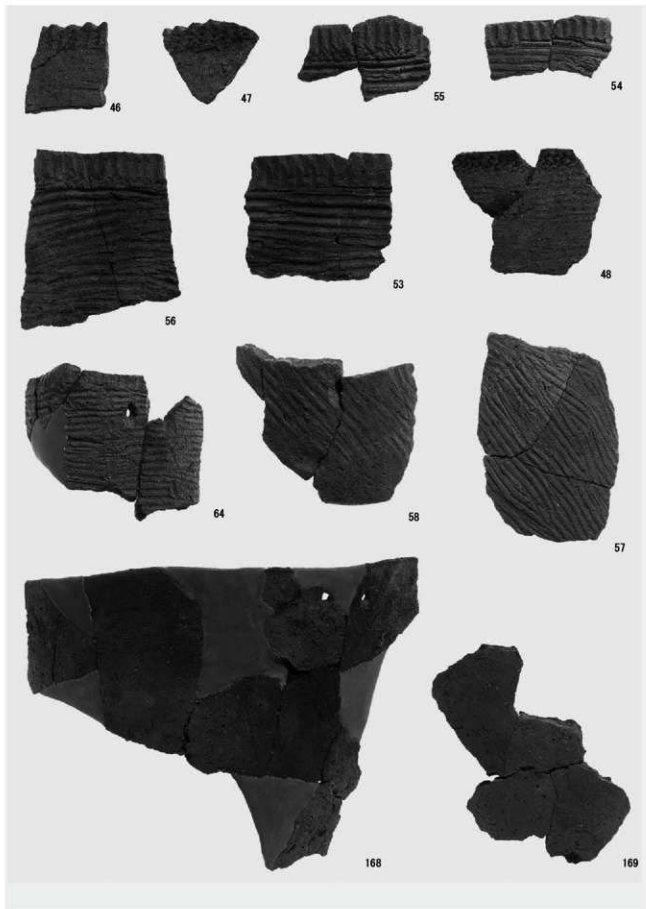
①落とし穴6号半截 ②落とし穴6号埋土 ③落とし穴6号葦ち割り  
穴7号半截 ⑦落とし穴7号葦ち割り ⑧落とし穴7号逆茂木痕検出  
④落とし穴6号逆茂木痕検出 ⑤落とし穴7号検出 ⑥落とし



旧石器時代遺物 (1)

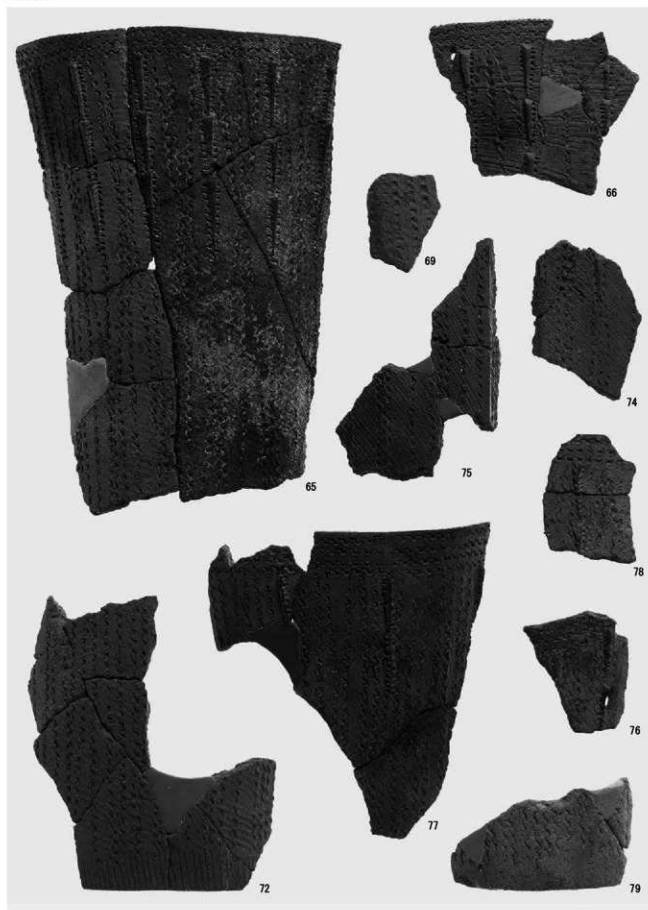


旧石器時代遺物（2）



1類・2類・12類土器





4類・5類土器



81



84



89



90

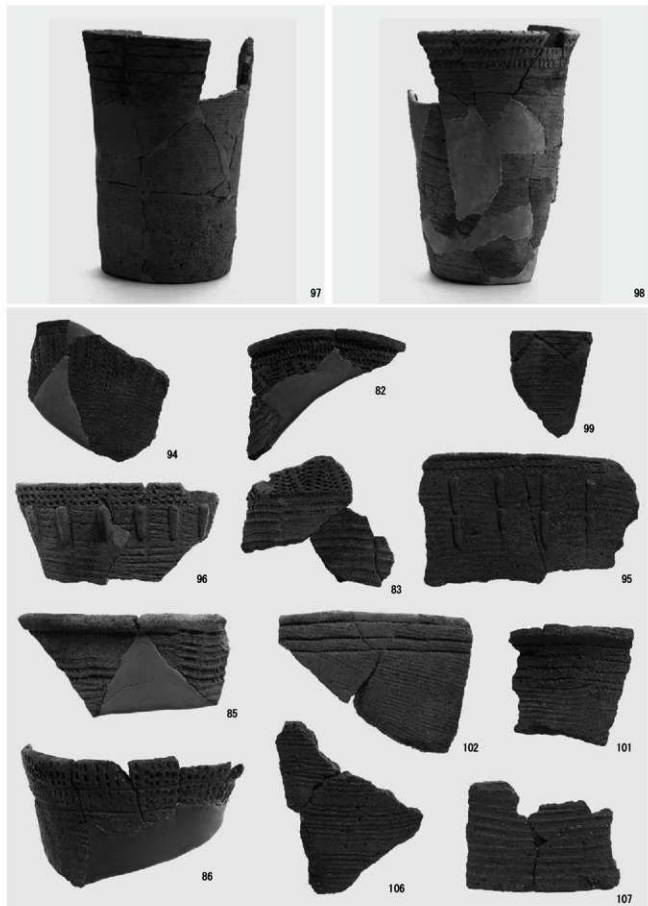


92



93

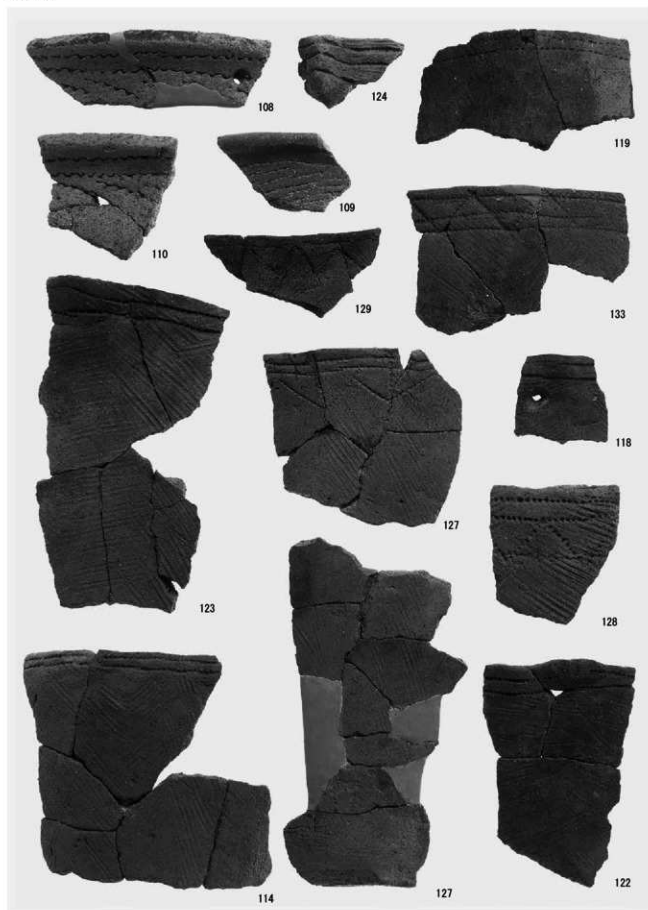
6類・7類土器



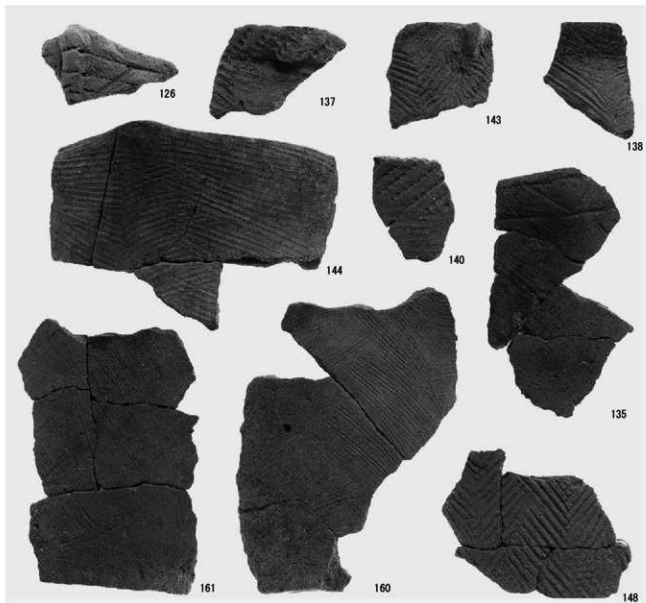
9類土器



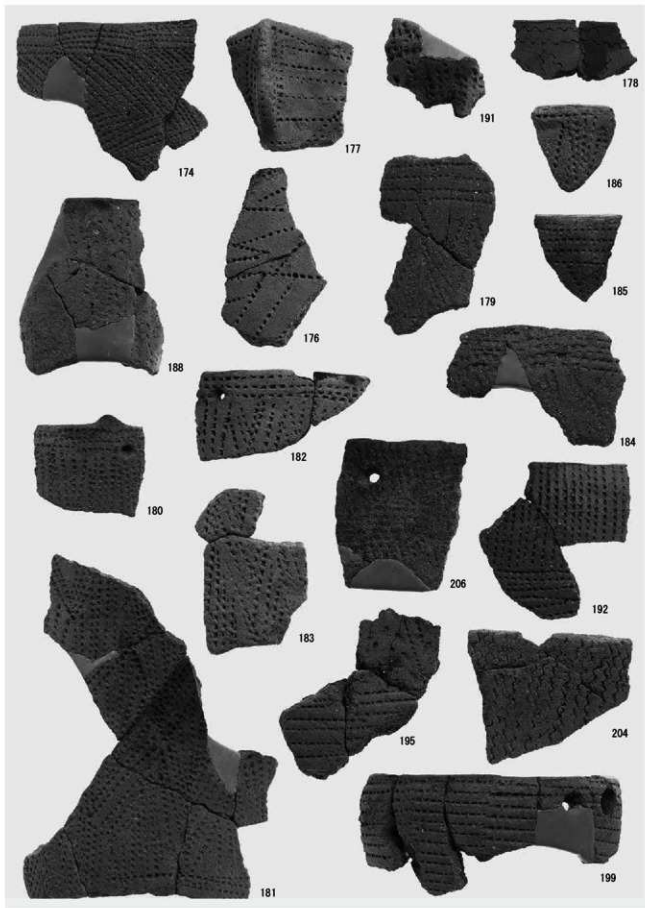
10類・13類土器



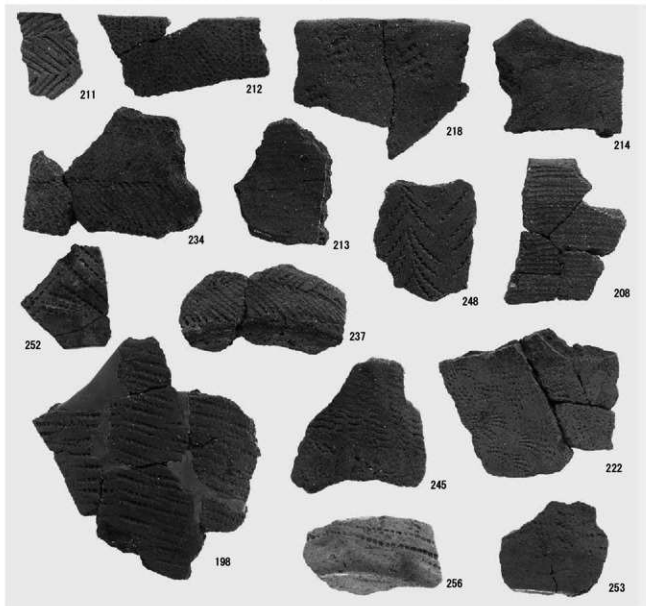
10類土器



10類・14類土器

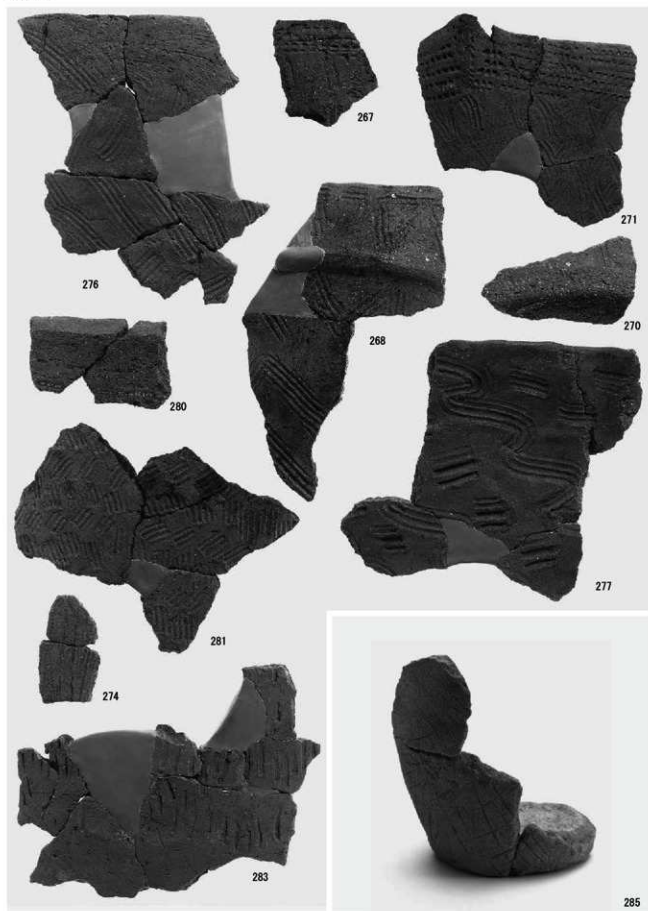


14類土器(2)

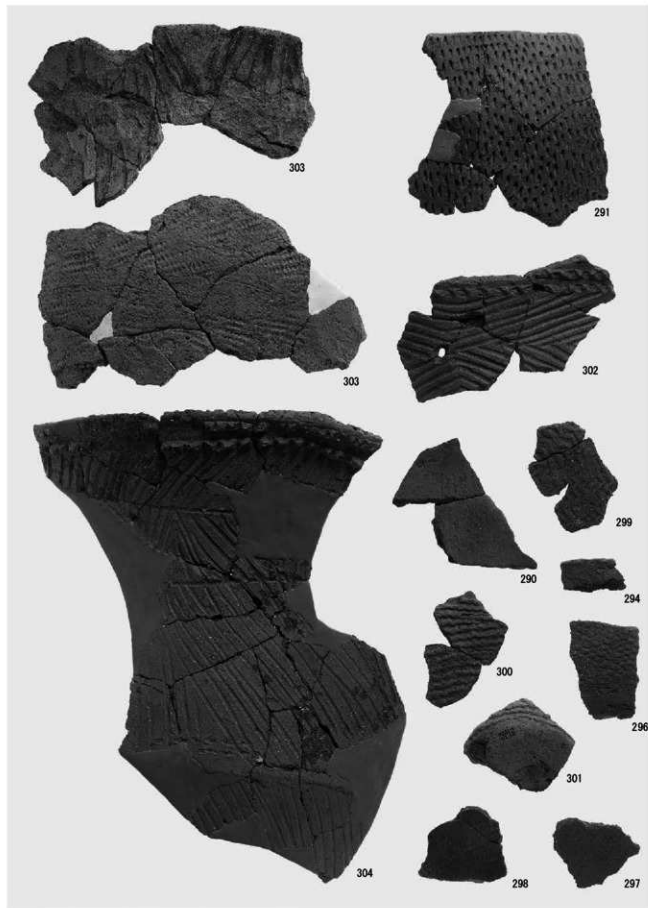


14類土器 (3)

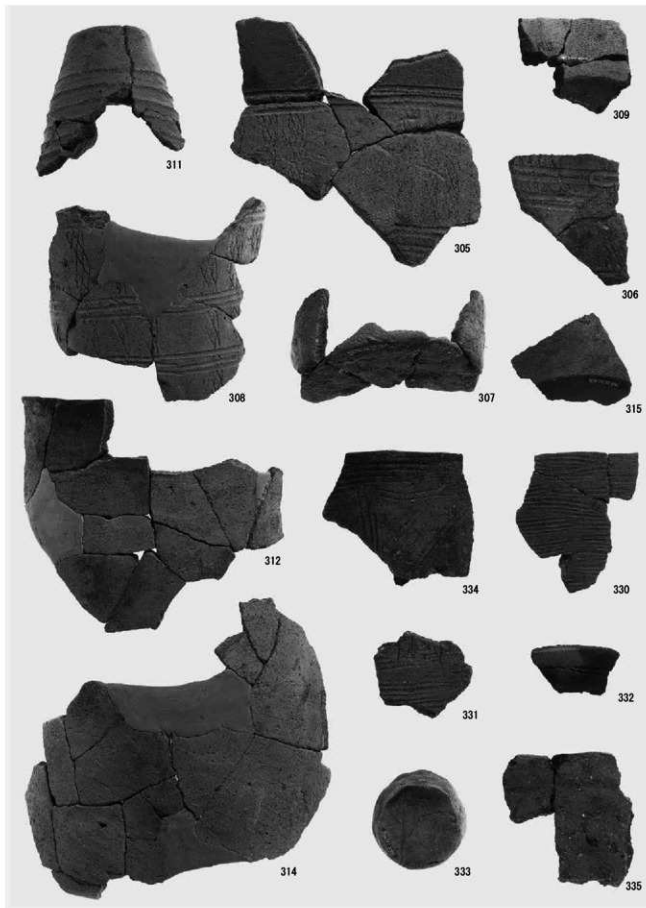




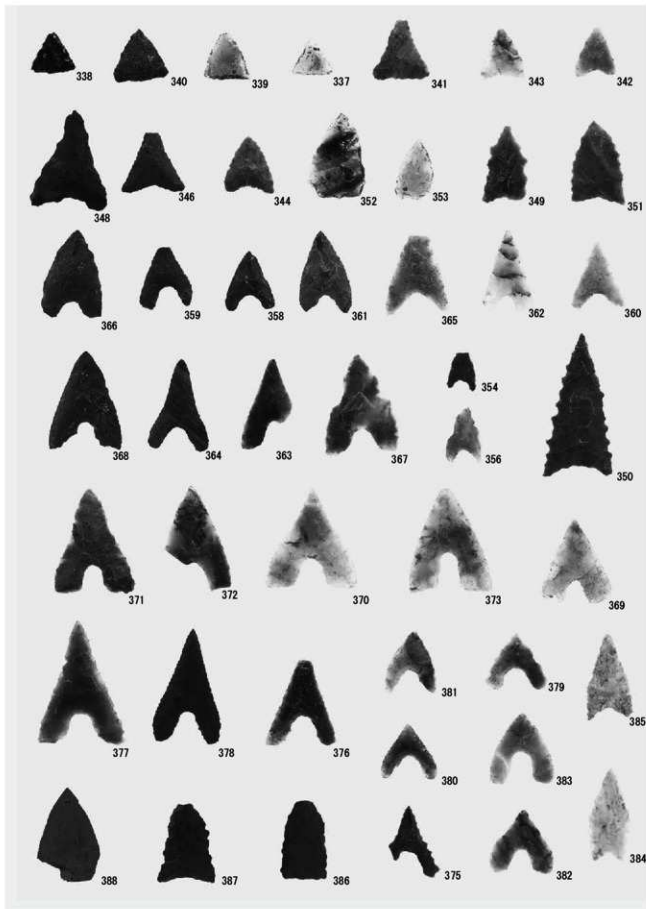
15類土器



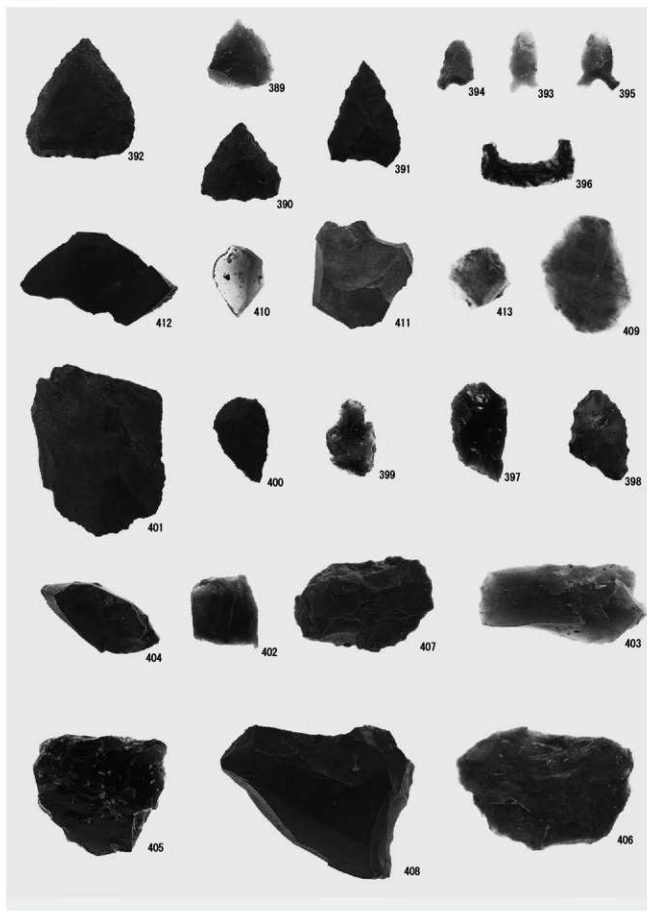
16類・17類・18類土器



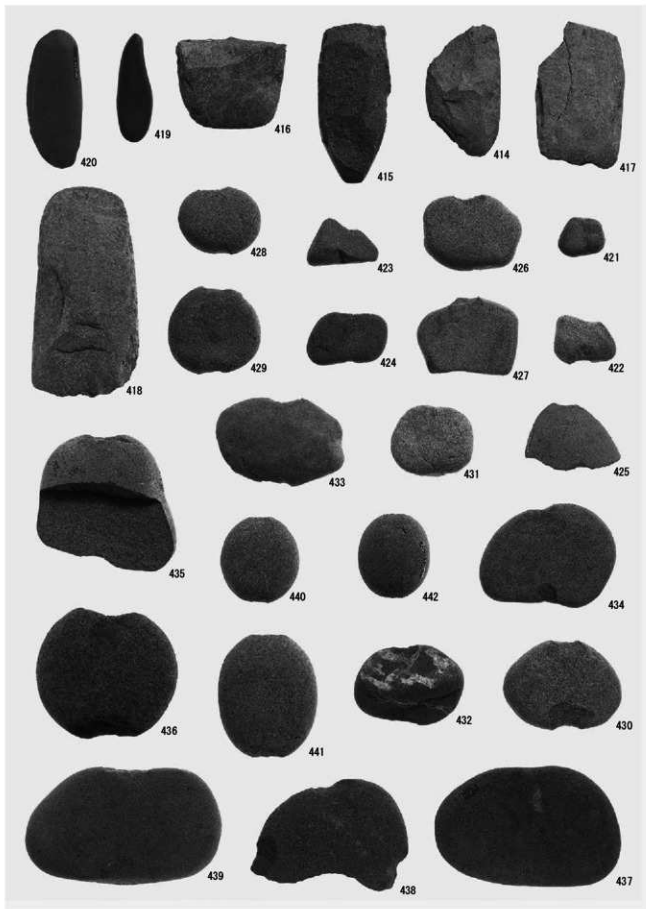
19類・20類・22類土器



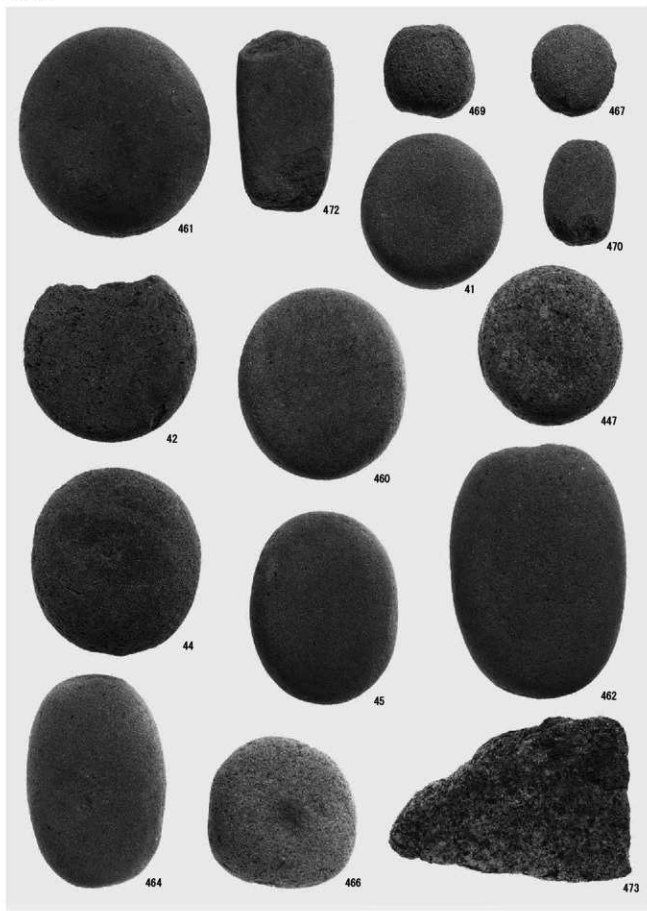
縄文早期石器 (1)



縄文早期石器 (2)



縄文早期石器 (3)



縄文早期石器 (4)

## 報告書抄録

| ふりがな   | じごいせき   |   |  |   |            |   |                        |                    |
|--------|---|---|--|---|------------|---|------------------------|--------------------|
| 書名     | 次五遺跡  |   |  |   |            |   |                        |                    |
| 副書名    | 東九州自動車道建設(志布志IC～鹿屋車貞JCT間)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書  |   |  |   |            |   |                        |                    |
| シリーズ名  | 志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書  |   |  |   |            |   |                        |                    |
| シリーズ番号 | 13  |   |  |   |            |   |                        |                    |
| 編著者名   | 相美 伊久雄  |   |  |   |            |   |                        |                    |
| 編集機関   | 志布志市教育委員会   |   |  |   |            |   |                        |                    |
| 所在地    | 〒899-7192 鹿児島県志布志市志布志町志布志二丁目1番1号 Tn099-472-1111   |   |  |   |            |   |                        |                    |
| 発行年月日  | 2018年3月23日  |   |  |   |            |   |                        |                    |
| ふりがな   | 所在地   | コード                                     |  | 北緯  | 東経         | 調査期間  | 調査面積 (m <sup>2</sup> ) | 調査原因               |
|        |   | 市町村                                     | 遺跡番号   |   |            |   |                        |                    |
| 次五遺跡   | 鹿児島県志布志市有明町野井倉字次五   | 46221                                   | 221-385  | 31°28'11"   | 131°03'54" | 試掘調査<br>20121024<br>本調査<br>①20140507<br>～20141224<br>②20150507<br>～20160210 | 10,400                 | 東九州自動車道建設に伴う記録保存調査 |
| 所収遺跡名  | 種別  | 主な時代                                    | 主な遺構   | 主な遺物  |            | 特記事項  |                        |                    |
| 次五遺跡   | 散布地   | 旧石器時代<br><br>縄文時代(早期)<br><br>縄文時代(前期以降) | ブロック2基<br><br>落とし穴4基<br>連穴土坑3基<br>土坑74基<br>集石遺構128基<br>磨石集積遺構2基<br>配石遺構3基<br>石器製作跡8基<br><br>落とし穴3基 | 細石刃核(畦原型ほか)、細石刃、打面再生剥片、楔形石器、石核、剥片<br><br>岩本式、前平式、志風頭式、東九州系無文土器、加葉山式、小牧3Aタイプ、吉田式、岩之上タイプ、丸ノ元Ⅶ類、倉園B式、石版1・Ⅱ式、中原Ⅳ式、下刺峰式、桑ノ丸式、辻タイプ、押型文土器、手向山式、塞ノ神A式石鏃、スクレイパー、石核、剥片、磨製石斧、石鏢、磨石・蔵石類、石皿、トトロ石器、異形石器 |            | 縄文時代早期の集石遺構に伴う被熱破砕礫が多数出土した。   |                        |                    |
| 要約     | <p>本遺跡は主に旧石器時代と縄文時代の複合遺跡である。旧石器時代においては、細石刃文化期の遺物が出土した。黒曜石(三輪産)を素材とする細石刃核と珪質頁岩を素材とする細石刃核のブロックで見つかっている。珪質頁岩を素材とする細石刃核は、宮崎平野部を中心に分布する畦原型細石刃核である。石器製作技術をめぐる地域間関係を考える上で、新たな資料が追加された。</p> <p>縄文時代においては、早期前～中葉を中心とする土器や石器が出土した。連穴土坑3基や集石遺構128基、土坑74基も検出された。また、集石遺構に伴う被熱破砕礫が多数出土した。これらのことから、本遺跡が当時の人々の生活領域として継続的に利用されていたことがうかがえる。</p> <p>早期の落とし穴が4基、前期以降の落とし穴が3基検出されたことから、早期の一時期そして前期以降の一時期に本遺跡が狩猟の場としても利用されていたこともわかった。</p> |   |  |   |            |   |                        |                    |



志布志市埋藏文化財発掘調査報告書 (13)  
東九州自動車道建設(志布志IC～鹿屋申良JCT間)に伴う  
埋藏文化財発掘調査報告書

## 次五遺跡

発行年月 2018年3月  
編集・発行 鹿児島県志布志市教育委員会  
〒899-7192 鹿児島県志布志市志布志町志布志二丁目1番1号  
TEL 099-472-1111 FAX 099-473-1880  
印刷所 有限会社 志布志新生社印刷  
〒899-7103 鹿児島県志布志市志布志町志布志 3223-7  
TEL 099-472-2422 FAX 099-473-3250